

# 大垣市障がい者福祉に関する アンケート調査

## 報 告 書

令和4年12月

大垣市



# 目 次

第1章 調査の概要.....	1
調査の目的.....	1
調査設計.....	1
回収結果.....	1
報告書の見方.....	2
調査結果の考察.....	3
第2章 障がい者・難病患者.....	12
1 回答者自身について.....	13
2 日常生活について.....	19
3 住まい、生計について.....	32
4 新型コロナウイルス感染拡大による影響について.....	37
5 外出状況について.....	39
6 就労・就学などについて.....	43
7 災害など緊急事態における、あなたの対応について.....	51
8 福祉情報の入手方法について.....	61
9 将来の生活や、大垣市の福祉について.....	65
10 障害福祉サービス等の利用について.....	71
11 余暇活動について.....	83
12 差別解消と権利擁護について.....	85
第3章 障がい児.....	89
1 福祉サービスを利用しているお子様について.....	89
2 日常生活について.....	93
3 新型コロナウイルス感染拡大による影響について.....	98
4 お子様の外出状況について.....	99
5 お子様の就学などについて.....	100
6 家庭での災害など緊急事態の対応について.....	104
7 お子様の福祉情報の入手方法について.....	110
8 将来の生活や、今後の大垣市の福祉について.....	112
9 障害福祉サービス等の利用について.....	113
10 差別解消と権利擁護について.....	117

第4章 発達障がい児.....	119
1 福祉サービスを利用しているお子様について.....	119
2 新型コロナウイルス感染拡大による影響について.....	124
3 お子様の外出状況について.....	125
4 お子様の就学などについて.....	127
5 家庭での災害など緊急事態の対応について.....	131
6 福祉情報の入手方法について.....	134
7 将来の生活や、今後の大垣市の福祉について.....	136
8 現在利用している障害福祉サービスについて.....	138
9 差別解消と権利擁護について.....	140
第5章 一般.....	142
1 回答者自身について.....	142
2 福祉に関する情報、障がいのある方への意識について.....	144
3 障がいのある方も暮らしやすい社会の実現について.....	161

## 第1章 調査の概要

### 調査の目的

本調査は、障害者基本法及び障害者総合支援法等に基づき、本市における障がい者の生活実態、サービスの利用状況、ニーズ等を把握し、次期「大垣市障がい者総合支援プラン」策定に関する基礎資料とするため、市内の障がい者等を対象とするアンケート調査を実施しました。

### 調査設計

調査対象	障がい者	難病患者	障がい児	発達障がい児	一般
対象者数	1,800人	200人	100人	100人	1,000人
抽出方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者及び障がい児については、障害者手帳、スマイルブック所持者等から無作為抽出</li> <li>難病患者については、関係団体に依頼</li> <li>一般については、住民基本台帳から無作為抽出</li> </ul>				
調査時期	令和4年9月1日（木）～9月26日（月）				
調査方法	郵送による送付・回収				

### 回収結果

#### <回収結果>

	障がい者	難病患者	障がい児	発達障がい児	一般
配布数	1,800件	200件	100件	100件	1,000件
回収数	1,138件	92件	65件	63件	453件
有効	1,089件	90件	63件	62件	442件
無効	49件	2件	2件	1件	11件
有効回収率	60.5%	45.0%	63.0%	62.0%	44.2%

#### <回答者（障がい者・難病患者）の手帳所持区分>

手帳所持区分	有効回収数	手帳所持区分	有効回収数
<b>障がい者全体</b>	<b>1,089人</b>	<b>難病患者全体</b>	<b>90人</b>
身体障害者手帳所持者	742人	身体障害者手帳所持者	75人
療育手帳所持者	122人	療育手帳所持者	-
精神障害者保健福祉手帳所持者	139人	精神障害者保健福祉手帳所持者	1人
重複障害（身体・療育・精神）	69人	重複障害（身体・療育・精神）	1人
（うち身体+療育）	（41人）	（うち身体+療育）	-
（うち身体+精神）	（16人）	（うち身体+精神）	（1人）
（うち療育+精神）	（9人）	（うち療育+精神）	-
（うち身体+療育+精神）	（3人）	（うち身体+療育+精神）	-
手帳未所持	3人	手帳未所持	10人
無回答	14人	無回答	3人

## 報告書の見方

---

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2) 回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3) 基数となるべき実数(n)は、設問ごとの回答者数として掲載しました。比率は、この回答者数を100%として算出しています。
- (4) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数とし、その項目を選び○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超える場合もあります。
- (5) 本報告書の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- (6) 「障がい児」及び「発達障がい児」調査では、回答者数が少ないため、前回調査との比較の表・グラフについては参考値とし、掲載のみに留めています。

## 調査結果の考察

### 1 障がい者・難病患者

#### ○日常生活について

- ・同居者の状況として、主な介護者は「同居の家族」が半数以上を占めています。同居の家族の続柄については「配偶者」が約半数を占め最も多く、次いで「親」が約3割となっています。家族または親族の介助者の年齢については、「70歳以上」が最も多く、以下「60歳代」、「50歳代」となっており、健康状態については、「ふつう」が約半数と最も多くなっています。障がい者の介護者は同居の家族が多く、その多くが高齢化しているため、負担軽減等の支援の充実も必要となります。
- ・日常的に必要としている医療的ケアについて、「服薬管理」が18.0%と多くなっています。特に精神障がい者の割合が高く、日常生活における医療との連携が必要であると考えられます。
- ・気軽に相談するために必要だと思うことについては、「相談専用の窓口（電話・メール・SNSなど）がある」が36.2%と最も多く、次いで「専門性の高い職員がいる」、「夜間や休日など緊急時に対応してもらえる」となっています。障がいのある方やその家族等が困っていることを身近に相談し、適切に対応できる相談支援体制を確保し、拡充を図る必要があります。

#### ○住まい、生計について

- ・将来の暮らしについて、「家族と一緒に生活したい」が約半数を占めており、知的障がい者、重複障がい者は、「福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」の割合が高く、福祉施設での生活ニーズが高くなっています。
- ・生活の中心となる人は、障がい別にみると、知的障がい者や重複障がい者で「親」の割合が全体より高く、親が生計の中心となっていることがわかります。
- ・障がい者が地域で生活するためにあるとよい支援については、「在宅で必要な在宅サービスや医療的ケアなどが適切に受けられること」が41.9%と最も多く、次いで「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」となっています。このことから、適切な医療や福祉サービスが受けられるよう、支援体制の充実が必要となります。

#### ○新型コロナウイルス感染拡大による影響について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で不安に感じることは、「感染する不安」が約6割と最も多く、以下「体調管理・健康面の不安」、「感染予防の不安」となっています。また、困っていることは「外出を自粛していること」、「感染予防・対策」が約3割となっています。障がい別にみると、「感染予防・対策」は重複障がい者で、「外出を自粛していること」は難病患者で、「気持ちをコントロールすることが難しいこと」は精神障がい者で全体より高く、障がいの特性に適した寄り添い方や感染症対策等の対応が必要であると考えられます。

### ○外出状況について

- ・外出の頻度は「ほぼ毎日」と「週に数回」を合わせて約7割と高く、主な交通手段は「自家用車」となっています。
- ・外出する上で困ることは、「介助者などがいないと外出が困難である」が最も多く、特に知的障がい者、重複障がい者で多くなっています。
- ・外出するために必要と考える整備または援助については、「交通機関の利用料金の割引や助成の充実」、「道路の段差や歩道の整備」が約3割と多くなっており、交通機関の利用支援や外出のしやすい道路・歩道整備の必要性が高くなっています。また、障がい別にみると、知的障がい者、重複障がい者で、「外出時の介助者等移動支援・同行援護の充実」の割合が高くなっており、介助者がいない場合の支援を図る必要があると考えられます。

### ○就労・就学について

- ・障がいのある方の就労を促進するために必要な支援について、「障がいのある方に対する雇用者や職場の仲間の理解と協力があること」が障がい者・難病患者、また、一般調査ともに最も多く、障がいのある方への理解と協力が最も重要であると考えられます。
- ・今後の働き方について「一般就労したい」、「仕事をしたいと思う」の割合が精神障がい者で多くなっており、就労意欲が高い傾向が伺えます。このことから、職場や就労環境における理解や就労支援の充実も推進していく重要性が考えられます。

### ○災害など緊急事態における、あなたの対応について

- ・災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについて、「携帯電話」が前回の調査と比べ、ニーズが高まっていると考えられます。
- ・災害などの緊急時に必要としていることについては、「家族等への連絡」、「緊急時に適切な情報提供」がそれぞれ約半数を占めており、緊急時には速やかな情報伝達が必要であると考えられます。
- ・災害などの緊急時に困ることについては、「安全なところまですばやく避難できない」が32.7%と最も多くなっています。前回の調査と比べると7.1ポイント減少していますが、引き続き避難支援等、防災対策の充実が必要であると考えられます。

### ○福祉情報の入手方法について

- ・現在利用している、今後利用したい情報手段は、「市の広報や回覧」が最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」となっています。知りたい福祉情報について、「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」が最も多く、次いで「医療に関することについて」となっています。情報や意思疎通に関して困っていることは、「どこに情報があるのかわからない」が最も多くなっています。
- ・このことから、障害福祉サービスや医療に関すること等、障がいのある方が知りたい情報が適切に提供できる体制づくりや、情報提供の充実を推進していく必要があります。



### ○将来の生活や、大垣市の福祉について

- ・将来の生活に対する不安について、「経済的に安定した生活を送ることができるか」が最も多く、次いで「家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」、「健康を維持できるか(障がいが進行するのではないか)」となっています。今後の大垣市の取り組みとして、「保健・医療の充実」、「生活支援の充実」が「重要である」と答えた方が6割を超えて高くなっていることを踏まえて、施策の充実に取り組んでいく必要があります。
- ・大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は49.3%となっています。

### ○障害福祉サービス等の利用について

- ・現在利用している障害福祉サービスは、「生活介護」が最も多く、次いで「就労継続支援(A型・B型)」、「居宅介護(ホームヘルプ)」となっています。今後利用したい障害福祉サービスは、「居宅介護(ホームヘルプ)」が最も多く、次いで「短期入所(ショートステイ)」、「移動支援」となっています。
- ・「今すぐ」利用したい障害福祉サービスについては、「就労継続支援(A型・B型)」が最も多く、次いで「就労移行支援」、「短期入所(ショートステイ)」となっています。
- ・サービスの利用で困っていることについては、「特に困っていることはない」を除いて、「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」が最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」となっています。
- ・障害福祉サービスの利用について、個々のニーズに応じたサービスの提供や利用に関する周知を促進する必要があると考えられます。

### ○余暇活動について

- ・余暇の過ごし方については、「家でゆっくり過ごす」が58.7%と最も多く、次いで「買い物」、「旅行」となっています。
- ・余暇を楽しむために困っていることについては、「特に困っていることはない」を除いて、「お金がない」が最も多く、次いで「健康・体力に自信がない」となっています。障がい別にみると、「人の目が気になる」は精神障がい者で、「コミュニケーションが難しい」は知的障がい者で、「家族や他者の負担が大きい」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。
- ・上記のことから、半数以上が家で過ごしており積極的に外出をしづらい傾向があります。そのため、計画の基本理念に基づく施策目標(自立した暮らしの支援、社会参加の促進、安心できるまちづくりの推進)を実現していくことが安心して余暇活動を過ごすために必要であると考えられます。

### ○差別解消と権利擁護について

- ・日常生活の中での偏見や差別について、「常にある」または「時々ある」とした“差別や偏見を感じたことがある人”は全体で 18.1%でしたが、精神障がい者・重複障がい者で約3割と全体より高い割合となっています。
- ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について、障がいのある方の認知度は 15.1%に留まっており、前回調査と比較しても 4.8 ポイントの減少傾向がみられます。また、一般調査においても 11.5%と約 1 割の認知度となっており、さらなる周知の必要性が考えられます。
- ・大垣市障がい者虐待防止センターについての認知度は 8.4%となっています。

## 2 障がい児

### ○日常生活について

- ・医療機関での診察を受けるときに困っていることは、「病院などでの待ち時間が待てない」が最も多く、次いで「専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない」となっています。
- ・日ごろ、不安・不満に感じていることは、「学校卒業後や、在宅での介護が限界になった後の居場所が不安」が約6割と最も多く、このことから、医療、福祉、教育、就労支援機関等の連携体制の強化及び障がいのある子どもへの継続的な支援が必要であると考えられます。また、「支援先探しや利用手続きを、自分でやらなければならない」、「常に疲れがたまって、からだを休める時間がない」が約3割となっており、介護者である家族の支援も同時に図っていく必要があります。

### ○新型コロナウイルス感染拡大による影響について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で、「感染する不安」が約 7 割と最も多く、以下「体調管理・健康面の不安」「サービスが利用できなくなる不安」に不安を感じています。また、困っていることは「外出を自粛していること」、「感染予防・対策」が約 4 割となっています。

### ○お子様の外出状況について

- ・外出の頻度は「ほぼ毎日」が 95.2%とほとんどの子どもが毎日外出をしており、その多くは「自家用車」に同乗して外出しています。
- ・外出する上で困ることは、「介助者がいないと外出が困難である」が最も多く、介助者がいない場合の外出手段の確保が必要であると考えられます。

### ○お子様の就学などについて

- 就園・就学については、「特別支援学校に通学している」が55.6%と最も多く、次いで「幼稚園・保育園（幼保園、認定こども園等含む）、学校に通園・通学している」、「いずれにも該当せず自宅にいる」となっています。
- 学校で勉強する場合の希望する形については、「特別支援学校（盲学校・ろう学校を含む）での勉強」が50.8%と最も多く、次いで「特別支援学級での勉強」、「通常学級での勉強」となっています。
- 現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路については、「特別支援学級・特別支援学校などに進学」「障害福祉サービス事業所に通所」が27.1%と最も多く、次いで「学校・大学・専門学校などに進学」となっており、障がいのある子ども1人ひとりの望む進路支援の推進が期待されます。
- 学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことについては、「障がい者が参加できる生涯学習（学習プログラム）を増やす」が最も多く、次いで「障がい者の文化芸術活動を支援する」となっており、学習機会の充実やスポーツ・文化芸術活動など、社会参加への支援や充実を進めていく必要があります。

### ○家庭での災害など緊急事態の対応について

- 災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについては、「携帯電話」が約9割となっており、利用する媒体に適した情報発信が必要となります。
- 災害などの緊急時に必要としていることについては、「障がい者等対応の避難所を設置」、「緊急時の適切な情報提供」、「家族等への連絡」、「避難所への誘導」がそれぞれ約半数となっており、いずれも緊急時の対応として希望していることがわかります。
- 災害などの緊急時に困りごととして、「どのように対応すべきか判断できない」が79.4%と最も多く、次いで「安全なところまですばやく避難できない」、「避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない」となっています。

### ○お子様の福祉情報の入手方法について

- 福祉情報を得るために現在利用している情報手段については、「市の広報や回覧」が60.3%と最も多く、今後利用したい情報手段については、「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」となっています。また、主に知りたい福祉情報として、「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」が最も多く、次いで「職業訓練や就職情報などの就労支援について」、「悩みごとが相談できる人や団体、機関について」となっています。情報入手や意思疎通に関する困りごとは、「どこに情報があるのかわからない」が最も多くなっています。
- このことから、子どもの成長に合わせて知りたい情報を適切に入手できるよう、情報提供や相談対応の充実を図っていく必要があります。

### ○将来の生活や、今後の大垣市の福祉について

- ・大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は 38.0%となっています。
- ・今後の大垣市の取り組みとして、「情報の普及・啓発の推進」、「保健・医療の充実」、「生活支援の充実」、「療育、教育環境の充実」が「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』と答えた方が 9 割を超えて高くなっていることを踏まえて、施策の充実に取り組んでいく必要があります。

### ○障害福祉サービス等の利用について

- ・現在利用している障害福祉サービスは、「放課後等デイサービス」が最も多く、次いで「児童発達支援」、「医療型児童発達支援」となっています。今後利用したい障害福祉サービスは、「就労継続支援（A型・B型）」が最も多く、次いで「就労移行支援」、「短期入所（ショートステイ）」となっています。このことから「放課後等デイサービス」の継続利用と、「就労継続支援（A型・B型）」の利用意向が強いため、引き続き支援の充実に取り組んでいく必要があります。

### ○差別解消と権利擁護について

- ・日常生活の中での偏見や差別について、「常にある」または「時々ある」とした“差別や偏見を感じたことがある人”は全体では、46.0%となっています。
- ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については 30.2%、大垣市障がい者虐待防止センターについては 19.0%の認知度となっており、さらなる周知の必要性が考えられます。

## 3 発達障がい児

### ○日常生活について

- ・医療機関での診察を受けるときに困っていることは、「特に困っていることはない」が最も多く、次いで「病院などでの待ち時間が待てない」、「医師や看護師に思っていることをうまく説明できない」となっています。
- ・日ごろ、不安・不満に感じていることは、「自分のための時間、気分転換する時間がとれない」、「特にない」が 33.9%と最も多く、次いで「常に多忙で時間に追われている」となっており、心労の負担を抱えている方がいることが伺えます。発達障がいのある子どもを介護する家族の支援環境の整備が必要となります。

### ○新型コロナウイルス感染拡大による影響について

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で、「感染する不安」が約 7 割と最も多く、次いで「収入など、金銭面」、「体調管理・健康面」に不安を感じています。また、困っていることは「外出を自粛していること」が最も多く、次いで「感染予防・対策」となっています。

### ○お子様の外出状況について

- ・外出の頻度は「ほぼ毎日」が 88.7%とほとんどの子どもが毎日外出をしており、その多くは「自家用車」への同乗や「徒歩」で外出しています。
- ・外出する上で困ることは、「特に困ることはない」が 58.1%と最も多く、次いで「事故にあう危険を感じる」、「人の目が気にかかる」となっています。

### ○お子様の就学などについて

- ・通園・通学するうえで困っていることは、「友達とのトラブルが心配」が 39.7%と最も多く、次いで「授業についていけない」が 37.9%となっています。
- ・学校で勉強する場合の希望する形については、「通常学級での勉強」が 58.6%と最も多く、次いで「通級指導教室での勉強」、「特別支援学級での勉強」となっています。
- ・現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路については、「学校・大学・専門学校などに進学」が 8 割を超えて高くなっています。発達障がいのある子どもへの特性に応じた適切な支援、キャリア教育や進路支援の推進が期待されます。
- ・学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことについては、「障がい者が参加できる生涯学習（学習プログラム）を増やす」が最も多く、次いで「障がい者の文化芸術活動を支援する」となっています。将来の自立や社会参加のためにも生涯学習活動の支援及び文化芸術活動の支援（拡充）が必要です。

### ○家庭での災害など緊急事態の対応について

- ・災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについては、障がい児同様「携帯電話」が 8 割を超え高くなっており、利用する媒体に適した情報発信が必要となります。
- ・災害などの緊急時に困ることについては、「どのように対応すべきか判断できない」が 71.0%と最も多く、次いで「安全なところまですばやく避難できない」、「避難所で、被害状況や支援物資の配付などの情報が入手できない」となっています。
- ・災害時の情報連絡の体制づくりや、発達障がいのある子どもの避難誘導や避難所での対応を検討する必要があります。

### ○お子様の福祉情報の入手方法について

- ・福祉情報を得るために現在利用している情報手段と今後利用したい情報手段については、「市の広報や回覧」が最も多くなっています。また、主に知りたい福祉情報として、「悩みごとが相談できる人や団体、機関について」が最も多く、次いで「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」、「同じような障がいを持つ仲間と出会える場について」となっています。情報入手や意思疎通に関する困りごとは、「どこに情報があるのかわからない」が最も多くなっています。
- ・このことから、子どもの成長に合わせて知りたい情報が適切に入手できるよう、情報提供や相談対応の充実を図っていく必要があります。

#### ○将来の生活や、今後の大垣市の福祉について

- ・大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は 32.2%となっています。
- ・今後の大垣市の取り組みとして、「療育、教育環境の充実」、「緊急時の相談、対応の充実」、「暮らしやすい生活環境の整備」が「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』の割合が 9 割を超えて高くなっていることを踏まえて、施策の充実に取り組んでいく必要があります。

#### ○障害福祉サービス等の利用について

- ・現在利用している障害福祉サービスは、「児童発達支援」が最も多く、次いで「医療型児童発達支援」、「保育所等訪問支援」となっています。今後 10 年以内に利用したい障害福祉サービスは、「就労移行支援」が最も多く、次いで「就労継続支援（A 型・B 型）」となっています。

#### ○差別解消と権利擁護について

- ・「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については 24.2%、大垣市障がい者虐待防止センターについては 9.7%の認知度となっています。

## 4 一般

#### ○福祉に関する情報、障がいのある方への意識について

- ・日常生活の中で障がいのある方に対して進んでできる手助けについては、「車いすを押す」が 46.6%と最も多く、次いで「話し相手になる」、「大きな荷物を運ぶ・出し入れする」となっています。
- ・災害時に障がい者のためにできる支援や協力については、「安否確認・声をかける」が 72.4%と最も多く、次いで「安全な場所への避難誘導」、「相談・話し相手」となっています。
- ・障がいのある方へのボランティア活動への参加に興味・関心があるかについては、「興味・関心はあるが、やりたいことはまだわからない」が約 6 割と最も多くなっています。
- ・ボランティア活動に参加する上で、不安・障壁となると思うことについては、「自分にどのような活動ができるのかわからない」が 46.4%と最も多く、次いで「時間的な余裕がない」、「自分の体力に自信がない」となっています。
- ・一般調査の結果では、ボランティアへの興味・関心はあるものの、どのような活動をすればよいのかわからない意見が多くみられます。ボランティア活動の啓発や普及を図り、参加を促進していく必要があります。また、ボランティア活動の支援の推進も必要となります。
- ・また、災害時についても、障がいのある人への支援や援助に関する知識を普及し、市民の協力を得て地域支援体制を強化していくことが重要となります。

- 障害者差別解消法の認知度については、「知らない」が 83.0%と前回調査より 4.0 ポイント増加しています。
- 成年後見制度の認知度については、「知っているが、内容については少ししか理解していない」が 34.6%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容はわからない」が 31.4%となっています。前回調査と比べて「知っているが、内容については少ししか理解していない」は 3.6 ポイント増加、「知っているし、内容も理解している」は 2.6 ポイント減少しています。
- 一般調査の結果から、それぞれの法・制度について周知・広報活動を充実させていく必要があります。

#### ○障がいのある方もない方も暮らしやすい社会の実現について

- 障がいのある方もない方も共に地域で暮らすために必要なことについては、「障がいのある方や障がいに対する理解を深める」が 45.5%と最も多く、次いで「障がいのある方が相談しやすい体制をつくる」が 35.7%、「障がいのある方が企業に就職できる機会を増やす」が 27.4%の順となっています。
- 大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は 31.9%となっています。
- 一般調査の結果から、障がいのある人もない人もお互いに理解と認識を深めていく必要があることがわかります。地域社会において共に支え合い、安心して暮らせるまちづくりを推進していくことが重要となります。

## 第2章 障がい者・難病患者

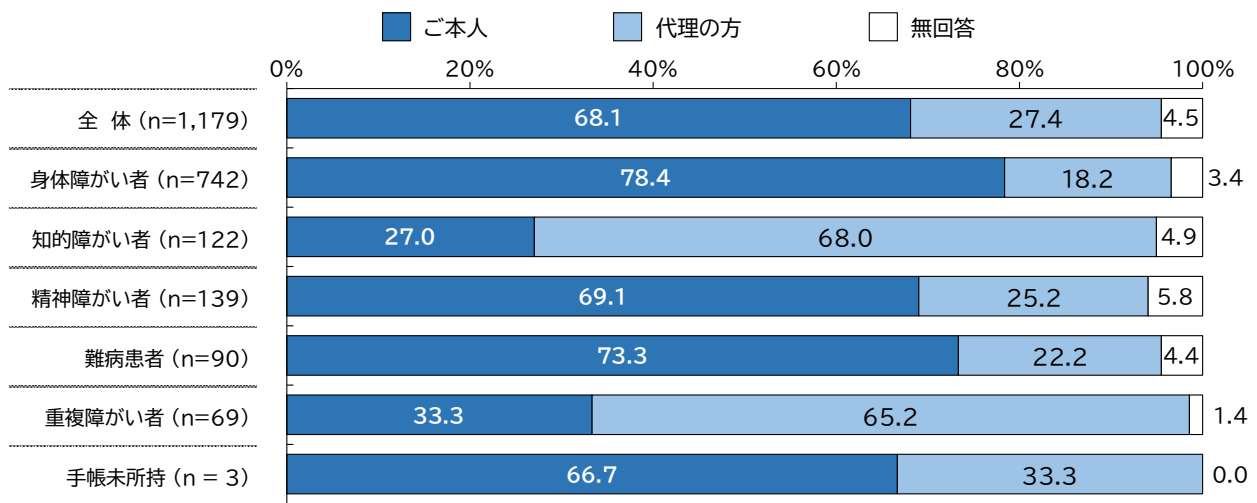
問ア アンケートに直接記入していただく方はどなたですか。

代理の方である場合は、ご本人との関係を（ ）内のあてはまるもの1つに○印をつけてください。

アンケートの記入については、「ご本人」が68.1%、「代理の方」が27.4%となっています。

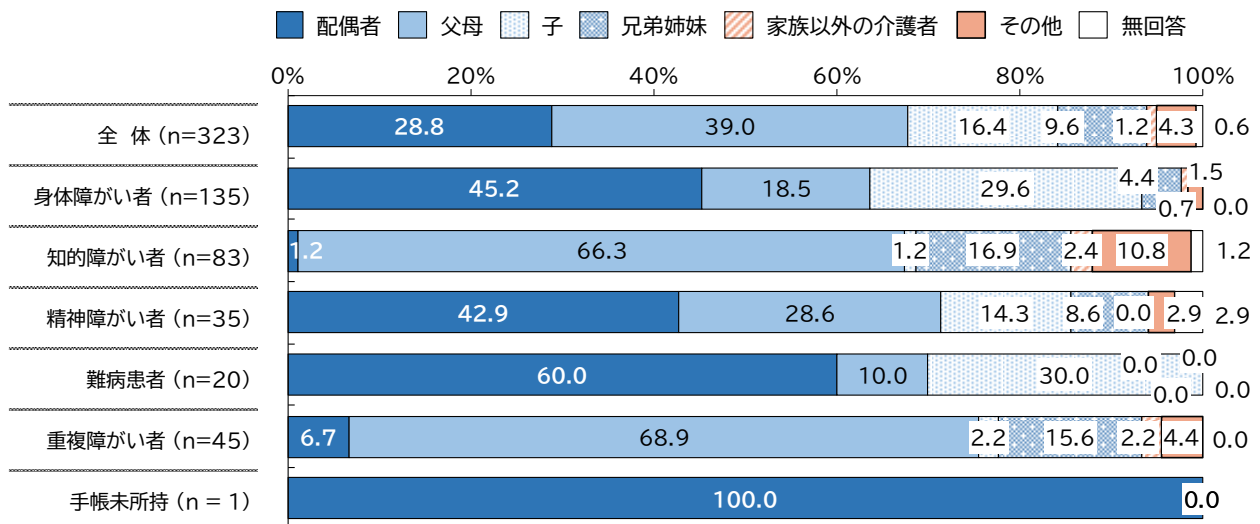
障がい別にみると、「ご本人」は身体障がい者で全体より高い割合となっている一方、知的障がい者では低い割合となっています。

### <全体・障がい別>



代理の方については、「父母」が39.0%と最も多く、次いで「配偶者」が28.8%、「子」が16.4%の順となっています。

### <全体・障がい別>



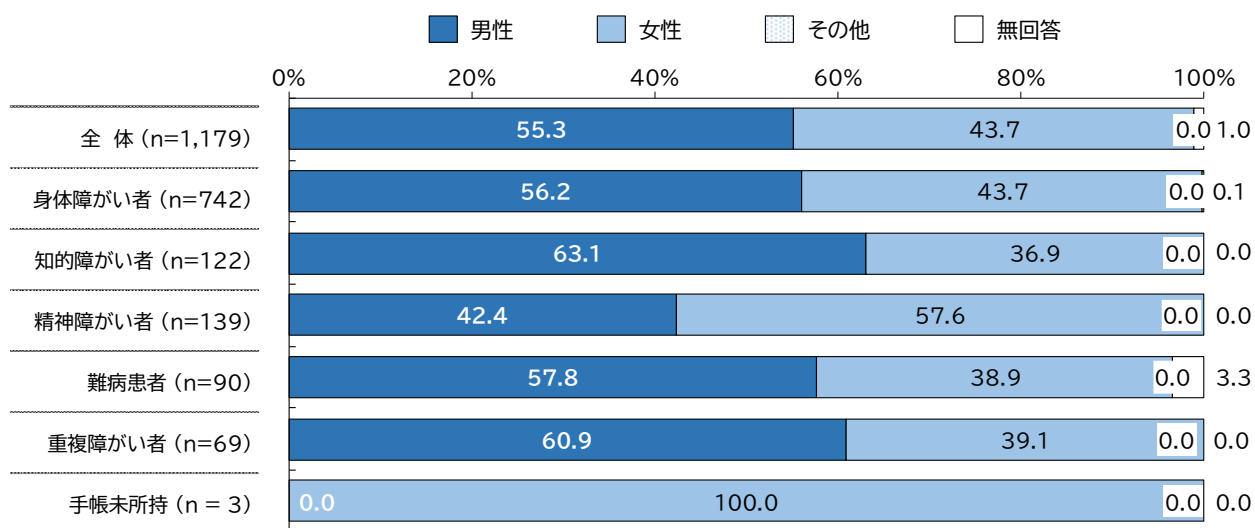


# 1 回答者自身について

## 問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

性別は、「男性」が55.3%、「女性」が43.7%となっています。

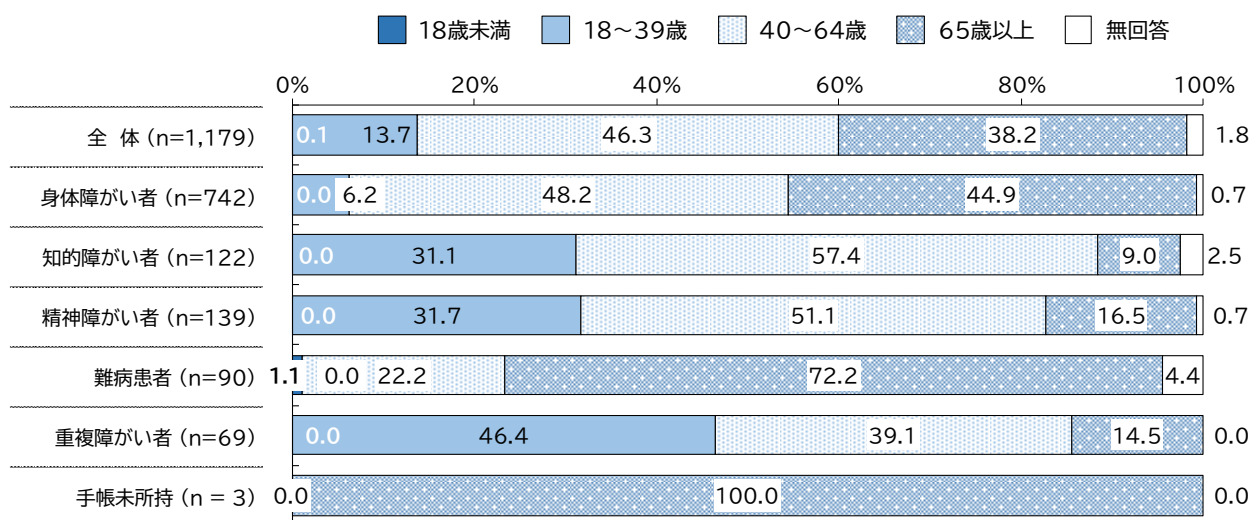
### <全体・障がい別>



## 問2 あなたの年齢をお答えください。(数字で記入)

年齢は、「40～64 歳」が 46.3%と最も高く、次いで「65 歳以上」が 38.2%、「18～39 歳」が 13.7%の順となっています。

### <全体・障がい別>



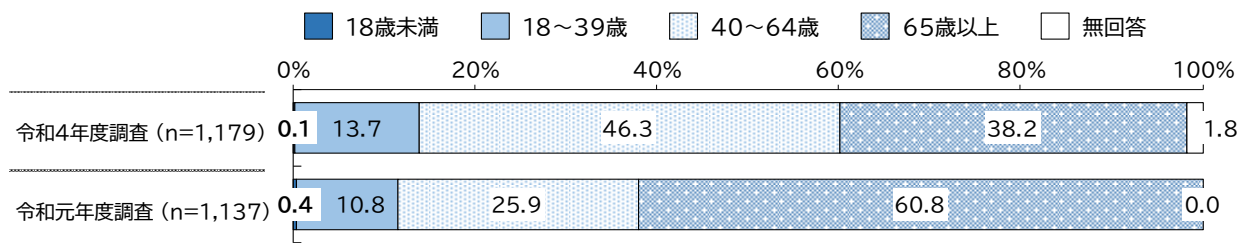
また、平均年齢でみると、全体の平均年齢は 58.4 歳となっています。障がい別にみると、知的障がい者では 45.3 歳、難病患者では 71.2 歳となっています。

#### <障がい別平均年齢>

障がい別平均年齢	
全 体 (n=1,158)	58.4歳
身体障がい者 (n=737)	61.9歳
知的障がい者 (n=119)	45.3歳
精神障がい者 (n=138)	48.7歳
難病患者 (n=86)	71.2歳
重複障がい者 (n=69)	44.2歳
手帳未所持 (n = 3)	78.7歳

前回の調査と比較すると、「40～64 歳」で 20.4 ポイントの増加となっています。

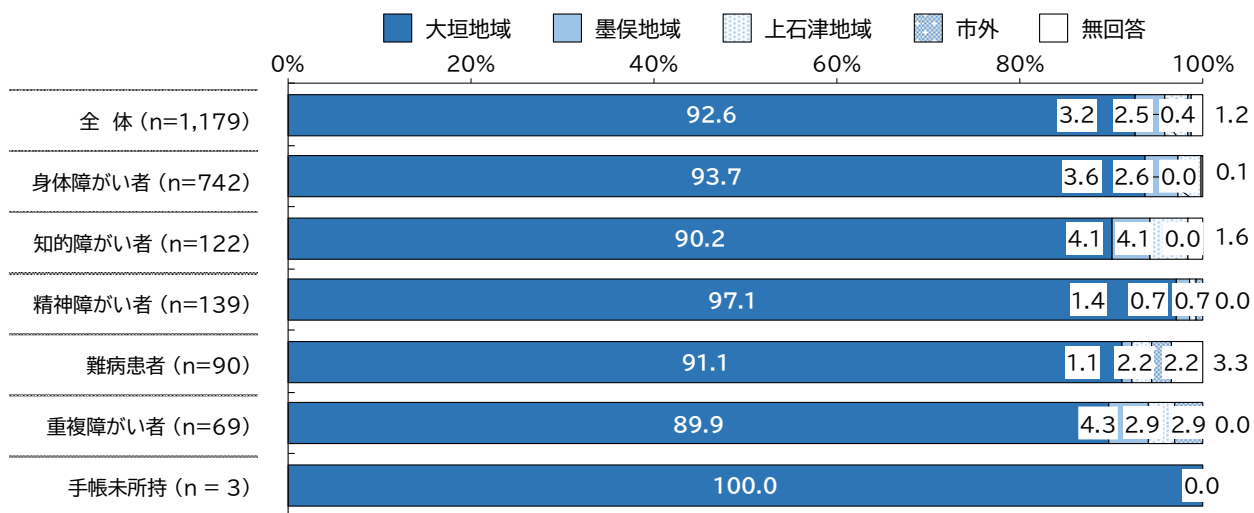
#### <前回調査との比較>



### 問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。(あてはまるもの1つに○印)

居住地域については、「大垣地域」が92.6%と最も多く、次いで「墨俣地域」が3.2%、「上石津地域」が2.5%の順となっています。

#### <全体・障がい別>

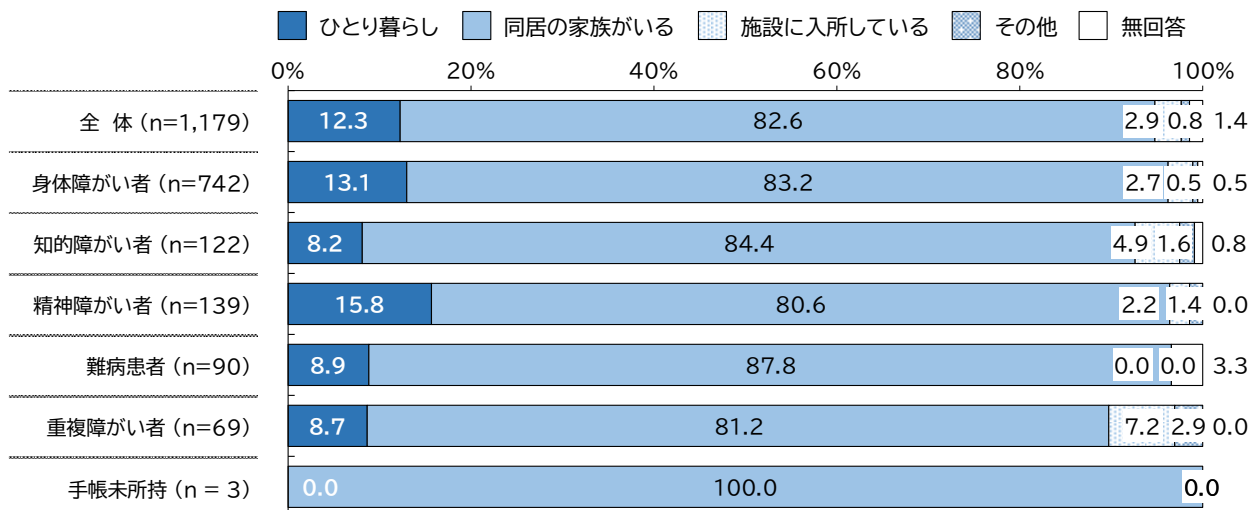


### 問4 あなたの家族状況をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

「同居の家族がいる」に○印をつけた方は、家族構成について右の口内のあてはまるすべてに○印をつけてください。また、子どもがいる場合にはその人数も数字でご記入ください。

家族状況については、「同居の家族がいる」が82.6%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が12.3%、「施設に入所している」が2.9%の順となっています。

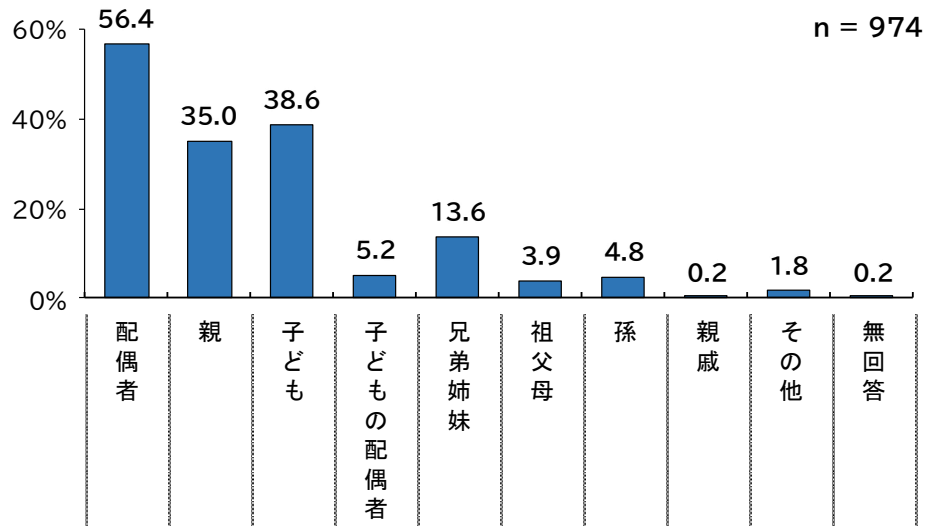
#### <全体・障がい別>



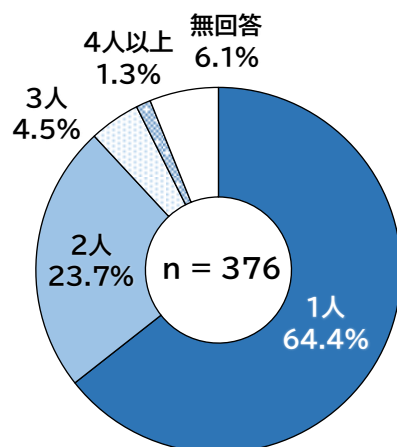
同居の家族の家族構成については、「配偶者」が56.4%と最も多く、次いで「子ども」が38.6%、「親」が35.0%の順となっています。

子どもの人数は、「1人」が64.4%と最も多く、次いで「2人」が23.7%、「3人」が4.5%の順となっています。

#### <家族構成>



#### <子どもの人数>



問5 あなたは現在、障害者手帳を所持していますか。（あてはまるものに○印）  
また、お持ちの手帳について、あてはまる等級（程度）に○印を記入してください。

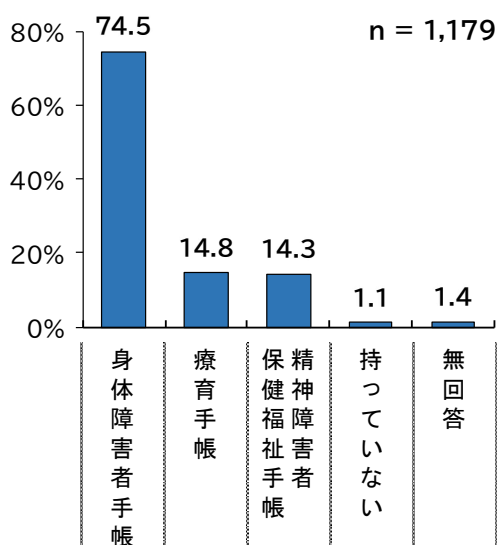
所持している障害者手帳については、「身体障害者手帳」が74.5%と最も多く、次いで「療育手帳」が14.8%、「精神障害者保健福祉手帳」が14.3%の順となっています。

身体障害者手帳の等級（程度）については、「1級」が36.8%と最も多く、次いで「3級」が20.2%、「4級」が17.7%の順となっています。

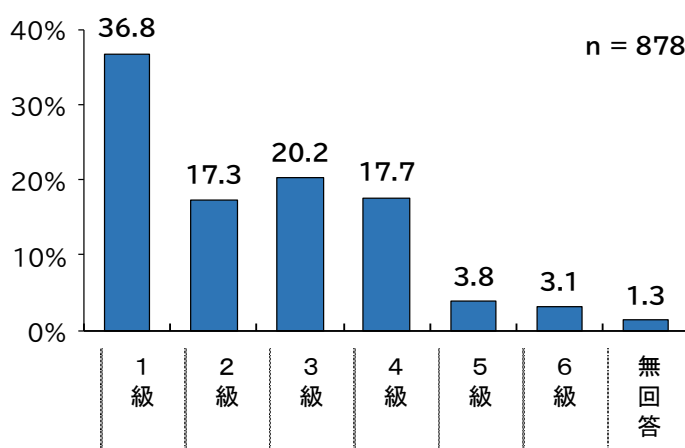
療育手帳の等級（程度）については、「B1」が29.1%と最も多く、次いで「A1」が21.1%、「A2」が20.6%の順となっています。

精神障害者保健福祉手帳の等級（程度）については、「2級」が55.6%と最も多く、次いで「1級」が27.2%、「3級」が16.0%の順となっています。

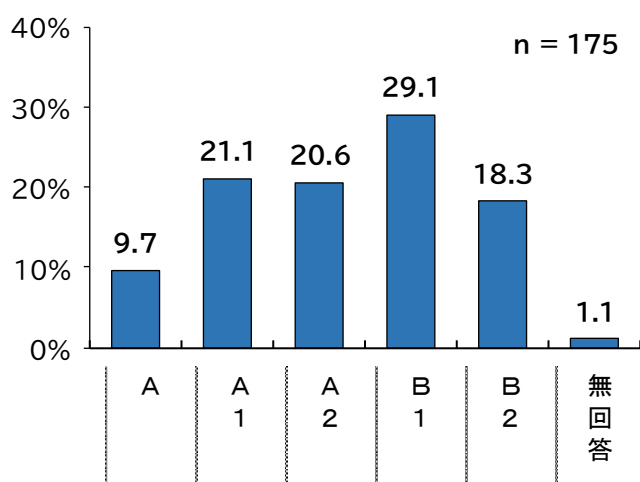
#### <全体>



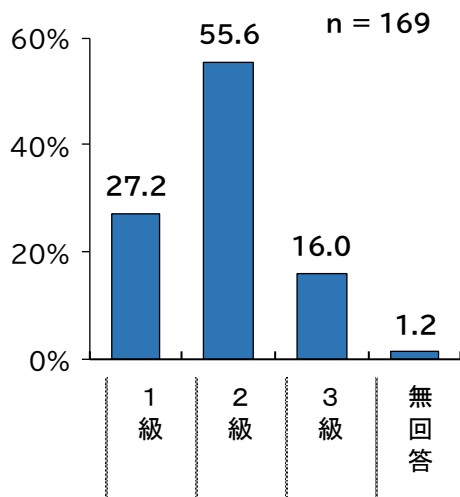
#### <身体障害者手帳>



#### <療育手帳>



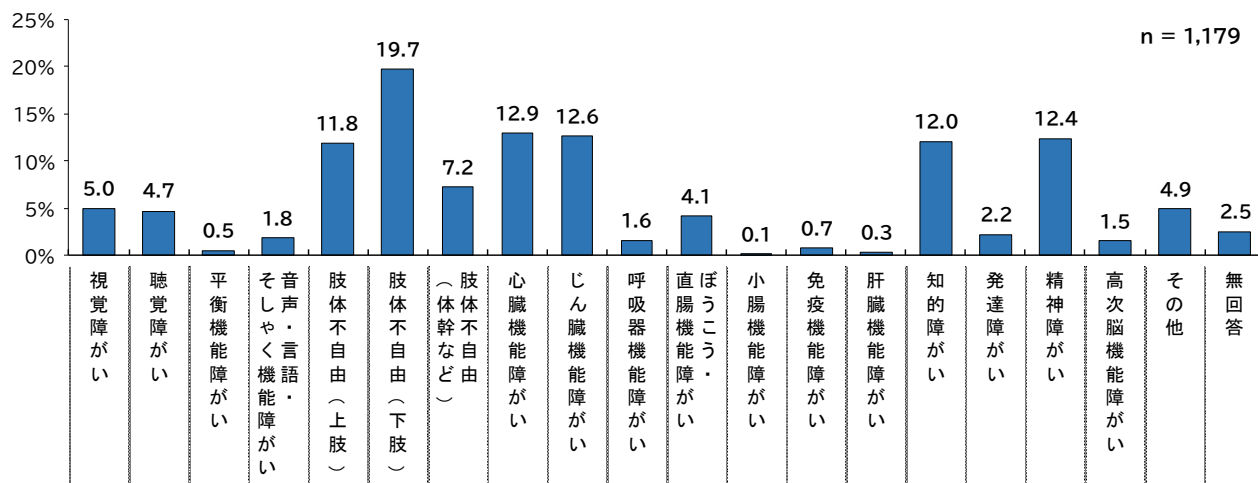
#### <精神障害者保健福祉手帳>



## 問6 あなたの主たる障がいをお答えください。(あてはまるものに○印)

主たる障がいは、「肢体不自由(下肢)」が19.7%と最も多く、次いで「心臓機能障がい」が12.9%、「じん臓機能障がい」が12.6%の順となっています。

### <全体>

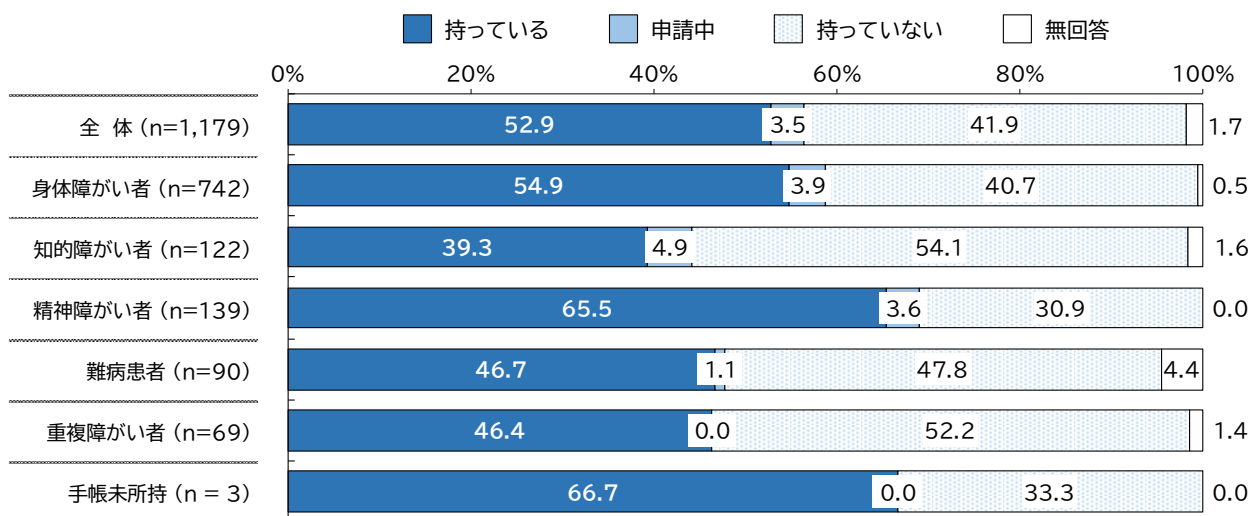


## 問7 あなたは現在、マイナンバーカードを持っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

マイナンバーカードについては、「持っている」が52.9%、「申請中」が3.5%、「持っていない」が41.9%となっています。

障がい別にみると、「持っている」は身体障がい者・精神障がい者で全体より高い割合になっています。

### <全体・障がい別>



## 2 日常生活について

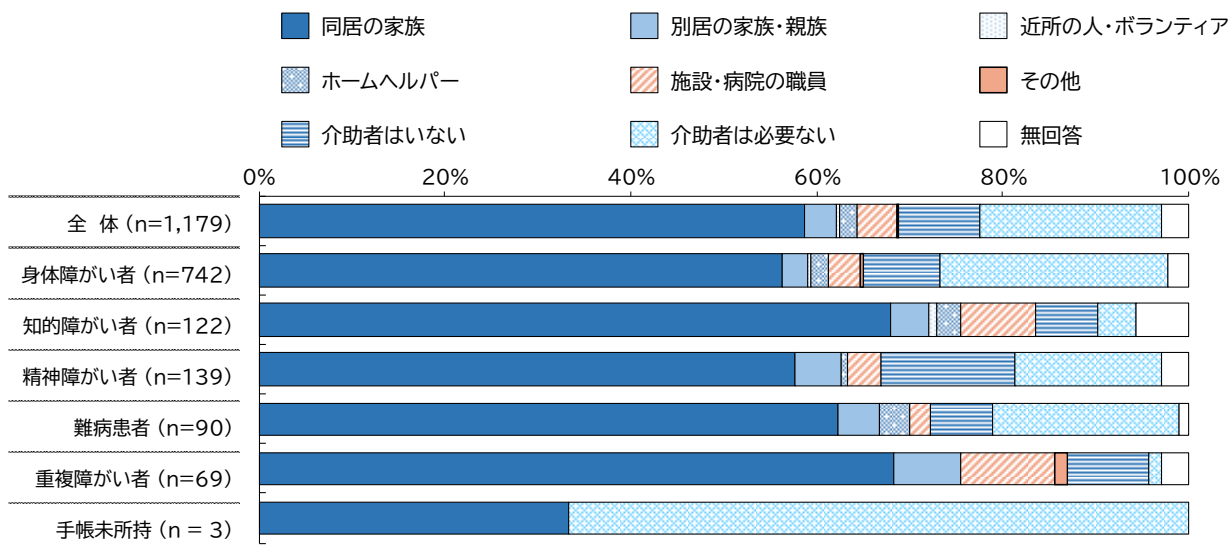
問8 あなたを主に介助や手助けする人はどなたですか。(主なもの1つに○印)

「1. 同居の家族」に○印をつけた方は、その家族の続柄について、( )内のあてはまるものをさらに1つ○印をつけてください。

介助や手助けする人については、「同居の家族」が58.7%と最も多く、次いで「介助者はいらない」が19.6%、「介助者はいない」が8.7%の順となっています。

障がい別に見ると、「同居の家族」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

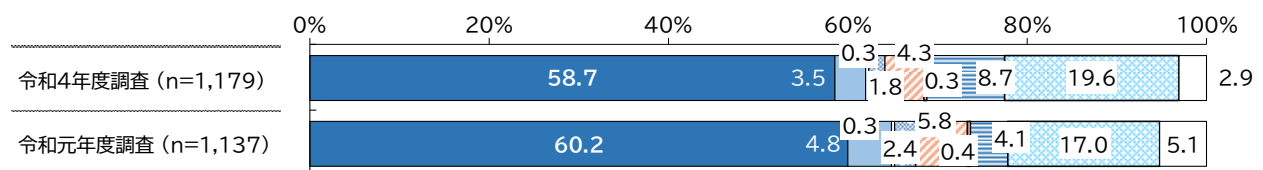
### <全体・障がい別>



	同居の家族	別居の家族・親族	近所の人・ボランティア	ホームヘルパー	施設・病院の職員	その他	介助者はいない	介助者はいらない	無回答
全 体	58.7	3.5	0.3	1.8	4.3	0.3	8.7	19.6	2.9
身体障がい者	56.3	2.7	0.3	1.9	3.5	0.3	8.2	24.5	2.3
知的障がい者	68.0	4.1	0.8	2.5	8.2	0.0	6.6	4.1	5.7
精神障がい者	57.6	5.0	0.0	0.7	3.6	0.0	14.4	15.8	2.9
難病患者	62.2	4.4	0.0	3.3	2.2	0.0	6.7	20.0	1.1
重複障がい者	68.1	7.2	0.0	0.0	10.1	1.4	8.7	1.4	2.9
手帳未所持	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0

前回の調査と比較すると、「介助者はいない」で4.6ポイントの増加となっています。

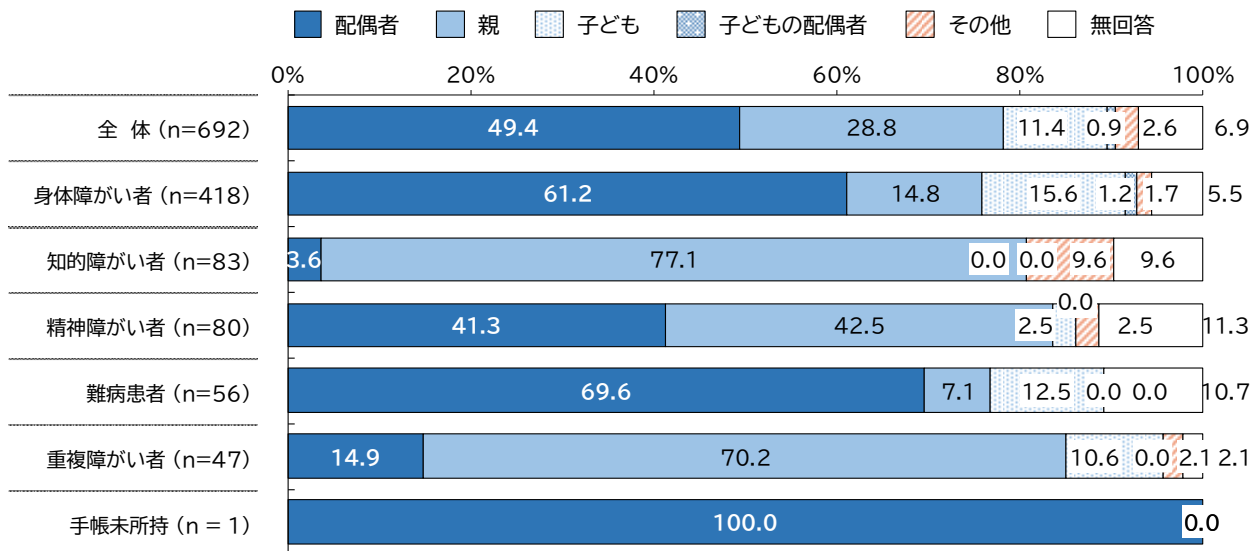
### <前回調査との比較>



同居の家族の続柄については、「配偶者」が49.4%と最も多く、次いで「親」が28.8%、「子ども」が11.4%の順となっています。

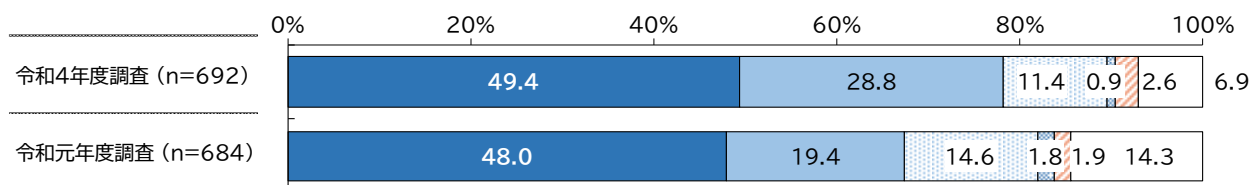
障がい別にみると、「親」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

#### <全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「親」で9.4ポイントの増加となっています。

#### <前回調査との比較>





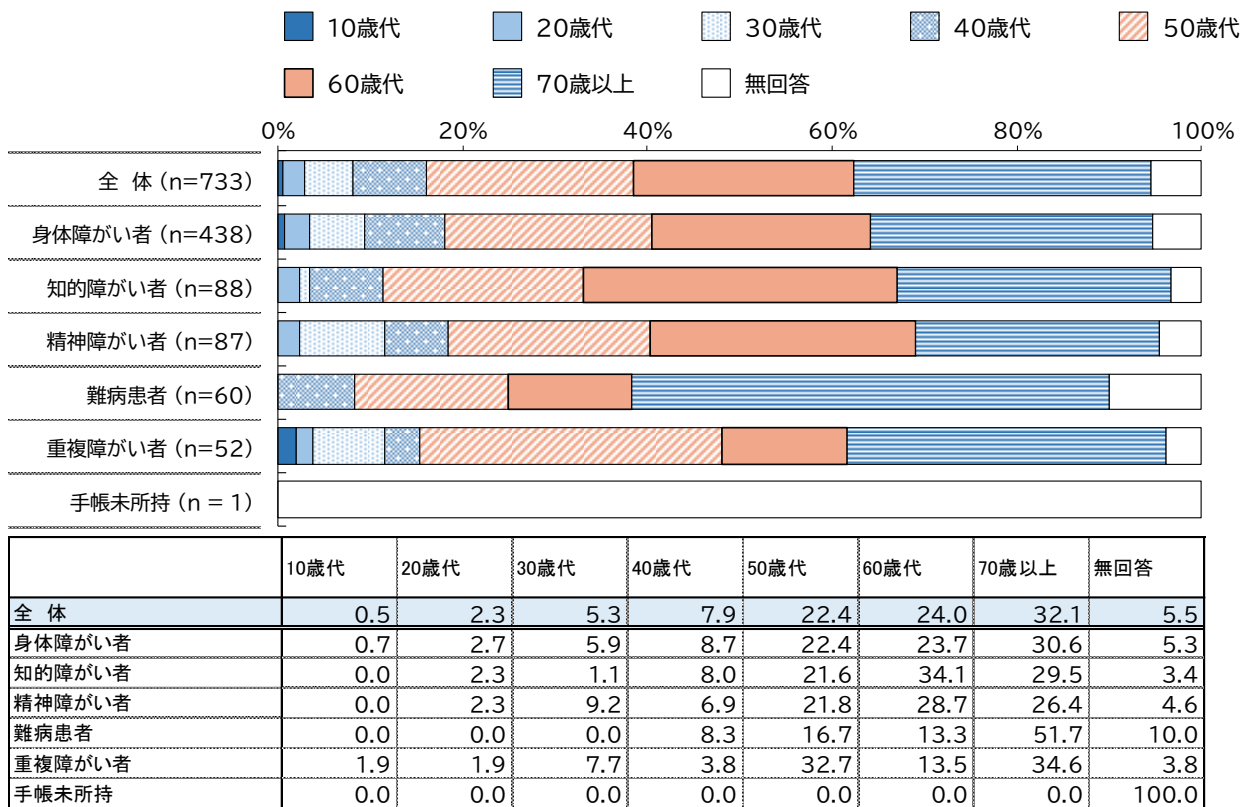
問 8－① 主な介助者が、家族または親族の場合、その方の年齢、健康状態をお答えください。（あてはまるもの1つに○印）

【年齢】

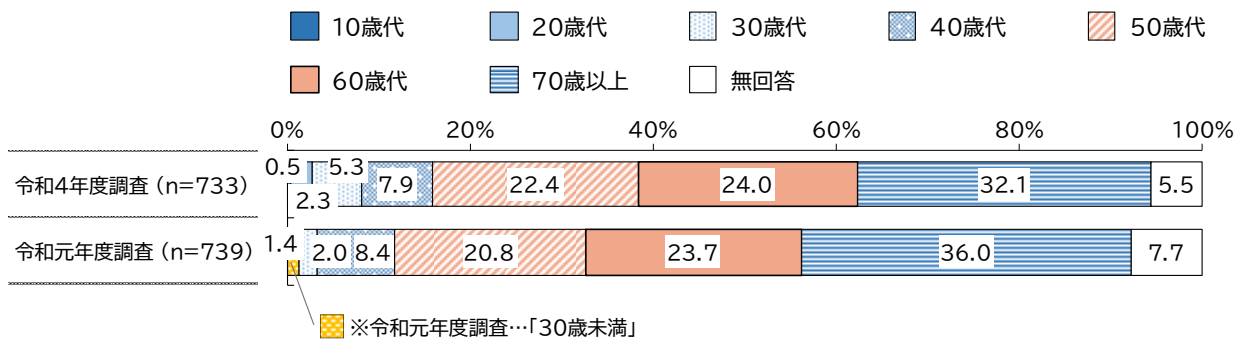
家族または親族の介助者の年齢については、「70 歳以上」が32.1%と最も多く、次いで「60 歳代」が24.0%、「50 歳代」が22.4%の順となっています。また、「10 歳代」の介助者が少数ながら存在しています。

障がい別にみると、「70 歳以上」は難病患者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、“30 歳代以下”（令和4年度「10 歳代」＋「20 歳代」＋「30 歳代」、令和元年度調査「30 歳未満」＋「30 歳代」）が4.7ポイントの増加となっています。

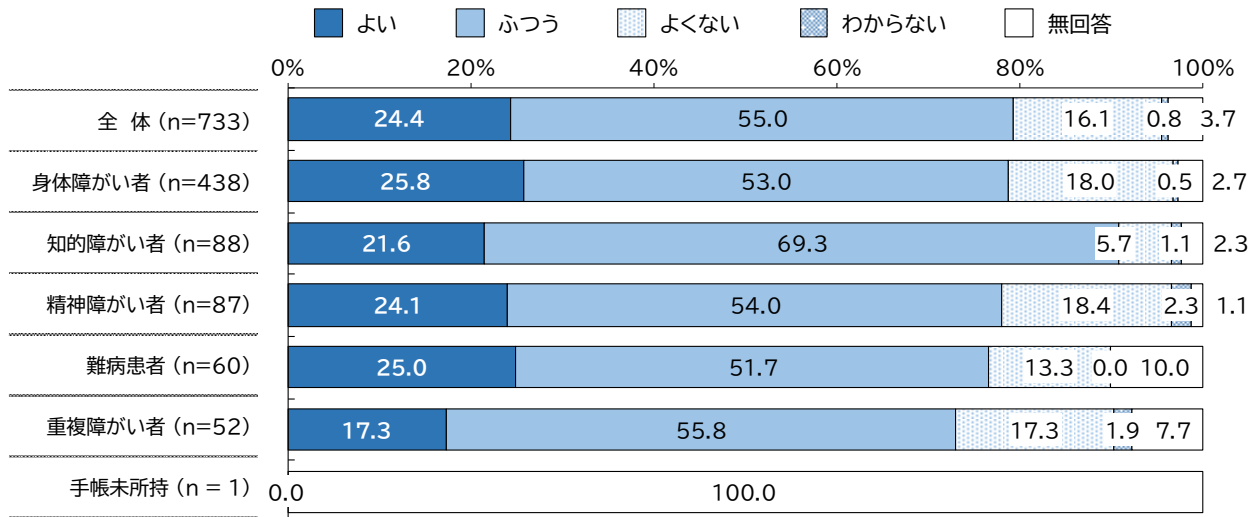


## 【健康状態】

家族または親族の介護者の健康状態については、「ふつう」が55.0%と最も多く、次いで「よい」が24.4%、「よくない」が16.1%の順となっています。

障がい別にみると、「ふつう」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

### <全体・障がい別>

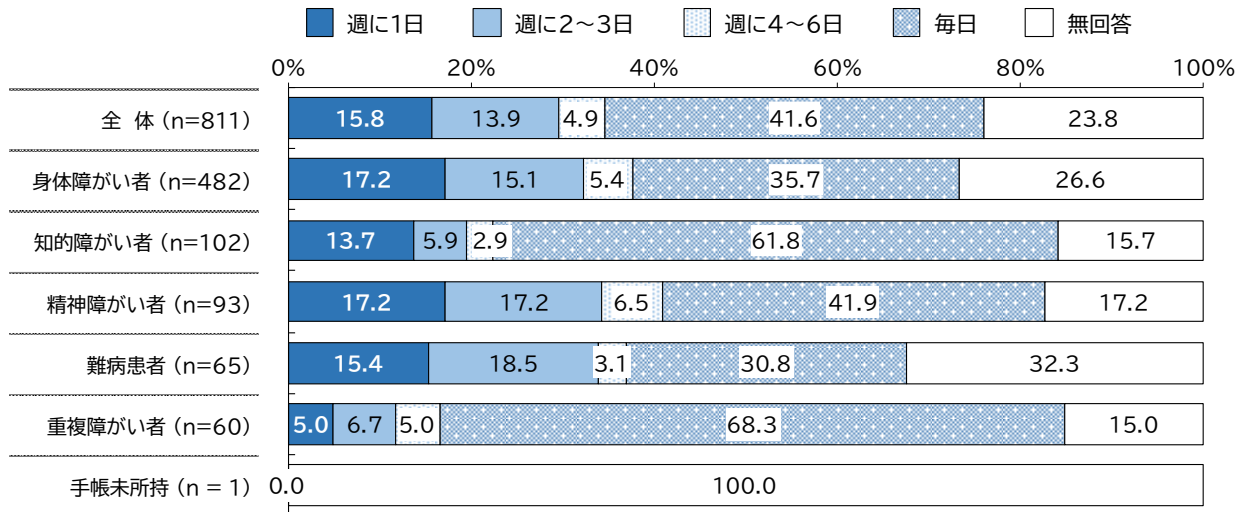


問 8－② 介助や手助けに必要な日数は、1 週間のうち何日ぐらいですか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

介助や手助けに必要な日数（1 週あたり）については、「毎日」が 41.6%と最も多く、次いで「週に 1 日」が 15.8%、「週に 2～3 日」が 13.9%の順となっています。

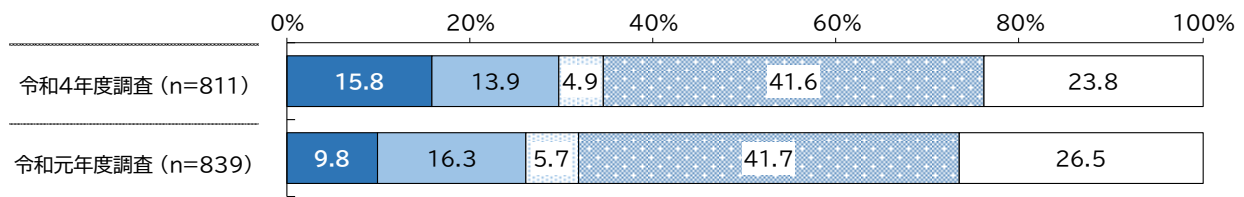
障がい別にみると、「毎日」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「週に 1 日」が 6.0 ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>

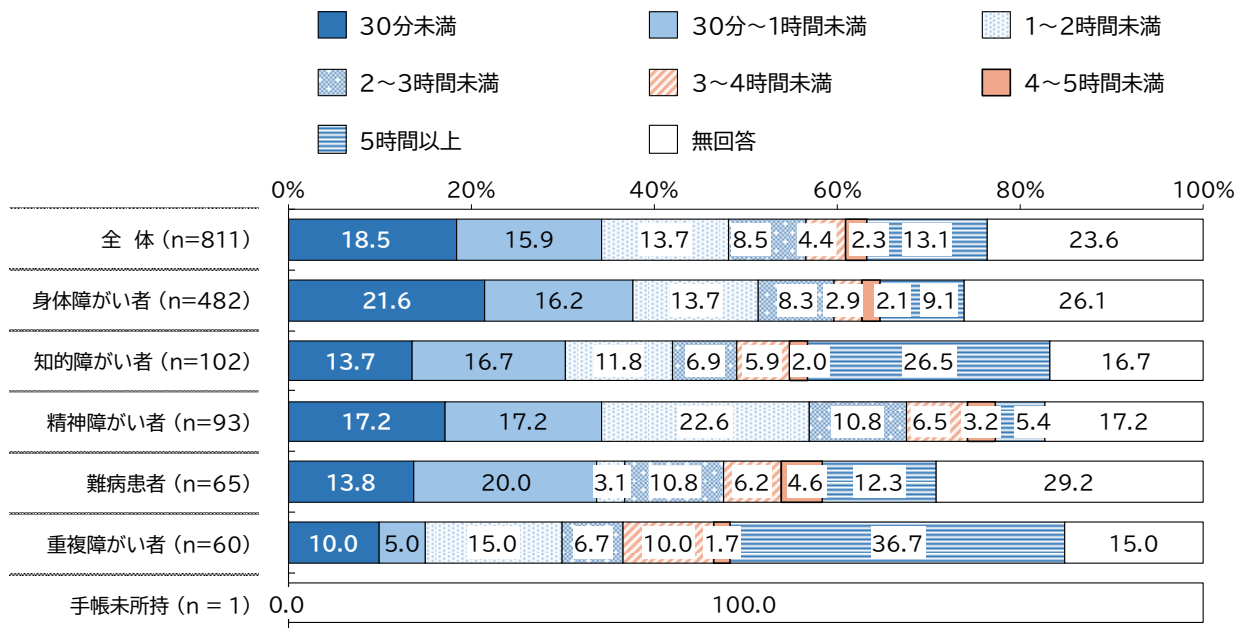


問 8－③ 介助や手助けに必要な時間は1日延べ時間でどのくらいになりますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

介助や手助けに必要な時間（1日あたり）については、「30分未満」が18.5%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」が15.9%、「1～2時間未満」が13.7%の順となっています。

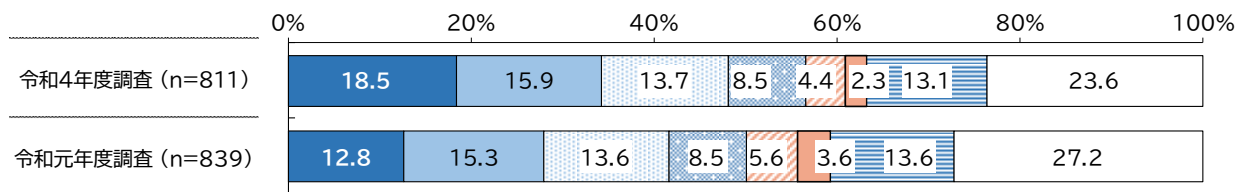
障がい別にみると、「5時間以上」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「30分未満」が5.7ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>

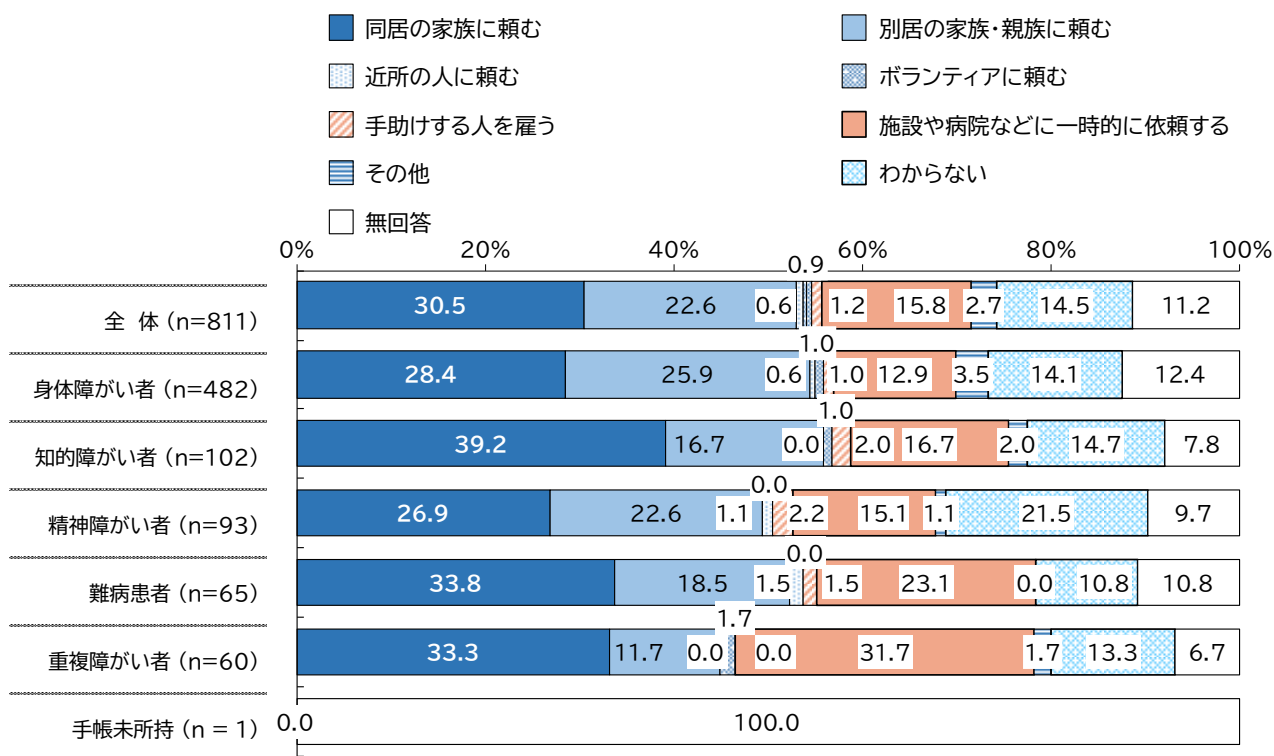


問 8－④ 主な支援者（介助者）が万一、急病・事故・出産などのため一時的に介助ができなくなった場合、どうすることになっていますか。（主なもの 1 つに○印）

主な支援者（介助者）が一時的に介助できなくなった場合については、「同居の家族に頼む」が 30.5% と最も多く、次いで「別居の家族・親族に頼む」が 22.6%、「施設や病院などに一時的に依頼する」が 15.8%の順となっています。

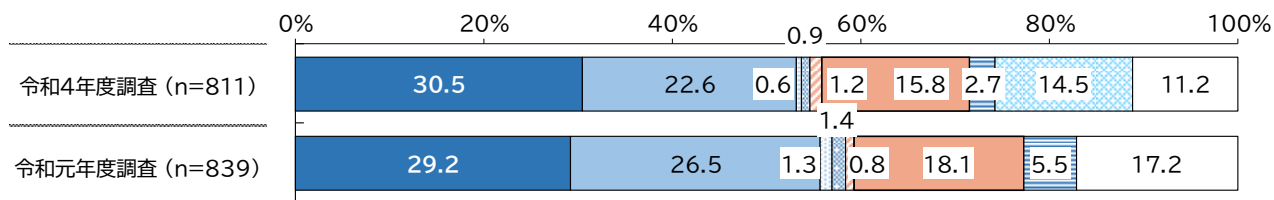
障がい別にみると、「同居の家族に頼む」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「別居の家族・親族に頼む」が 3.9 ポイントの減少となっています。

<前回調査との比較>

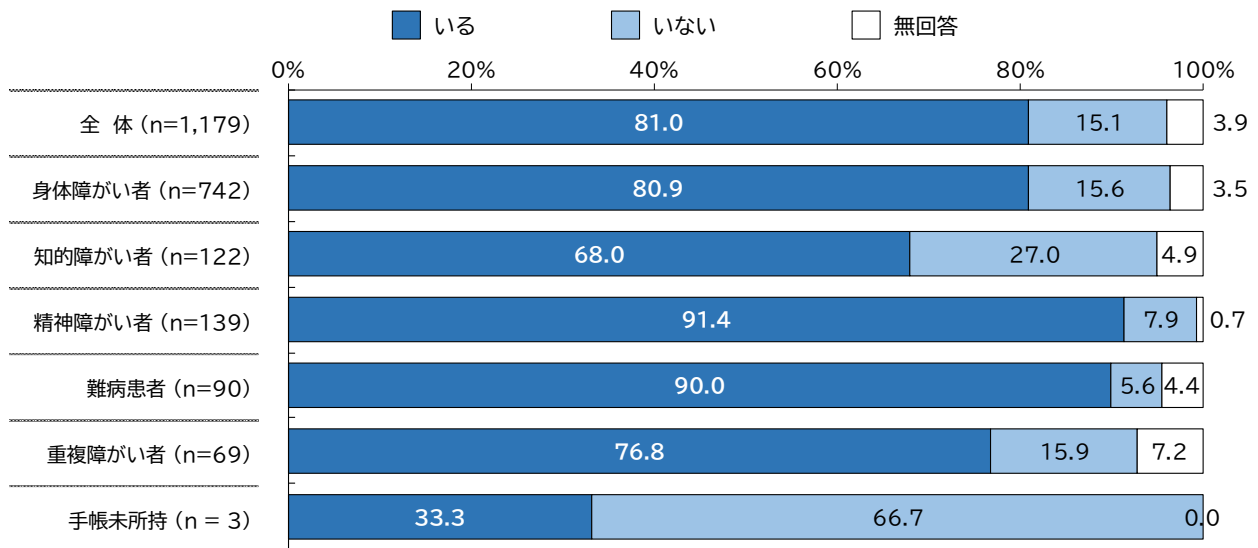


問9 あなたは気軽に相談できる病院またはかかりつけの医師はいますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

気軽に相談できる病院またはかかりつけ医については、「いる」が81.0%、「いない」が15.1%となっています。

障がい別にみると、「いる」は精神障がい者・難病患者で全体より高い割合となっています。

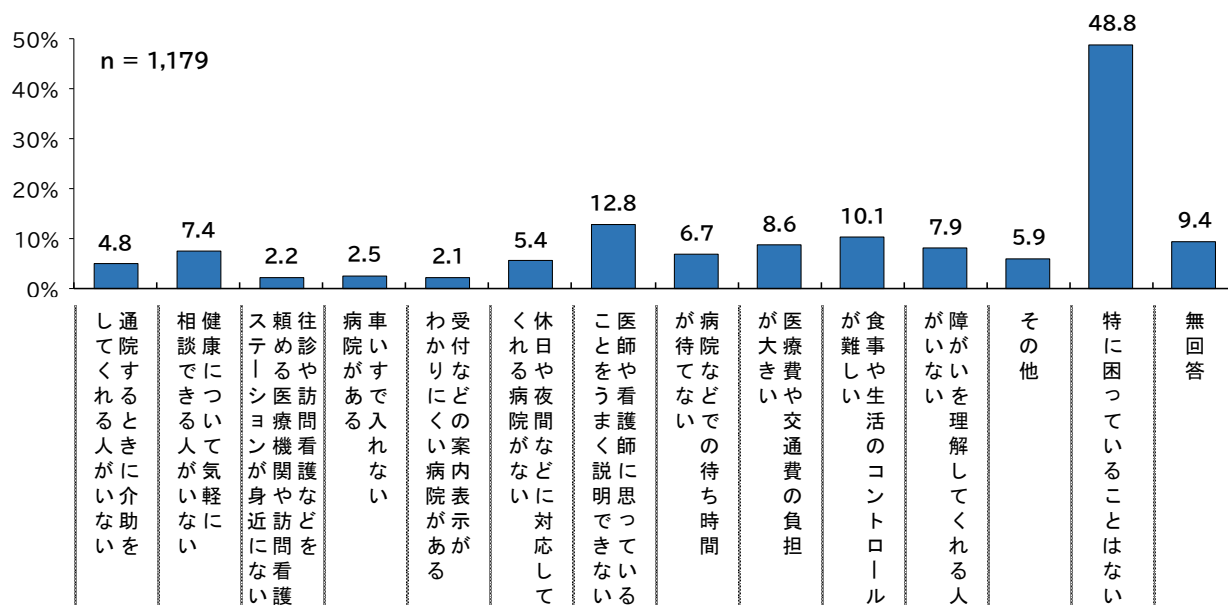
<全体・障がい別>



問 10 あなたは医療機関での診察を受けるときに、困っていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

医療機関での診察を受けるときに困っていることは、「特に困っていることはない」が48.8%と最も多く、次いで「医師や看護師に思っていることをうまく説明できない」が12.8%、「食事や生活のコントロールが難しい」が10.1%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「医師や看護師に思っていることをうまく説明できない」は知的障がい者・精神障がい者・重複障がい者で全体より高い割合になっています。

<障がい別>

	調査数	通院するときに介助をしてくれる人がいない	健康について気軽に相談できる人がいない	往診や訪問看護などを頼める医療機関や訪問看護ステーションが身近にない	車いすで入れない病院がある	受付などの案内表示がわかりにくい病院がある	休日や夜間などに対応してくれる病院がない	医師や看護師に思っていることをうまく説明できない
全 体	1179	4.8	7.4	2.2	2.5	2.1	5.4	12.8
身体障がい者	742	5.1	5.9	2.7	2.8	2.6	3.6	6.9
知的障がい者	122	5.7	5.7	1.6	0.8	1.6	6.6	27.0
精神障がい者	139	3.6	12.9	1.4	0.0	0.7	13.7	28.1
難病患者	90	2.2	5.6	1.1	2.2	1.1	5.6	8.9
重複障がい者	69	5.8	14.5	1.4	8.7	2.9	5.8	26.1
手帳未所持	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

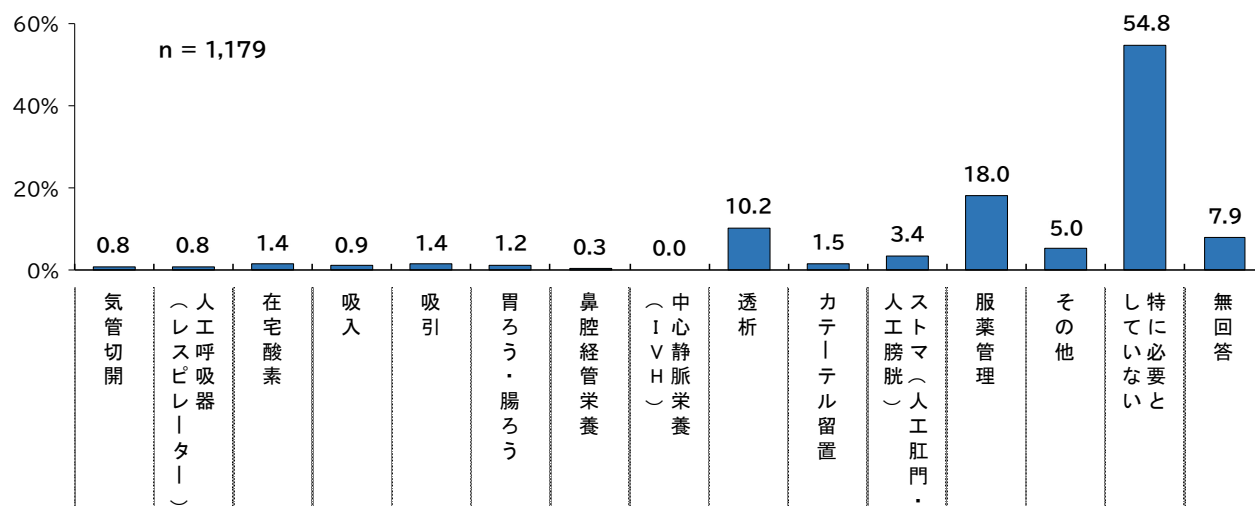
  

	調査数	病院などでの待ち時間が待てない	医療費や交通費の負担が大きい	食事や生活のコントロールが難しい	障がいや理解してくれない人がいない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	1179	6.7	8.6	10.1	7.9	5.9	48.8	9.4
身体障がい者	742	5.3	9.4	8.1	6.1	5.5	54.0	8.5
知的障がい者	122	9.8	2.5	9.0	9.8	7.4	44.3	5.7
精神障がい者	139	7.2	11.5	18.0	15.8	6.5	35.3	5.8
難病患者	90	4.4	8.9	7.8	2.2	3.3	46.7	21.1
重複障がい者	69	20.3	2.9	23.2	17.4	10.1	31.9	14.5
手帳未所持	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

問 11 あなたが日常的に必要としている医療的ケアをお答えください。  
(あてはまるものすべてに○印)

日常的に必要としている医療的ケアについては、「特に必要としていない」が54.8%と最も多く、次いで「服薬管理」が18.0%、「透析」が10.2%の順となっています。

#### <全体>



障がい別にみると、「服薬管理」は精神障がい者・重複障がい者で、「透析」は難病患者で全体より高い割合になっています。

#### <障がい別>

	調査数	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	在宅酸素	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養(IVH)
全 体	1179	0.8	0.8	1.4	0.9	1.4	1.2	0.3	0.0
身体障がい者	742	1.1	0.8	1.5	1.3	1.5	1.6	0.3	0.0
知的障がい者	122	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
精神障がい者	139	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病患者	90	0.0	0.0	2.2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
重複障がい者	69	2.9	4.3	4.3	1.4	5.8	2.9	1.4	0.0
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	調査数	透析	カテーテル留置	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	服薬管理	その他	特に必要としない	無回答
全 体	1179	10.2	1.5	3.4	18.0	5.0	54.8	7.9
身体障がい者	742	7.7	1.8	4.9	15.0	5.5	56.2	9.0
知的障がい者	122	0.0	0.0	0.0	17.2	2.5	71.3	9.0
精神障がい者	139	0.0	0.0	0.0	34.5	7.2	56.8	4.3
難病患者	90	65.6	4.4	1.1	7.8	1.1	22.2	2.2
重複障がい者	69	2.9	1.4	4.3	31.9	5.8	47.8	7.2
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0

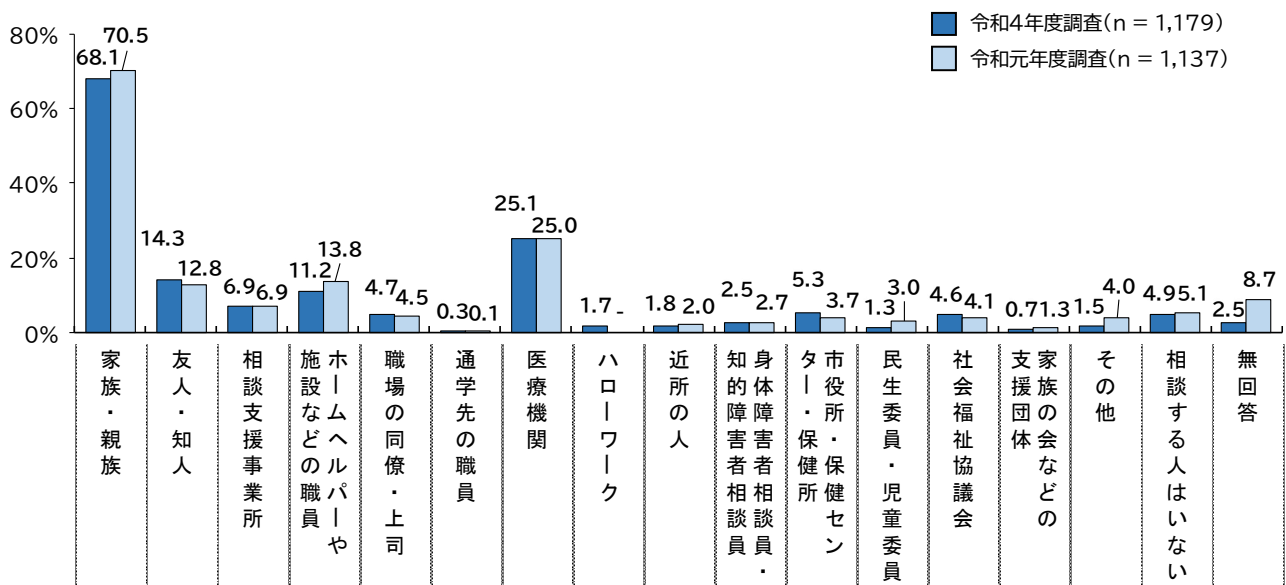


問 12 あなたが現在の生活で困っていることや不安に思っていること、医療・福祉サービスや就労などについて誰に相談していますか。(主なものに3つまで○印)

困りごとや不安、医療・福祉サービス・就労などの相談相手(先)については、「家族・親族」が68.1%と最も多く、次いで「医療機関」が25.1%、「友人・知人」が14.3%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「ホームヘルパーや施設などの職員」で2.6ポイントの減少となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「相談支援事業所」は知的障がい者で、「医療機関」は精神障がい者・難病患者で全体より高い割合になっています。

<障がい別>

	調査数	家族・親族	友人・知人	相談支援事業所	ホームヘルパーや施設などの職員	職場の同僚・上司	通学先の職員	医療機関	ハローワーク	近所の人
全 体	1179	68.1	14.3	6.9	11.2	4.7	0.3	25.1	1.7	1.8
身体障がい者	742	68.6	16.3	3.5	9.3	3.9	0.0	23.5	1.5	1.6
知的障がい者	122	71.3	8.2	21.3	18.9	10.7	0.8	16.4	1.6	4.1
精神障がい者	139	68.3	9.4	12.2	8.6	4.3	0.7	38.1	4.3	0.7
難病患者	90	71.1	15.6	2.2	12.2	0.0	0.0	33.3	1.1	1.1
重複障がい者	69	53.6	13.0	14.5	21.7	8.7	1.4	21.7	0.0	1.4
手帳未所持	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

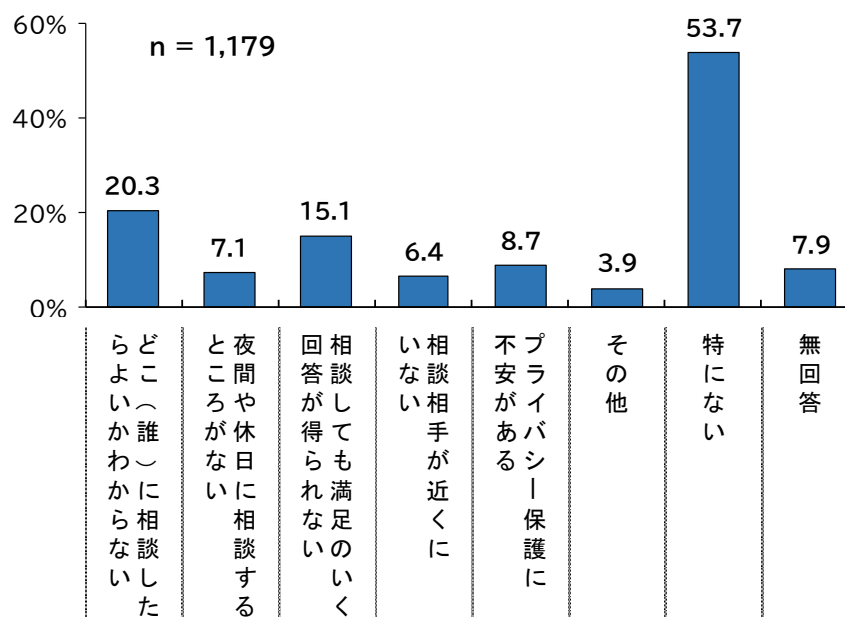
  

	調査数	身体障害者相談員・知的障害者相談員	市役所・保健センター・保健所	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	家族の会などの支援団体	その他	相談する人はいない	無回答
全 体	1179	2.5	5.3	1.3	4.6	0.7	3.2	8.7	5.9
身体障がい者	742	1.6	4.9	0.7	2.8	0.0	3.0	11.1	5.8
知的障がい者	122	6.6	2.5	2.5	12.3	0.0	4.9	2.5	4.9
精神障がい者	139	0.0	7.2	1.4	3.6	0.0	2.2	6.5	2.9
難病患者	90	2.2	7.8	5.6	7.8	3.3	5.6	3.3	6.7
重複障がい者	69	10.1	8.7	0.0	7.2	7.2	2.9	7.2	10.1
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

問 13 あなたは悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることについては、「特にない」が53.7%と最も多く、次いで「どこ（誰）に相談したらよいかわからない」が20.3%、「相談しても満足のいく回答が得られない」が15.1%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「どこ（誰）に相談したらよいかわからない」、「相談しても満足のいく回答が得られない」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

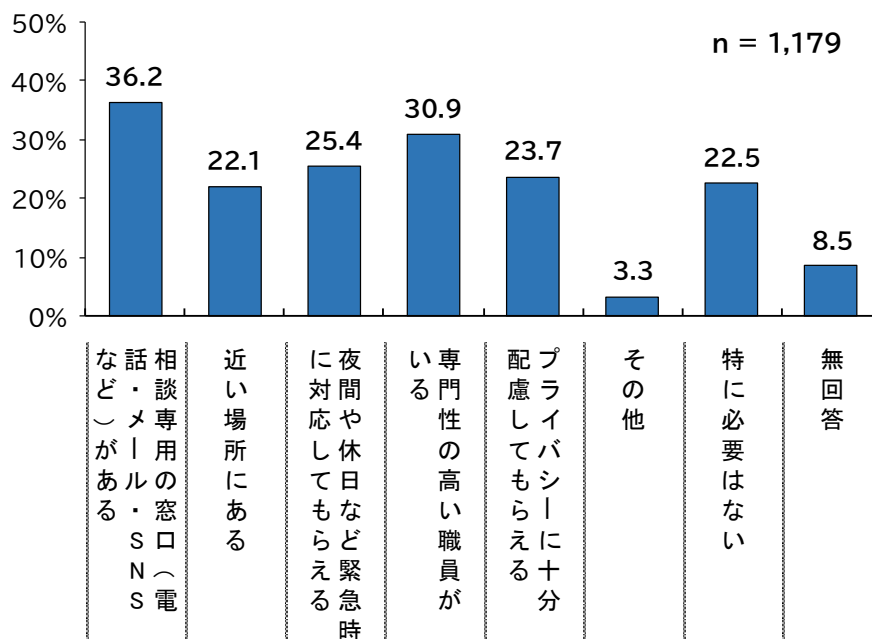
<障がい別>

	調査数	どこ（誰）に相談したらよいかわからない	夜間や休日に相談するところがない	相談しても満足のいく回答が得られない	相談相手が近くにいない	プライバシー保護に不安がある	その他	特にない	無回答
全 体	1179	20.3	7.1	15.1	6.4	8.7	3.9	53.7	7.9
身体障がい者	742	17.4	5.7	12.5	5.1	8.0	3.8	60.1	5.8
知的障がい者	122	24.6	6.6	18.0	6.6	6.6	9.0	45.1	10.7
精神障がい者	139	34.5	14.4	26.6	12.2	10.8	3.6	35.3	5.8
難病患者	90	11.1	8.9	6.7	3.3	10.0	1.1	54.4	16.7
重複障がい者	69	29.0	8.7	26.1	13.0	13.0	1.4	34.8	17.4
手帳未所持	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0

問 14 あなたは気軽に相談するためにどのようなことが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

気軽に相談するために必要だと思うことについては、「相談専用の窓口（電話・メール・SNS など）がある」が36.2%と最も多く、次いで「専門性の高い職員がいる」が30.9%、「夜間や休日など緊急時に対応してもらえる」が25.4%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「相談専用の窓口（電話・メール・SNS など）がある」、「専門性の高い職員がいる」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	相談専用の窓口（電話・メール・SNS など）がある	近い場所にある	夜間や休日など緊急時に対応してもらえる	専門性の高い職員がいる	プライバシーに十分配慮してもらえる	その他	特に必要はない	無回答
全 体	1179	36.2	22.1	25.4	30.9	23.7	3.3	22.5	8.5
身体障がい者	742	36.9	19.5	24.0	29.8	24.1	3.0	25.2	7.3
知的障がい者	122	31.1	23.0	23.0	27.9	18.9	3.3	23.8	12.3
精神障がい者	139	43.2	34.5	30.9	40.3	29.5	2.9	15.1	3.6
難病患者	90	27.8	20.0	28.9	24.4	20.0	4.4	21.1	14.4
重複障がい者	69	34.8	29.0	36.2	40.6	26.1	5.8	10.1	14.5
手帳未所持	3	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

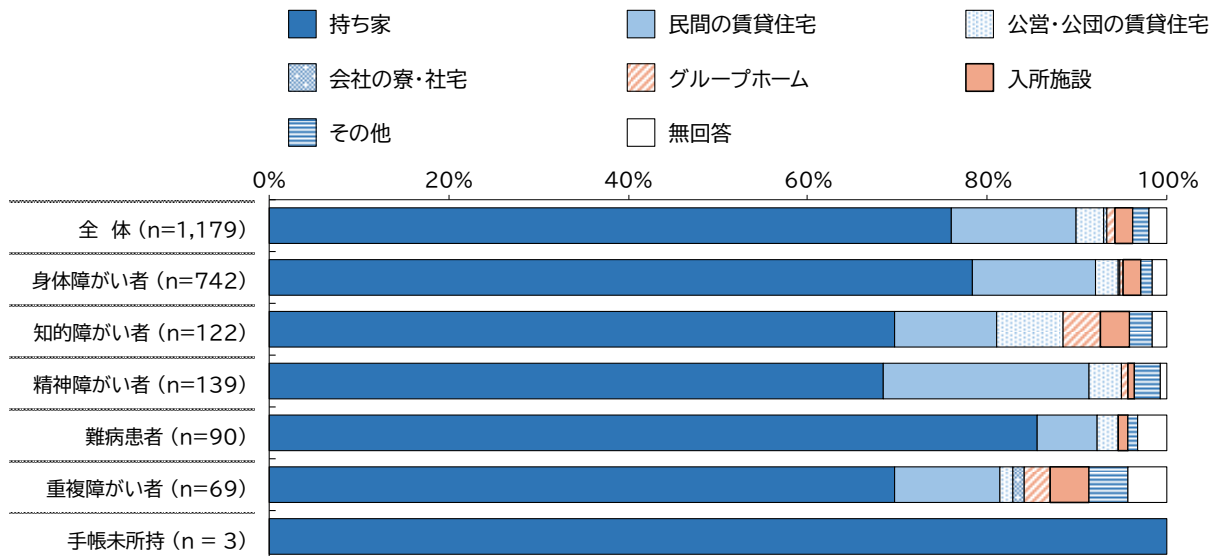
### 3 住まい、生計について

問 15 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(あてはまるもの1つに○印)

住まいについては、「持ち家」が76.0%と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が14.0%、「公営・公団の賃貸住宅」が3.1%の順となっています。

障がい別にみると、「持ち家」は知的障がい者・精神障がい者で全体より低い割合となっています。

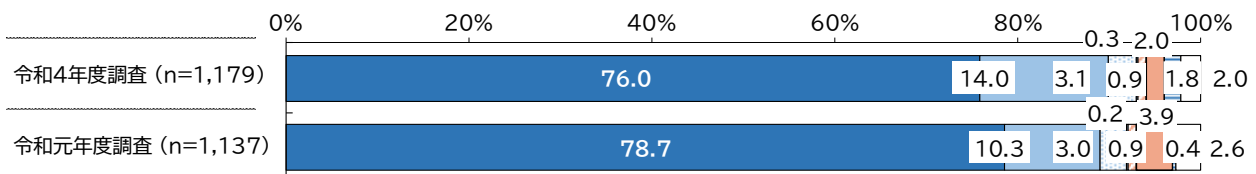
<全体・障がい別>



	持ち家	民間の賃貸住宅	公営・公団の賃貸住宅	会社の寮・社宅	グループホーム	入所施設	その他	無回答
全 体	76.0	14.0	3.1	0.3	0.9	2.0	1.8	2.0
身体障がい者	78.3	13.7	2.4	0.3	0.3	2.0	1.3	1.6
知的障がい者	69.7	11.5	7.4	0.0	4.1	3.3	2.5	1.6
精神障がい者	68.3	23.0	3.6	0.0	0.7	0.7	2.9	0.7
難病患者	85.6	6.7	2.2	0.0	0.0	1.1	1.1	3.3
重複障がい者	69.6	11.6	1.4	1.4	2.9	4.3	4.3	4.3
手帳未所持	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

前回の調査と比較すると、「民間の賃貸住宅」で3.7ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>

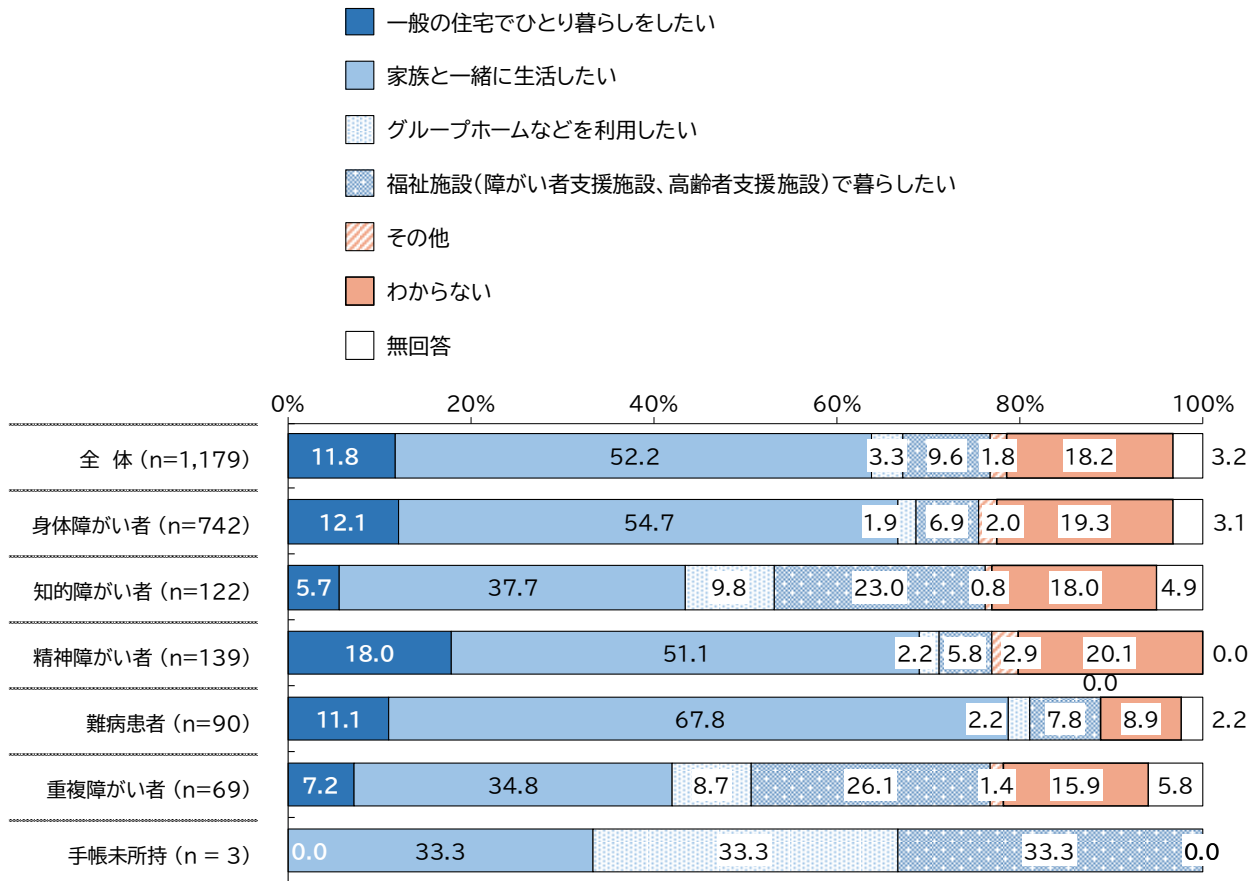


問 16 あなたは将来、どのような暮らしをしたいと思いますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

将来の暮らしについては、「家族と一緒に生活したい」が52.2%と最も多く、次いで「わからない」が18.2%、「一般の住宅でひとり暮らしをしたい」が11.8%の順となっています。

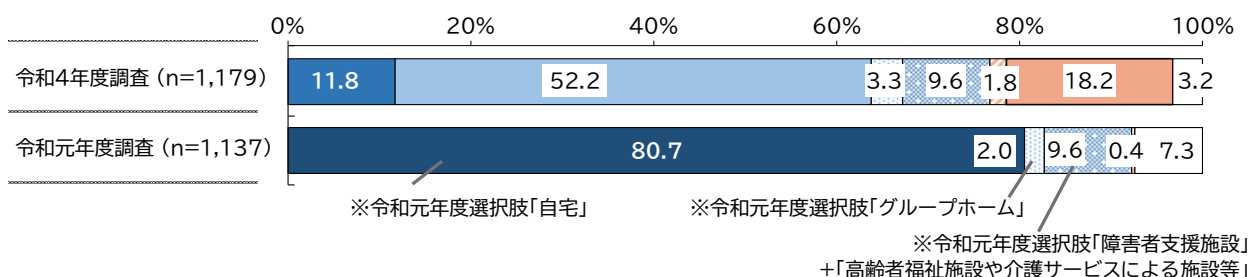
障がい別にみると、「福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「グループホーム」について、1.3ポイントの増加がみられます。

<前回調査との比較>



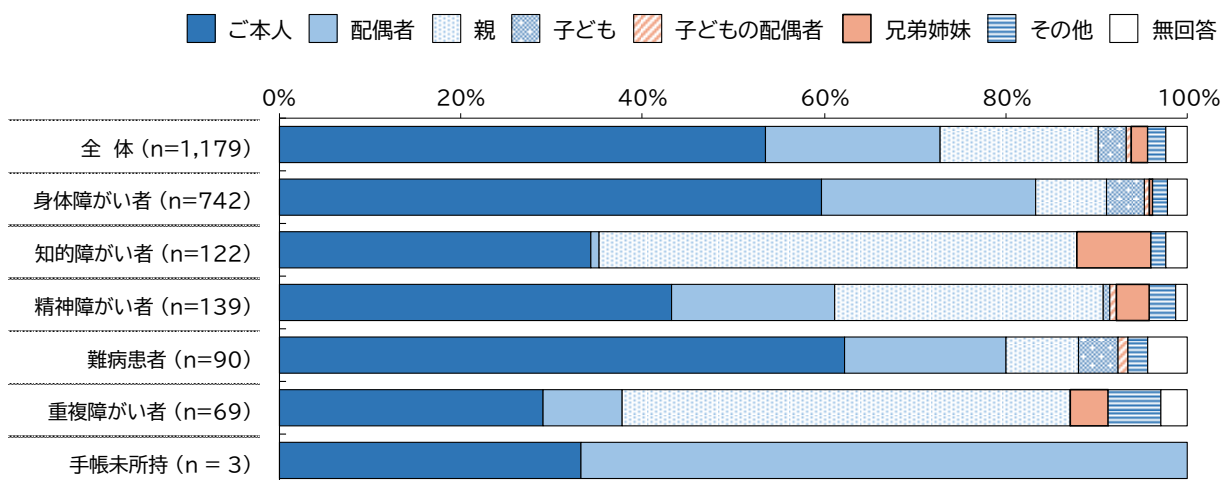
問 17 あなたは主にどなたの収入で生活していますか。またその方の主な収入の種類は何か。（それぞれあてはまるもの1つに○印）

#### 【生計の中心となる人】

生活の中心となる人は、「ご本人」が53.4%と最も多く、次いで「配偶者」が19.2%、「親」が17.4%の順となっています。

障がい別にみると、「ご本人」は難病患者で全体より高い割合となっている一方、知的障がい者・精神障がい者・重複障がい者では低い割合となっています。「親」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

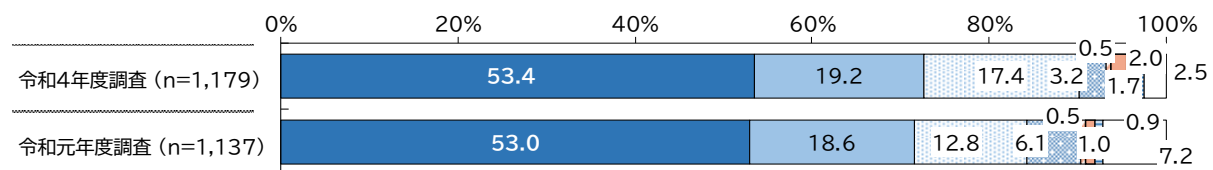
#### <全体・障がい別>



	ご本人	配偶者	親	子ども	子どもの配偶者	兄弟姉妹	その他	無回答
全 体	53.4	19.2	17.4	3.2	0.5	1.7	2.0	2.5
身体障がい者	59.7	23.6	7.7	4.3	0.5	0.3	1.6	2.3
知的障がい者	34.4	0.8	52.5	0.0	0.0	8.2	1.6	2.5
精神障がい者	43.2	18.0	29.5	0.7	0.7	3.6	2.9	1.4
難病患者	62.2	17.8	7.8	4.4	1.1	0.0	2.2	4.4
重複障がい者	29.0	8.7	49.3	0.0	0.0	4.3	5.8	2.9
手帳未所持	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

前回の調査と比較すると、「親」で4.6ポイントの増加となっています。

#### <前回調査との比較>

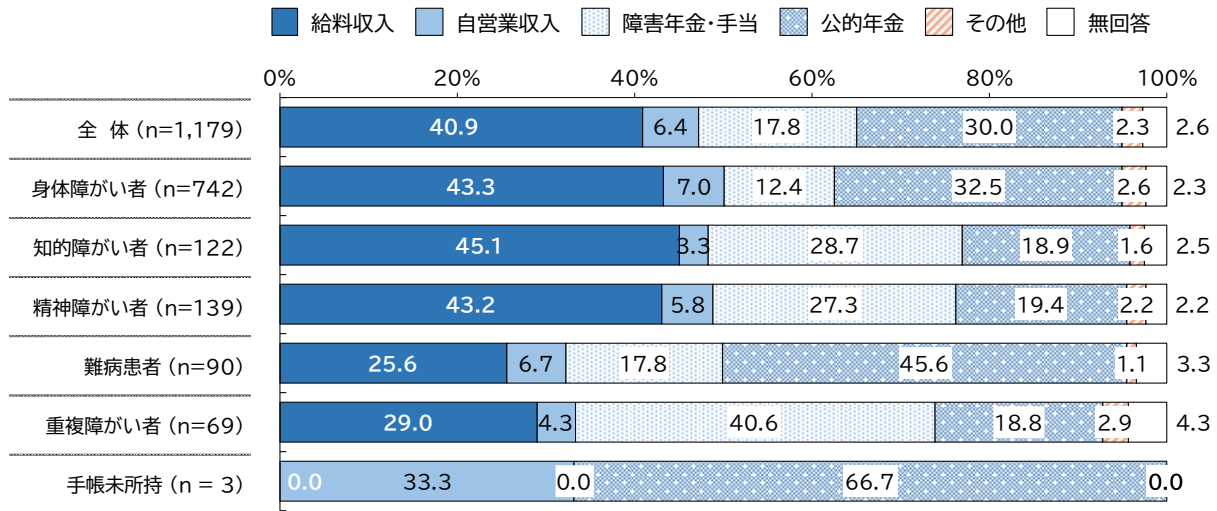


## 【収入の種類】

収入の種類は、「給料収入」が40.9%と最も多く、次いで「公的年金」が30.0%、「障害年金・手当」が17.8%の順となっています。

障がい別にみると、難病患者で「給料収入」が全体より低い割合となっている一方、「公的年金」は全体より高い割合となっています。

### <全体・障がい別>

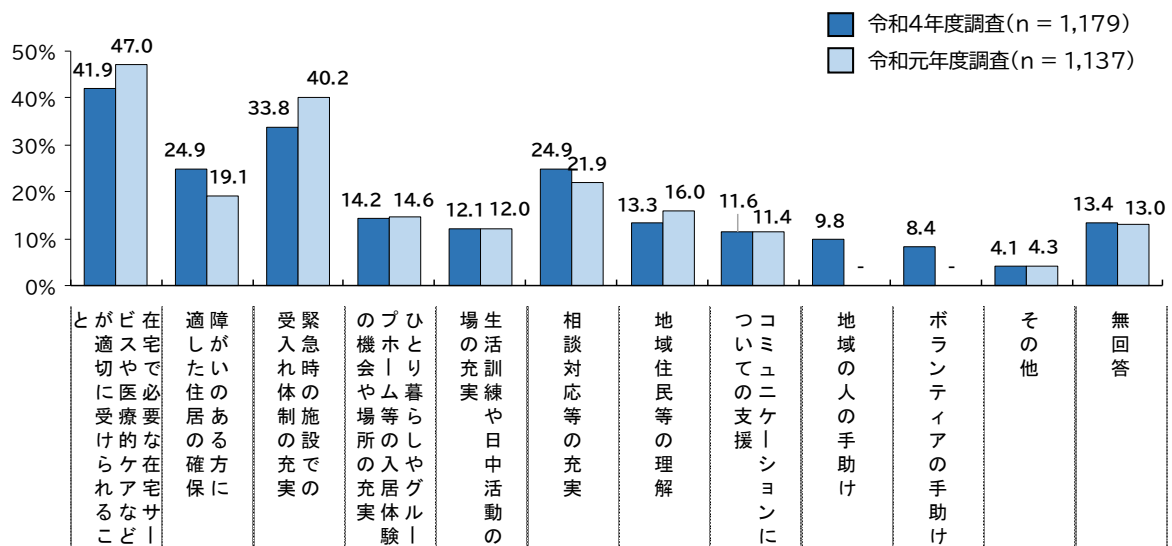


## 問 18 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。 (あてはまるものすべてに○印)

地域で生活するためにあるとよい支援については、「在宅で必要な在宅サービスや医療的ケアなどが適切に受けられること」が41.9%と最も多く、次いで「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」が33.8%、「障がいのある方に適した住居の確保」「相談対応等の充実」が24.9%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「障がいのある方に適した住居の確保」で5.8ポイントの増加となっています。

### <全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」は重複障がい者で、「コミュニケーションについての支援」は精神障がい者・重複障がい者」で全体より高い割合となっています。

# <障がい別>

	調査数	在宅に必要な在宅サービスや医療的ケアなどが適切に受けられること	障がいのある方に適した住居の確保	緊急時の施設での受け入れ体制の充実	ひとり暮らしやグループホーム等の入居体験の機会や場所の充実	生活訓練や日中活動の場の充実	相談対応等の充実
全 体	1179	41.9	24.9	33.8	14.2	12.1	24.9
身体障がい者	742	47.2	24.9	34.1	11.9	9.7	21.2
知的障がい者	122	25.4	32.8	35.2	29.5	21.3	29.5
精神障がい者	139	28.8	18.0	20.1	10.1	16.5	41.7
難病患者	90	47.8	22.2	38.9	12.2	6.7	26.7
重複障がい者	69	36.2	31.9	53.6	24.6	20.3	27.5
手帳未所持	3	100.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0

(%)

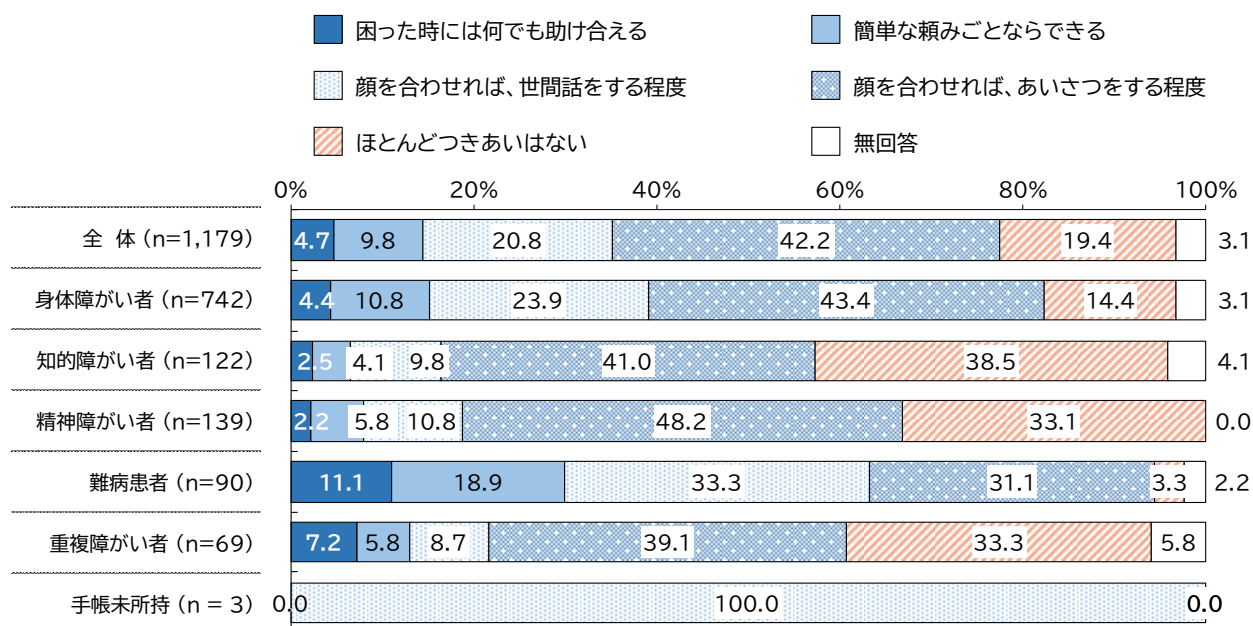
	調査数	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	地域の人の手助け	ボランティアの手助け	その他	無回答
全 体	1179	13.3	11.6	9.8	8.4	4.1	13.4
身体障がい者	742	11.6	8.5	8.8	8.5	4.7	12.4
知的障がい者	122	20.5	15.6	13.1	8.2	3.3	11.5
精神障がい者	139	17.3	24.5	9.4	7.9	5.0	10.8
難病患者	90	8.9	6.7	11.1	6.7	0.0	23.3
重複障がい者	69	20.3	21.7	13.0	11.6	2.9	10.1
手帳未所持	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0

## 問 19 あなたはどの程度の近所つきあいをしていますか。(あてはまるもの1つに○印)

近所つきあいの程度については、「顔を合わせれば、あいさつをする程度」が42.2%と最も多く、次いで「顔を合わせれば、世間話をする程度」が20.8%、「ほとんどつきあいはない」が19.4%の順となっています。

障がい別にみると、「ほとんどつきあいはない」は知的障がい者・精神障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

# <全体・障がい別>



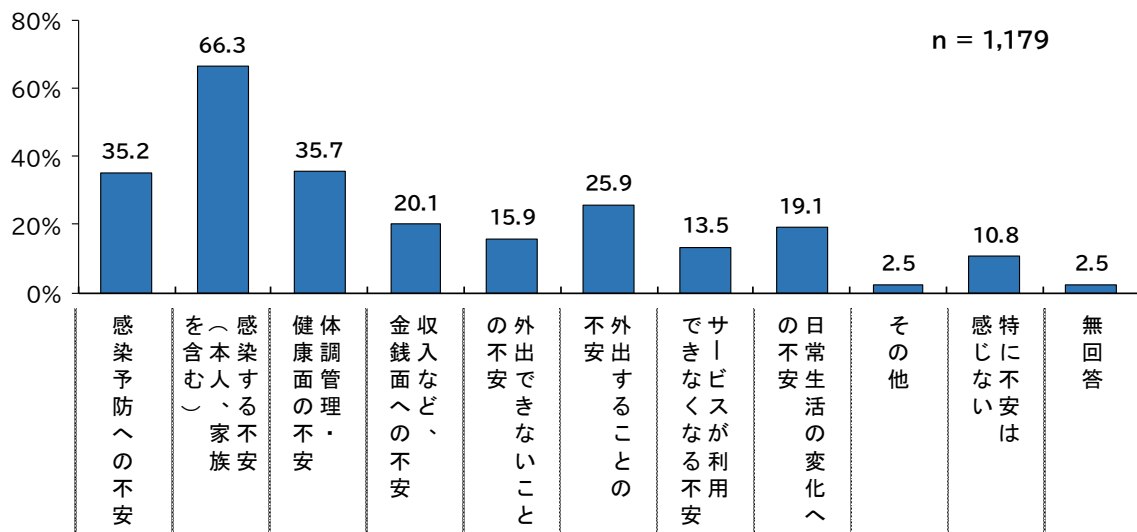


## 4 新型コロナウイルス感染拡大による影響について

問 20 新型コロナウイルスの感染拡大で、どんなことを不安に感じますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で不安に感じることについては、「感染する不安（本人、家族を含む）」が66.3%と最も多く、次いで「体調管理・健康面の不安」が35.7%、「感染予防への不安」が35.2%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「感染予防への不安」は難病患者で、「外出できないこと」は知的障がい者で、「サービスが利用できなくなる不安」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	感染予防への不安	感染する不安(本人、家族を含む)	体調管理・健康面の不安	収入など、金銭面への不安	外出できないこと	外出することの不安	(%)
全 体	1179	35.2	66.3	35.7	20.1	15.9	25.9	
身体障がい者	742	32.6	67.0	36.0	20.5	12.1	27.1	
知的障がい者	122	39.3	62.3	34.4	15.6	28.7	24.6	
精神障がい者	139	34.5	66.9	35.3	28.8	20.1	18.7	
難病患者	90	45.6	71.1	35.6	8.9	17.8	24.4	
重複障がい者	69	42.0	63.8	42.0	18.8	23.2	29.0	
手帳未所持	3	100.0	100.0	33.3	33.3	33.3	66.7	

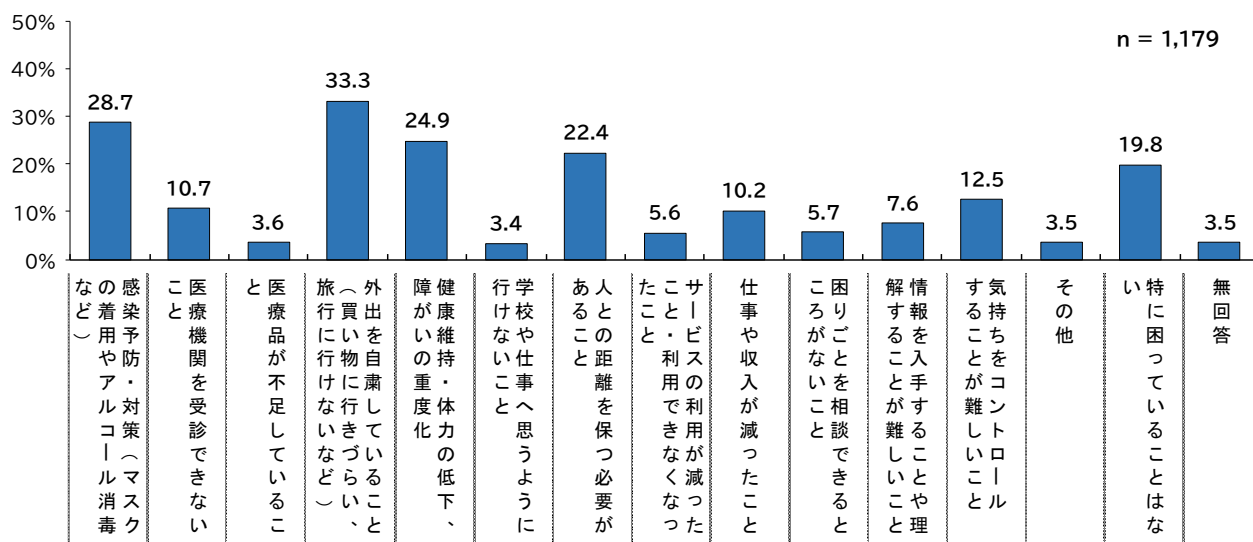
  

	調査数	サービスが利用できなくなる不安	日常生活の変化への不安	その他	特に不安は感じない	無回答
全 体	1179	13.5	19.1	2.5	10.8	2.5
身体障がい者	742	10.6	17.5	3.0	11.5	2.2
知的障がい者	122	21.3	24.6	0.0	8.2	4.1
精神障がい者	139	12.9	19.4	3.6	13.7	1.4
難病患者	90	17.8	20.0	0.0	7.8	3.3
重複障がい者	69	27.5	24.6	4.3	4.3	2.9
手帳未所持	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

問 21 新型コロナウイルスの感染拡大で、困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で困っていることについては、「外出を自粛していること（買い物に行きづらい、旅行に行けないなど）」が33.3%と最も多く、次いで「感染予防・対策（マスクの着用やアルコール消毒など）」が28.7%、「健康維持・体力の低下、障がいの重度化」が24.9%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「感染予防・対策（マスクの着用やアルコール消毒など）」は重複障がい者で、「外出を自粛していること（買い物に行きづらい、旅行に行けないなど）」は難病患者で、「気持ちをコントロールすることが難しいこと」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	感染予防・対策 (マスクの着用 やアルコール 消毒など)	医療機関を受 診できないこと	医療品が不足 していること	外出を自粛して いること(買い 物に行きづら い、旅行に行 けないなど)	健康維持・体力 の低下、障がい の重度化	学校や仕事へ 思うように行 けないこと	人との距離を 保つ必要があ ること	サービスの利 用が減ったこ と・利用でき なくなったこ と	(%)
全 体	1179	28.7	10.7	3.6	33.3	24.9	3.4	22.4	5.6	
身体障がい者	742	26.8	9.8	3.9	32.3	26.7	2.2	22.4	3.6	
知的障がい者	122	31.1	9.8	2.5	36.1	9.8	12.3	20.5	14.8	
精神障がい者	139	28.8	12.9	6.5	28.8	20.1	5.0	22.3	5.8	
難病患者	90	32.2	12.2	0.0	45.6	33.3	0.0	25.6	3.3	
重複障がい者	69	39.1	15.9	1.4	34.8	29.0	2.9	24.6	13.0	
手帳未所持	3	100.0	33.3	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3	

	調査数	仕事や収入が 減ったこと	困りごとを相談 できるところが ないこと	情報を入手する ことや理解する ことが難しいこ と	気持ちをコント ロールすること が難しいこと	その他	特に困っている ことはない	無回答
全 体	1179	10.2	5.7	7.6	12.5	3.5	19.8	3.5
身体障がい者	742	11.3	4.6	6.6	9.4	3.4	22.2	2.3
知的障がい者	122	8.2	5.7	10.7	16.4	3.3	21.3	8.2
精神障がい者	139	10.1	10.1	10.1	25.9	4.3	12.9	2.9
難病患者	90	6.7	2.2	6.7	5.6	2.2	13.3	5.6
重複障がい者	69	5.8	13.0	10.1	21.7	4.3	13.0	4.3
手帳未所持	3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

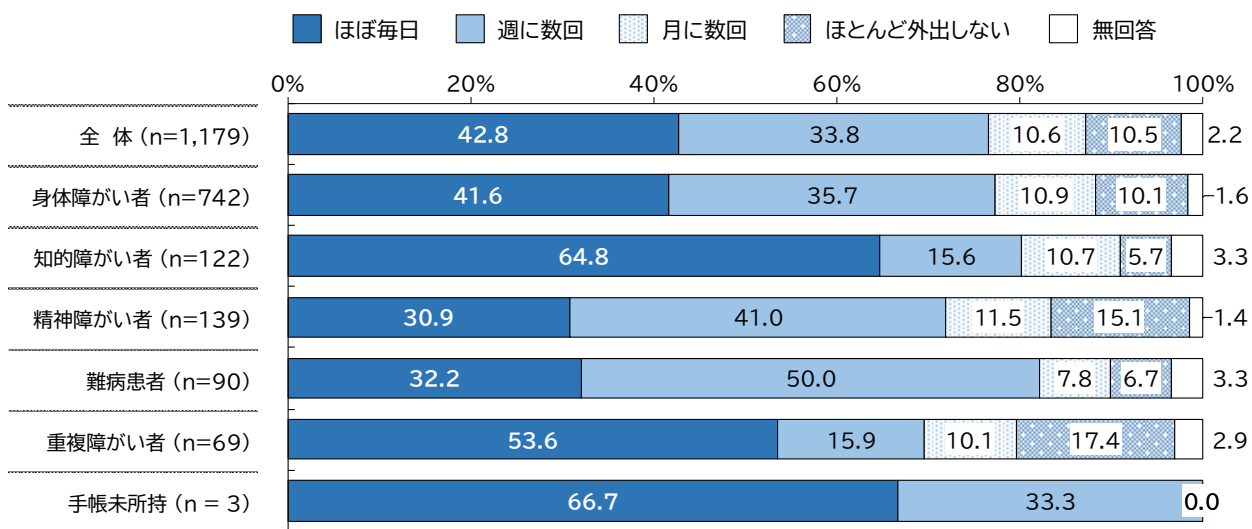
## 5 外出状況について

### 問 22 あなたの外出回数はどのくらいですか。（あてはまるもの 1 つに○印）

外出回数については、「ほぼ毎日」が 42.8%と最も多く、次いで「週に数回」が 33.8%、「月に数回」が 10.6%の順となっています。

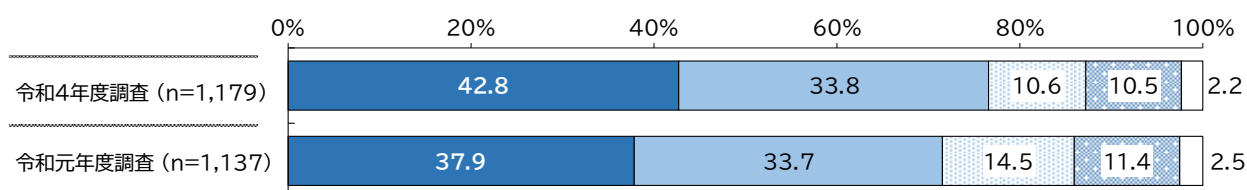
障がい別にみると、「ほぼ毎日」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

#### <全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「ほぼ毎日」で 4.9 ポイントの増加となっています。

#### <前回調査との比較>

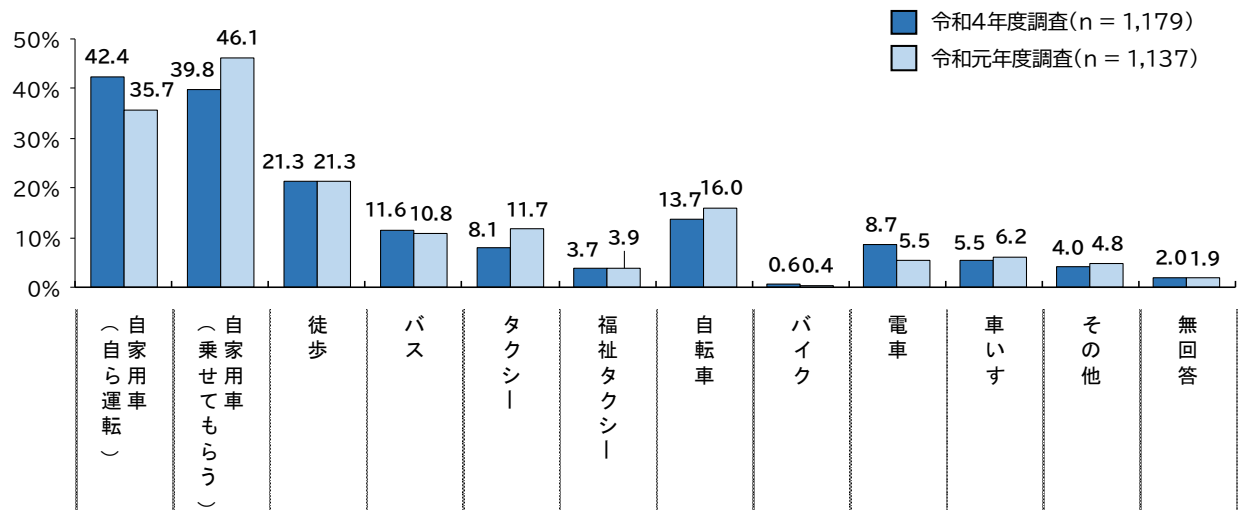


問 23 あなたが外出する時に利用する主な交通手段は何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

外出時に利用する交通手段については、「自家用車（自ら運転）」が 42.4%と最も多く、次いで「自家用車（乗せてもらう）」が 39.8%、「徒歩」が 21.3%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「自家用車（自ら運転）」で 6.7 ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「自家用車（自ら運転）」は身体障がい者・難病患者で、「自家用車（乗せてもらう）」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	自家用車 （自ら運転）	自家用車 （乗せてもらう）	徒歩	バス	タクシー	福祉タクシー
全 体	1179	42.4	39.8	21.3	11.6	8.1	3.7
身体障がい者	742	51.9	34.8	19.4	9.3	8.8	3.9
知的障がい者	122	11.5	56.6	30.3	25.4	3.3	0.8
精神障がい者	139	29.5	41.7	30.2	13.7	6.5	0.0
難病患者	90	50.0	41.1	12.2	8.9	13.3	10.0
重複障がい者	69	13.0	58.0	21.7	13.0	5.8	7.2
手帳未所持	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

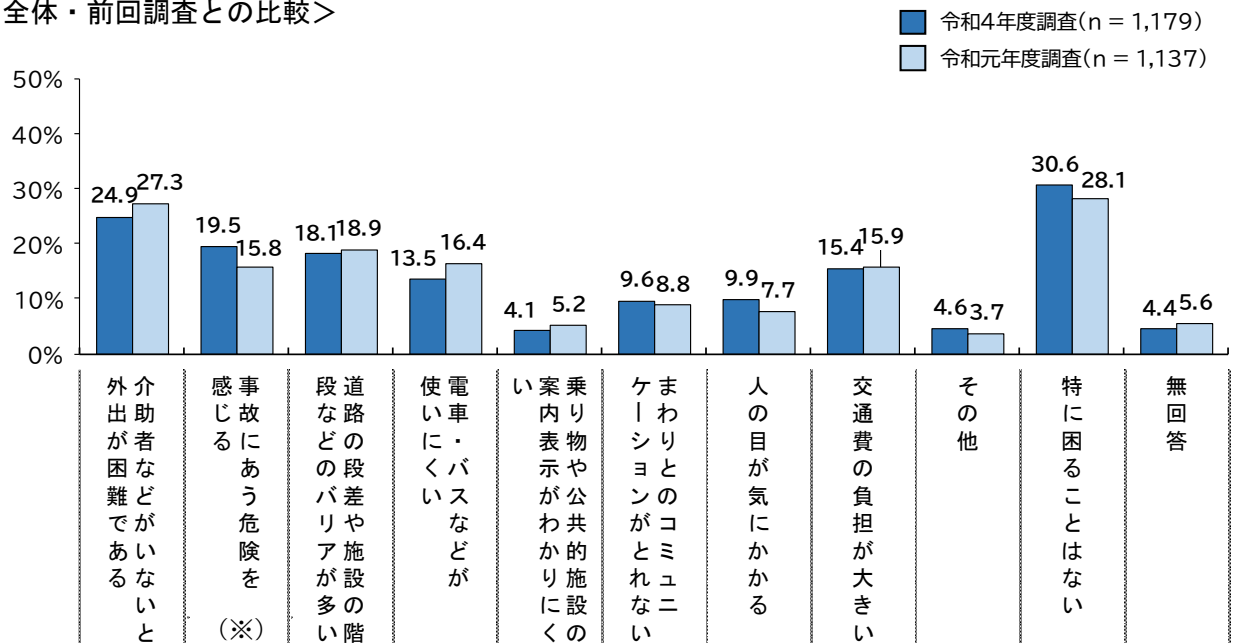
	調査数	自転車	バイク	電車	車いす	その他	無回答
全 体	1179	13.7	0.6	8.7	5.5	4.0	2.0
身体障がい者	742	10.5	0.7	8.2	7.1	2.4	1.6
知的障がい者	122	22.1	0.0	9.8	1.6	11.5	1.6
精神障がい者	139	30.2	0.7	12.9	0.0	2.9	2.2
難病患者	90	6.7	1.1	3.3	3.3	4.4	2.2
重複障がい者	69	11.6	0.0	11.6	8.7	10.1	4.3
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 24 あなたが外出するうえで、主に困ることは何ですか。(主なものに3つまで○印)

外出するうえで困ることについては、「特に困ることはない」が30.6%と最も多く、次いで「介助者などがいないと外出が困難である」が24.9%、「事故にあう危険を感じる」が19.5%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「人の目が気にかかる」で2.2ポイントの増加となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



(※) 令和元年度調査…「車などに危険を感じる」

障がい別にみると、「介助者などがいないと外出が困難である」「電車・バスなどが使いにくい」は重複障がい者で、「まわりとのコミュニケーションがとれない」は知的障がい者・重複障がい者で、「人の目が気にかかる」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

＜障がい別＞

	調査数	介助者などがいないと外出が困難である	事故にあう危険を感じる	道路の段差や施設の階段などのバリアが多い	電車・バスなどが使いにくい	乗り物や公共的施設の案内表示がわかりにくい	まわりとのコミュニケーションがとれない
全 体	1179	24.9	19.5	18.1	13.5	4.1	9.6
身体障がい者	742	21.2	20.1	21.8	12.5	3.6	5.3
知的障がい者	122	36.9	13.9	8.2	9.8	4.9	26.2
精神障がい者	139	20.1	20.1	4.3	12.9	5.8	12.9
難病患者	90	25.6	21.1	18.9	18.9	1.1	4.4
重複障がい者	69	52.2	18.8	26.1	21.7	8.7	24.6
手帳未所持	3	33.3	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0

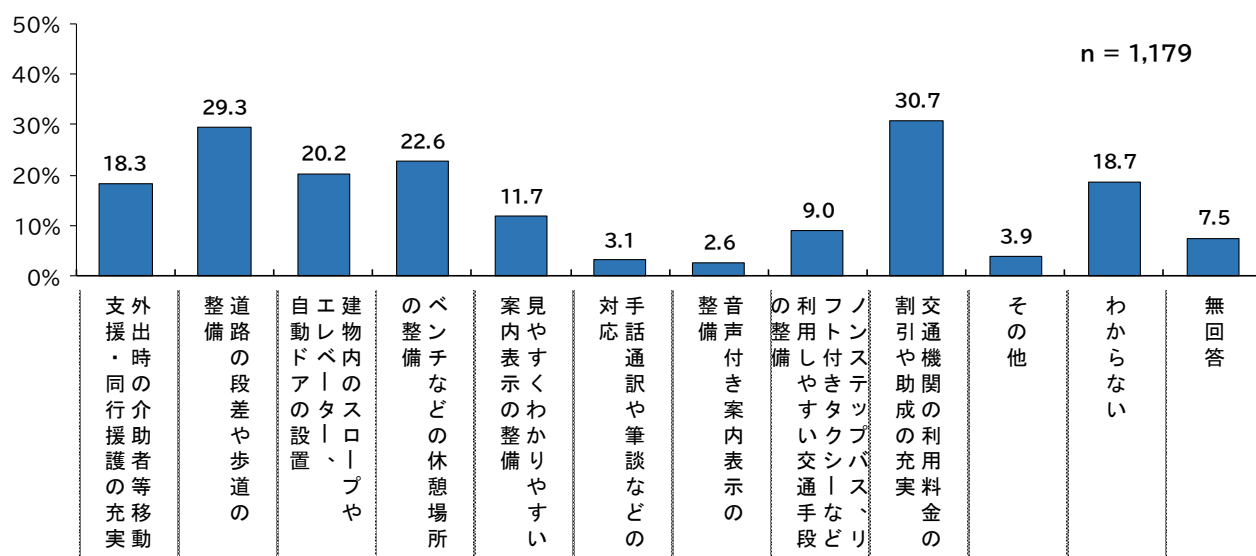
  

	調査数	人の目が気にかかる	交通費の負担が大きい	その他	特に困ることはない	無回答
全 体	1179	9.9	15.4	4.6	30.6	4.4
身体障がい者	742	7.7	16.0	4.9	34.1	4.0
知的障がい者	122	9.8	9.8	2.5	26.2	3.3
精神障がい者	139	23.0	20.1	7.2	21.6	2.9
難病患者	90	4.4	15.6	2.2	34.4	7.8
重複障がい者	69	15.9	8.7	4.3	15.9	5.8
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

問 25 あなたが外出するために必要と考える整備または援助は何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

外出するために必要と考える整備または援助については、「交通機関の利用料金の割引や助成の充実」が30.7%と最も多く、次いで「道路の段差や歩道の整備」が29.3%、「ベンチなどの休憩場所の整備」が22.6%の順となっています。

#### <全体>



障がい別にみると、「外出時の介助者等移動支援・同行援護の充実」は知的障がい者・重複障がい者で、「ベンチなどの休憩場所の整備」は難病患者で全体より高い割合となっています。

#### <障がい別>

	調査数	外出時の介助者等移動支援・同行援護の充実	道路の段差や歩道の整備	建物内のスロープやエレベーター、自動ドアの設置	ベンチなどの休憩場所の整備	見やすくわかりやすい案内表示の整備	手話通訳や筆談などの対応
全 体	1179	18.3	29.3	20.2	22.6	11.7	3.1
身体障がい者	742	15.5	35.4	25.1	24.8	11.9	4.3
知的障がい者	122	30.3	13.1	5.7	12.3	10.7	0.0
精神障がい者	139	15.8	17.3	7.9	17.3	12.9	1.4
難病患者	90	13.3	26.7	16.7	36.7	8.9	0.0
重複障がい者	69	39.1	26.1	26.1	13.0	14.5	1.4
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	調査数	音声付き案内表示の整備	ノンステップバス、リフト付きタクシーなど利用しやすい交通手段の整備	交通機関の利用料金の割引や助成の充実	その他	わからない	無回答
全 体	1179	2.6	9.0	30.7	3.9	18.7	7.5
身体障がい者	742	3.4	10.1	31.3	4.2	15.6	5.5
知的障がい者	122	1.6	3.3	27.0	0.8	27.0	10.7
精神障がい者	139	1.4	2.9	36.0	4.3	31.7	5.8
難病患者	90	0.0	13.3	32.2	3.3	14.4	14.4
重複障がい者	69	2.9	13.0	21.7	7.2	17.4	8.7
手帳未所持	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7

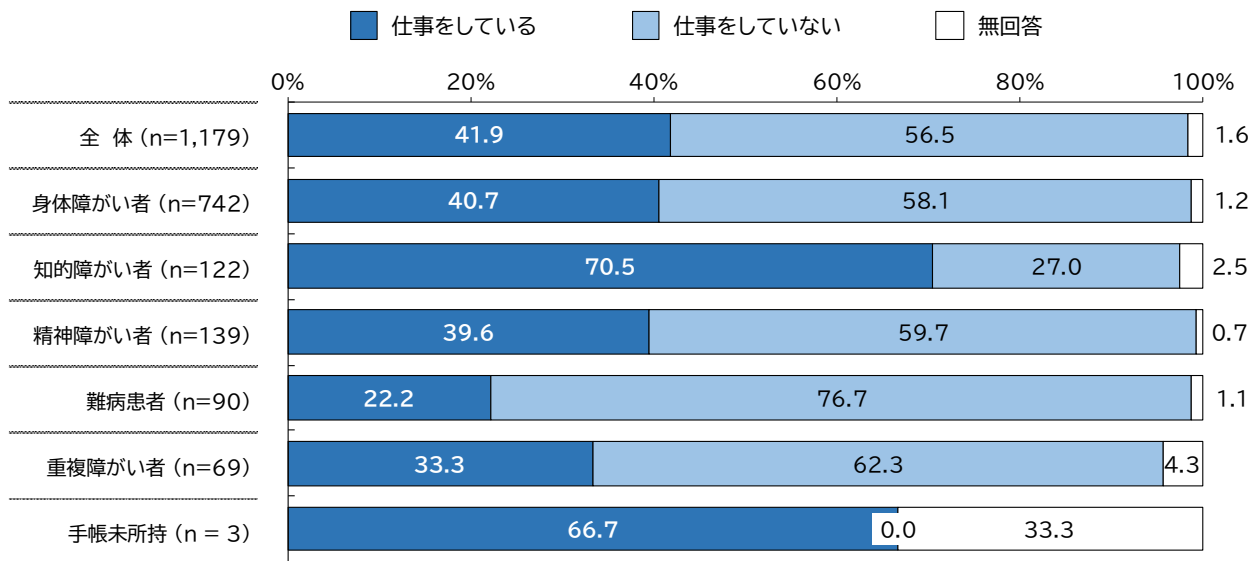
## 6 就労・就学などについて

問 26 あなたは現在、お仕事をしていますか。(障害福祉サービスの就労移行支援、就労継続支援 (A 型・B 型) を含む) (あてはまるもの 1 つに○印)

仕事については、「仕事をしている」が 41.9%、「仕事をしていない」が 56.5%となっています。

障がい別にみると、「仕事をしている」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。「仕事をしていない」は難病患者で全体より高い割合となっています。

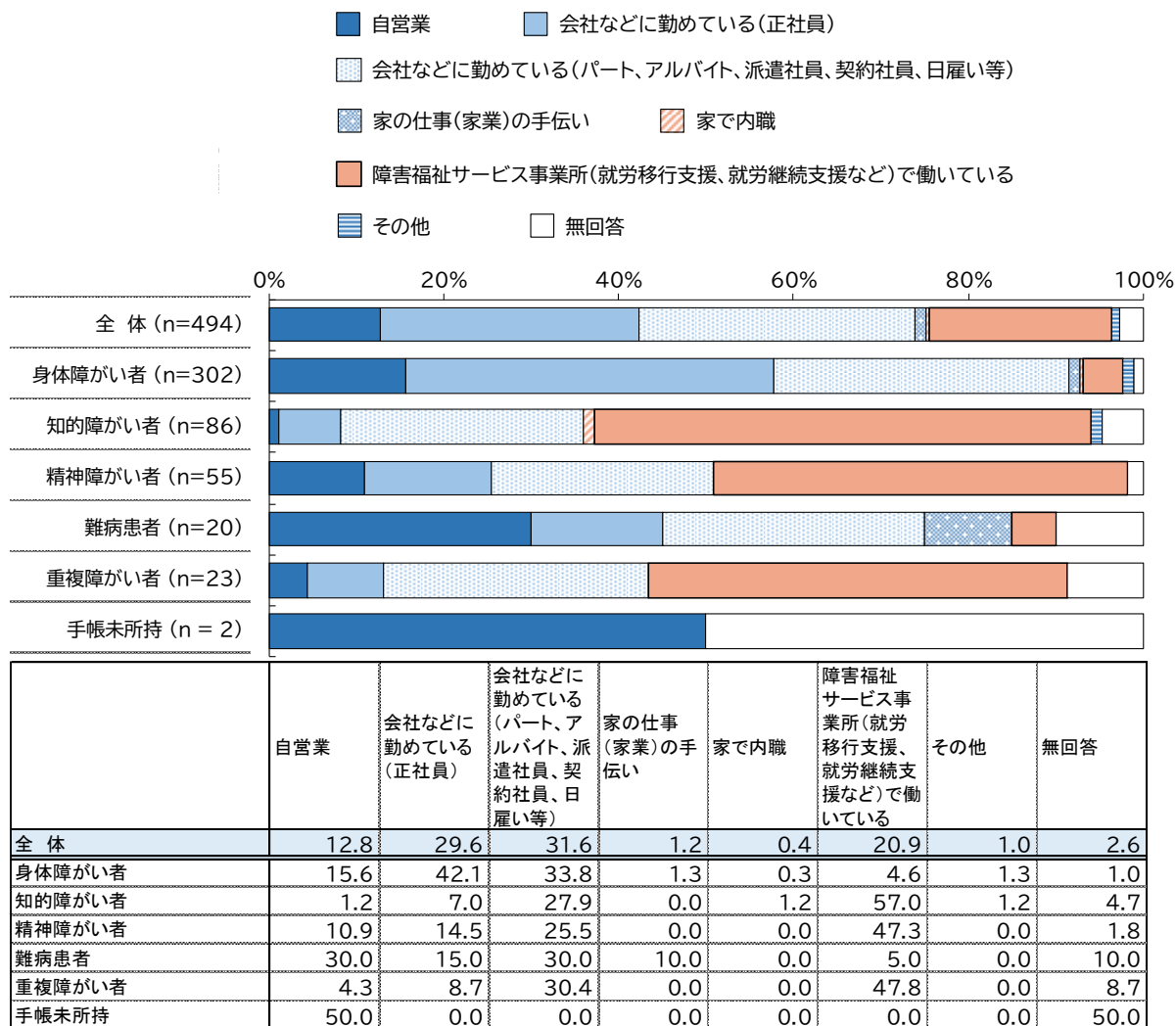
### <全体・障がい別>



問 26-① 仕事をしている場合、どのようなお仕事をしていますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

どのような仕事をしているかについては、「会社などに勤めている（パート、アルバイト、派遣社員、契約社員、日雇い等）」が31.6%と最も多く、次いで「会社などに勤めている（正社員）」が29.6%、「障がい福祉サービス事業所（就労移行支援、就労継続支援など）で働いている」が20.9%の順となっています。

<全体・障がい別>

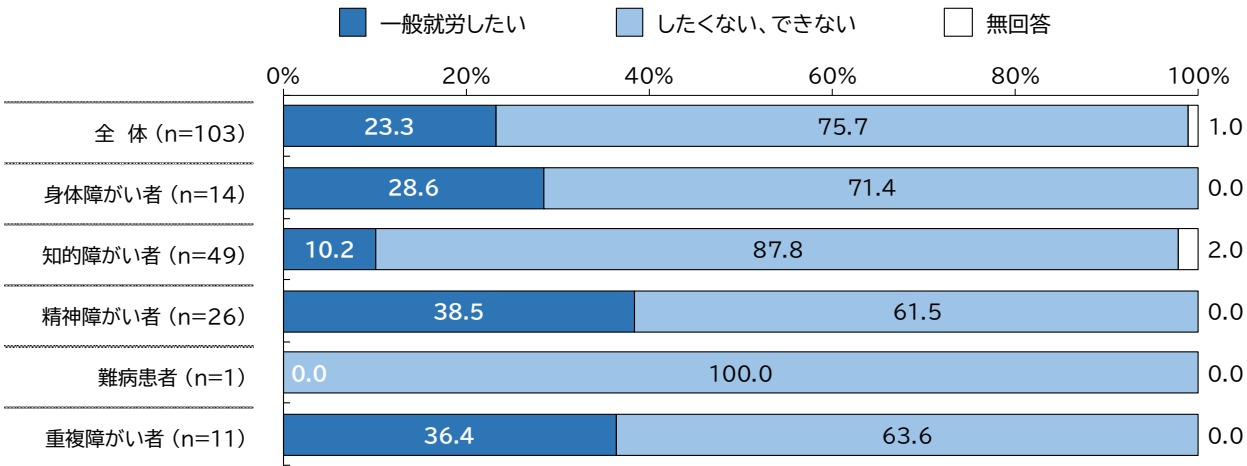




問 26－② 障害福祉サービス事業所で働いている場合、今後、一般就労に移行したいと思  
いますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

一般就労の移行については、「一般就労したい」が 23.3%、「したくない、できない」が 75.7%とな  
っています。

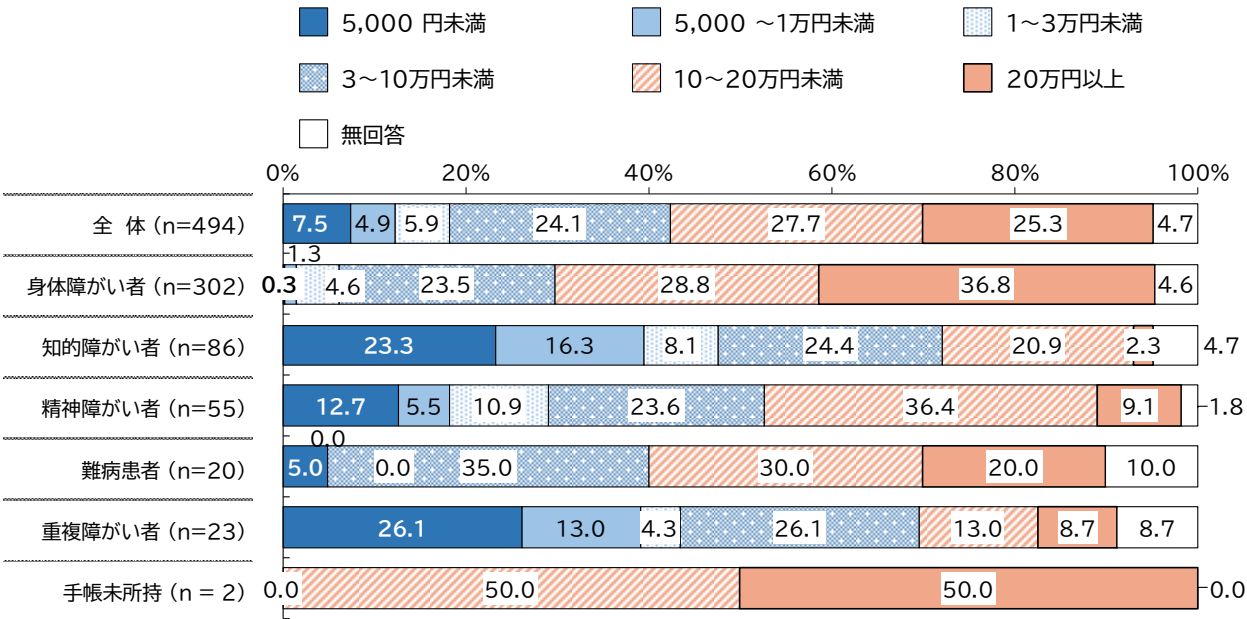
<全体・障がい別>



問 26－③ 1 か月の収入はどのくらいですか。（あてはまるもの 1 つに○印）

1 か月の収入については、「10～20 万円未満」が 27.7%と最も多く、次いで「20 万円以上」が  
25.3%、「3～10 万円未満」が 24.1%の順となっています。

<全体・障がい別>

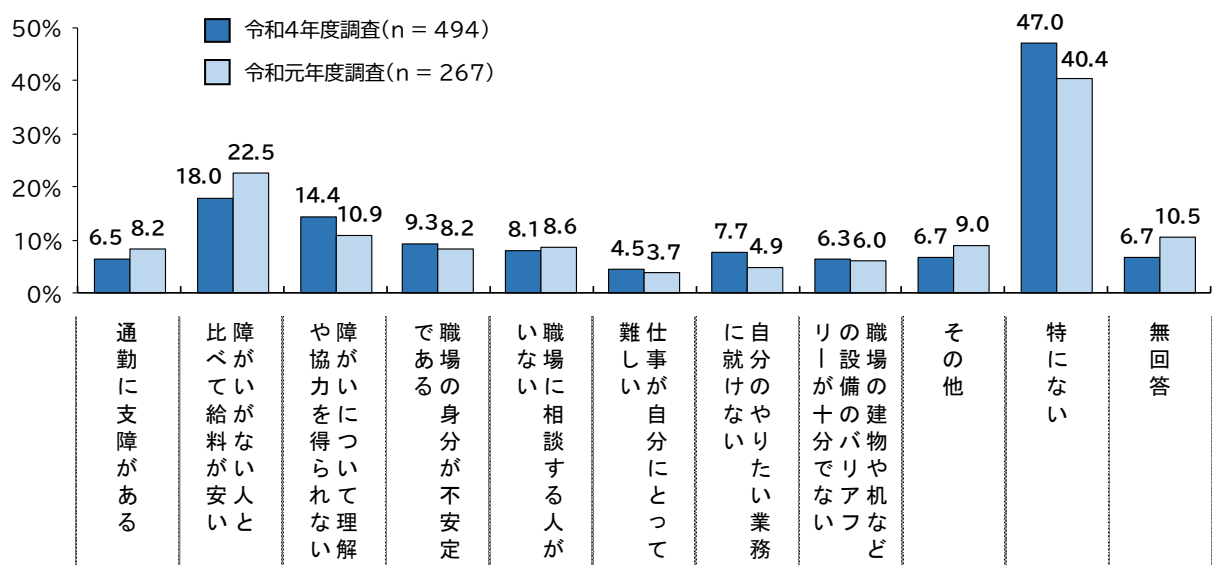


問 26－④ 現在の仕事について、不安や不満を主にどのようなことで感じていますか。  
(主なものに3つまで○印)

仕事で不安や不満に感じることについては、「特にない」が47.0%と最も多く、次いで「障がいがない人と比べて給料が安い」が18.0%、「障がいについて理解や協力を得られない」が14.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「障がいについて理解や協力を得られない」で3.5ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「障がいがない人と比べて給料が安い」「障がいについて理解や協力を得られない」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	通勤に支障がある	障がいがない人と比べて給料が安い	障がいについて理解や協力を得られない	職場の身分が不安定である	職場に相談する人がいない	仕事で自分にとって難しい
全 体	494	6.5	18.0	14.4	9.3	8.1	4.5
身体障がい者	302	5.6	16.2	15.2	10.6	6.6	2.3
知的障がい者	86	5.8	14.0	8.1	3.5	7.0	7.0
精神障がい者	55	12.7	32.7	21.8	7.3	16.4	10.9
難病患者	20	0.0	15.0	10.0	15.0	10.0	0.0
重複障がい者	23	13.0	26.1	17.4	17.4	8.7	8.7
手帳未所持	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

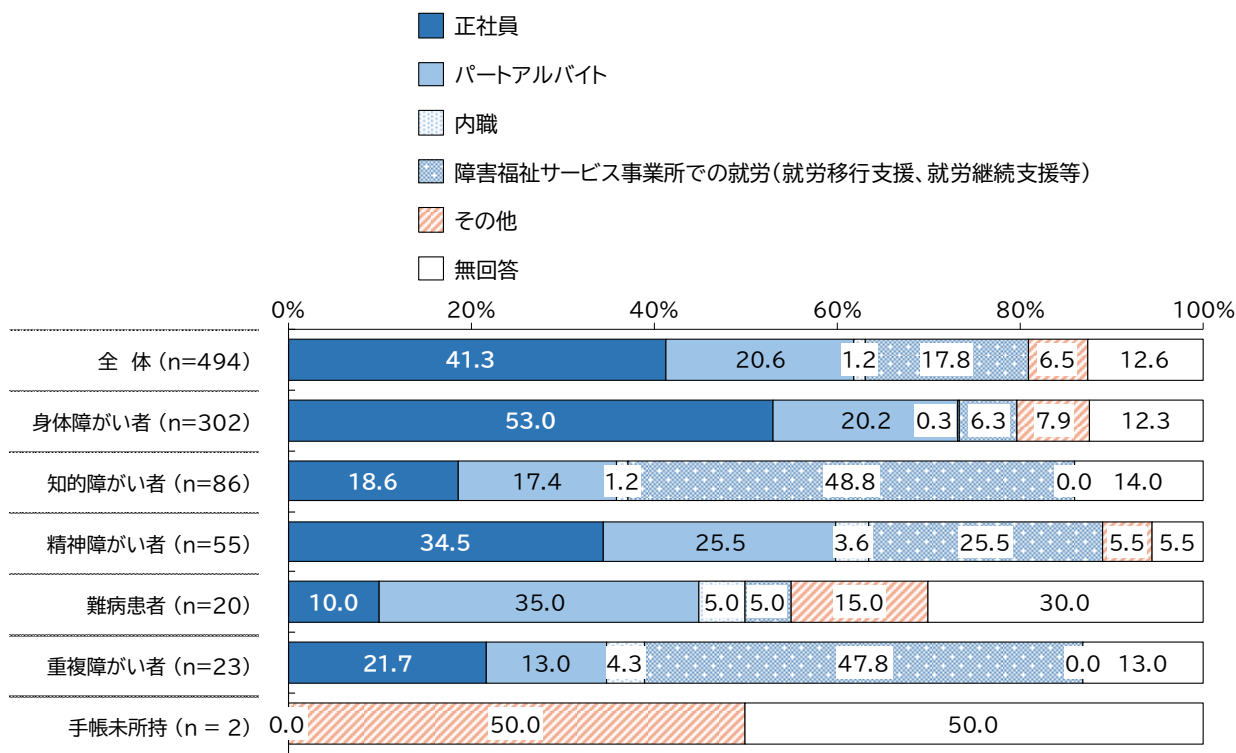
	調査数	自分のやりたい業務に就けない	職場の建物や機材などの設備のバリアフリーが十分でない	その他	特にない	無回答
全 体	494	7.7	6.3	6.7	47.0	6.7
身体障がい者	302	8.9	7.3	7.9	48.0	5.6
知的障がい者	86	4.7	2.3	3.5	51.2	17.4
精神障がい者	55	9.1	5.5	7.3	27.3	0.0
難病患者	20	0.0	10.0	0.0	70.0	5.0
重複障がい者	23	8.7	8.7	8.7	39.1	0.0
手帳未所持	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

問 26－⑤ 今後希望する働き方は以下のどれですか。（あてはまるもの１つに○印）

今後希望する働き方については、「正社員」が41.3%と最も多く、次いで「パートアルバイト」が20.6%、「障害福祉サービス事業所での就労（就労移行支援、就労継続支援等）」が17.8%の順となっています。

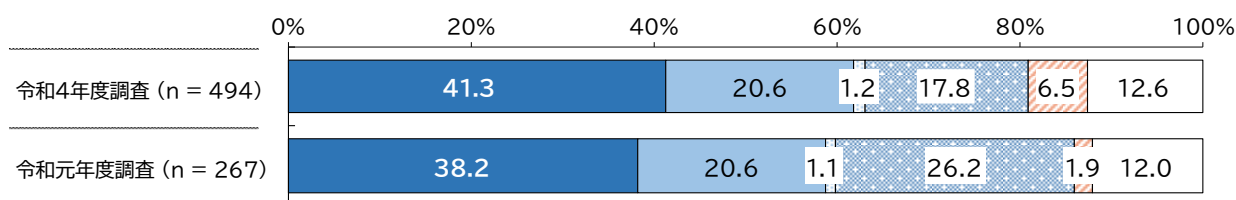
障がい別にみると、「正社員」は身体障がい者で、「障害福祉サービス事業所での就労（就労移行支援、就労継続支援等）」は知的障がい者・重複障がい者で、「パートアルバイト」は難病患者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「正社員」で3.1ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>

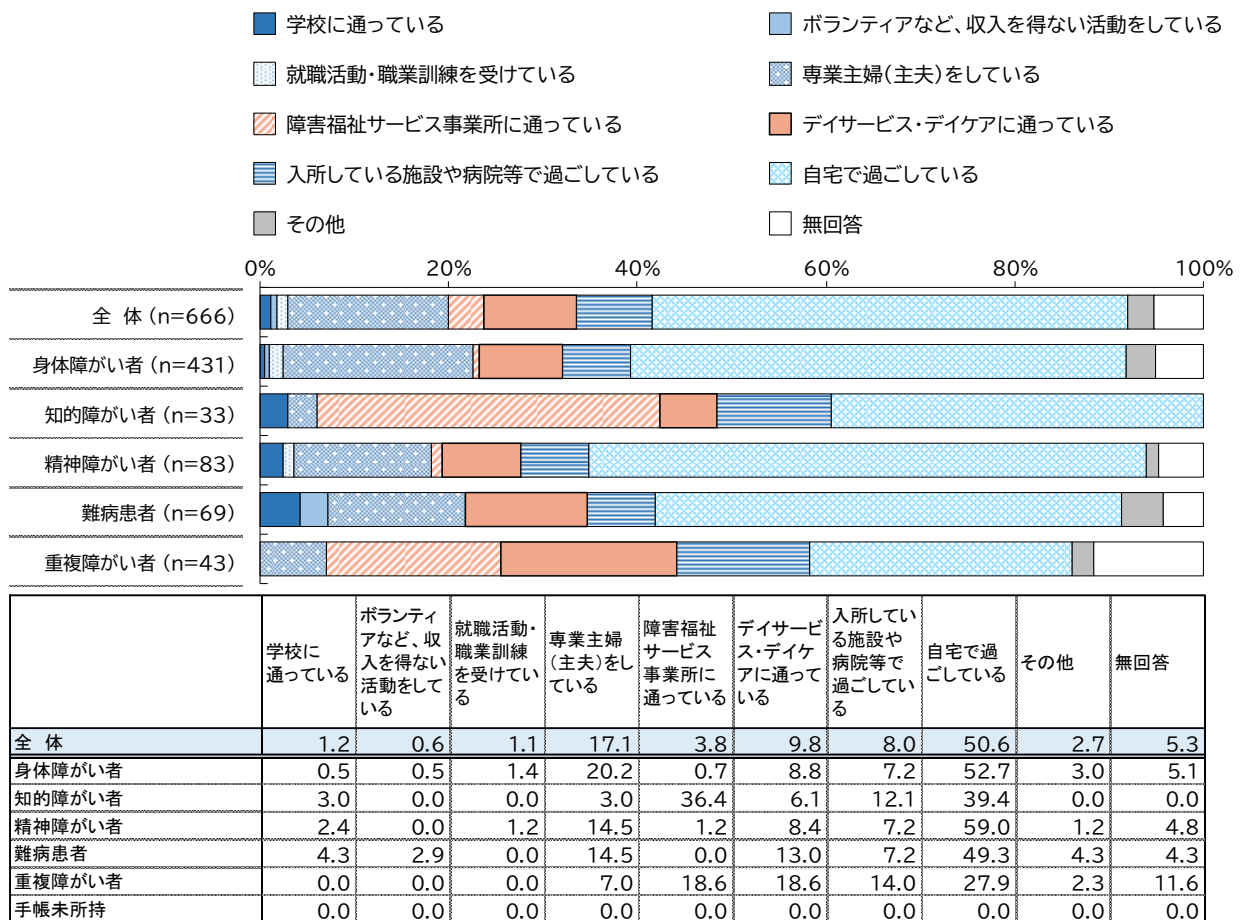


問 27-① 仕事をしていない場合、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

平日の日中の主な過ごし方については、「自宅で過ごしている」が 50.6%と最も多く、次いで「専業主婦(主夫)をしている」が 17.1%、「デイサービス・デイケアに通っている」が 9.8%の順となっています。

障がい別にみると、「自宅で過ごしている」はいずれの障がいにおいても高い割合となっています。  
「障がい福祉サービス事業所に通っている」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



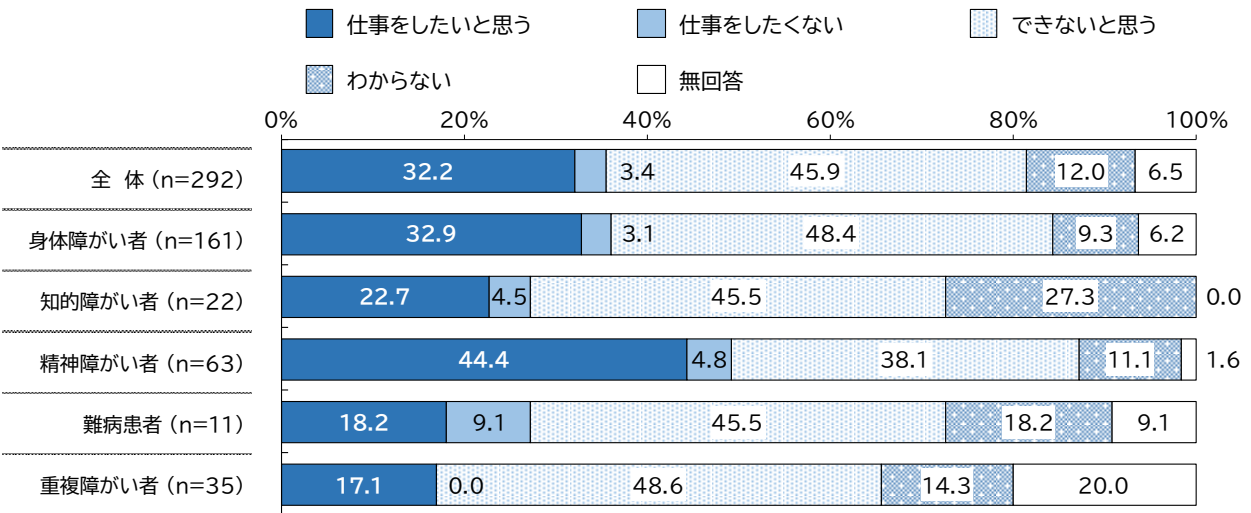
問 27ー② あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

(あてはまるもの 1 つに○印)

今後収入を得る仕事については、「できないと思う」が 45.9%と最も多く、次いで「仕事をしたいと思う」が 32.2%、「わからない」が 12.0%の順となっています。

障がい別にみると、「仕事をしたいと思う」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

＜全体・障がい別＞

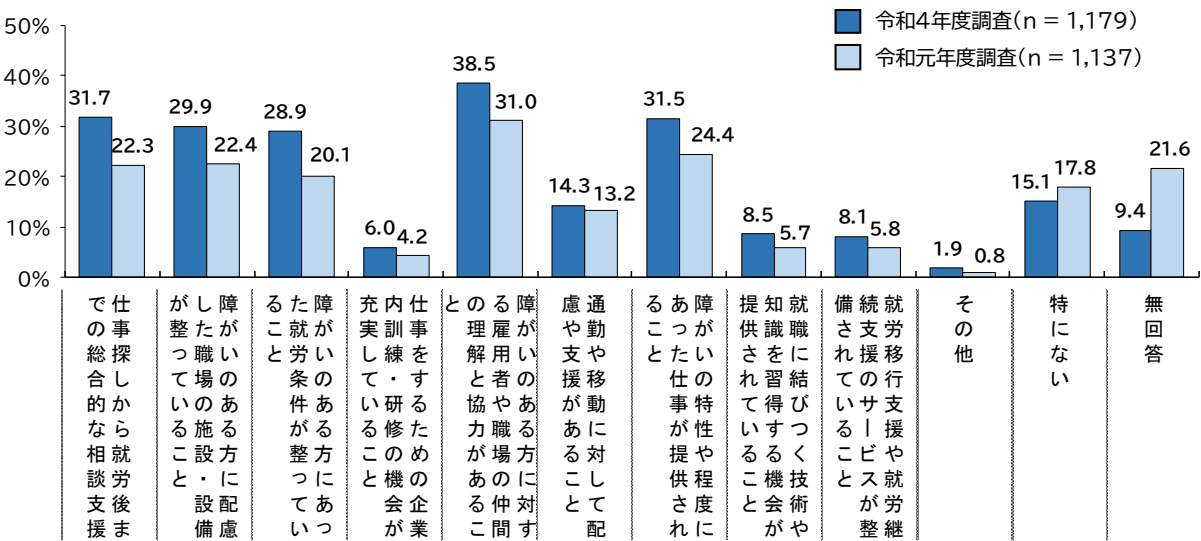


問 28 あなたは障がいのある方の就労を促進するために、主にどのような支援が最も必要だと思いますか。（主なものに3つまで○印）

障がいのある方の就労促進のために必要な支援については、「障がいのある方に対する雇用者や職場の仲間の理解と協力があること」が 38.5%と最も多く、次いで「仕事探しから就労後までの総合的な相談支援」が31.7%、「障がいの特性や程度にあった仕事を提供されること」が 31.5%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「仕事探しから就労後までの総合的な相談支援」で 9.4 ポイント、「障がいのある方にあった就労条件が整っていること」で 8.8 ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「障がいの特性や程度にあった仕事を提供されること」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	仕事探しから就労後までの総合的な相談支援	障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること	障がいのある方にあった就労条件が整っていること	仕事をするための企業内訓練・研修の機会が充実していること	障がいのある方に対する雇用者や職場の仲間の理解と協力があること	通勤や移動に対して配慮や支援があること
全 体	1179	31.7	29.9	28.9	6.0	38.5	14.3
身体障がい者	742	31.7	32.2	30.1	5.5	40.4	14.4
知的障がい者	122	27.9	27.0	18.0	3.3	27.9	13.1
精神障がい者	139	38.1	23.0	36.0	12.2	43.2	14.4
難病患者	90	27.8	23.3	27.8	3.3	32.2	16.7
重複障がい者	69	34.8	36.2	27.5	5.8	40.6	14.5
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0

	調査数	障がいの特性や程度にあった仕事を提供されること	就職に結びつく技術や知識を習得する機会が提供されていること	就労移行支援や就労継続支援のサービスが整備されていること	その他	特になし	無回答
全 体	1179	31.5	8.5	8.1	1.9	15.1	9.4
身体障がい者	742	30.1	8.0	5.8	2.0	15.4	8.1
知的障がい者	122	37.7	8.2	12.3	0.0	20.5	9.8
精神障がい者	139	32.4	10.8	12.2	2.9	12.9	5.0
難病患者	90	27.8	11.1	10.0	3.3	16.7	16.7
重複障がい者	69	42.0	7.2	14.5	0.0	7.2	13.0
手帳未所持	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7

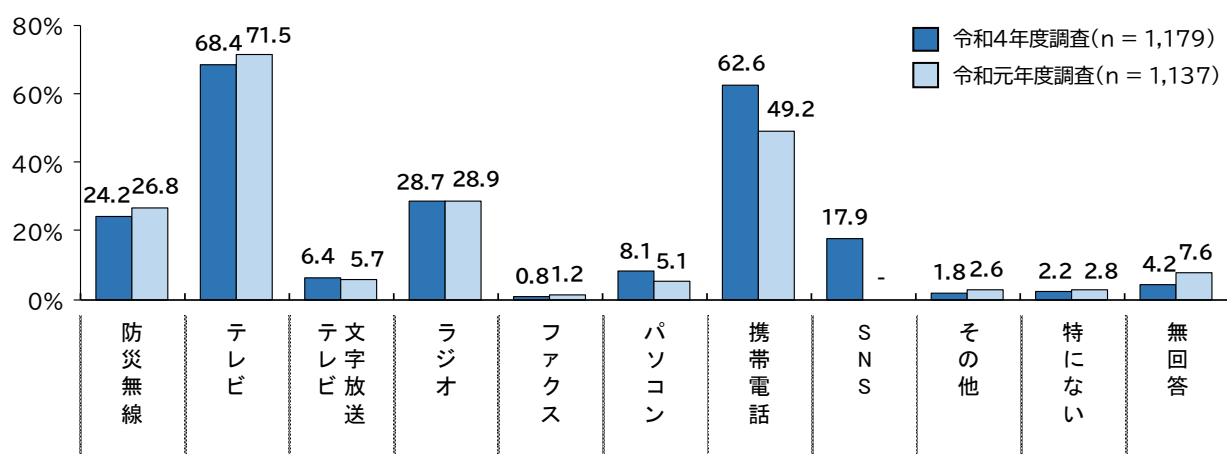
## 7 災害など緊急事態における、あなたの対応について

問 29 災害などの緊急事態が発生した場合、緊急情報を得る手段として、主にどのような手段の効果が高いと思いますか。(主なものに3つまで○印)

災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについては、「テレビ」が68.4%と最も多く、次いで「携帯電話」が62.6%、「ラジオ」が28.7%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「携帯電話」で13.4ポイントの増加となっています。

### ＜全体・前回調査との比較＞



障がい別にみると、「テレビ」はいずれの障がいにおいても半数以上の割合となっています。「携帯電話」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

### ＜障がい別＞

	調査数	防災無線	テレビ	文字放送テレビ	ラジオ	ファクス	パソコン
全 体	1179	24.2	68.4	6.4	28.7	0.8	8.1
身体障がい者	742	24.8	70.4	7.8	28.4	0.7	8.5
知的障がい者	122	19.7	59.0	2.5	25.4	0.0	4.1
精神障がい者	139	20.1	61.9	3.6	23.7	0.0	13.7
難病患者	90	26.7	77.8	1.1	41.1	3.3	5.6
重複障がい者	69	33.3	66.7	11.6	33.3	1.4	2.9
手帳未所持	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0

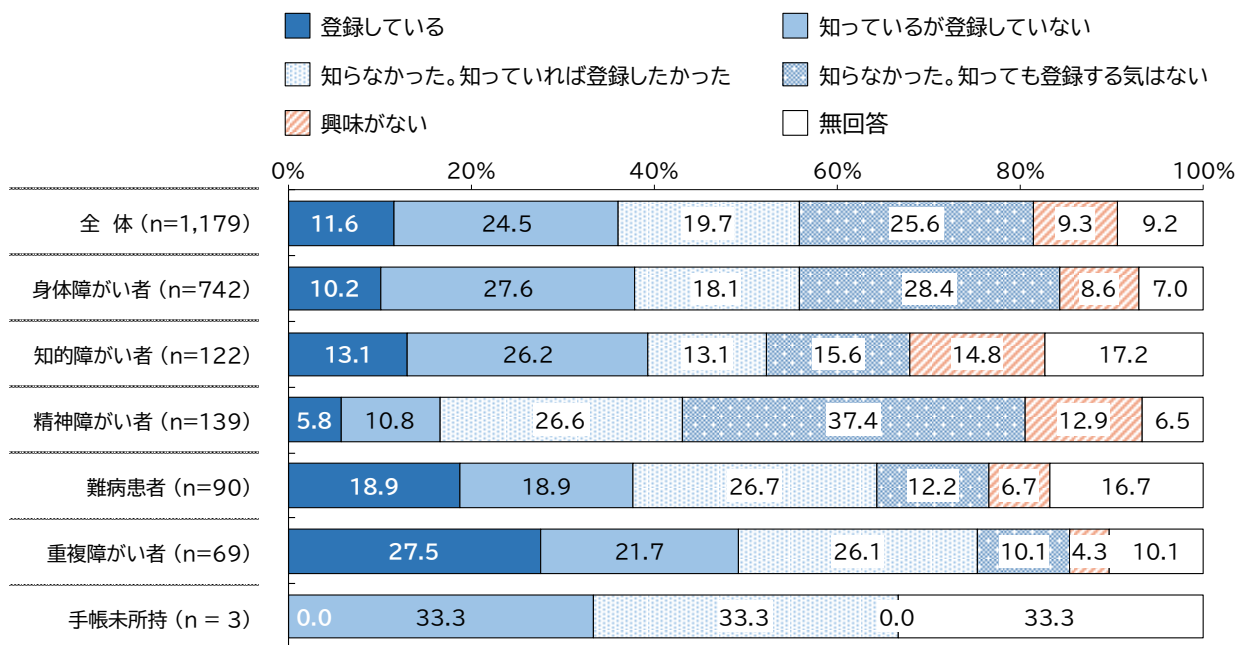
	調査数	携帯電話	SNS	その他	特にない	無回答
全 体	1179	62.6	17.9	1.8	2.2	4.2
身体障がい者	742	66.2	20.5	1.1	1.3	2.7
知的障がい者	122	47.5	8.2	4.9	7.4	11.5
精神障がい者	139	70.5	24.5	1.4	2.2	2.2
難病患者	90	58.9	7.8	2.2	0.0	4.4
重複障がい者	69	43.5	10.1	2.9	4.3	8.7
手帳未所持	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3

問 30 災害時要援護者台帳に登録していますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時要援護者台帳については、「知らなかった。知っても登録する気はない」が25.6%と最も多く、次いで「知っているが登録していない」が24.5%、「知らなかった。知っていれば登録したかった」が19.7%の順となっています。

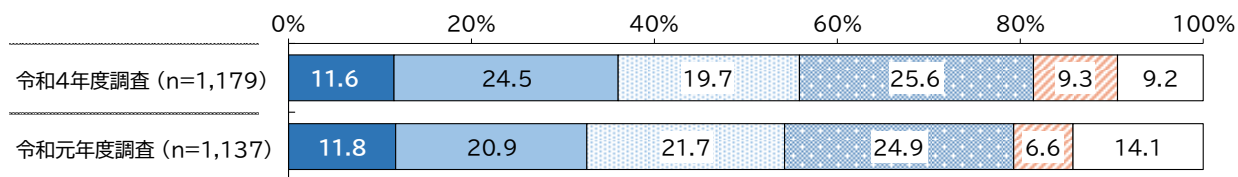
障がい別にみると、「登録している」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「知っているが登録していない」で3.6ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>



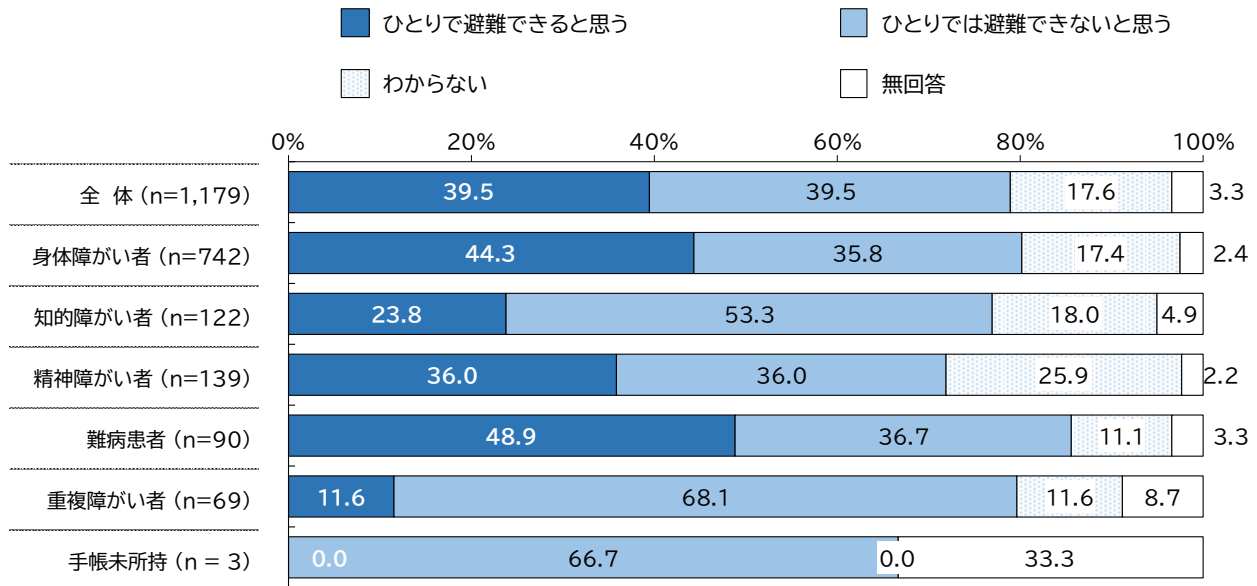


問 31 もし、災害などの緊急事態が発生した場合、避難場所等にひとりで避難できると思いますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

災害などの緊急時に、ひとりで避難できるかについては、「ひとりで避難できると思う」「ひとりでは避難できないと思う」がともに 39.5%と最も多く、次いで「わからない」が 17.6%となっています。

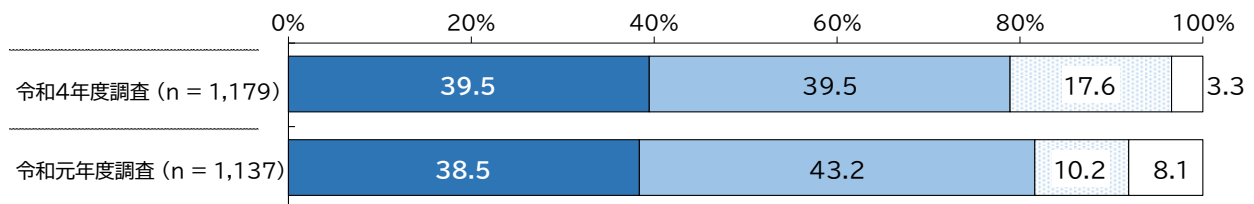
障がい別にみると、「ひとりで避難できると思う」は難病患者で、「ひとりでは避難できないと思う」は重複障がい者・知的障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「わからない」で 7.4 ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>

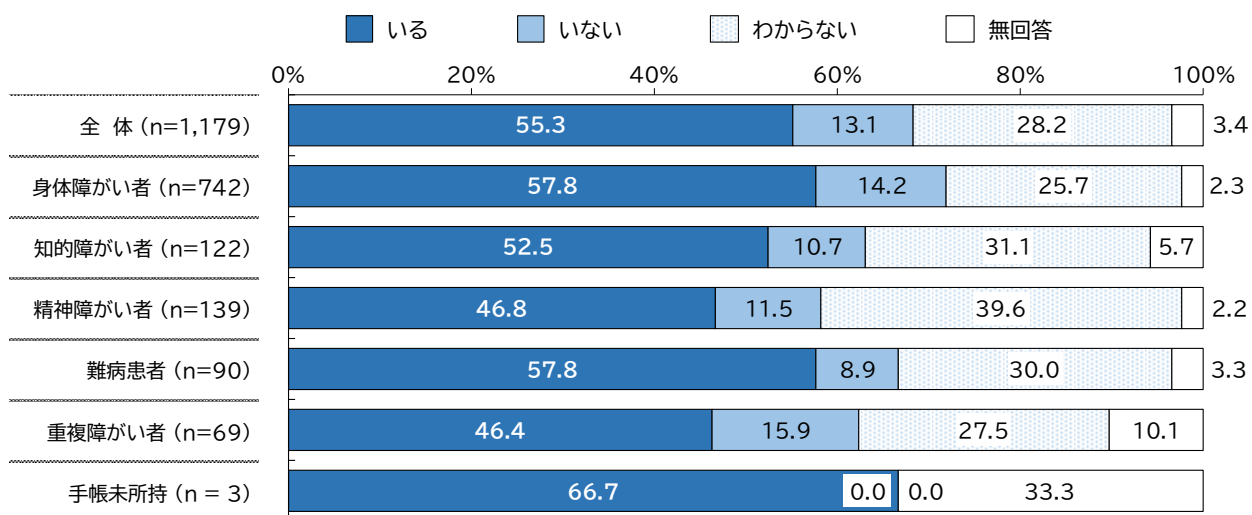


問 32 災害時、助けてくれる人はいますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時助けてくれる人については、「いる」が55.3%と最も多く、次いで「わからない」が28.2%、「いない」が13.1%の順となっています。

障がい別にみると、「いる」はいずれの障がいにおいても高い割合となっています。

<全体・障がい別>



問 33 あなたは、災害に対してどのような対策や準備をしていますか。  
(それぞれあてはまるもの 1 つに○印を記入)

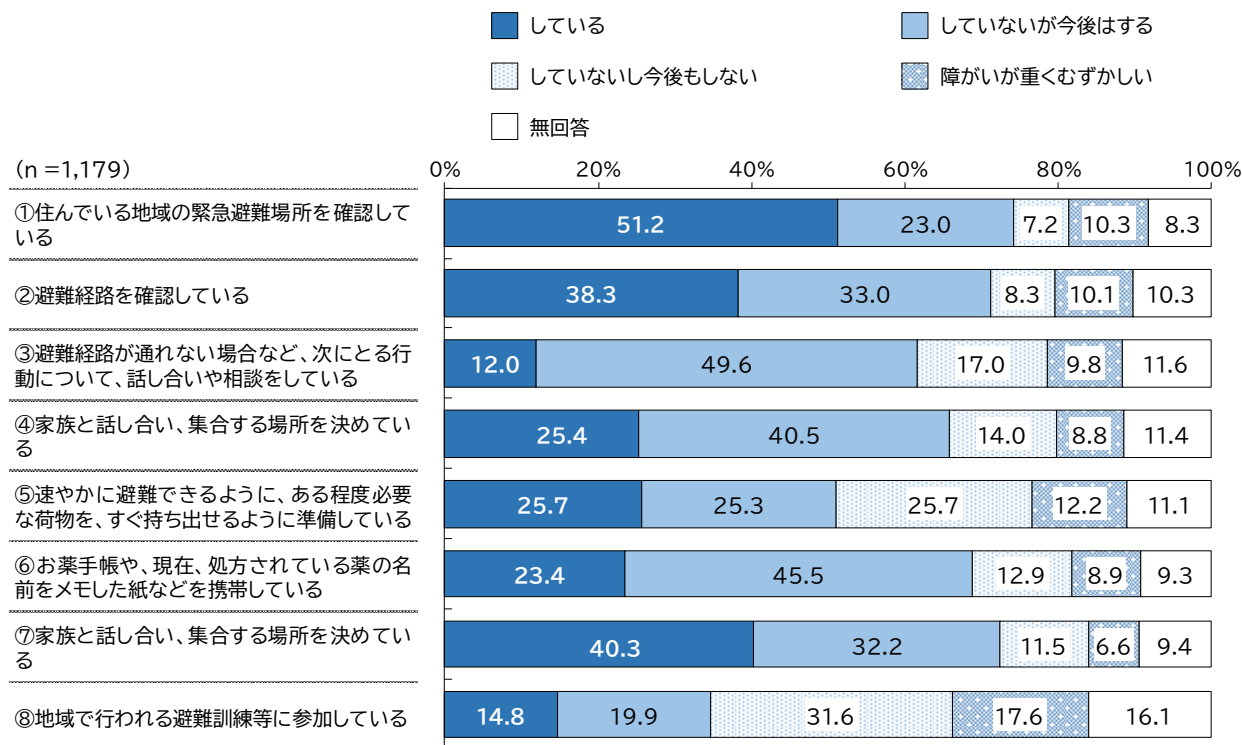
災害に対しての対策や準備について、「している」が最も多いのは、『①住んでいる地域の緊急避難場所を確認している』で 51.2%、次いで『⑦家族と話し合い、集合する場所を決めている』が 40.3%、『②避難経路を確認している』が 38.3%の順となっています。

「していないが今後はする」が最も多いのは、『③避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている』で 49.6%、次いで『⑥お薬手帳や、現在、処方されている薬の名前をメモした紙などを携帯している』が 45.5%、『④家族と話し合い、集合する場所を決めている』が 40.5%の順となっています。

「していないし今後もしない」が最も多いのは、『⑧地域で行われる避難訓練等に参加している』で 31.6%、次いで『⑤速やかに避難できるように、ある程度必要な荷物を、すぐ持ち出せるように準備している』が 25.7%、『③避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている』が 17.0%の順となっています。

「障がいが高くむずかしい」が最も多いのは、『⑧地域で行われる避難訓練等に参加している』で 17.6%、次いで『⑤速やかに避難できるように、ある程度必要な荷物を、すぐ持ち出せるように準備している』が 12.2%、『①住んでいる地域の緊急避難場所を確認している』が 10.3%の順となっています。

#### <全体>



障がい別にみると、「している」は、『①住んでいる地域の緊急避難場所を確認している』『②避難経路を確認している』が身体障がい者・難病患者で、『⑤近所や自治会の方と日頃から交流をしている』が難病患者で全体より高い割合となっています。

「していないが今後はする」は、『③避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている』が身体障がい者・難病患者で全体より高い割合となっています。

「していないし今後もしない」は、『⑧地域で行われる避難訓練等に参加している』『⑤近所や自治会の方と日頃から交流をしている』が精神障がい者で全体より高い割合となっています。

「障がいが重くむずかしい」は、『③避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている』『④家族と話し合い、集合する場所を決めている』が知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

## <障がい別>

(%)

	調査数	① 住んでいる地域の緊急避難場所を確認している					② 避難経路を確認している					③ 避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている				
		している	今しては いすな いが	今して もい しな いし	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答	している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答	している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答
全 体	1179	51.2	23.0	7.2	10.3	8.3	38.3	33.0	8.3	10.1	10.3	12.0	49.6	17.0	9.8	11.6
身体障がい者	742	56.2	23.9	5.9	7.8	6.2	42.6	34.0	7.7	7.7	8.1	13.9	53.9	15.5	7.5	9.2
知的障がい者	122	29.5	23.8	10.7	21.3	14.8	23.0	31.1	9.0	21.3	15.6	6.6	37.7	15.6	22.1	18.0
精神障がい者	139	46.8	24.5	15.1	7.9	5.8	34.5	36.7	15.8	7.9	5.0	10.1	43.9	33.8	6.5	5.8
難病患者	90	57.8	18.9	2.2	7.8	13.3	42.2	31.1	3.3	5.6	17.8	12.2	52.2	8.9	4.4	22.2
重複障がい者	69	39.1	17.4	4.3	26.1	13.0	23.2	23.2	5.8	27.5	20.3	7.2	36.2	11.6	26.1	18.8
手帳未所持	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0

	調査数	④ 家族と話し合い、集合する場所を決めている					⑤ 近所や自治会の方と日頃から交流をしている					⑥ 速やかに避難できるように、ある程度必要な荷物を、すぐ持ち出せるように準備している				
		している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答	している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答	している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答
全 体	1179	25.4	40.5	14.0	8.8	11.4	25.7	25.3	25.7	12.2	11.1	23.4	45.5	12.9	8.9	9.3
身体障がい者	742	28.8	42.6	12.8	6.5	9.3	29.2	27.2	25.1	9.0	9.4	26.3	48.4	10.8	7.1	7.4
知的障がい者	122	15.6	32.0	13.9	20.5	18.0	16.4	19.7	25.4	21.3	17.2	9.0	38.5	17.2	17.2	18.0
精神障がい者	139	18.0	43.2	25.9	6.5	6.5	15.1	25.9	39.6	14.4	5.0	23.7	41.7	23.0	7.2	4.3
難病患者	90	22.2	43.3	8.9	5.6	20.0	35.6	24.4	14.4	8.9	16.7	25.6	47.8	8.9	4.4	13.3
重複障がい者	69	23.2	29.0	8.7	23.2	15.9	14.5	14.5	21.7	30.4	18.8	15.9	34.8	11.6	23.2	14.5
手帳未所持	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0

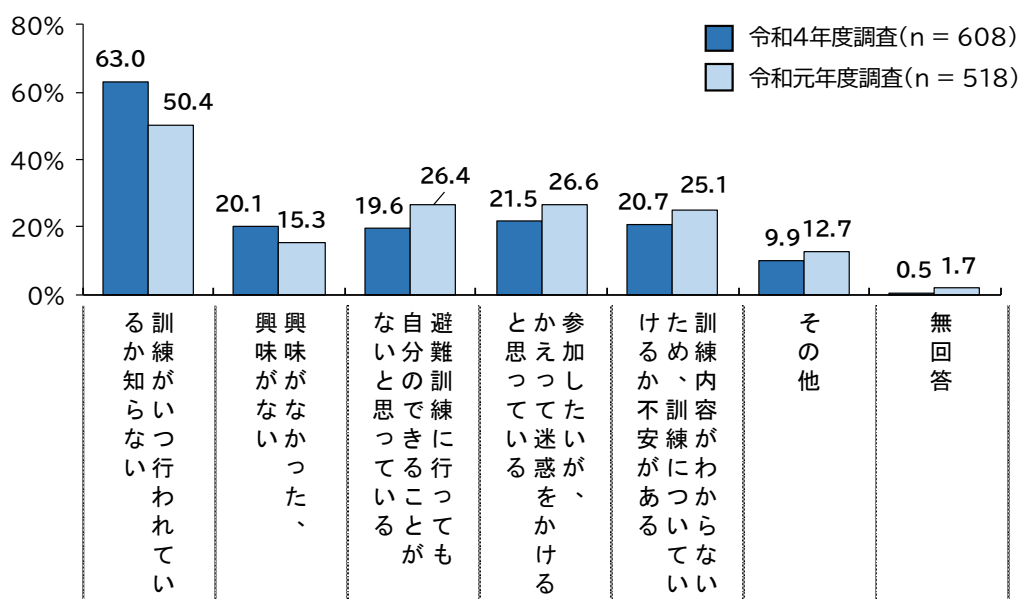
	調査数	⑦ お薬手帳や、現在、処方されている薬の名前をメモした紙などを携帯している					⑧ 地域で行われる避難訓練等に参加している				
		している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答	している	今して は い す な いが	今して もい し な い し	む障 が か い し が い 重 く	無 回 答
全 体	1179	40.3	32.2	11.5	6.6	9.4	14.8	19.9	31.6	17.6	16.1
身体障がい者	742	43.9	33.3	11.1	4.3	7.4	17.8	20.8	31.0	16.6	13.9
知的障がい者	122	18.9	35.2	12.3	17.2	16.4	10.7	17.2	26.2	23.0	23.0
精神障がい者	139	43.9	28.1	17.3	5.0	5.8	6.5	18.7	51.1	12.9	10.8
難病患者	90	45.6	28.9	8.9	4.4	12.2	15.6	23.3	24.4	11.1	25.6
重複障がい者	69	27.5	27.5	7.2	20.3	17.4	4.3	14.5	21.7	37.7	21.7
手帳未所持	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3

問 34 地域で行われる避難訓練等に参加していなかったのはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

地域の避難訓練等に参加していない理由については、「訓練がいつ行われているか知らない」が63.0%と最も多く、次いで「参加したいが、かえって迷惑をかけると思っている」が21.5%、「訓練内容がわからないため、訓練についていけるか不安がある」が20.7%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「訓練がいつ行われているか知らない」で12.6ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「訓練がいつ行われているか知らない」はいずれの障がいにおいても高い割合となっています。「興味がなかった、興味がない」は精神障がい者で、「参加したいが、かえって迷惑をかけると思っている」は重複障がい者で、「訓練内容がわからないため、訓練についていけるか不安がある」は難病患者で全体より高い割合となっています。

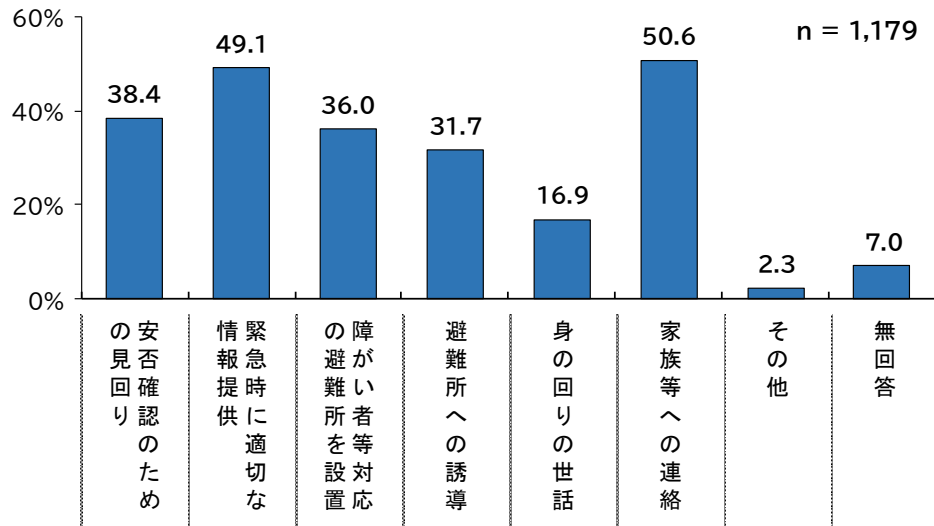
<障がい別>

	調査数	訓練がいつ行われているか知らない	興味がなかった、興味がない	避難訓練に行っても自分ができることがないと思っている	参加したいが、かえって迷惑をかけると思っている	訓練内容がわからないため、訓練についていけるか不安がある	その他	無回答
全 体	608	63.0	20.1	19.6	21.5	20.7	9.9	0.5
身体障がい者	384	62.5	15.6	19.8	23.2	19.0	10.2	0.3
知的障がい者	53	67.9	28.3	20.8	13.2	22.6	3.8	0.0
精神障がい者	97	67.0	35.1	14.4	16.5	20.6	11.3	0.0
難病患者	43	51.2	18.6	25.6	20.9	32.6	16.3	4.7
重複障がい者	25	72.0	8.0	24.0	40.0	24.0	4.0	0.0
手帳未所持	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 35 災害などの緊急事態が発生した場合に、必要なことは何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

災害などの緊急時に必要としていることについては、「家族等への連絡」が50.6%と最も多く、次いで「緊急時に適切な情報提供」が49.1%、「安否確認のための見回り」が38.4%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「緊急時に適切な情報提供」は精神障がい者で、「身の回りの世話」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

(%)

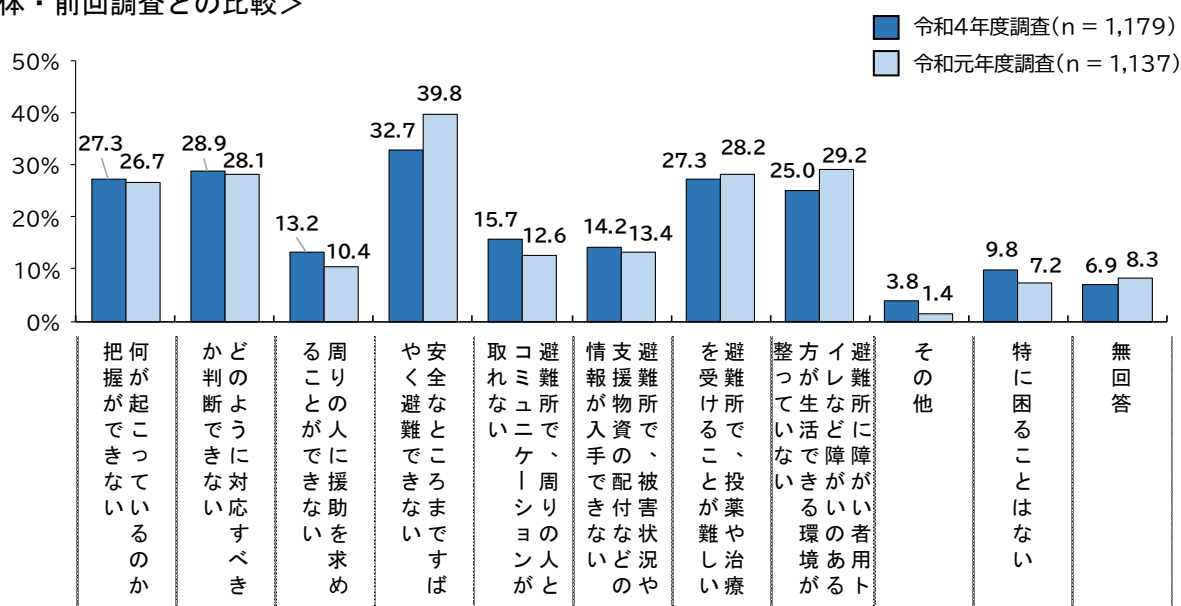
	調査数	安否確認のための見回り	緊急時に適切な情報提供	障がい者等対応の避難所を設置	避難所への誘導	身の回りの世話	家族等への連絡	その他	無回答
全 体	1179	38.4	49.1	36.0	31.7	16.9	50.6	2.3	7.0
身体障がい者	742	40.6	51.6	35.7	33.3	15.0	50.4	1.9	5.5
知的障がい者	122	28.7	36.9	40.2	27.0	23.8	54.9	1.6	10.7
精神障がい者	139	36.7	60.4	26.6	27.3	10.8	54.7	2.9	5.8
難病患者	90	38.9	43.3	43.3	32.2	21.1	42.2	4.4	8.9
重複障がい者	69	36.2	30.4	46.4	31.9	30.4	47.8	2.9	11.6
手帳未所持	3	66.7	66.7	0.0	33.3	66.7	33.3	33.3	0.0

# 問 36 災害時に困ることは何ですか。(主なものに3つまで○印)

災害時に困ることについては、「安全なところまですばやく避難できない」が32.7%と最も多く、次いで「どのように対応すべきか判断できない」が28.9%、「何が起こっているのか把握ができない」「避難所で、投薬や治療を受けることが難しい」がともに27.3%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない」で3.1ポイントの増加となっています。

## <全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「どのように対応すべきか判断できない」「周りの人に援助を求めることができない」は知的障がい者・精神障がい者で、「避難所で、投薬や治療を受けることが難しい」は難病患者で全体より高い割合となっています。

## <障がい別>

	調査数	何が起こっているのか把握ができない	どのように対応すべきか判断できない	周りの人に援助を求めることができない	安全なところまですばやく避難できない	避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない	避難所で、被害状況や支援物資の配付などの情報が入手できない
全 体	1179	27.3	28.9	13.2	32.7	15.7	14.2
身体障がい者	742	25.7	23.0	8.9	36.4	11.3	14.4
知的障がい者	122	36.1	49.2	29.5	18.9	31.1	15.6
精神障がい者	139	30.2	43.2	20.9	24.5	24.5	11.5
難病患者	90	24.4	22.2	10.0	32.2	7.8	14.4
重複障がい者	69	24.6	36.2	21.7	37.7	27.5	15.9
手帳未所持	3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3

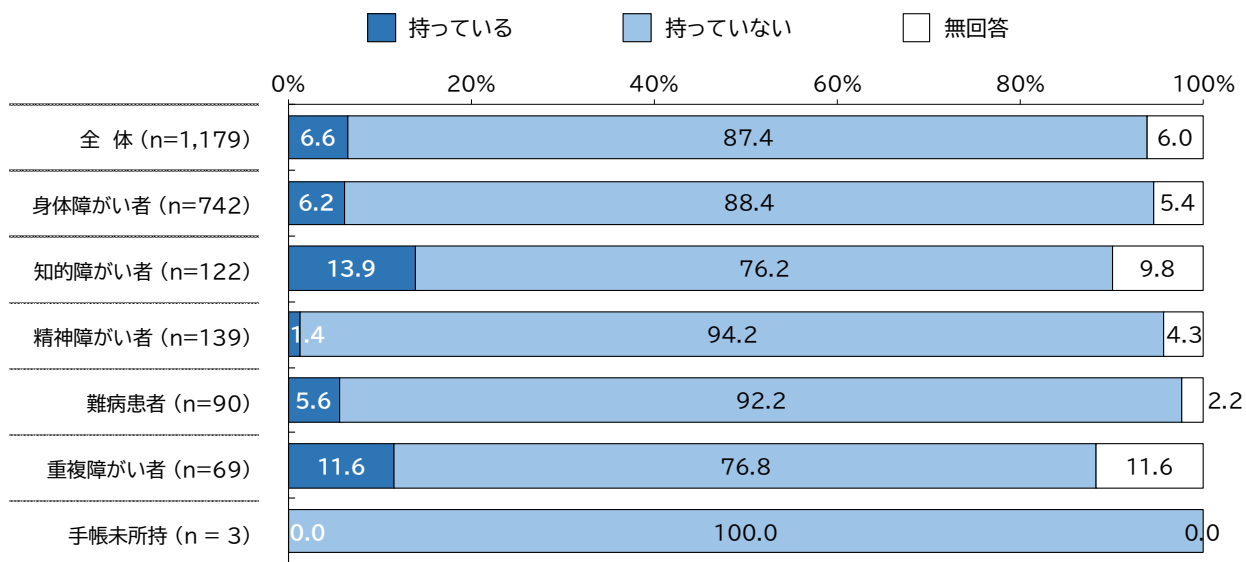
	調査数	避難所で、投薬や治療を受けることが難しい	避難所に障がい者用トイレなど障がいのある方が生活できる環境が整っていない	その他	特に困ることはない	無回答
全 体	1179	27.3	25.0	3.8	9.8	6.9
身体障がい者	742	26.8	28.7	3.6	11.5	6.1
知的障がい者	122	8.2	11.5	3.3	10.7	7.4
精神障がい者	139	32.4	10.1	2.9	7.2	5.8
難病患者	90	54.4	30.0	6.7	5.6	8.9
重複障がい者	69	21.7	34.8	5.8	2.9	8.7
手帳未所持	3	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0

### 問 37 災害時支援用バンダナを持っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時支援用バンダナについて、「持っている」が 6.6%、「持っていない」が 87.4%となっています。

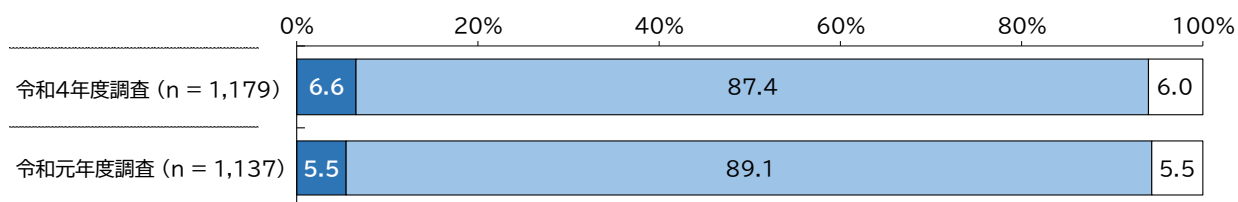
障がい別にみると、「持っていない」はいずれの障がいにおいても高い割合となっています。

#### <全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「持っている」が 1.1 ポイントの増加となっています。

#### <前回調査との比較>





## 8 福祉情報の入手方法について

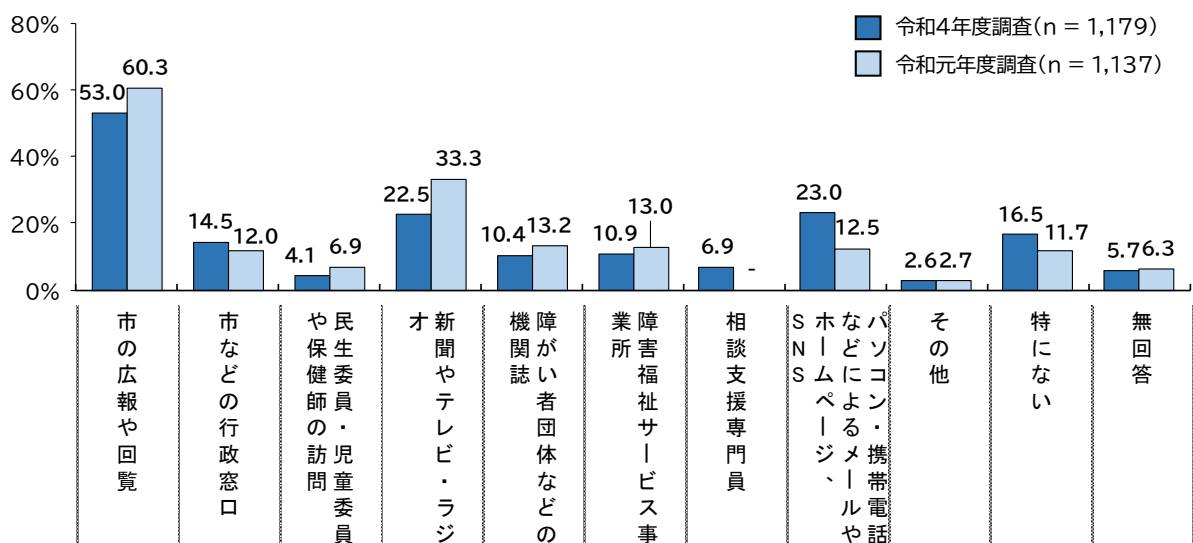
問 38 あなたは現在、主にどのような手段で必要な福祉情報を得ていますか。また今後どのような手段で得たいと思いますか。(主なものに3つまで○印)

### 【現在利用している情報手段】

福祉の情報を得るために現在利用している情報手段については、「市の広報や回覧」が53.0%と最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が23.0%、「新聞やテレビ・ラジオ」が22.5%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」で10.5ポイントの増加となっています。

### ＜全体・前回調査との比較＞



障がい別にみると、「障がい者団体などの機関誌」は難病患者で、「障害福祉サービス事業所」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

### ＜障がい別＞

	調査数	市の広報や回覧	市などの行政窓口	民生委員・児童委員や保健師の訪問	新聞やテレビ・ラジオ	障がい者団体などの機関誌	障害福祉サービス事業所
全 体	1179	53.0	14.5	4.1	22.5	10.4	10.9
身体障がい者	742	58.0	13.3	3.5	25.6	10.0	5.5
知的障がい者	122	42.6	9.8	4.1	13.9	10.7	31.1
精神障がい者	139	34.5	18.0	2.9	16.5	1.4	14.4
難病患者	90	67.8	18.9	5.6	26.7	30.0	5.6
重複障がい者	69	39.1	21.7	8.7	11.6	10.1	31.9
手帳未所持	3	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0

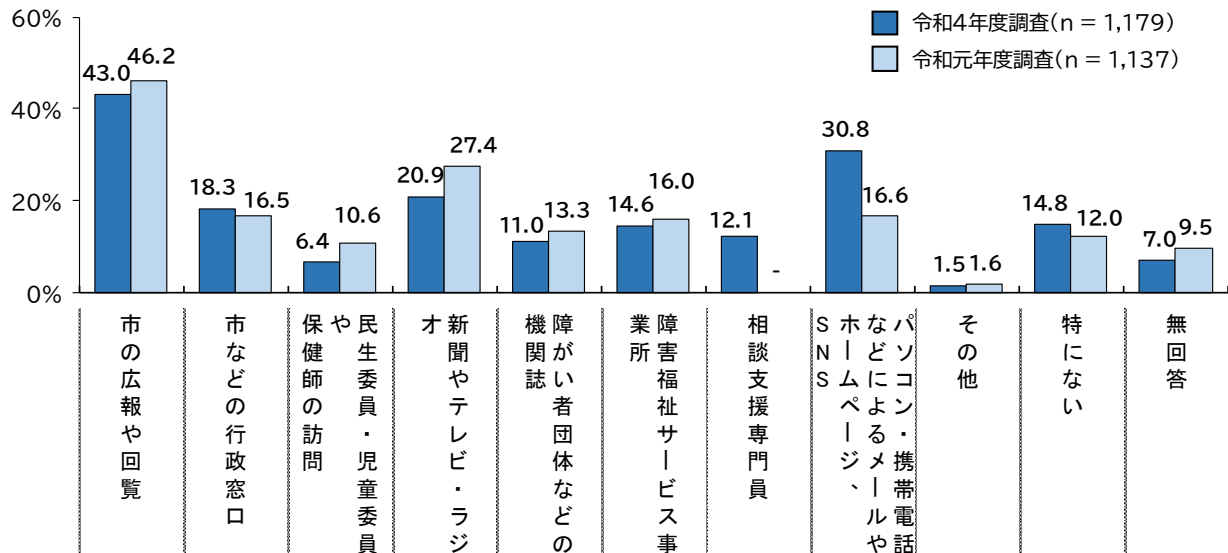
	調査数	相談支援専門員	パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS	その他	特になし	無回答
全 体	1179	6.9	23.0	2.6	16.5	5.7
身体障がい者	742	5.0	24.4	2.2	16.7	5.3
知的障がい者	122	14.8	12.3	3.3	18.9	9.0
精神障がい者	139	7.9	25.2	2.9	21.6	5.8
難病患者	90	5.6	24.4	3.3	6.7	2.2
重複障がい者	69	13.0	20.3	4.3	14.5	7.2
手帳未所持	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0

### 【今後利用したい情報手段】

福祉の情報を得るために今後利用したい情報手段については、「市の広報や回覧」が43.0%と最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が30.8%、「新聞やテレビ・ラジオ」が20.9%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」で14.2ポイントの増加となっています。

#### <全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「障がい者団体などの機関誌」は難病患者で、「障害福祉サービス事業所」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

#### <障がい別>

	調査数	市の広報や回覧	市などの行政窓口	民生委員・児童委員 や保健師の訪問	新聞やテレビ・ラジオ	障がい者団体などの 機関誌	障害福祉サービス 事業所
全 体	1179	43.0	18.3	6.4	20.9	11.0	14.6
身体障がい者	742	47.4	17.4	5.5	22.6	10.8	10.8
知的障がい者	122	38.5	16.4	6.6	13.9	12.3	29.5
精神障がい者	139	25.2	22.3	7.2	16.5	5.0	12.9
難病患者	90	53.3	20.0	7.8	26.7	22.2	11.1
重複障がい者	69	27.5	24.6	10.1	18.8	10.1	36.2
手帳未所持	3	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0

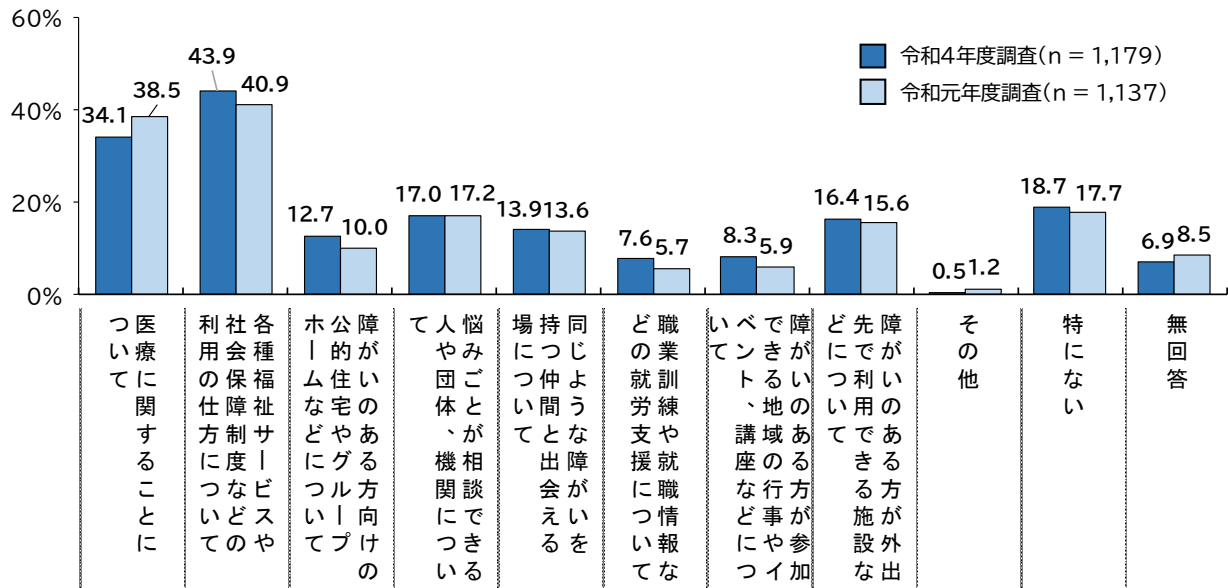
	調査数	相談支援専門員	パソコン・携帯電話 などによるメールや ホームページ、SNS	その他	特にない	無回答
全 体	1179	12.1	30.8	1.5	14.8	7.0
身体障がい者	742	9.0	34.2	1.5	14.8	6.1
知的障がい者	122	18.0	17.2	0.8	18.9	9.8
精神障がい者	139	18.0	33.8	1.4	15.1	6.5
難病患者	90	12.2	24.4	1.1	10.0	6.7
重複障がい者	69	23.2	23.2	2.9	13.0	10.1
手帳未所持	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0

問 39 あなたは、主にどのような福祉情報を知りたいですか。（主なものに3つまで○印）

主に知りたい福祉情報については、「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」が43.9%と最も多く、次いで「医療に関することについて」が34.1%、「特にない」が18.7%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」で3.0ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「医療に関することについて」は難病患者で、「障がいのある方向けの公的住宅やグループホームなどについて」は知的障がい者で、「悩みごとが相談できる人や団体、機関について」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	医療に関することについて	各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について	障がいのある方向けの公的住宅やグループホームなどについて	悩みごとが相談できる人や団体、機関について	同じような障がいを持つ仲間と出会う場について	職業訓練や就職情報などの就労支援について
全 体	1179	34.1	43.9	12.7	17.0	13.9	7.6
身体障がい者	742	36.8	46.4	10.4	13.1	11.9	6.9
知的障がい者	122	20.5	35.2	24.6	15.6	15.6	9.8
精神障がい者	139	29.5	37.4	12.9	34.5	18.0	12.2
難病患者	90	51.1	46.7	10.0	17.8	18.9	4.4
重複障がい者	69	20.3	43.5	18.8	26.1	17.4	7.2
手帳未所持	3	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	0.0

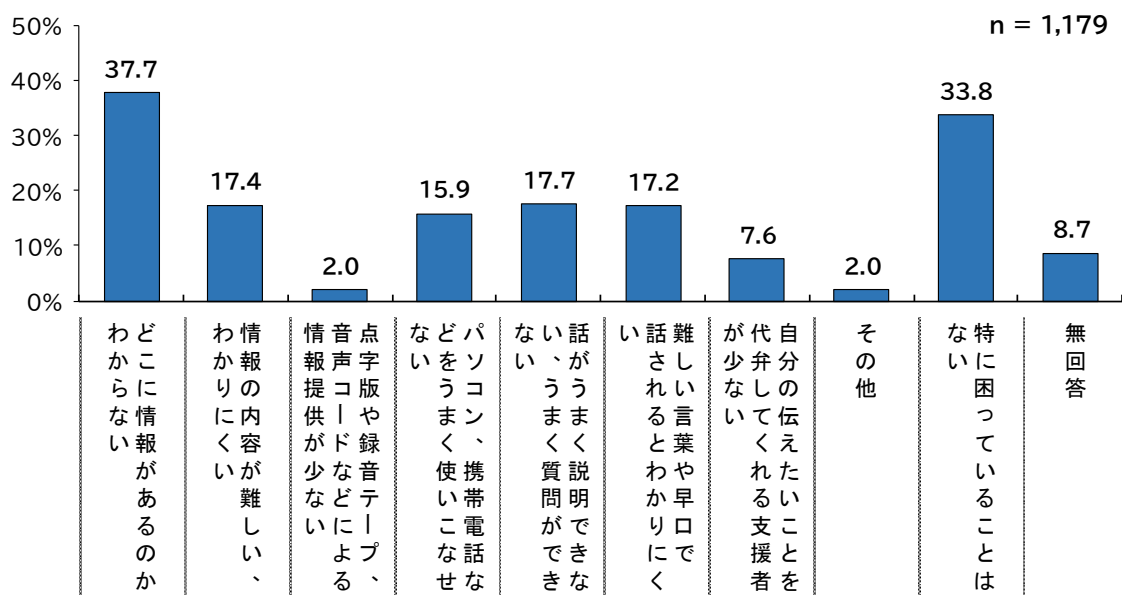
  

	調査数	障がいのある方が参加できる地域の行事やイベント、講座などについて	障がいのある方が外出先で利用できる施設などについて	その他	特にない	無回答
全 体	1179	8.3	16.4	0.5	18.7	6.9
身体障がい者	742	8.1	17.9	0.1	20.4	5.7
知的障がい者	122	9.0	11.5	1.6	21.3	13.9
精神障がい者	139	8.6	12.9	0.7	15.8	4.3
難病患者	90	5.6	11.1	0.0	10.0	7.8
重複障がい者	69	13.0	24.6	2.9	13.0	8.7
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 40 情報入手や意思疎通に関して困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

情報入手や意思疎通に関して困っていることについては、「どこに情報があるのかわからない」が37.7%と最も多く、次いで「特に困っていることはない」が33.8%、「話がうまく説明できない、うまく質問ができない」が17.7%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「どこに情報があるのかわからない」は精神障がい者で、「パソコン、携帯電話などをうまく使いこなせない」は難病患者で、「話がうまく説明できない、うまく質問ができない」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	どこに情報があるのかわからない	情報の内容が難しい、わかりにくい	点字版や録音テープ、音声コードなどによる情報提供が少ない	パソコン、携帯電話などをうまく使いこなせない	話がうまく説明できない、うまく質問ができない
全 体	1179	37.7	17.4	2.0	15.9	17.7
身体障がい者	742	36.4	14.3	2.4	14.4	9.2
知的障がい者	122	32.8	25.4	0.0	19.7	45.1
精神障がい者	139	48.2	25.9	0.7	15.1	31.7
難病患者	90	37.8	15.6	1.1	26.7	12.2
重複障がい者	69	39.1	24.6	2.9	11.6	39.1
手帳未所持	3	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3

	調査数	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	自分の伝えたいことを代弁してくれる支援者が少ない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	1179	17.2	7.6	2.0	33.8	8.7
身体障がい者	742	14.4	5.0	1.5	39.8	8.1
知的障がい者	122	27.9	13.9	1.6	19.7	13.1
精神障がい者	139	25.2	12.9	2.9	23.7	5.0
難病患者	90	10.0	3.3	2.2	33.3	11.1
重複障がい者	69	23.2	20.3	7.2	17.4	10.1
手帳未所持	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

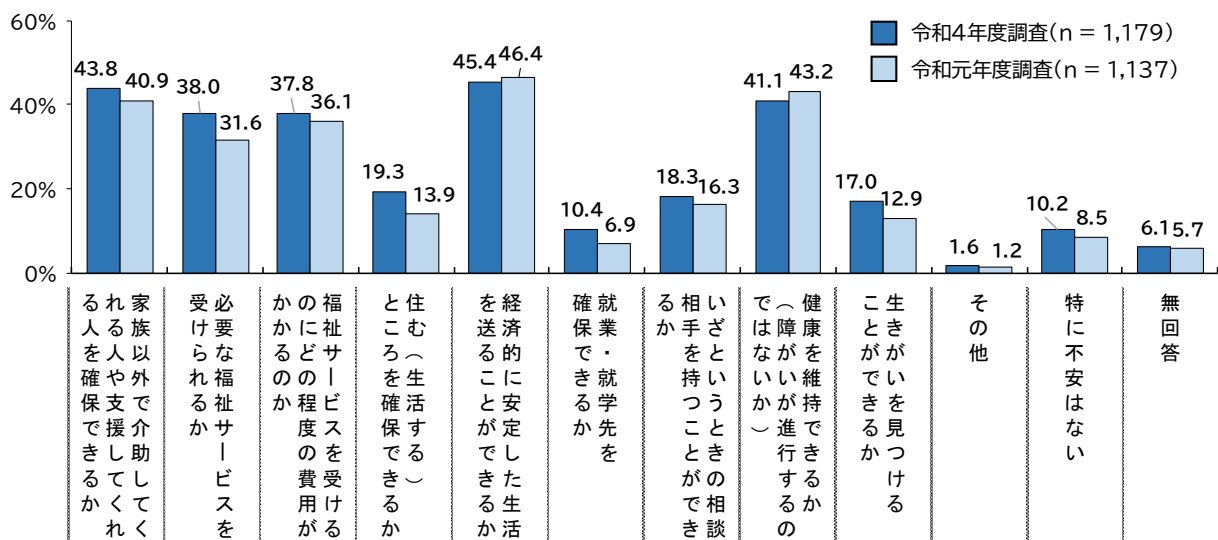
## 9 将来の生活や、大垣市の福祉について

### 問 41 将来の生活に対する不安についてお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

将来の生活に対する不安については、「経済的に安定した生活を送ることができるか」が45.4%と最も多く、次いで「家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」が43.8%、「健康を維持できるか(障がいが進行するのではないか)」が41.1%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「必要な福祉サービスを受けられるか」で6.4ポイントの増加となっています。

#### <全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか」は重複障がい者で、「住む(生活する)ところを確保できるか」は知的障がい者で、「経済的に安定した生活を送ることができるか」「就業・就学先を確保できるか」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

#### <障がい別>

	調査数	家族以外で介助してくれる人や支援してくれる人を確保できるか	必要な福祉サービスを受けられるか	福祉サービスを受けるのにどの程度の費用がかかるのか	住む(生活する)ところを確保できるか	経済的に安定した生活を送ることができるか	就業・就学先を確保できるか
全 体	1179	43.8	38.0	37.8	19.3	45.4	10.4
身体障がい者	742	40.3	37.3	39.1	15.4	44.7	8.2
知的障がい者	122	54.9	40.2	27.9	39.3	34.4	8.2
精神障がい者	139	50.4	34.5	33.8	24.5	65.5	25.9
難病患者	90	37.8	41.1	43.3	11.1	40.0	5.6
重複障がい者	69	62.3	47.8	44.9	30.4	42.0	11.6
手帳未所持	3	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3

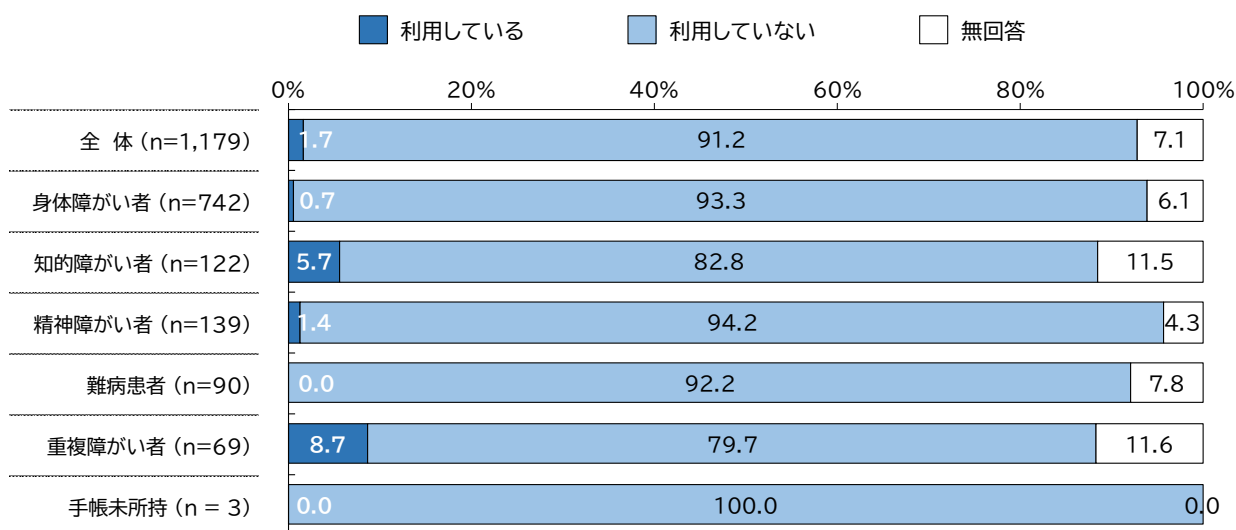
	調査数	いざというときの相談相手を持つことができるか	健康を維持できるか(障がいがあるか)	生きがいを見つけることができるか	その他	特に不安はない	無回答
全 体	1179	18.3	41.1	17.0	1.6	10.2	6.1
身体障がい者	742	14.4	44.2	15.5	1.6	11.3	4.9
知的障がい者	122	27.9	18.0	12.3	2.5	13.9	12.3
精神障がい者	139	33.1	41.0	30.9	2.2	5.0	4.3
難病患者	90	10.0	48.9	8.9	0.0	7.8	7.8
重複障がい者	69	26.1	40.6	21.7	1.4	4.3	5.8
手帳未所持	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0

問 42 成年後見制度を利用していますか。(あてはまるもの 1 つに○印)

成年後見制度の利用については、「利用している」が 1.7%、「利用していない」が 91.2%となっています。

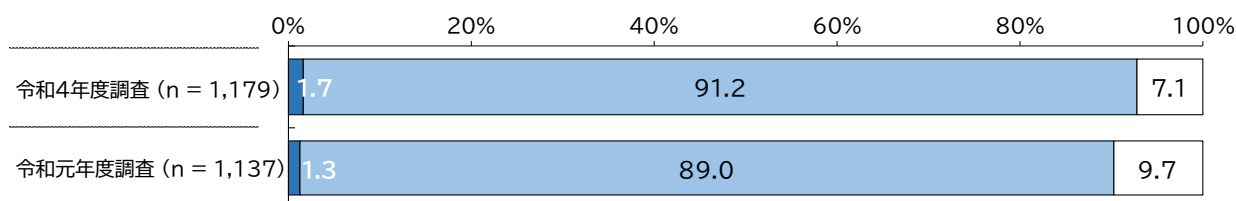
障がい別にみると、「利用している」は知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

<前回調査との比較>

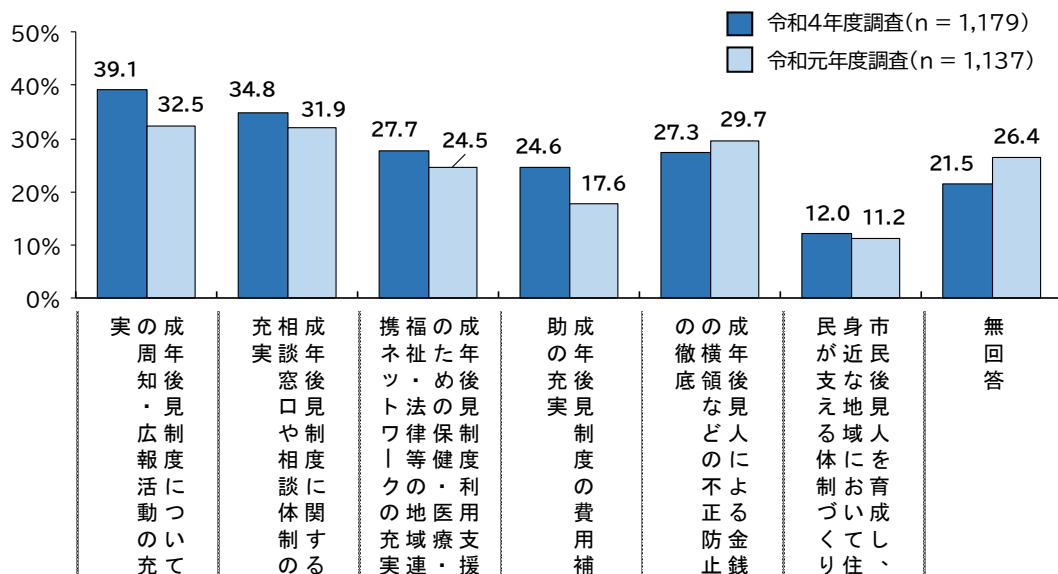


問 43 成年後見制度を利用促進するために必要と思われることは何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

成年後見制度を利用促進するために必要なことについては、「成年後見制度についての周知・広報活動の充実」が39.1%と最も多く、次いで「成年後見制度に関する相談窓口や相談体制の充実」が34.8%、「成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実」が27.7%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「成年後見制度についての周知・広報活動の充実」で6.6ポイントの増加となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



障がい別にみると、「成年後見制度に関する相談窓口や相談体制の充実」は精神障がい者で、「成年後見人による金銭の横領などの不正防止の徹底」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

＜障がい別＞

	調査数	成年後見制度についての周知・広報活動の充実	成年後見制度に関する相談窓口や相談体制の充実	成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実	成年後見制度の費用補助の充実
全 体	1179	39.1	34.8	27.7	24.6
身体障がい者	742	41.8	33.3	27.5	24.3
知的障がい者	122	26.2	35.2	27.0	32.0
精神障がい者	139	41.7	43.9	30.2	24.5
難病患者	90	38.9	28.9	23.3	14.4
重複障がい者	69	29.0	40.6	31.9	30.4
手帳未所持	3	100.0	0.0	33.3	33.3

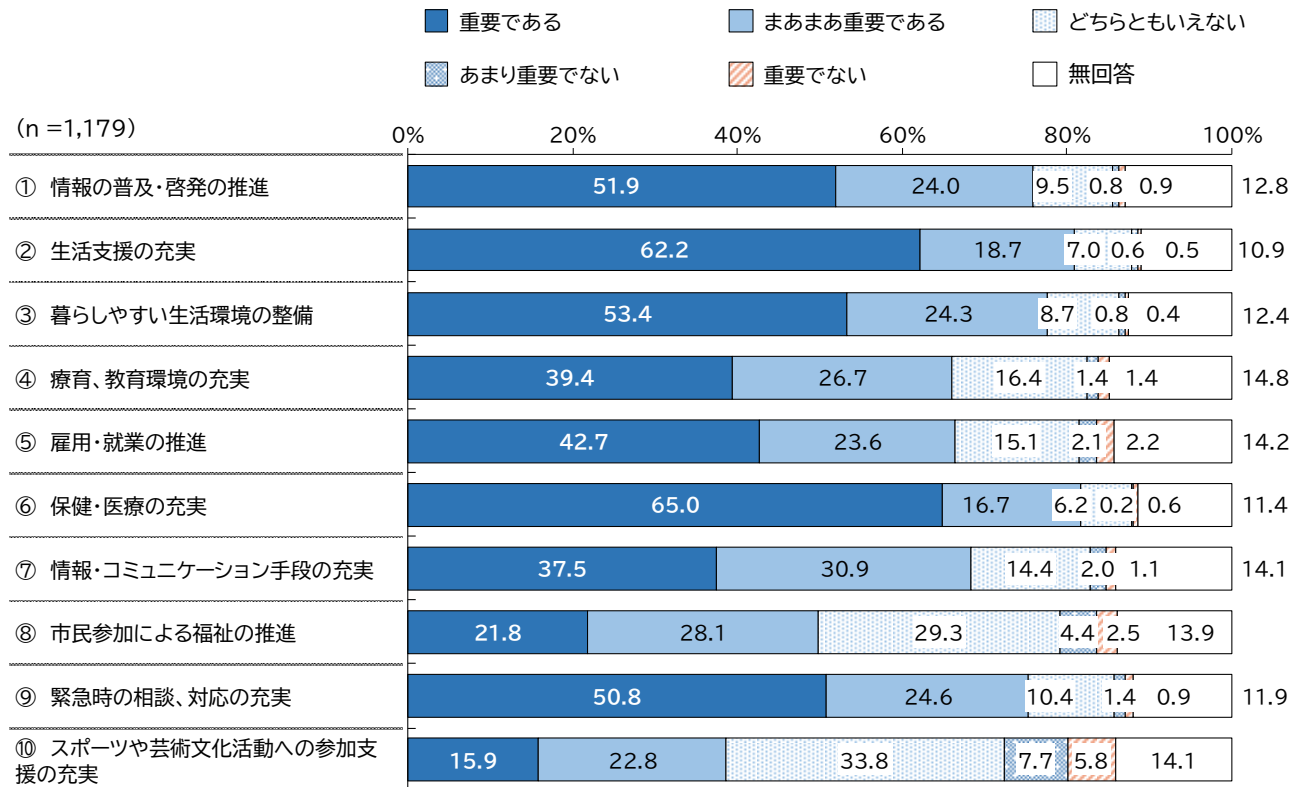
	調査数	成年後見人による金銭の横領などの不正防止の徹底	市民後見人を育成し、身近な地域において住民が支える体制づくり	無回答
全 体	1179	27.3	12.0	21.5
身体障がい者	742	27.2	11.9	20.1
知的障がい者	122	29.5	19.7	25.4
精神障がい者	139	20.9	7.2	19.4
難病患者	90	27.8	15.6	27.8
重複障がい者	69	39.1	7.2	20.3
手帳未所持	3	33.3	33.3	0.0



問 44 あなたは障がい福祉に関する今後の大垣市の取り組みとして、次の各項目について、どのくらい重要だと思いますか。（それぞれあてはまるもの１つに○印）

これからの大垣市の取り組みについて、「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』が最も多いのは、『⑥保健・医療の充実』で81.7%、次いで『②生活支援の充実』が80.9%、『③暮らしやすい生活環境の整備』が77.7%の順となっています。

# <全体>





障がい別にみると、「重要である」は身体障がい者では、『⑥保健・医療の充実』『②生活支援の充実』『①情報の普及・啓発の推進』、知的障がい者では『②生活支援の充実』『⑥保健・医療の充実』『⑨緊急時の相談、対応の充実』、精神障がい者では『②生活支援の充実』『⑥保健・医療の充実』『③暮らしやすい生活環境の整備』、難病患者では『⑥保健・医療の充実』『②生活支援の充実』『①情報の普及・啓発の推進』、重複障がい者では、『②生活支援の充実』『③暮らしやすい生活環境の整備』『⑨緊急時の相談、対応の充実』の割合が高くなっています。

## <障がい別>

(%)

	調査数	① 情報の普及・啓発の推進						② 生活支援の充実						③ 暮らしやすい生活環境の整備					
		重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答
全 体	1179	51.9	24.0	9.5	0.8	0.9	12.8	62.2	18.7	7.0	0.6	0.5	10.9	53.4	24.3	8.7	0.8	0.4	12.4
身体障がい者	742	53.2	25.3	9.4	1.1	0.3	10.6	61.5	19.9	8.1	0.7	0.1	9.7	52.7	25.9	9.0	1.1	0.0	11.3
知的障がい者	122	42.6	22.1	11.5	0.0	4.9	18.9	59.0	17.2	4.9	0.0	3.3	15.6	49.2	20.5	9.8	0.0	3.3	17.2
精神障がい者	139	55.4	22.3	11.5	1.4	0.7	8.6	72.7	14.4	5.8	0.0	0.0	7.2	62.6	23.0	7.2	0.0	0.0	7.2
難病患者	90	47.8	23.3	7.8	0.0	1.1	20.0	54.4	22.2	7.8	0.0	1.1	14.4	41.1	30.0	10.0	1.1	1.1	16.7
重複障がい者	69	52.2	20.3	7.2	0.0	1.4	18.8	71.0	13.0	1.4	1.4	0.0	13.0	68.1	11.6	5.8	0.0	0.0	14.5
手帳未所持	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

	調査数	④ 療育、教育環境の充実						⑤ 雇用・就業の推進						⑥ 保健・医療の充実					
		重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答
全 体	1179	39.4	26.7	16.4	1.4	1.4	14.8	42.7	23.6	15.1	2.1	2.2	14.2	65.0	16.7	6.2	0.2	0.6	11.4
身体障がい者	742	36.7	28.8	18.6	1.6	0.9	13.3	42.5	24.8	15.8	2.3	1.9	12.8	66.3	17.3	6.2	0.3	0.1	9.8
知的障がい者	122	45.9	18.0	10.7	0.8	4.1	20.5	41.8	18.9	12.3	2.5	4.9	19.7	55.7	15.6	7.4	0.0	2.5	18.9
精神障がい者	139	47.5	27.3	14.4	0.7	1.4	8.6	52.5	23.7	12.9	2.2	1.4	7.2	65.5	18.0	7.9	0.0	0.0	8.6
難病患者	90	35.6	25.6	14.4	2.2	2.2	20.0	33.3	25.6	16.7	0.0	3.3	21.1	68.9	12.2	5.6	0.0	1.1	12.2
重複障がい者	69	49.3	21.7	10.1	0.0	0.0	18.8	40.6	21.7	15.9	1.4	1.4	18.8	65.2	15.9	2.9	0.0	1.4	14.5
手帳未所持	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0

	調査数	⑦ 情報・コミュニケーション手段の充実						⑧ 市民参加による福祉の推進						⑨ 緊急時の相談、対応の充実					
		重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答
全 体	1179	37.5	30.9	14.4	2.0	1.1	14.1	21.8	28.1	29.3	4.4	2.5	13.9	50.8	24.6	10.4	1.4	0.9	11.9
身体障がい者	742	35.2	33.3	15.9	2.3	0.8	12.5	20.8	28.3	32.1	4.7	2.0	12.1	48.7	26.5	12.7	1.3	0.7	10.1
知的障がい者	122	40.2	25.4	9.8	0.0	4.1	20.5	21.3	27.0	22.1	2.5	5.7	21.3	51.6	19.7	5.7	0.8	3.3	18.9
精神障がい者	139	52.5	25.9	10.1	2.9	0.0	8.6	28.1	25.9	28.8	4.3	4.3	8.6	57.6	23.7	9.4	0.7	0.7	7.9
難病患者	90	25.6	32.2	15.6	3.3	2.2	21.1	20.0	33.3	22.2	4.4	1.1	18.9	45.6	27.8	7.8	2.2	1.1	15.6
重複障がい者	69	44.9	24.6	14.5	0.0	0.0	15.9	24.6	27.5	23.2	4.3	1.4	18.8	68.1	11.6	1.4	2.9	0.0	15.9
手帳未所持	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0

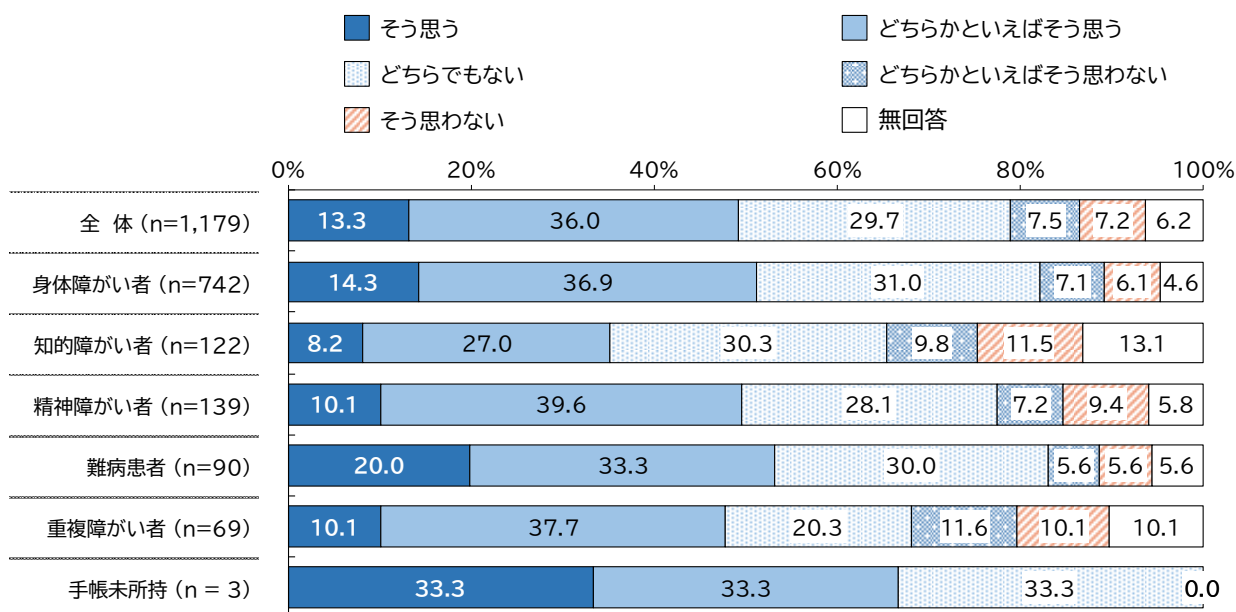
	調査数	⑩ スポーツや芸術文化活動への参加支援の充実					
		重要である	重要である	いどちらとも	重要でない	重要でない	無回答
全 体	1179	15.9	22.8	33.8	7.7	5.8	14.1
身体障がい者	742	15.5	23.5	35.2	8.0	5.5	12.4
知的障がい者	122	16.4	20.5	30.3	3.3	8.2	21.3
精神障がい者	139	22.3	20.1	33.1	7.2	8.6	8.6
難病患者	90	6.7	27.8	33.3	11.1	2.2	18.9
重複障がい者	69	18.8	21.7	29.0	8.7	2.9	18.8
手帳未所持	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0

問 45 大垣市は、障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「どちらかといえばそう思う」が 36.0%と最も多く、次いで「どちらでもない」が 29.7%、「そう思う」が 13.3%の順となっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は 49.3%となっています。  
障がい別にみると、「そう思う」は難病患者で全体より高い割合となっています。

#### <全体・障がい別>



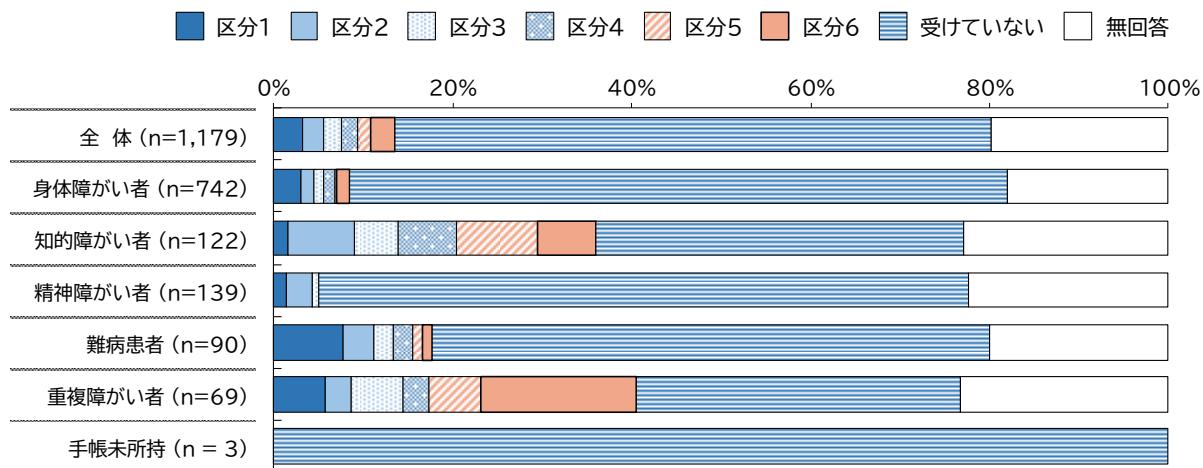
## 10 障害福祉サービス等の利用について

### 問 46 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(あてはまるもの1つに○印)

障害支援区分の認定を受けているかについては、「受けていない」が66.8%と最も多く、次いで「区分1」が3.2%、「区分6」が2.6%の順となっています。

障がい別にみると、「受けていない」は身体障がい者・精神障がい者で全体より高い割合となっています。

#### <全体・障がい別>



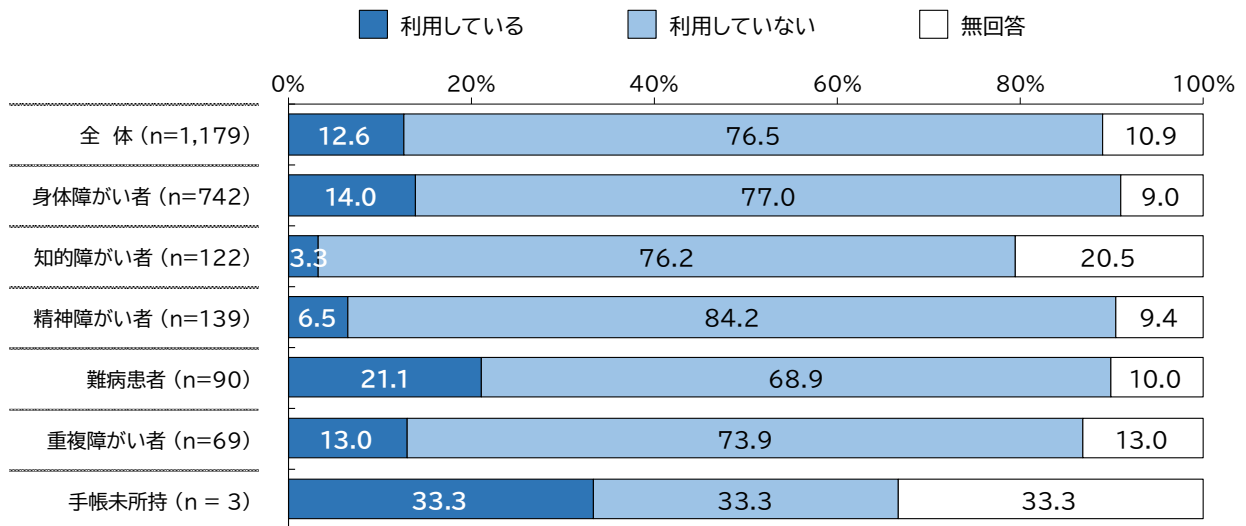
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	無回答
全 体	3.2	2.4	2.0	1.8	1.5	2.6	66.8	19.8
身体障がい者	3.1	1.3	1.2	1.2	0.3	1.3	73.6	17.9
知的障がい者	1.6	7.4	4.9	6.6	9.0	6.6	41.0	23.0
精神障がい者	1.4	2.9	0.7	0.0	0.0	0.0	72.7	22.3
難病患者	7.8	3.3	2.2	2.2	1.1	1.1	62.2	20.0
重複障がい者	5.8	2.9	5.8	2.9	5.8	17.4	36.2	23.2
手帳未所持	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問 47 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

介護保険によるサービスについては、「利用している」が12.6%、「利用していない」が76.5%となっています。

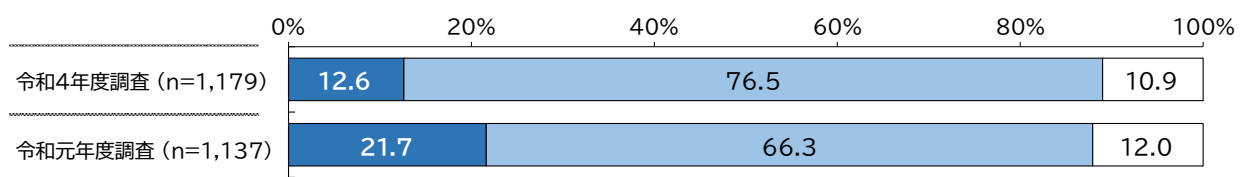
障がい別にみると、「利用している」は難病患者で全体より高い割合となっています。「利用していない」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「利用している」で9.1ポイントの減少となっています。

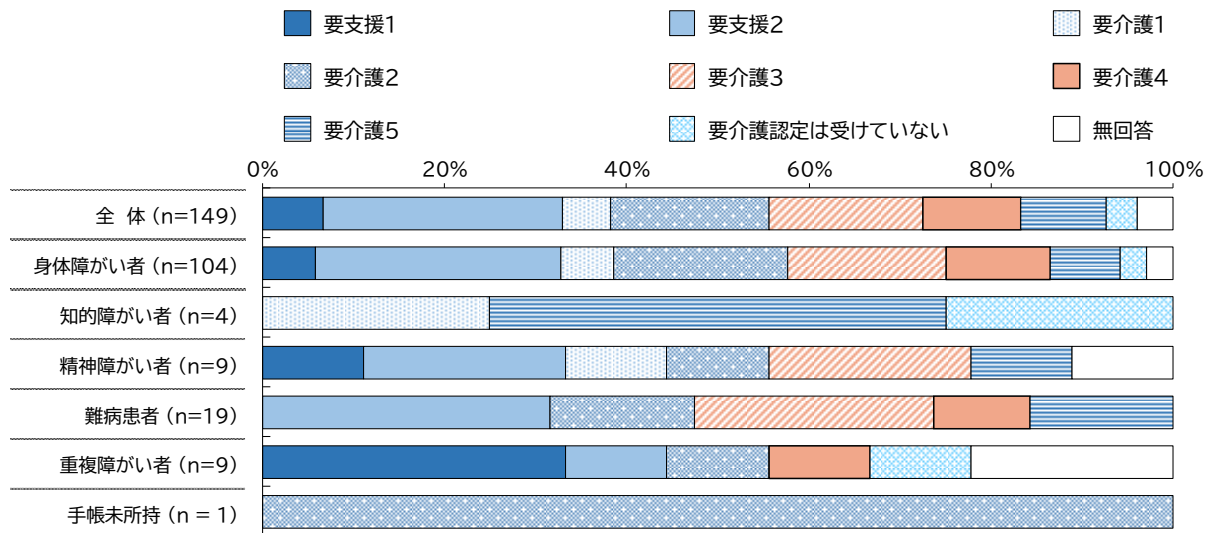
<前回調査との比較>



問47-① 介護保険によるサービスを利用している場合、該当する要介護度はどれですか。  
(あてはまるもの1つに○印)

該当する要介護度については、「要支援2」が26.2%と最も多く、次いで「要介護2」が17.4%、「要介護3」が16.8%の順となっています。

<全体・障がい別>



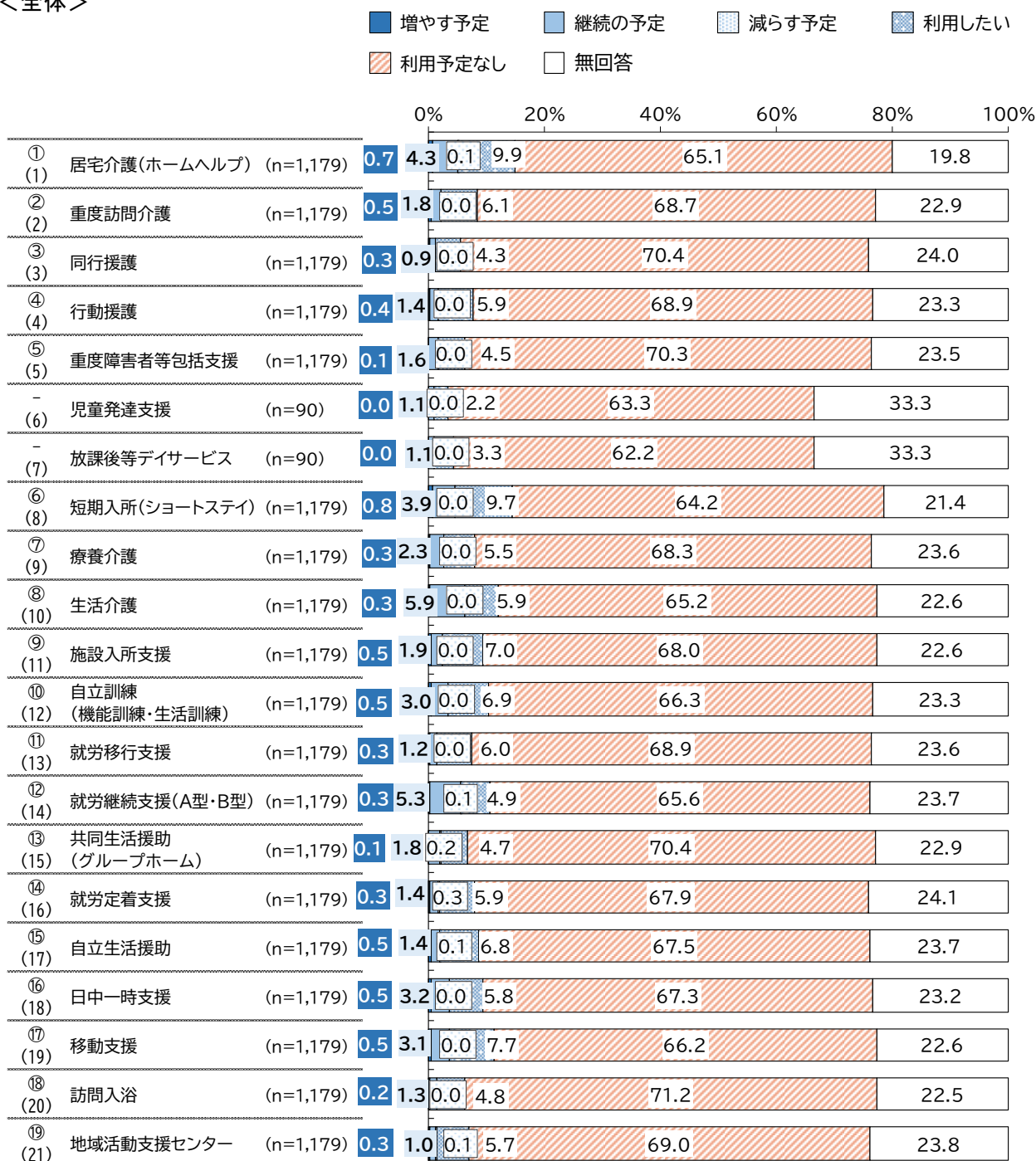
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護認定は受けていない	無回答
全 体	6.7	26.2	5.4	17.4	16.8	10.7	9.4	3.4	4.0
身体障がい者	5.8	26.9	5.8	19.2	17.3	11.5	7.7	2.9	2.9
知的障がい者	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0
精神障がい者	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1
難病患者	0.0	31.6	0.0	15.8	26.3	10.5	15.8	0.0	0.0
重複障がい者	33.3	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2
手帳未所持	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 48 あなたは、次の障害福祉サービスの利用について、現在の利用状況に応じて、今後の利用予定をお答えください。（それぞれあてはまるもの1つに○印を記入）  
また、「（現在利用していないが、）利用したい」と答えた場合、そのサービスの利用を希望する時期を選んで記載してください。

### 【現在の利用状況】

障害福祉サービスの現在の利用状況について、「利用したい」が最も多いのは、『① 居宅介護（ホームヘルプ）』が9.9%、次いで『⑥ 短期入所（ショートステイ）』が9.7%、『⑱ 移動支援』が7.7%の順となっています。

<全体>



※上段：障がい者の項目番号、下段（ ）内：難病患者の項目番号、（6）（7）は難病患者のみの項目

障がい別にみると、「利用したい」は、身体障がい者では、『居宅介護（ホームヘルプ）』『移動支援』、知的障がい者では、『共同生活援助（グループホーム）』『行動援護』、精神障がい者では、『就労移行支援』『就労定着支援』、難病患者では『短期入所（ショートステイ）』『居宅介護（ホームヘルプ）』、重複障がい者では『施設入所支援』『短期入所（ショートステイ）』の割合が高くなっています。

# <障がい別>

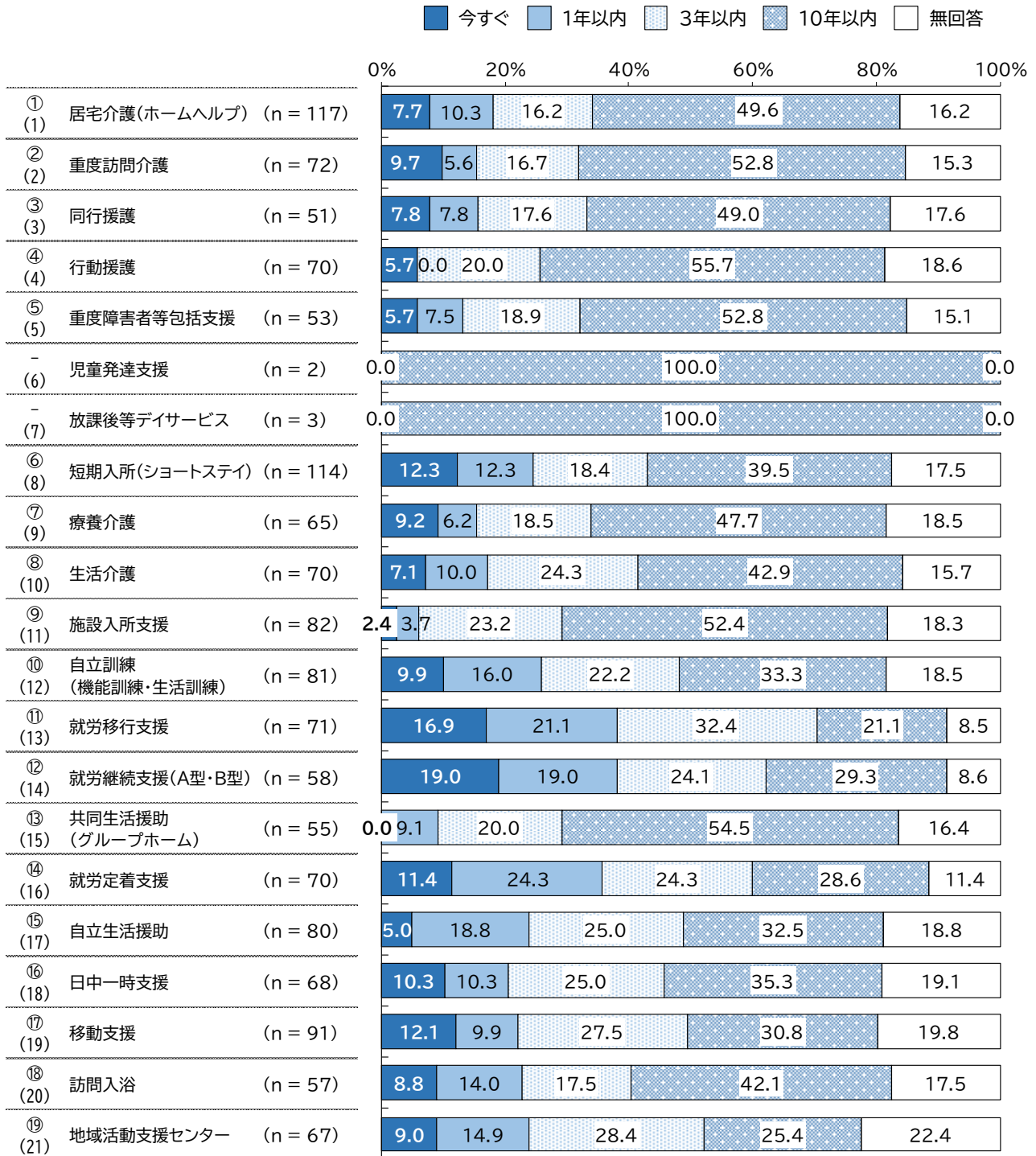
(%)																									
	調査数	① 居宅介護(ホームヘルプ)						② 重度訪問介護						③ 同行援護						④ 行動援護					
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答
全 体	1179	0.7	4.3	0.1	9.9	65.1	19.8	0.5	1.8	0.0	6.1	68.7	22.9	0.3	0.9	0.0	4.3	70.4	24.0	0.4	1.4	0.0	5.9	68.9	23.3
身体障がい者	742	0.5	4.7	0.0	8.6	68.5	17.7	0.3	2.2	0.0	5.9	71.7	19.9	0.1	0.7	0.0	5.1	72.6	21.4	0.0	0.9	0.0	4.3	73.2	21.6
知的障がい者	122	0.0	4.1	0.0	10.7	52.5	32.8	0.0	0.8	0.0	5.7	59.0	34.4	0.0	1.6	0.0	3.3	60.7	34.4	0.0	4.9	0.0	15.6	51.6	27.9
精神障がい者	139	0.0	2.2	0.0	10.8	73.4	13.7	0.0	1.4	0.0	3.6	77.0	18.0	0.7	0.0	0.0	0.7	81.3	17.3	1.4	0.0	0.0	3.6	77.0	18.0
難病患者	90	2.2	5.6	0.0	14.4	56.7	21.1	4.4	1.1	0.0	11.1	57.8	25.6	2.2	2.2	0.0	6.7	60.0	28.9	2.2	2.2	0.0	10.0	56.7	28.9
重複障がい者	69	2.9	4.3	1.4	15.9	52.2	23.2	0.0	1.4	0.0	7.2	59.4	31.9	0.0	2.9	0.0	1.4	63.8	31.9	1.4	2.9	0.0	5.8	60.9	29.0
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	調査数	⑤ 重度障害者等包括支援						⑥ 児童発達支援						⑦ 放課後等デイサービス											
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答						
全 体	1179	0.1	1.6	0.0	4.5	70.3	23.5	90	0.0	1.1	0.0	2.2	63.3	33.3	0.0	1.1	0.0	3.3	62.2	33.3					
身体障がい者	742	0.0	2.0	0.0	4.6	72.8	20.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
知的障がい者	122	0.0	0.0	0.0	4.1	59.8	36.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
精神障がい者	139	0.0	0.7	0.0	4.3	77.0	18.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
難病患者	90	1.1	2.2	0.0	4.4	65.6	26.7	90	0.0	1.1	0.0	2.2	63.3	33.3	0.0	1.1	0.0	3.3	62.2	33.3					
重複障がい者	69	0.0	1.4	0.0	4.3	63.8	30.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	調査数	⑧(8) 短期入所(ショートステイ)						⑨(9) 療養介護						⑩(10) 生活介護						⑪(11) 施設入所支援					
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答
全 体	1179	0.8	3.9	0.0	9.7	64.2	21.4	0.3	2.3	0.0	5.5	68.3	23.6	0.3	5.9	0.0	5.9	65.2	22.6	0.5	1.9	0.0	7.0	68.0	22.6
身体障がい者	742	0.7	2.4	0.0	7.8	70.1	19.0	0.1	2.6	0.0	5.7	71.3	20.4	0.1	3.5	0.0	5.8	70.9	19.7	0.3	1.3	0.0	5.3	72.5	20.6
知的障がい者	122	2.5	9.8	0.0	13.1	41.0	33.6	1.6	1.6	0.0	3.3	58.2	35.2	0.8	18.0	0.0	4.9	43.4	32.8	1.6	4.9	0.0	14.8	47.5	31.1
精神障がい者	139	0.0	0.7	0.0	7.9	76.3	15.1	0.7	1.4	0.0	4.3	76.3	17.3	0.7	1.4	0.0	5.0	74.8	18.0	0.7	0.7	0.0	2.9	78.4	17.3
難病患者	90	1.1	3.3	0.0	16.7	52.2	26.7	0.0	1.1	0.0	8.9	58.9	31.1	0.0	4.4	0.0	10.0	55.6	30.0	0.0	3.3	0.0	7.8	62.2	26.7
重複障がい者	69	1.4	15.9	0.0	17.4	40.6	24.6	0.0	4.3	0.0	5.8	58.0	31.9	1.4	21.7	0.0	5.8	43.5	27.5	1.4	2.9	0.0	18.8	50.7	26.1
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	調査数	⑫(12) 自立訓練(機能訓練・生活訓練)						⑬(13) 就労移行支援						⑭(14) 就労継続支援(A型・B型)						⑮(15) 共同生活援助(グループホーム)					
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答
全 体	1179	0.5	3.0	0.0	6.9	66.3	23.3	0.3	1.2	0.0	6.0	68.9	23.6	0.3	5.3	0.1	4.9	65.6	23.7	0.1	1.8	0.2	4.7	70.4	22.9
身体障がい者	742	0.3	2.2	0.0	6.2	70.5	20.9	0.0	0.3	0.0	4.3	74.7	20.8	0.0	1.8	0.0	3.6	73.5	21.2	0.0	0.5	0.0	2.6	76.3	20.6
知的障がい者	122	0.8	6.6	0.0	6.6	52.5	33.6	0.8	3.3	0.0	4.9	59.0	32.0	0.8	20.5	0.0	5.7	41.8	31.1	0.0	6.6	0.0	16.4	44.3	32.8
精神障がい者	139	0.7	1.4	0.0	7.2	74.1	16.5	1.4	4.3	0.0	17.3	58.3	18.7	2.2	14.4	0.7	10.8	54.7	17.3	0.7	1.4	0.0	3.6	77.7	16.5
難病患者	90	2.2	3.3	0.0	6.7	56.7	31.1	1.1	0.0	0.0	4.4	63.3	31.1	0.0	1.1	0.0	3.3	63.3	32.2	0.0	2.2	0.0	5.6	63.3	28.9
重複障がい者	69	0.0	5.8	0.0	13.0	52.2	29.0	0.0	2.9	0.0	7.2	60.9	29.0	0.0	5.8	0.0	7.2	56.5	30.4	0.0	7.2	2.9	8.7	55.1	26.1
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3
	調査数	⑯(16) 就労定着支援						⑰(17) 自立生活援助						⑱(18) 日中一時支援						⑲(19) 移動支援					
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答
全 体	1179	0.3	1.4	0.3	5.9	67.9	24.1	0.5	1.4	0.1	6.8	67.5	23.7	0.5	3.2	0.0	5.8	67.3	23.2	0.5	3.1	0.0	7.7	66.2	22.6
身体障がい者	742	0.0	0.3	0.1	4.4	73.7	21.4	0.3	0.8	0.0	4.4	73.2	21.3	0.3	0.9	0.0	5.0	73.6	20.2	0.4	1.3	0.0	8.4	69.7	20.2
知的障がい者	122	0.8	5.7	0.8	6.6	52.5	33.6	0.0	4.9	0.8	10.7	51.6	32.0	0.0	14.8	0.0	9.8	43.4	32.0	0.8	8.2	0.0	9.0	49.2	32.8
精神障がい者	139	2.2	3.6	0.7	15.8	59.7	18.0	1.4	2.9	0.0	15.1	64.0	16.5	1.4	0.7	0.0	2.9	76.3	18.7	0.7	1.4	0.0	2.9	77.7	17.3
難病患者	90	0.0	1.1	0.0	2.2	65.6	31.1	1.1	1.1	0.0	4.4	62.2	31.1	1.1	0.0	0.0	8.9	57.8	32.2	1.1	3.3	0.0	8.9	54.4	32.2
重複障がい者	69	0.0	2.9	0.0	7.2	59.4	30.4	0.0	0.0	0.0	11.6	56.5	31.9	1.4	17.4	0.0	8.7	42.0	30.4	0.0	15.9	0.0	7.2	58.0	18.8
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	調査数	⑳(20) 訪問入浴						㉑(21) 地域活動支援センター																	
		増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答	増やす予定	継続の予定	減らす予定	利用したい	なし利用予定	無回答												
全 体	1179	0.2	1.3	0.0	4.8	71.2	22.5	0.3	1.0	0.1	5.7	69.0	23.8												
身体障がい者	742	0.0	1.2	0.0	5.3	74.1	19.4	0.1	0.8	0.1	4.4	73.3	21.2												
知的障がい者	122	0.0	1.6	0.0	3.3	61.5	33.6	0.0	2.5	0.0	10.7	54.1	32.8												
精神障がい者	139	0.7	0.0	0.0	1.4	80.6	17.3	1.4	0.7	0.0	5.0	73.4	19.4												
難病患者	90	0.0	3.3	0.0	7.8	55.6	33.3	1.1	0.0	0.0	6.7	58.9	33.3												
重複障がい者	69	1.4	1.4	0.0	5.8	68.1	23.2	0.0	2.9	0.0	10.1	62.3	24.6												
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3												



## 【利用希望時期】

障害福祉サービスの利用希望時期について、「今すぐ」が最も多いのは、『⑫ 就労継続支援（A型・B型）』が19.0%、次いで『⑪ 就労移行支援』が16.9%、『⑥ 短期入所（ショートステイ）』が12.3%の順となっています。

### <全体>



※上段：障がい者の項目番号、下段（ ）内：難病患者の項目番号、(6)(7)は難病患者のみの項目



障がい別にみると、「今すぐ」は、身体障がい者では、『就労継続支援（Ａ型・Ｂ型）』『就労移行支援』、知的障がい者では、『生活介護』『日中一時支援』、精神障がい者では、『重度障害者等包括支援』『短期入所（ショートステイ）』、難病患者では、『施設入所支援』『短期入所（ショートステイ）』、重複障がい者では、『就労継続支援（Ａ型・Ｂ型）』『訪問入浴』の割合が高くなっています。

# <障がい別>

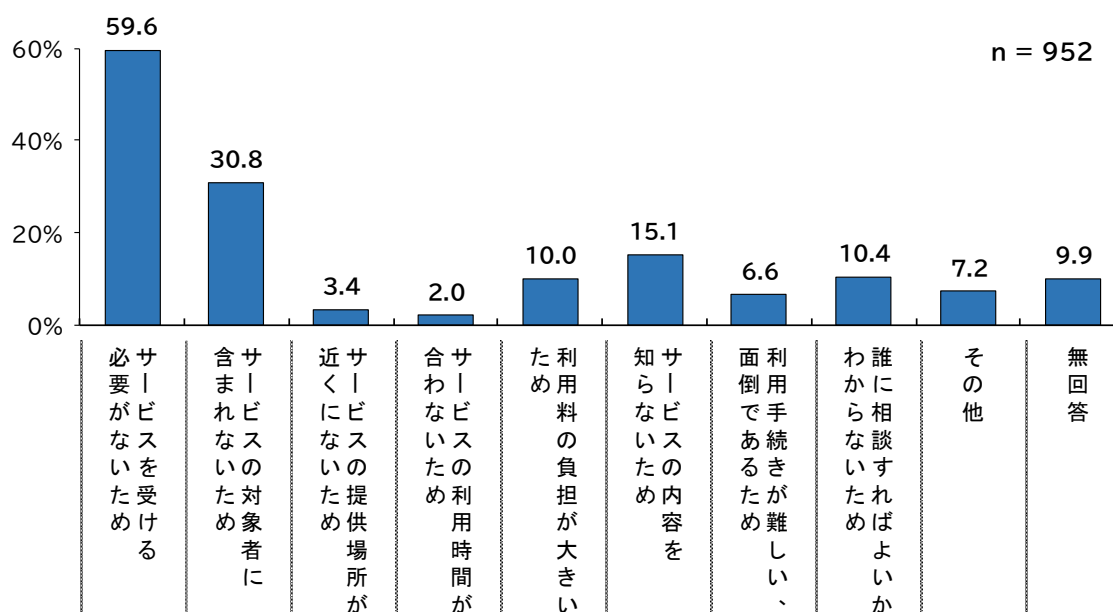
(%)

	調査数	①(1) 居宅介護(ホームヘルプ)					調査数	②(2) 重度訪問介護					調査数	③(3) 同行支援					調査数	④(4) 行動支援				
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	117	7.7	10.3	16.2	49.6	16.2	72	9.7	5.6	16.7	52.8	15.3	51	7.8	7.8	17.6	49.0	17.6	70	5.7	0.0	20.0	55.7	18.6
身体障がい者	64	4.7	7.8	21.9	45.3	20.3	44	11.4	2.3	13.6	56.8	15.9	38	10.5	7.9	21.1	42.1	18.4	32	6.3	0.0	25.0	43.8	25.0
知的障がい者	13	0.0	23.1	7.7	53.8	15.4	7	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	4	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	19	10.5	0.0	21.1	63.2	5.3
精神障がい者	15	20.0	6.7	6.7	53.3	13.3	5	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	5	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0
難病患者	13	7.7	23.1	7.7	61.5	0.0	10	0.0	10.0	30.0	50.0	10.0	6	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	9	0.0	0.0	11.1	77.8	11.1
重複障がい者	11	18.2	0.0	18.2	54.5	9.1	5	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0
手帳未所持	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	調査数	⑤(5) 重度障害者等包括支援					調査数	⑥(6) 児童発達支援					調査数	⑦(7) 放課後等デイサービス					調査数	⑧(8) 短期入所(ショートステイ)				
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	53	5.7	7.5	18.9	52.8	15.1	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	114	12.3	12.3	18.4	39.5	17.5
身体障がい者	34	2.9	5.9	29.4	47.1	14.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58	10.3	5.2	20.7	43.1	20.7
知的障がい者	5	0.0	20.0	0.0	60.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	12.5	37.5	25.0	12.5	12.5
精神障がい者	6	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	27.3	27.3	0.0	27.3	18.2
難病患者	4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	15	13.3	6.7	20.0	60.0	0.0
重複障がい者	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	8.3	8.3	16.7	41.7	25.0
手帳未所持	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	調査数	⑨(9) 療養介護					調査数	⑩(10) 生活介護					調査数	⑪(11) 施設入所支援					調査数	⑫(12) 自立訓練 (機能訓練・生活訓練)				
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	65	9.2	6.2	18.5	47.7	18.5	70	7.1	10.0	24.3	42.9	15.7	82	2.4	3.7	23.2	52.4	18.3	81	9.9	16.0	22.2	33.3	18.5
身体障がい者	42	11.9	2.4	23.8	45.2	16.7	43	4.7	4.7	27.9	46.5	16.3	39	0.0	2.6	30.8	48.7	17.9	46	13.0	6.5	28.3	37.0	15.2
知的障がい者	4	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	6	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0	18	0.0	11.1	38.9	44.4	5.6	8	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5
精神障がい者	6	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	7	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	4	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	10	10.0	30.0	20.0	10.0	30.0
難病患者	8	0.0	12.5	12.5	75.0	0.0	9	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1	7	14.3	0.0	0.0	71.4	14.3	6	0.0	16.7	0.0	66.7	16.7
重複障がい者	4	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	4	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	13	7.7	0.0	0.0	61.5	30.8	9	0.0	22.2	22.2	33.3	22.2
手帳未所持	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	調査数	⑬(13) 就労移行支援					調査数	⑭(14) 就労継続支援(A型・B型)					調査数	⑮(15) 共同生活援助 (グループホーム)					調査数	⑯(16) 就労定着支援				
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	71	16.9	21.1	32.4	21.1	8.5	58	19.0	19.0	24.1	29.3	8.6	55	0.0	9.1	20.0	54.5	16.4	70	11.4	24.3	24.3	28.6	11.4
身体障がい者	32	25.0	18.8	37.5	15.6	3.1	27	25.9	11.1	33.3	22.2	7.4	19	0.0	0.0	31.6	47.4	21.1	33	21.2	18.2	21.2	27.3	12.1
知的障がい者	4	0.0	33.3	16.7	16.7	33.3	7	0.0	57.1	0.0	14.3	28.6	20	0.0	25.0	15.0	40.0	20.0	8	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0
精神障がい者	24	12.5	20.8	37.5	20.8	8.3	15	13.3	20.0	26.7	40.0	0.0	5	0.0	0.0	0.0	80.0	20.0	22	0.0	22.7	36.4	27.3	13.6
難病患者	4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	5	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
重複障がい者	5	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	6	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0	5	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0
手帳未所持	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	調査数	⑰(17) 自立生活援助					調査数	⑱(18) 日中一時支援					調査数	⑲(19) 移動支援					調査数	⑳(20) 訪問入浴				
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	80	5.0	18.8	25.0	32.5	18.8	68	10.3	10.3	25.0	35.3	19.1	91	12.1	9.9	27.5	30.8	19.8	57	8.8	14.0	17.5	42.1	17.5
身体障がい者	33	12.1	12.1	27.3	30.3	18.2	37	10.8	8.1	24.3	35.1	21.6	62	16.1	9.7	25.8	27.4	21.0	39	10.3	10.3	20.5	41.0	17.9
知的障がい者	13	0.0	38.5	23.1	15.4	23.1	12	16.7	25.0	16.7	25.0	16.7	11	0.0	9.1	36.4	45.5	9.1	4	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
精神障がい者	21	0.0	19.0	23.8	38.1	19.0	4	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	4	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
難病患者	4	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	8	0.0	12.5	37.5	50.0	0.0	8	0.0	12.5	37.5	37.5	12.5	7	0.0	28.6	0.0	57.1	14.3
重複障がい者	8	0.0	25.0	12.5	50.0	12.5	6	16.7	0.0	33.3	33.3	16.7	5	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	4	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
手帳未所持	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	調査数	㉑(21) 地域活動支援センター																						
		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答		今すぐ	1年以内	3年以内	10年以内	無回答
全 体	67	9.0	14.9	28.4	25.4	22.4																		
身体障がい者	33	9.1	9.1	39.4	18.2	24.2																		
知的障がい者	13	15.4	23.1	30.8	7.7	23.1																		
精神障がい者	7	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3																		
難病患者	6	0.0	16.7	0.0	66.7	16.7																		
重複障がい者	7	0.0	28.6	14.3	42.9	14.3																		
手帳未所持	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0																		

問 49 サービスの利用予定がない理由は何ですか。(主なものに3つまで○印)

サービスの利用予定がない理由については、「サービスを受ける必要がないため」が59.6%と最も多く、次いで「サービスの対象者に含まれないため」が30.8%、「サービスの内容を知らないため」が15.1%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「サービスの内容を知らないため」は重複障がい者で、「利用手続きが難しい、面倒であるため」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	サービスの提供場所以外にないため	サービスの利用時間と合わないため	利用料の負担が大きい	(%)
全 体	952	59.6	30.8	3.4	2.0	10.0	
身体障がい者	615	65.7	31.2	3.4	0.7	8.8	
知的障がい者	86	40.7	29.1	3.5	5.8	8.1	
精神障がい者	121	56.2	25.6	5.8	3.3	14.0	
難病患者	67	59.7	35.8	0.0	1.5	11.9	
重複障がい者	54	29.6	33.3	1.9	7.4	14.8	
手帳未所持	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	

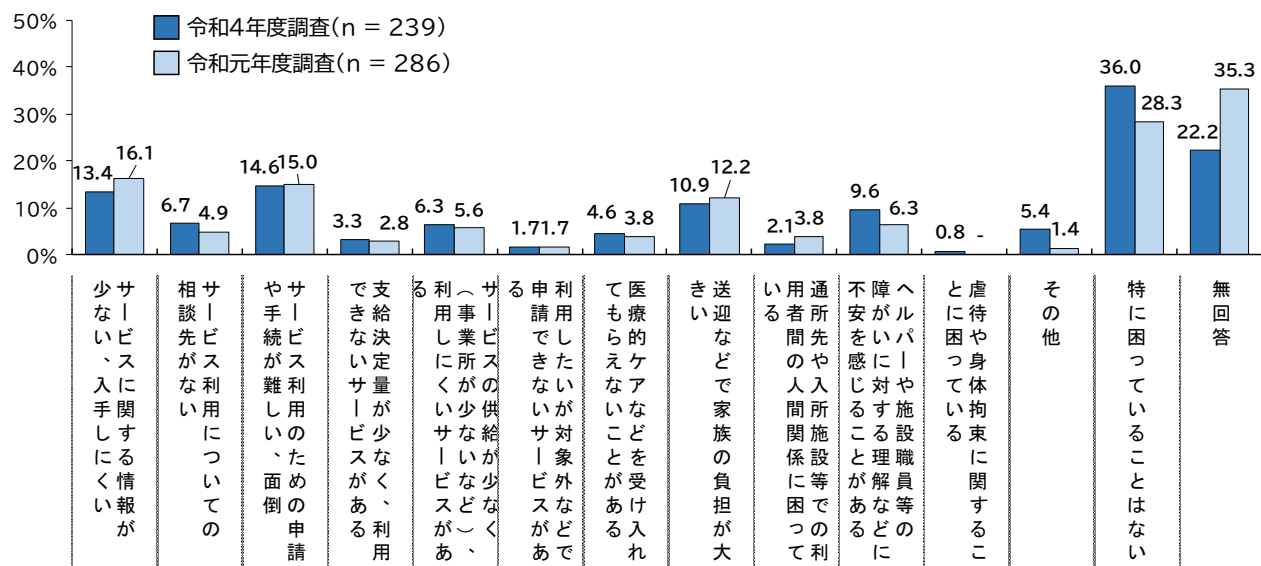
	調査数	サービスの内容を知らないため	利用手続きが難しい、面倒であるため	誰に相談すればよいかわからないため	その他	無回答	(%)
全 体	952	15.1	6.6	10.4	7.2	9.9	
身体障がい者	615	13.2	5.2	7.0	7.8	8.0	
知的障がい者	86	19.8	14.0	18.6	9.3	14.0	
精神障がい者	121	19.0	8.3	19.8	3.3	9.1	
難病患者	67	9.0	4.5	10.4	6.0	19.4	
重複障がい者	54	27.8	11.1	16.7	7.4	14.8	
手帳未所持	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

## 問 50 サービスの利用で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

サービスの利用で困っていることについては、「特に困っていることはない」が 36.0%と最も多く、次いで「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」が 14.6%、「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」が 13.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「ヘルパーや施設職員等の障がいに対する理解などに不安を感じることもある」で 3.3 ポイントの増加となっています。

### <全体・前回調査との比較>



障がい別にみると、「サービス利用についての相談先がない」は精神障がい者で、「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」は精神障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

### <障がい別>

	調査数	サービスに関する情報が少ない、入手しにくい	サービス利用についての相談先がない	サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒	支給決定量が少なく、利用できないサービスがある	サービスの供給が少なく(事業所が少ないなど)、利用しにくいサービスがある	利用したいが対象外などで申請できないサービスがある	医療的ケアなどを受け入れてもらえないことがある
全 体	239	13.4	6.7	14.6	3.3	6.3	1.7	4.6
身体障がい者	90	13.3	4.4	11.1	3.3	4.4	2.2	7.8
知的障がい者	63	9.5	3.2	12.7	0.0	4.8	1.6	1.6
精神障がい者	39	17.9	17.9	20.5	5.1	7.7	0.0	2.6
難病患者	12	8.3	8.3	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0
重複障がい者	33	18.2	6.1	24.2	3.0	12.1	3.0	6.1
手帳未所持	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

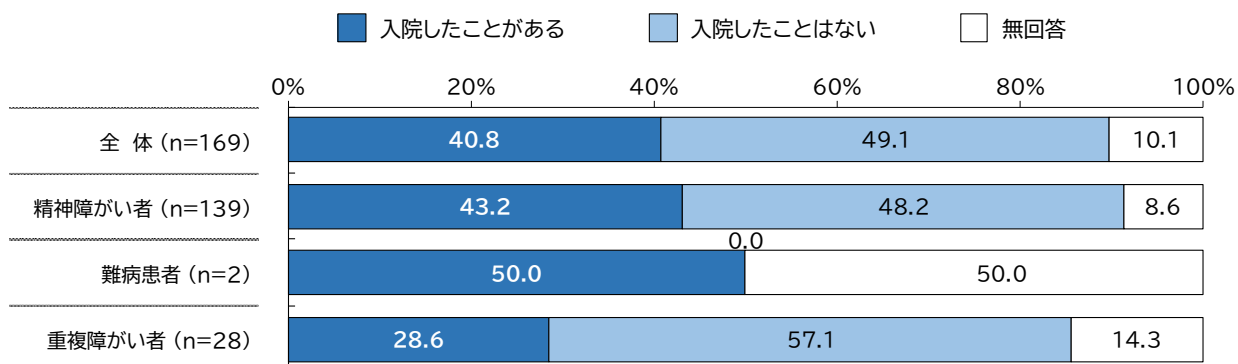
  

	調査数	送迎などで家族の負担が大きい	通所先や入所施設等での利用者間の人間関係に困っている	ヘルパーや施設職員等の障がいに対する理解などに不安を感じることもある	虐待や身体拘束に関することに困っている	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	239	10.9	2.1	9.6	0.8	5.4	36.0	22.2
身体障がい者	90	8.9	1.1	8.9	1.1	5.6	40.0	24.4
知的障がい者	63	15.9	1.6	9.5	0.0	4.8	34.9	23.8
精神障がい者	39	0.0	2.6	10.3	0.0	5.1	51.3	2.6
難病患者	12	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	16.7	41.7
重複障がい者	33	18.2	3.0	9.1	0.0	9.1	18.2	27.3
手帳未所持	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 51 あなたは、精神障がいが原因で入院されたことがありますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

精神障がいが原因で入院したことがあるかについては、「入院したことがある」が 40.8%、「入院したことがない」が 49.1%となっています。

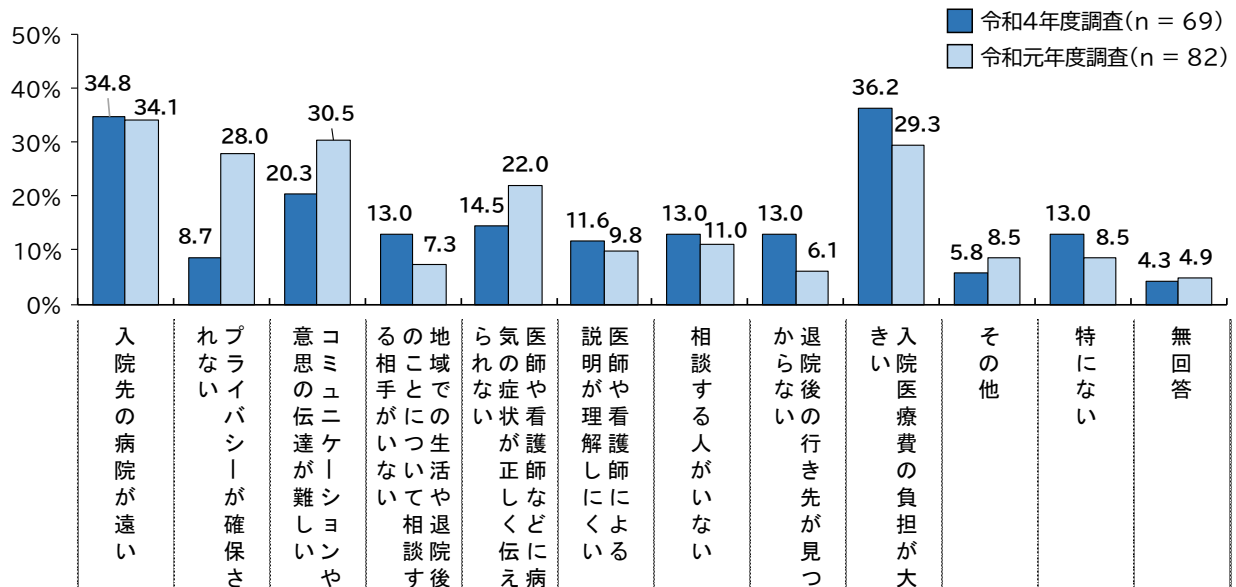
<全体・障がい別>



問 51-① 入院したときに、主に困ったことは何ですか。(主なものに3つまで○印)

入院時に困ったことについては、「入院医療費の負担が大きい」が36.2%と最も多く、次いで「入院先の病院が遠い」が34.8%、「コミュニケーションや意思の伝達が難しい」が20.3%の順となっています。

<全体・前回調査との比較>



<障がい別>

	調査数	入院先の病院が遠い	プライバシーが確保されない	コミュニケーションや意思の伝達が難しい	地域での生活や退院後のことについて相談する相手がいない	医師や看護師などに病気の症状が正しく伝えられない	医師や看護師による説明が理解しにくい
全 体	69	34.8	8.7	20.3	13.0	14.5	11.6
精神障がい者	60	36.7	10.0	20.0	13.3	13.3	11.7
難病患者	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重複障がい者	8	12.5	0.0	25.0	12.5	25.0	12.5

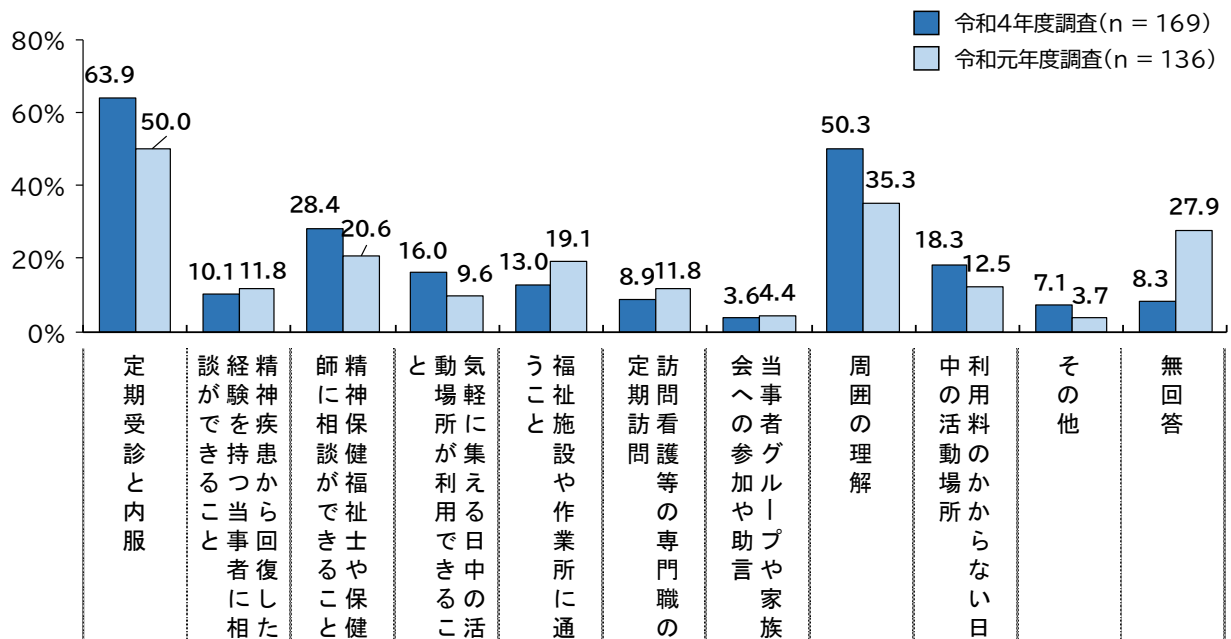
  

	調査数	相談する人がいない	退院後の行き先が見つからない	入院医療費の負担が大きい	その他	特になし	無回答
全 体	69	13.0	13.0	36.2	5.8	13.0	4.3
精神障がい者	60	11.7	10.0	36.7	6.7	13.3	3.3
難病患者	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
重複障がい者	8	25.0	37.5	37.5	0.0	12.5	12.5

問 52 あなたは精神疾患を抱える人々が病気を悪化させず、地域で安定して暮らすには何が必要だと思いますか。（主なものに3つまで○印）

精神疾患を抱える人々が地域で安定して暮らすために必要なことについては、「定期受診と内服」が63.9%と最も多く、次いで「周囲の理解」が50.3%、「精神保健福祉士や保健師に相談ができること」が28.4%の順となっています。

<全体・前回調査との比較>



<障がい別>

	調査数	定期受診と内服	精神疾患から回復した経験を持つ当事者や家族への参加や助言	精神保健福祉士や保健師に相談ができること	気軽に集える日中の活動場所	福祉施設や作業所に通うこと	訪問看護等の専門職の定期訪問
全 体	169	63.9	10.1	28.4	16.0	13.0	8.9
精神障がい者	139	64.7	10.8	28.1	16.5	10.8	10.1
難病患者	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
重複障がい者	28	60.7	7.1	32.1	10.7	25.0	3.6

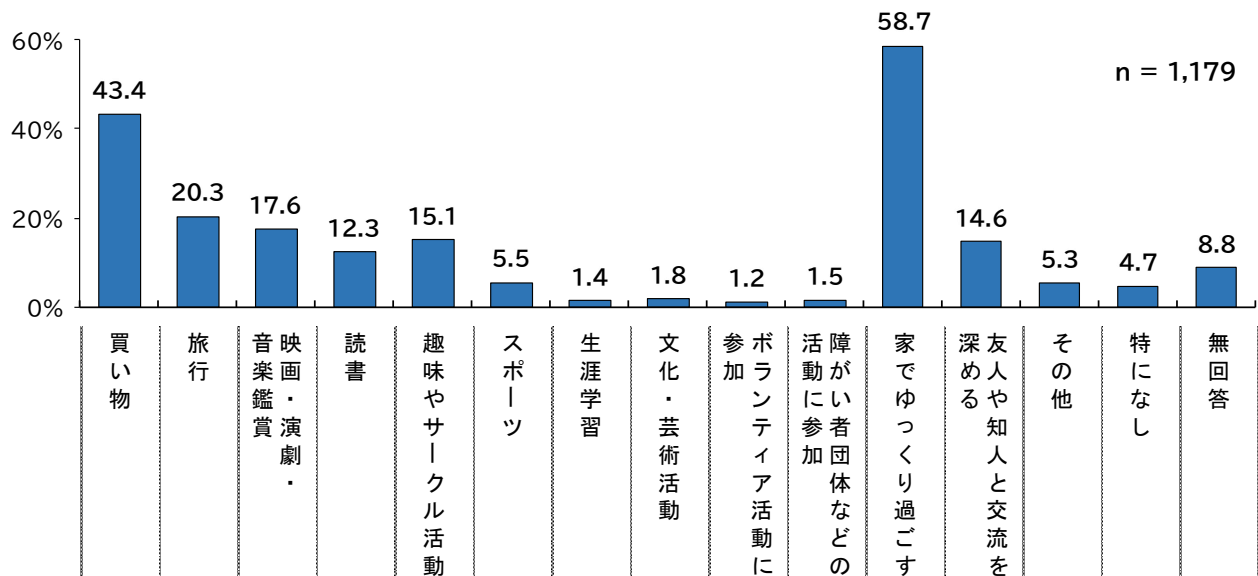
	調査数	当事者グループや家族会への参加や助言	周囲の理解	利用料のかからない日中の活動場所	その他	無回答
全 体	169	3.6	50.3	18.3	7.1	8.3
精神障がい者	139	3.6	51.1	18.7	8.6	6.5
難病患者	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
重複障がい者	28	3.6	46.4	14.3	0.0	17.9

## 11 余暇活動について

問 53 あなたは余暇に何をして過ごしたいですか。(主なものに3つまで○印)

余暇の過ごし方については、「家でゆっくり過ごす」が58.7%と最も多く、次いで「買い物」が43.4%、「旅行」が20.3%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「映画・演劇・音楽鑑賞」「家でゆっくり過ごす」は精神障がい者・難病患者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	買い物	旅行	映画・演劇・音楽鑑賞	読書	趣味やサークル活動	スポーツ	生涯学習	文化・芸術活動
全 体	1179	43.4	20.3	17.6	12.3	15.1	5.5	1.4	1.8
身体障がい者	742	45.8	24.0	17.0	12.7	17.0	6.3	2.0	1.6
知的障がい者	122	46.7	13.1	13.1	6.6	4.9	2.5	0.0	1.6
精神障がい者	139	30.9	12.2	24.5	15.8	16.5	5.0	0.7	2.9
難病患者	90	41.1	16.7	24.4	14.4	17.8	6.7	0.0	2.2
重複障がい者	69	40.6	13.0	13.0	8.7	8.7	0.0	1.4	0.0
手帳未所持	3	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

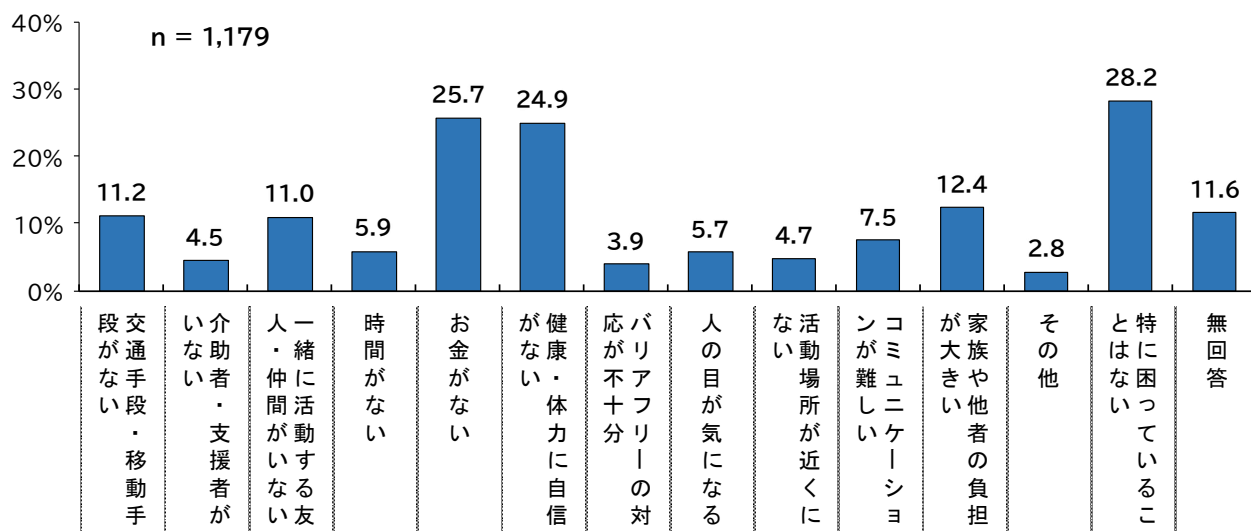
  

	調査数	ボランティア活動に参加	障がい者団体などの活動に参加	家でゆっくり過ごす	友人や知人と交流を深める	その他	特になし	無回答
全 体	1179	1.2	1.5	58.7	14.6	5.3	4.7	8.8
身体障がい者	742	1.6	1.5	57.1	17.1	5.1	3.2	8.2
知的障がい者	122	0.0	2.5	60.7	6.6	5.7	8.2	13.1
精神障がい者	139	0.0	0.7	64.7	9.4	5.0	7.9	4.3
難病患者	90	2.2	1.1	62.2	18.9	3.3	4.4	7.8
重複障がい者	69	0.0	1.4	58.0	8.7	10.1	8.7	14.5
手帳未所持	3	0.0	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0

問 54 余暇を楽しむために、困っていることがあれば教えてください。  
(主なものに3つまで○印)

余暇を楽しむために困っていることについては、「特に困っていることはない」が28.2%と最も多く、次いで「お金がない」が25.7%、「健康・体力に自信がない」が24.9%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「お金がない」「人の目が気になる」は精神障がい者で、「コミュニケーションが難しい」は知的障がい者で、「家族や他者の負担が大きい」は重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	交通手段・移動手段がない	介助者・支援者がいない	一緒に活動する友人・仲間がいない	時間がない	お金がない	健康・体力に自信がない	バリアフリーの対応が不十分	(%)
全 体	1179	11.2	4.5	11.0	5.9	25.7	24.9	3.9	
身体障がい者	742	10.6	3.6	8.8	6.6	24.7	26.4	5.3	
知的障がい者	122	13.1	9.0	20.5	4.1	13.1	7.4	0.0	
精神障がい者	139	14.4	5.0	18.0	5.8	43.2	30.9	0.0	
難病患者	90	11.1	4.4	8.9	6.7	22.2	32.2	4.4	
重複障がい者	69	7.2	5.8	5.8	1.4	27.5	15.9	4.3	
手帳未所持	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	

	調査数	人の目が気になる	活動場所が近くにない	コミュニケーションが難しい	家族や他者の負担が大きい	その他	特に困っていることはない	無回答	(%)
全 体	1179	5.7	4.7	7.5	12.4	2.8	28.2	11.6	
身体障がい者	742	3.8	4.2	4.6	11.1	2.6	31.8	10.5	
知的障がい者	122	7.4	4.9	21.3	18.9	4.9	25.4	15.6	
精神障がい者	139	15.8	5.0	12.2	7.9	4.3	19.4	5.8	
難病患者	90	0.0	8.9	1.1	8.9	1.1	23.3	15.6	
重複障がい者	69	10.1	5.8	14.5	30.4	1.4	23.2	18.8	
手帳未所持	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	



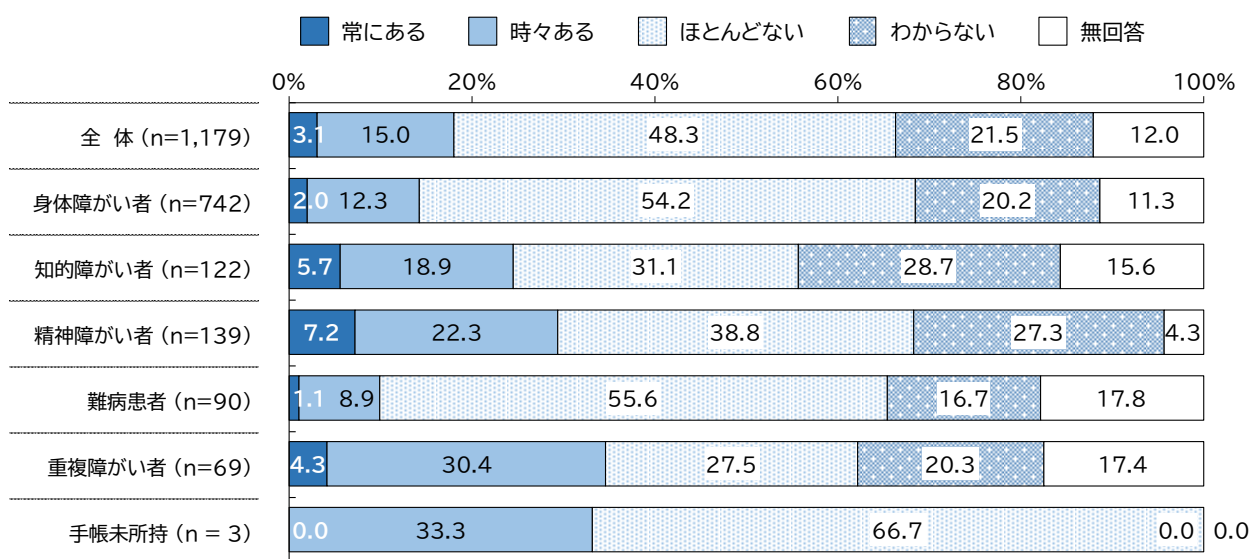
## 12 差別解消と権利擁護について

問 55 あなたが日常生活の中で、偏見の目で見られたり、差別を受けたと感じることはありますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

日常生活の中での偏見や差別については、「ほとんどない」が 48.3%と最も多く、次いで「わからない」が 21.5%、「時々ある」が 15.0%の順となっています。

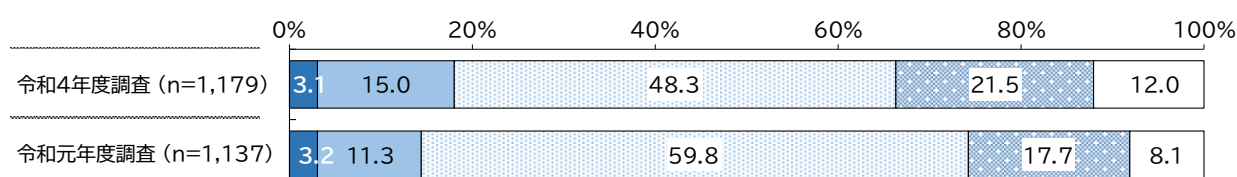
障がい別にみると、「ほとんどない」は身体障がい者・難病患者で、「時々ある」は精神障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

### <全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「時々ある」が 3.7 ポイントの増加となっています。

### <前回調査との比較>

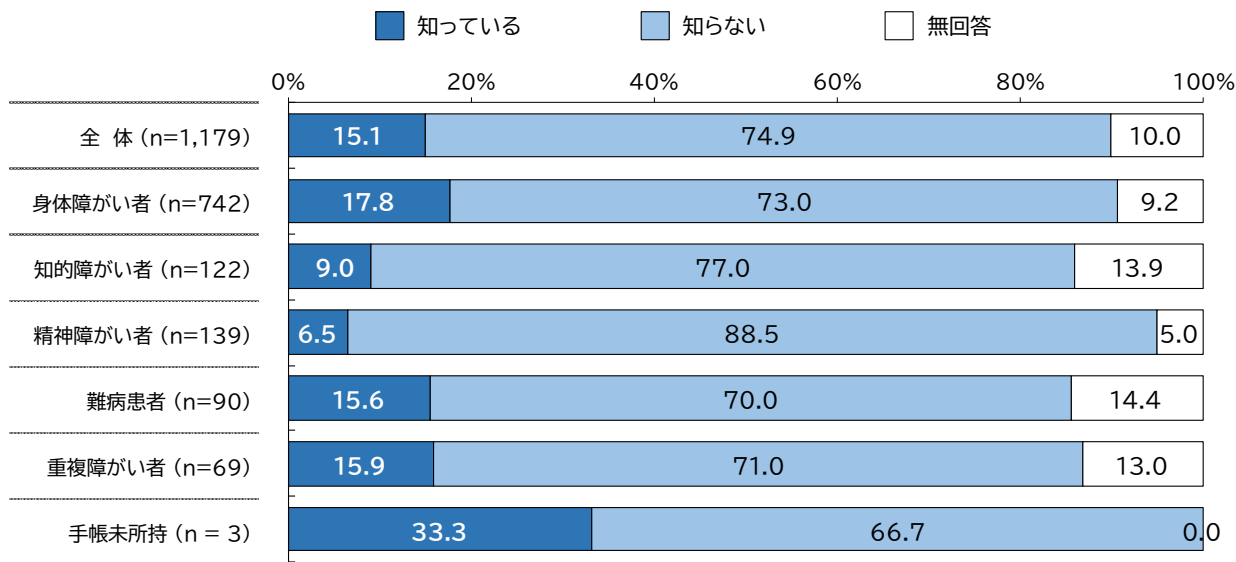


問 56 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について知っていますか。（あてはまるもの1つに○印）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については、「知っている」が15.1%、「知らない」が74.9%となっています。

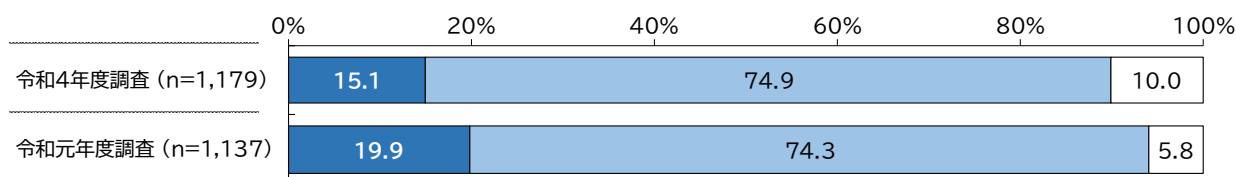
障がい別にみると、「知らない」は精神障がい者で全体より高い割合となっています。

<全体・障がい別>



前回の調査と比較すると、「知っている」が4.8ポイントの減少となっています。

<前回調査との比較>

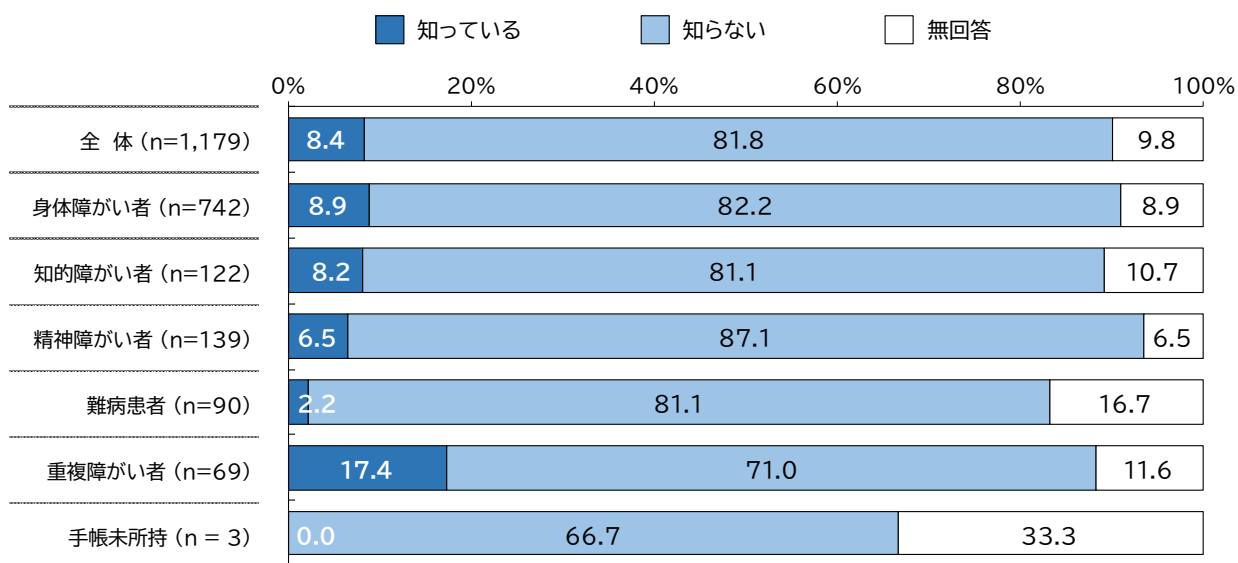


問 57 障がいのある方への虐待に関する相談窓口として、大垣市障がい者虐待防止センターを設置していますが、あなたはこのことを知っていますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

大垣市障がい者虐待防止センターについては、「知っている」が8.4%、「知らない」が81.8%となっています。

障がい別にみると、「知っている」は重複障がい者で全体より高くなっています。

#### <全体・障がい別>

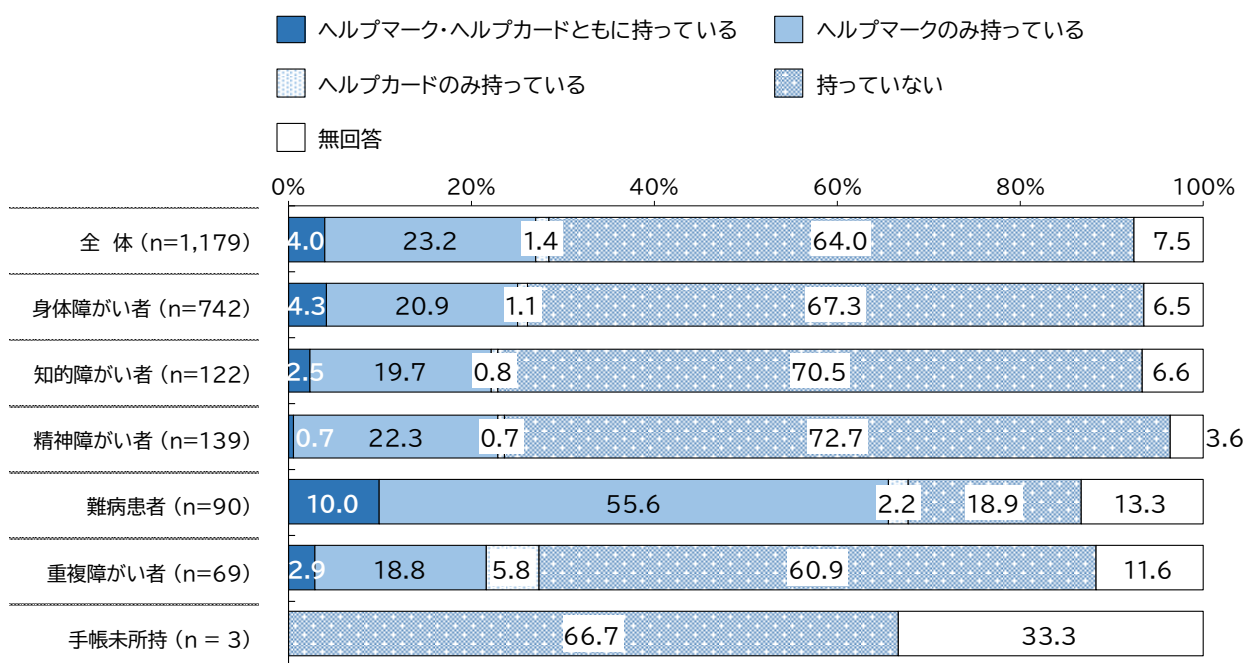


問 58 あなたはヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

ヘルプマーク・ヘルプカードについては、「持っていない」が 64.0%と最も多く、次いで「ヘルプマークのみ持っている」が 23.2%、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに持っている」が 4.0%の順となっています。

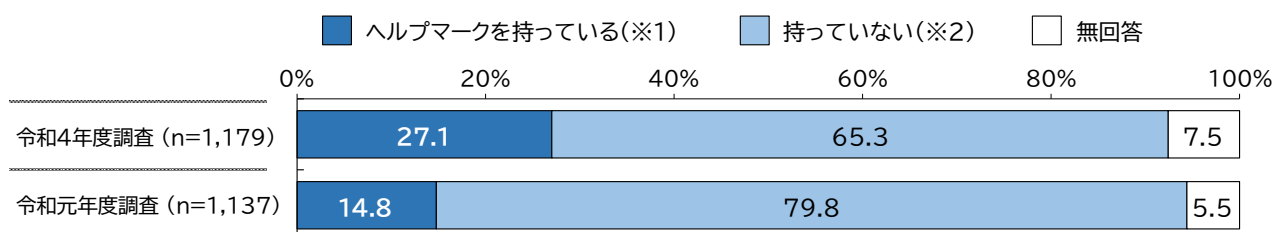
障がい別にみると、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに持っている」「ヘルプマークのみ持っている」は難病患者で全体より高くなっています。

<全体・障がい別>



ヘルプマークを持っているかについて、前回の調査と比較すると、「ヘルプマークを持っている」が 12.3 ポイントの増加となっています。

<前回調査との比較>



(※1) 令和4年度調査では、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに持っている」と「ヘルプマークのみ持っている」を選択した方の合計。

(※2) 令和4年度調査では、「ヘルプカードのみ持っている」と「持っていない」を選択した方の合計。

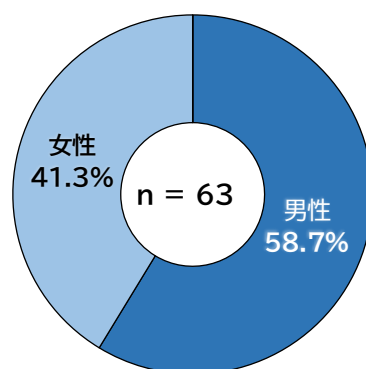
## 第3章 障がい児

### 1 福祉サービスを利用しているお子様について

問1 性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

性別は、「男性」が58.7%、「女性」が41.3%となっています。

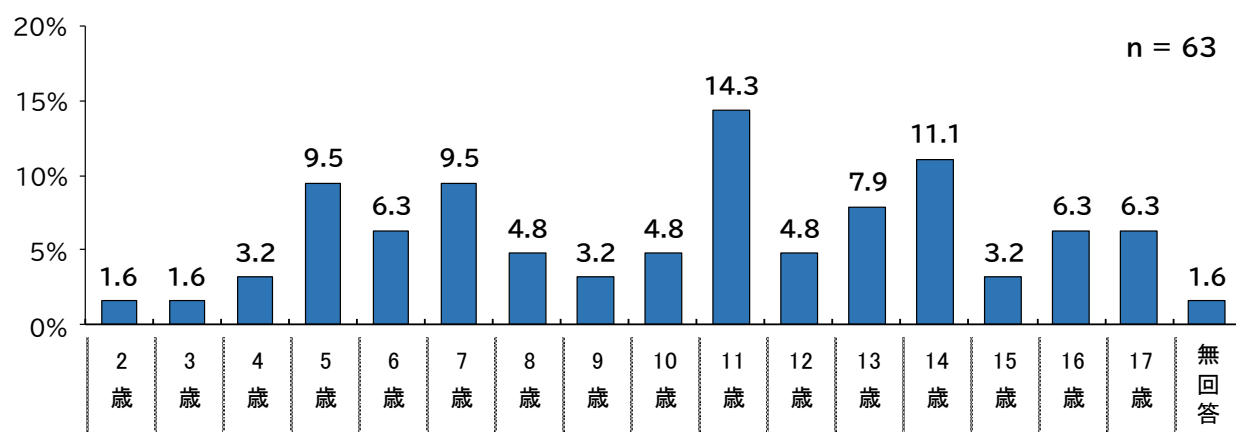
<全体>



問2 年齢をお答えください。(数字で記入)

年齢は、「11歳」が14.3%と最も多く、次いで「14歳」が11.1%、「5歳」「7歳」が9.5%の順となっています。

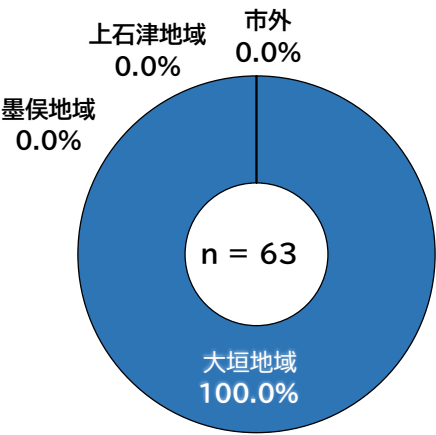
<全体>



問3 お住まいの地域はどこですか。(あてはまるもの1つに○印)

居住地域は、「大垣地域」が100%となっています。

<全体>

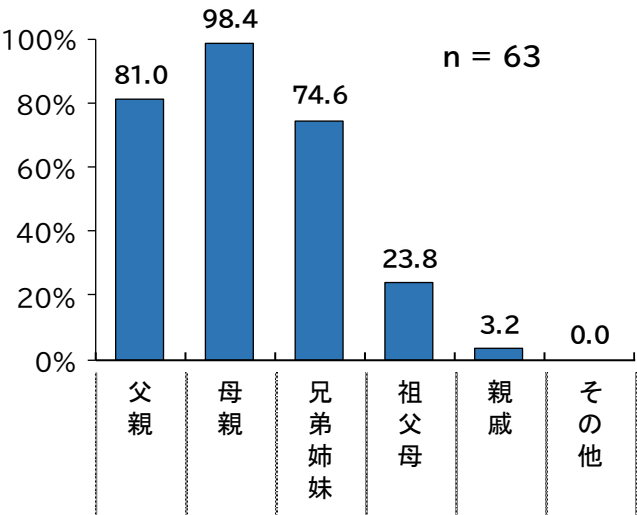


問4 家族の世帯状況をお答えください。(一緒に暮らしている家族全てに○印)

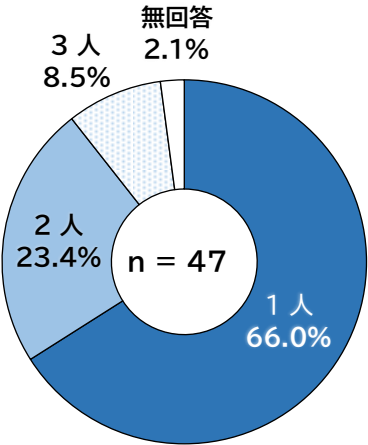
家族の世帯状況については、「母親」が98.4%と最も多く、次いで「父親」が81.0%、「兄弟姉妹」が74.6%の順となっています。

兄弟の人数は、「1人」が66.0%と最も多く、次いで「2人」が23.4%、「3人」が8.5%の順となっています。

<同居の家族>



<兄弟の人数>



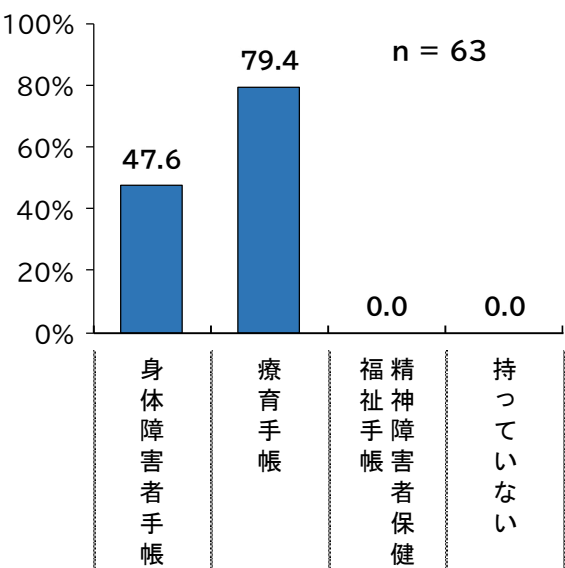
問5 お子様は障がいの手帳をお持ちですか。（あてはまるもの全てに○印を記入）  
また、お持ちの手帳について、あてはまる等級（程度）に○印を記入してください。

障がいの手帳については、「療育手帳」が79.4%と最も多く、「身体障害者手帳」が47.6%となっています。

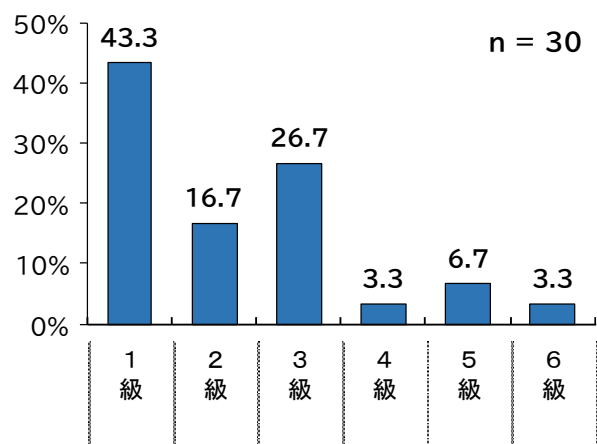
身体障害者手帳の等級（程度）については、「1 級」が43.3%と最も多く、次いで「3 級」が26.7%、「2 級」が16.7%の順となっています。

療育手帳の等級（程度）については、「A2」が28.0%と最も多く、次いで「A1」が26.0%、「B2」が22.0%の順となっています。

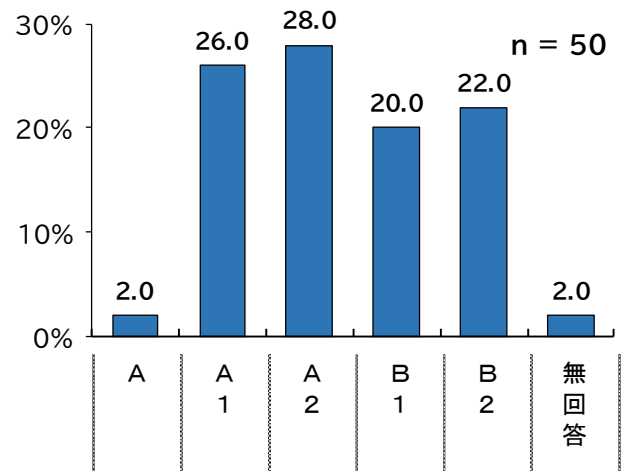
＜手帳の種類＞



＜身体障害者手帳＞



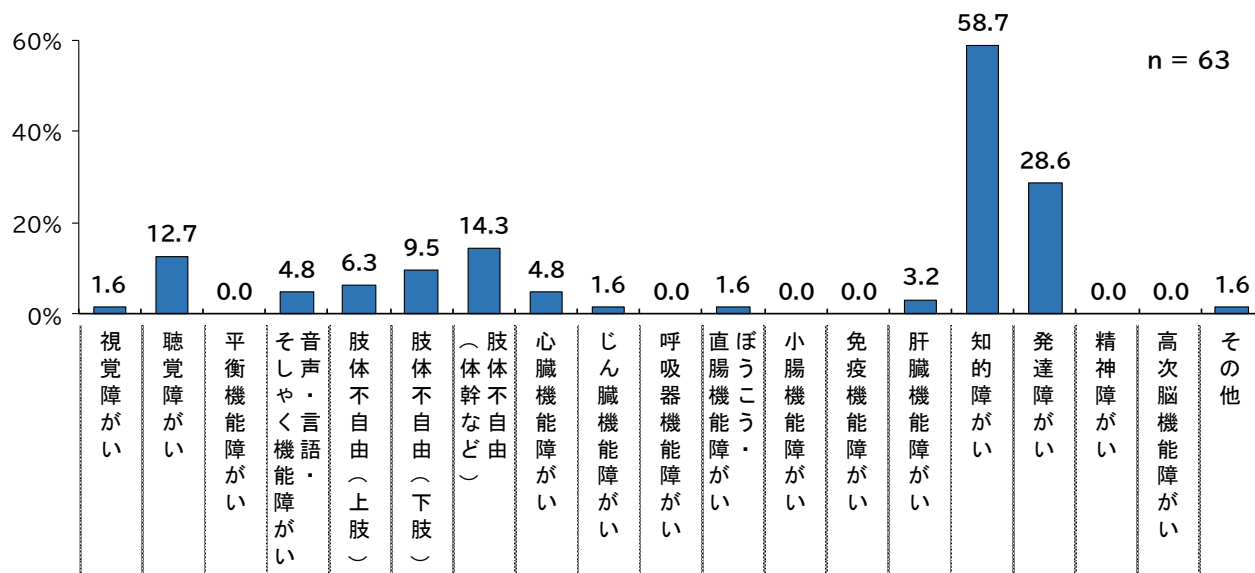
＜療育手帳＞



問6 お子様の主たる障がいをお答えください。(あてはまるものに○印)

主たる障がいについては、「知的障がい」が58.7%と最も多く、次いで「発達障がい」が28.6%、「肢体不自由（体幹など）」が14.3%の順となっています。

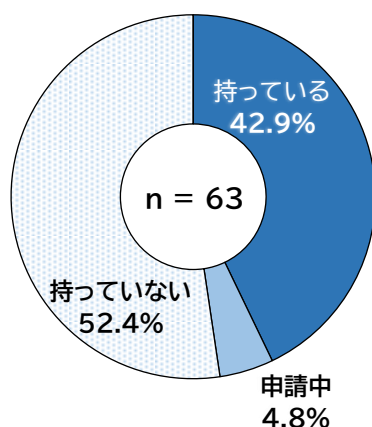
<全体>



問7 お子様は現在、マイナンバーカードを持っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

マイナンバーカードについては、「持っている」が42.9%、「申請中」が4.8%、「持っていない」が52.4%となっています。

<全体>





## 2 日常生活について

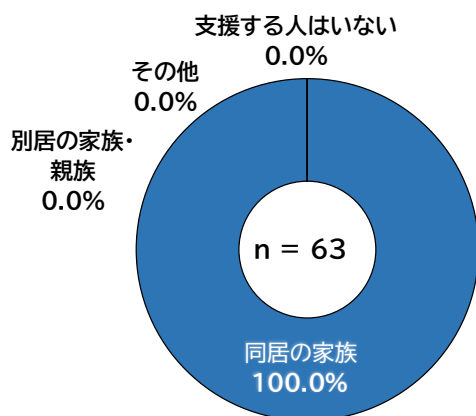
問 8 お子様の日常生活を主に支援をする人はどなたですか。(主なもの 1 つに○印)

「1. 同居の家族」に○印をつけた方は、その家族の続柄について、( ) 内のあてはまるものをさらに 1 つ○印を記入してください。

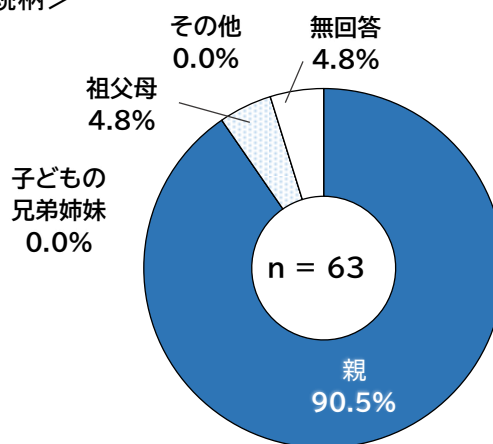
日常生活の支援者については、「同居の家族」が 100.0%となっています。

支援をする同居の家族については、「親」が 90.5%となっています。

<支援者>



<続柄>

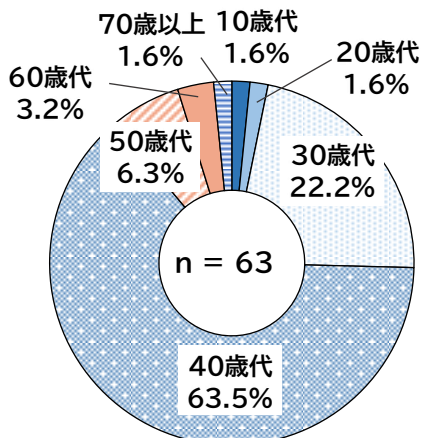


問 8-① 主な支援者が、家族または親族の場合、その方の年齢、健康状態をお答えください。(あてはまるもの 1 つに○印)

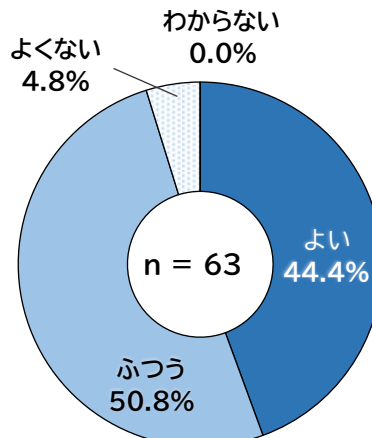
家族または親族の介助者の年齢については、「40 歳代」が 63.5%と最も多く、次いで「30 歳代」が 22.2%、「50 歳代」が 6.3%の順となっています。また、「10 歳代」の介助者が少数ながら存在しています。

家族または親族の介助者の健康状態については、「ふつう」が 50.8%と最も多く、次いで「よい」が 44.4%、「よくない」が 4.8%の順となっています。

<年齢>



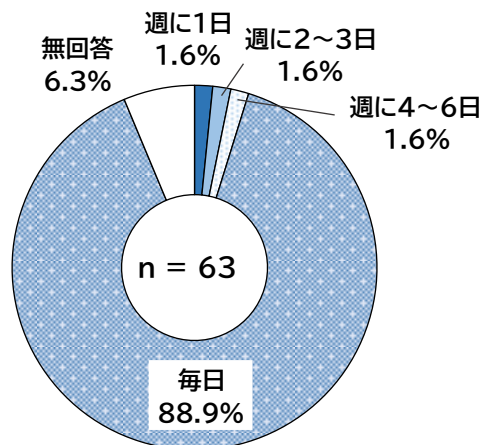
<健康状態>



問 8－② 介助や手助けに必要な日数は、1 週間のうち何日ぐらいですか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

介助や手助けに必要な日数（1 週あたり）については、「毎日」が 88.9%と最も多く、「週に 1 日」「週に 2～3 日」「週に 4～6 日」が 1.6%となっています。

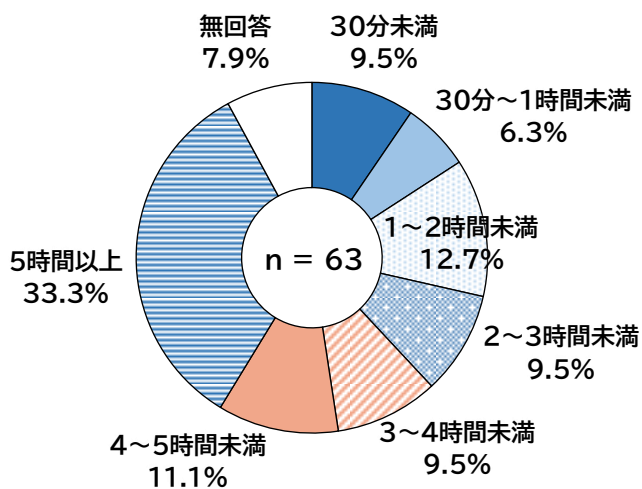
<全体>



問 8－③ 介助や手助けに必要な時間は1 日延べ時間でどのくらいになりますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

介助や手助けに必要な時間（1 日あたり）については、「5 時間以上」が 33.3%と最も多く、次いで「1～2 時間未満」が 12.7%、「4～5 時間未満」が 11.1%の順となっています。

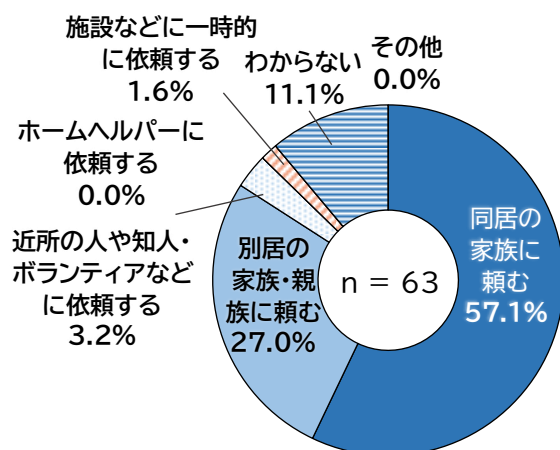
<全体>



問 8－④ 主な支援者が万一、急病・事故・出産などのため一時的に支援ができなくなった場合、どうすることにしていますか。(主なもの 1 つに○印)

支援者が一時的に支援できなくなった場合については、「同居の家族に頼む」が 57.1%と最も多く、次いで「別居の家族・親族に頼む」が 27.0%、「わからない」が 11.1%の順となっています。

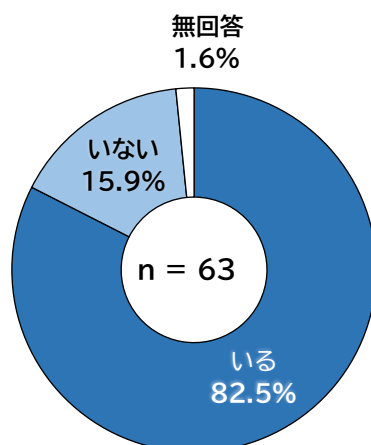
<全体>



問 9 気軽に相談できる病院またはかかりつけの医師はいますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

気軽に相談できる病院またはかかりつけ医については、「いる」が 82.5%、「いない」が 15.9%となっています。

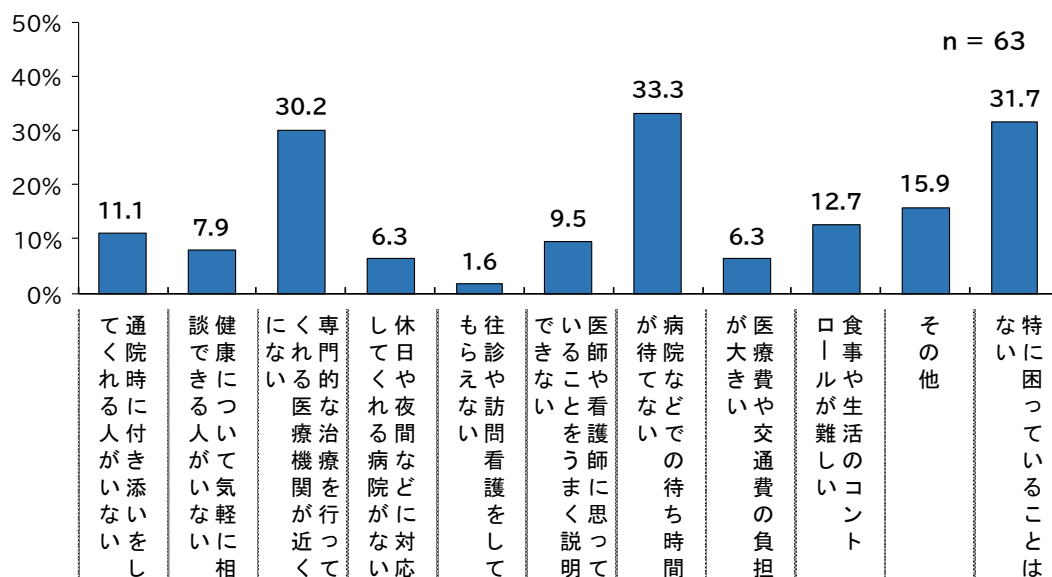
<全体>



問 10 お子様が医療機関での診察を受けるときに、困っていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

医療機関での診察を受けるときに困っていることについては、「病院などでの待ち時間が待てない」が33.3%と最も多く、次いで「特に困っていることはない」が31.7%、「専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない」が30.2%の順となっています。

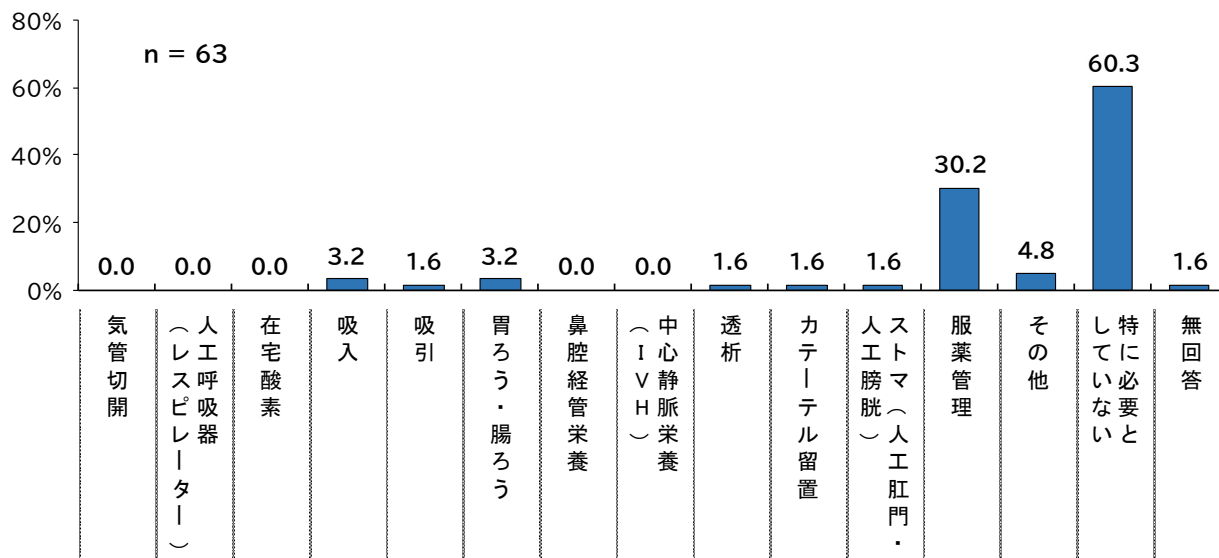
<全体>



問 11 お子様が日常的に必要なとしている医療的ケアをお答えください。  
(あてはまるものすべてに○印)

日常的に必要なとしている医療的ケアについては、「特に必要としない」が60.3%と最も多く、次いで「服薬管理」が30.2%、「吸入」「胃ろう・腸ろう」が3.2%の順となっています。

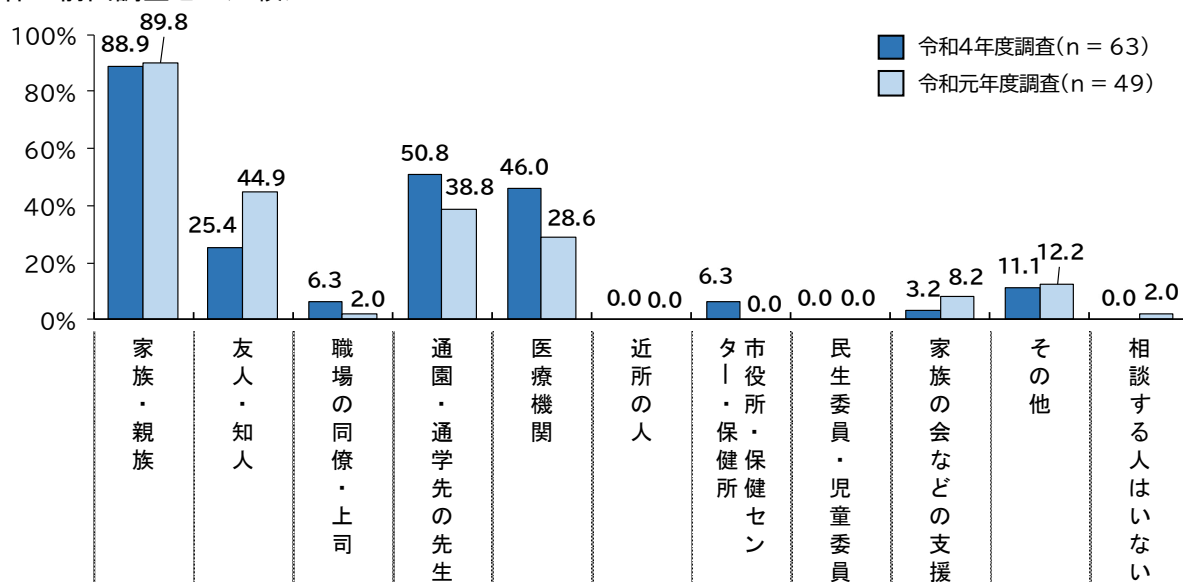
<全体>



問 12 お子様の日常生活上の悩み事や困った時に主に相談する相手は誰ですか。  
(主なもの3つまで○印)

悩み事や困った時の相談相手については、「家族・親族」が88.9%と最も多く、次いで「通園・通学先の先生」が50.8%、「医療機関」が46.0%の順となっています。

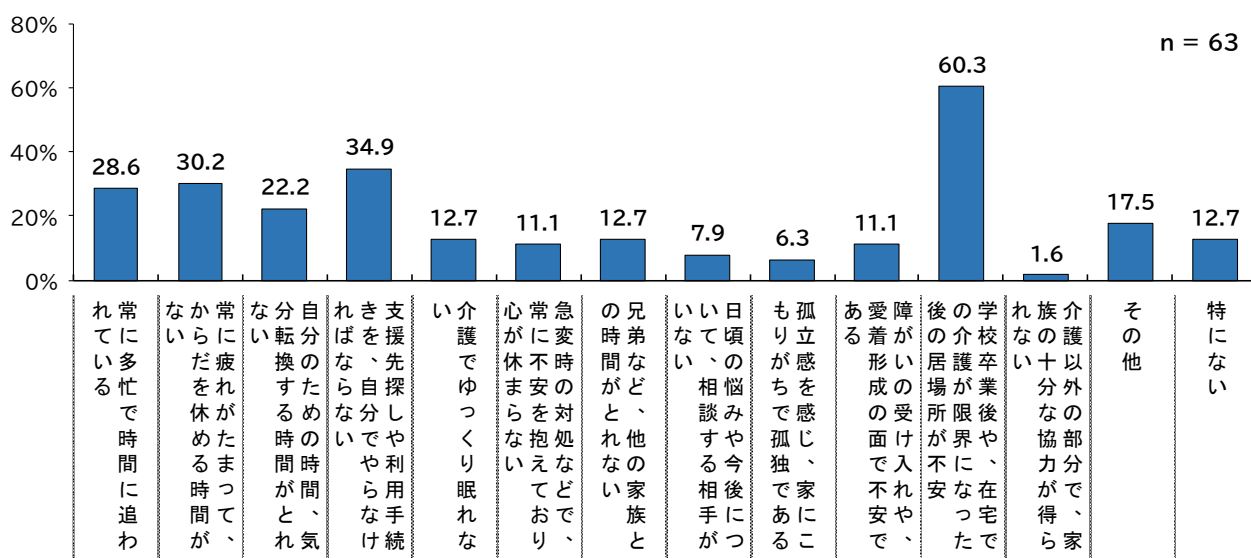
＜全体・前回調査との比較＞



問 13 日ごろ、不安・不満に感じていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

日ごろ不安・不満に感じていることについては、「学校卒業後や、在宅での介護が限界になった後の居場所が不安」が60.3%と最も多く、次いで「支援先探しや利用手続きを、自分でやらなければならない」が34.9%、「常に疲れがたまって、からだを休める時間がない」が30.2%の順となっています。

＜全体＞

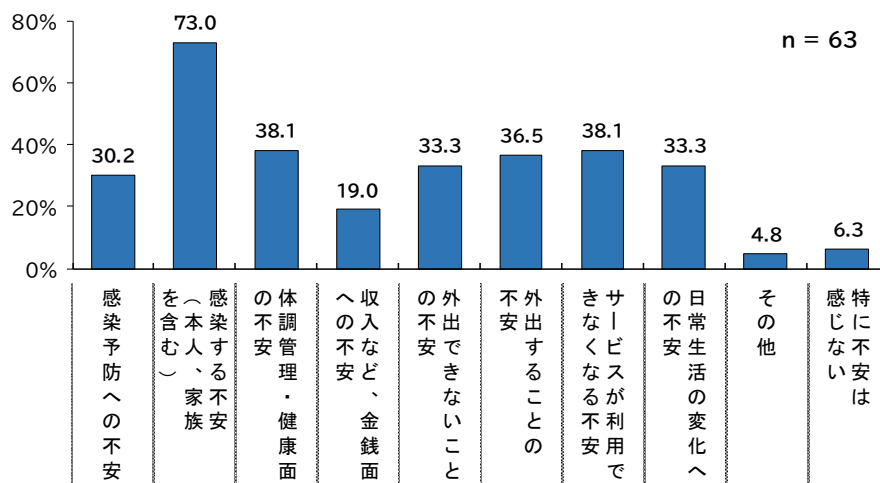


### 3 新型コロナウイルス感染拡大による影響について

問 14 新型コロナウイルスの感染拡大で、どんなことを不安に感じますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で不安に感じることは、「感染する不安（本人、家族を含む）」が73.0%と最も多く、次いで「体調管理・健康面の不安」「サービスが利用できなくなる不安」が38.1%、「外出することの不安」が36.5%の順となっています。

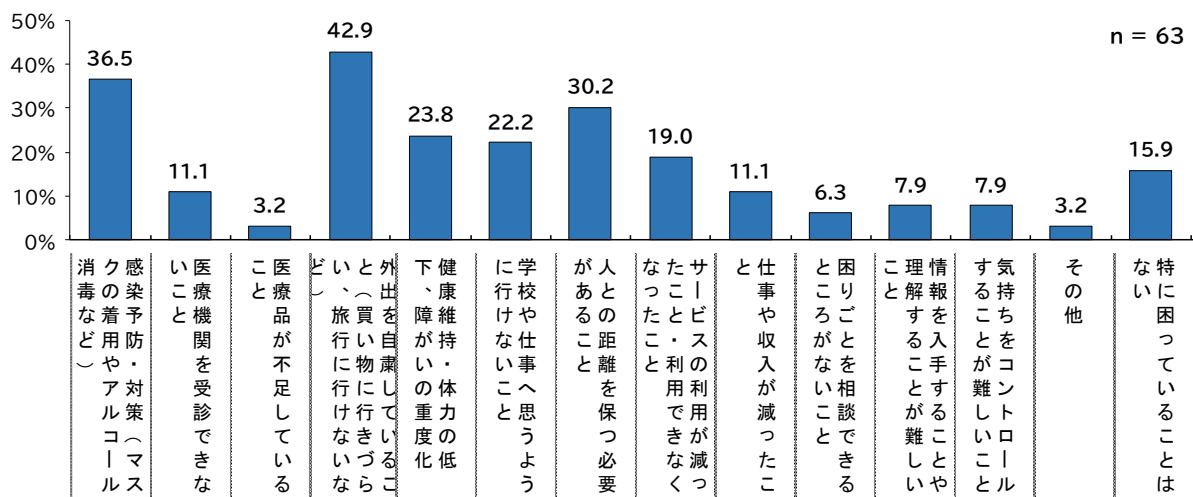
<全体>



問 15 新型コロナウイルスの感染拡大で、困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で困っていることについては、「外出を自粛していること（買い物に行きづらい、旅行に行けないなど）」が42.9%と最も多く、次いで「感染予防・対策（マスクの着用やアルコール消毒など）」が36.5%、「人との距離を保つ必要があること」が30.2%の順となっています。

<全体>

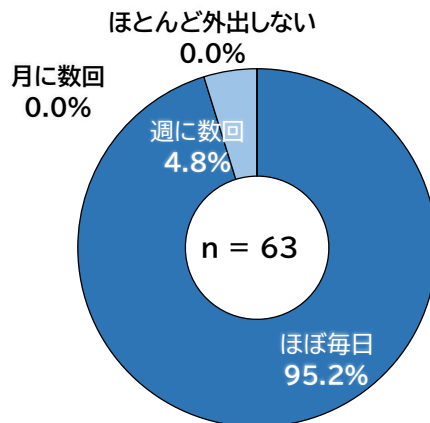


## 4 お子様の外出状況について

### 問 16 外出回数はどのくらいですか。（あてはまるもの 1 つに○印）

外出回数については、「ほぼ毎日」が 95.2%と最も多く、次いで「週に数回」が 4.8%となっています。

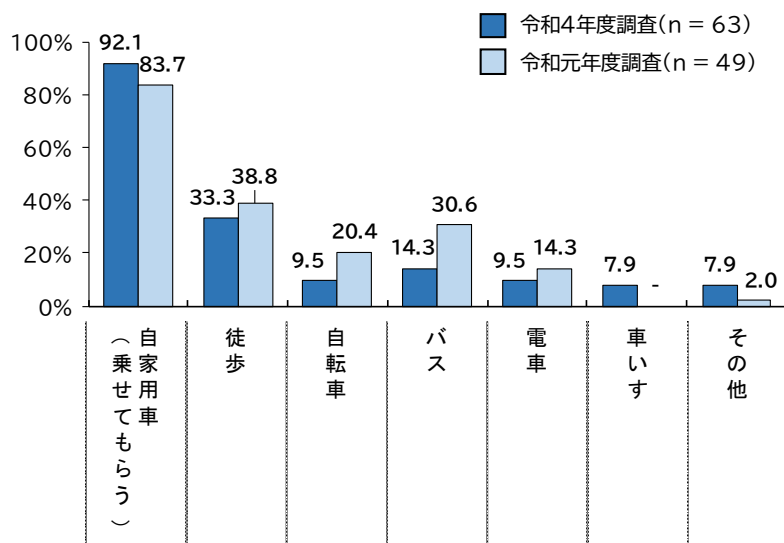
<全体>



### 問 17 外出する時に利用する主な交通手段は何ですか。（主なものに3つまで○印）

外出する時に利用する主な交通手段については、「自家用車（乗せてもらう）」が 92.1%と最も多く、次いで「徒歩」が 33.3%、「バス」が 14.3%の順となっています。

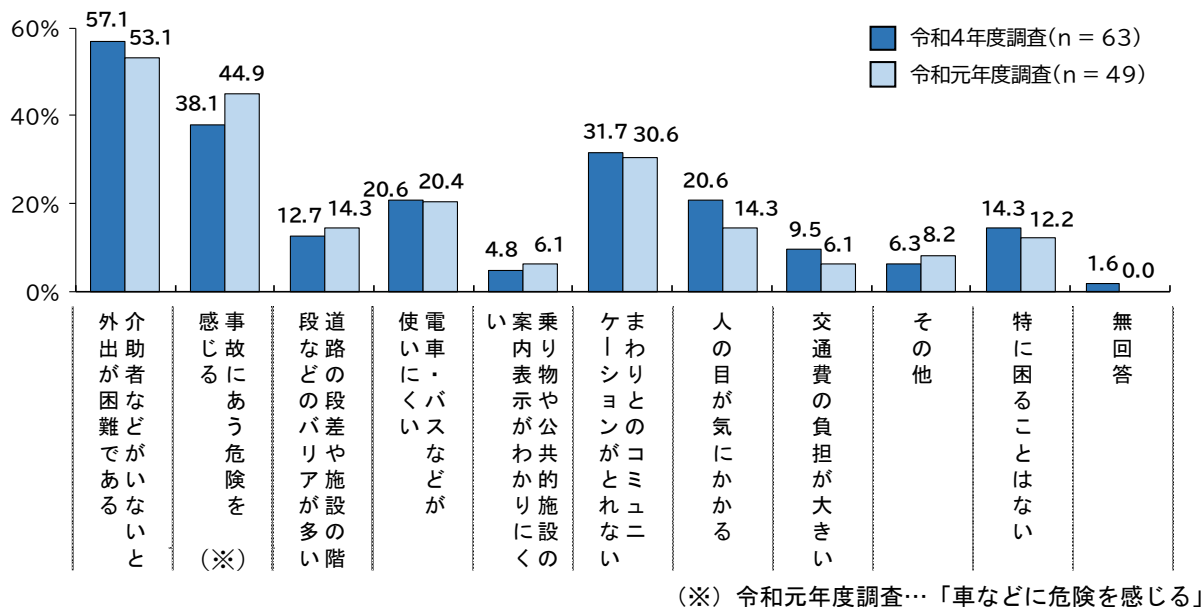
<全体・前回調査との比較>



## 問 18 外出するうえで、主に困ることは何ですか。（主なものに3つまで○印）

外出するうえで困ることについては、「介助者がいないと外出が困難である」が57.1%と最も多く、次いで「事故にあう危険を感じる」が38.1%、「まわりとのコミュニケーションがとれない」が31.7%の順となっています。

### <全体・前回調査との比較>

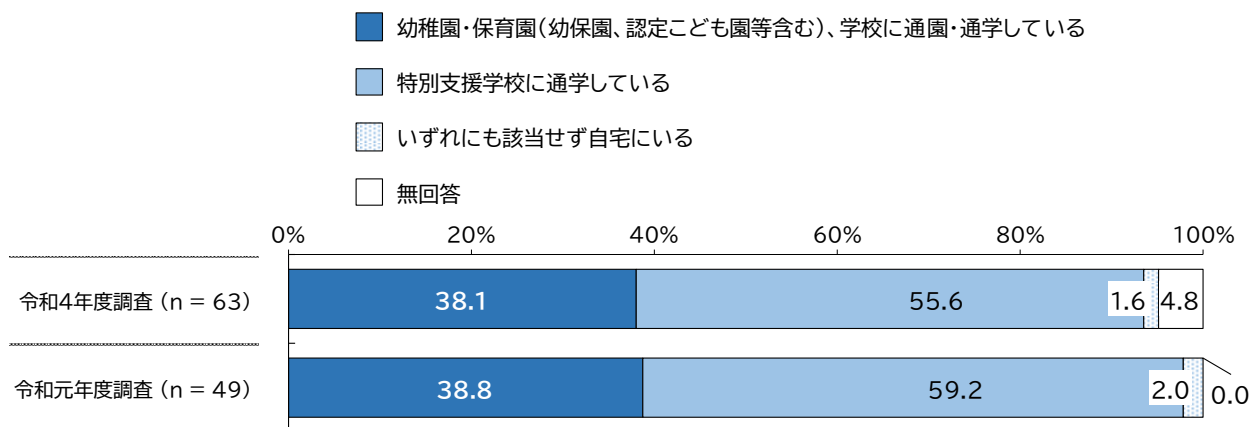


## 5 お子様の就学などについて

### 問 19 お子様は就園・就学をしていますか。（あてはまるもの1つに○印）

就園・就学については、「特別支援学校に通学している」が55.6%と最も多く、次いで「幼稚園・保育園（幼保園、認定こども園等含む）、学校に通園・通学している」が38.1%、「いずれにも該当せず自宅にいる」が1.6%の順となっています。

### <全体・前回調査との比較>

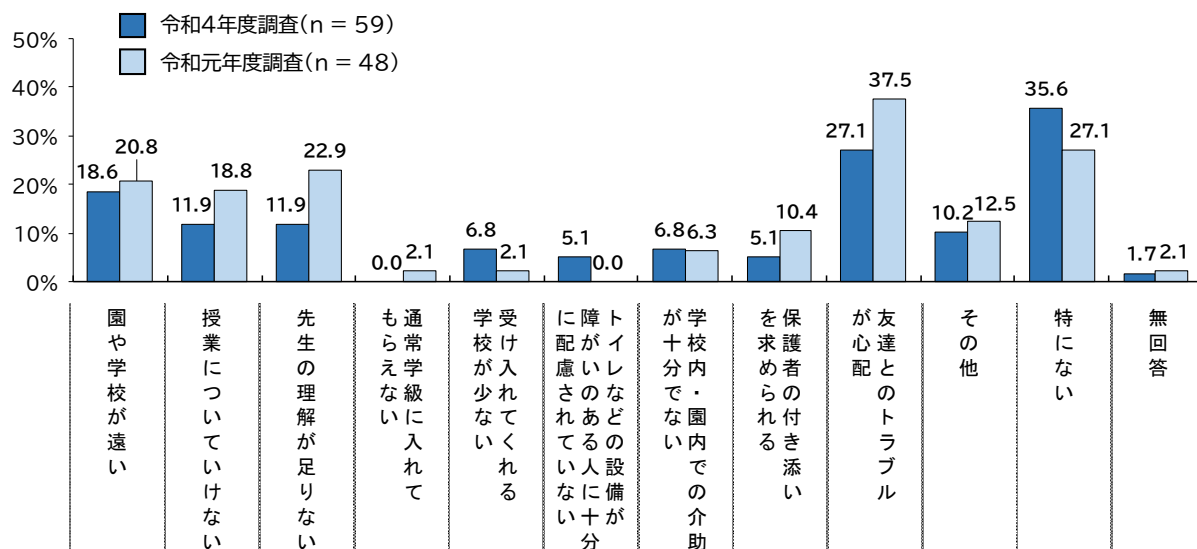




問 19-① 通園・通学するうえで、困っていることはありますか。  
(主なものに3つまで○印)

通園・通学するうえで困っていることについては、「特にない」が35.6%と最も多く、次いで「友達とのトラブルが心配」が27.1%、「園や学校が遠い」が18.6%の順となっています。

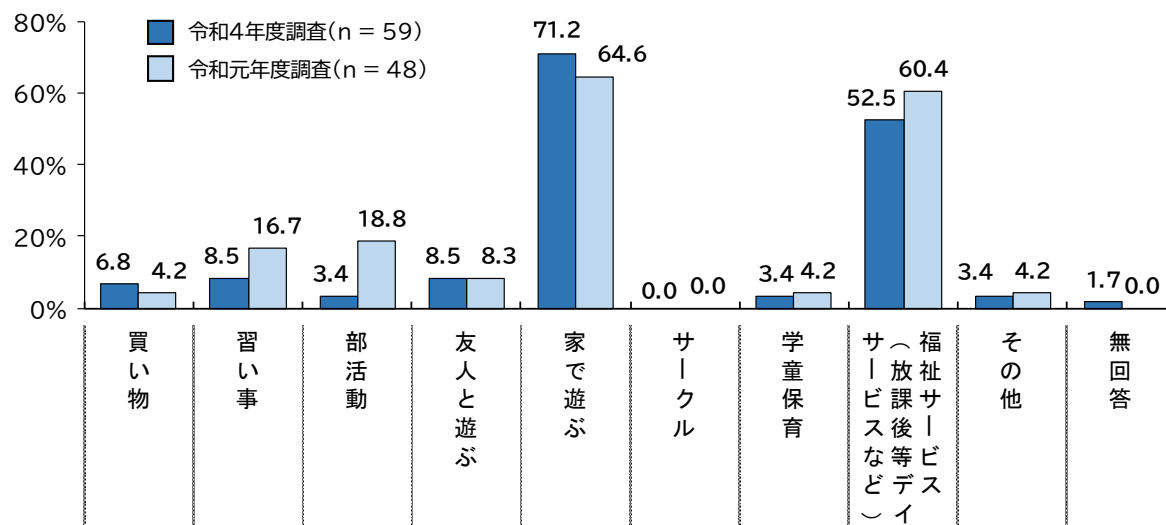
<全体・前回調査との比較>



問 19-② 放課後は主にどのように過ごしていますか。(主なものに3つまで○印)

放課後の過ごし方については、「家で遊ぶ」が71.2%と最も多く、次いで「福祉サービス（放課後等デイサービスなど）」が52.5%、「習い事」「友人と遊ぶ」が8.5%の順となっています。

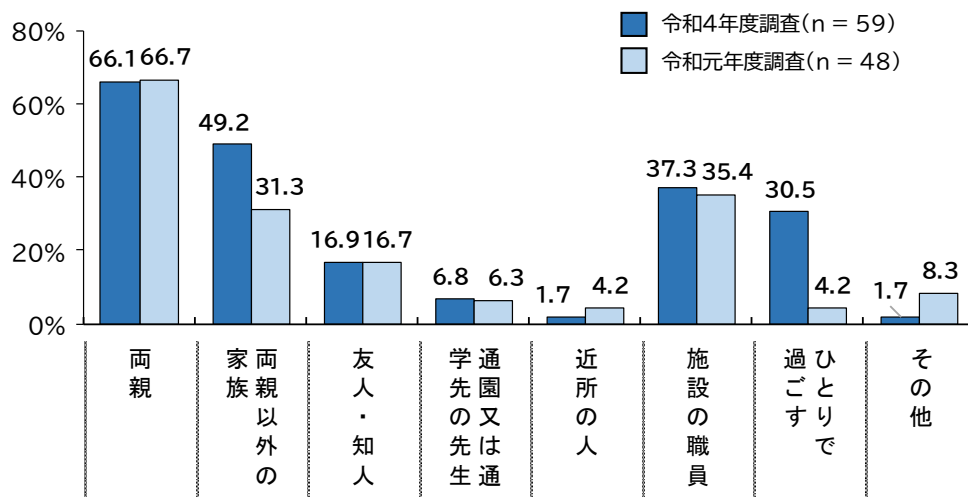
<全体・前回調査との比較>



問 19－③ 放課後は主に誰と遊んだりして時間を過ごしていますか。  
(主なものに3つまで○印)

放課後を一緒に過ごす相手については、「両親」が66.1%と最も多く、次いで「両親以外の家族」が49.2%、「施設の職員」が37.3%の順となっています。

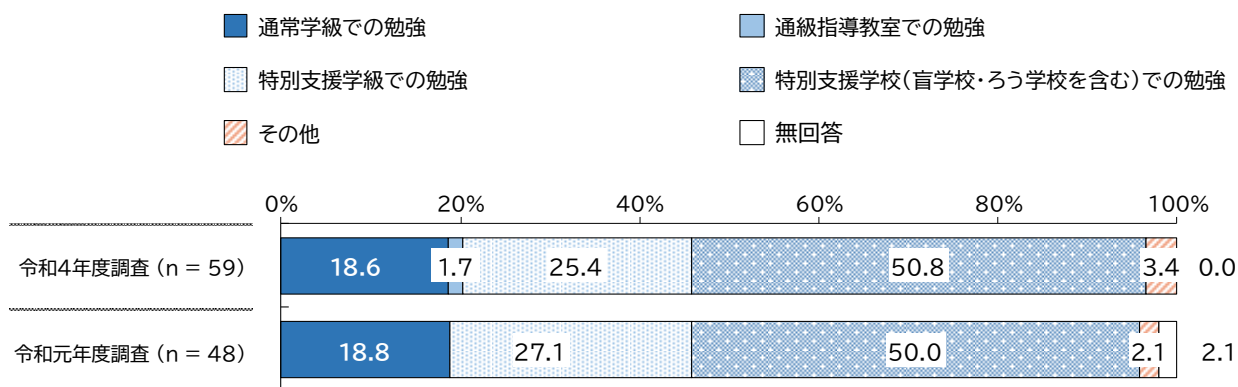
<全体・前回調査との比較>



問 19－④ 学校で勉強する場合に、どの形を望みますか。(あてはまるもの1つに○印)

学校で勉強する場合の希望する形については、「特別支援学校(盲学校・ろう学校を含む)での勉強」が50.8%と最も多く、次いで「特別支援学級での勉強」が25.4%、「通常学級での勉強」が18.6%の順となっています。

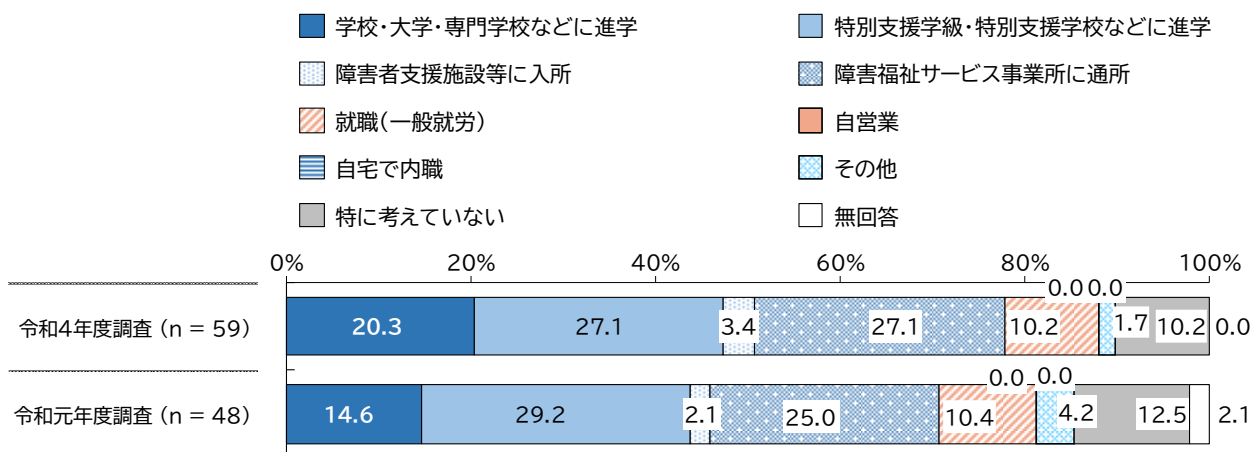
<全体・前回調査との比較>



問 19－⑤ 現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路をどのように考えていますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路については、「特別支援学級・特別支援学校などに進学」「障害福祉サービス事業所に通所」が 27.1%と最も多く、次いで「学校・大学・専門学校などに進学」が 20.3%、「就職（一般就労）」「特に考えていない」が 10.2%の順となっています。

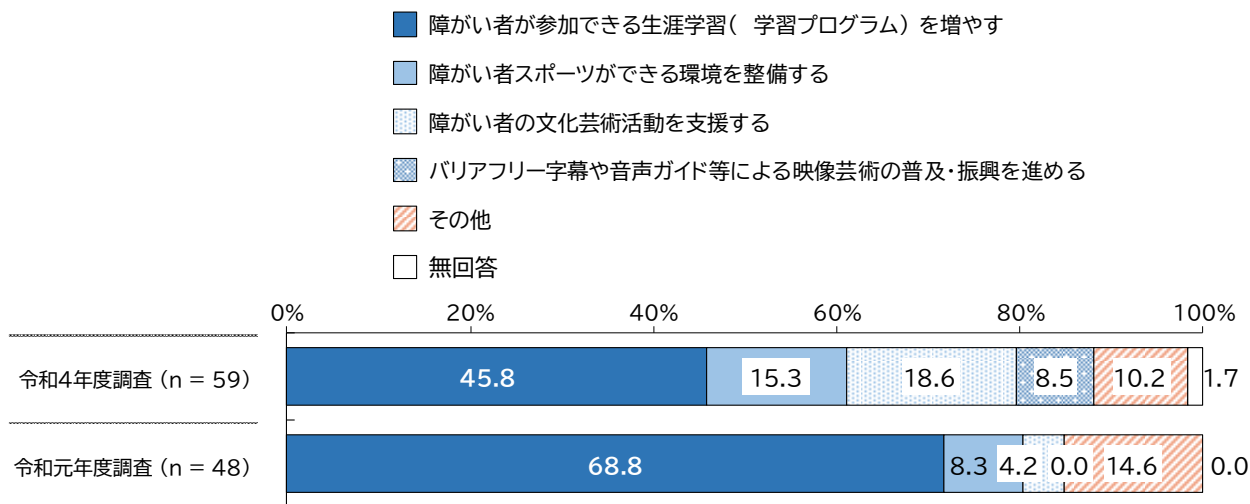
<全体・前回調査との比較>



問 19－⑥ 学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことは何であると考えますか。(あてはまるもの 1 つに○印)

学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことについては、「障がい者が参加できる生涯学習（学習プログラム）を増やす」が 45.8%と最も多く、次いで「障がい者の文化芸術活動を支援する」が 18.6%、「障がい者スポーツができる環境を整備する」が 15.3%の順となっています。

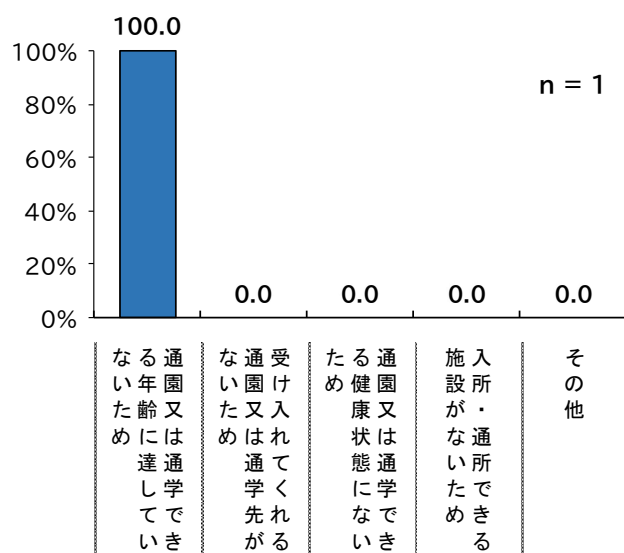
<全体・前回調査との比較>



問 20 就学などをしていない場合、自宅にいる主な理由は何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

自宅にいる理由については、「通園又は通学できる年齢に達していないため」が100%となっています。

<全体>

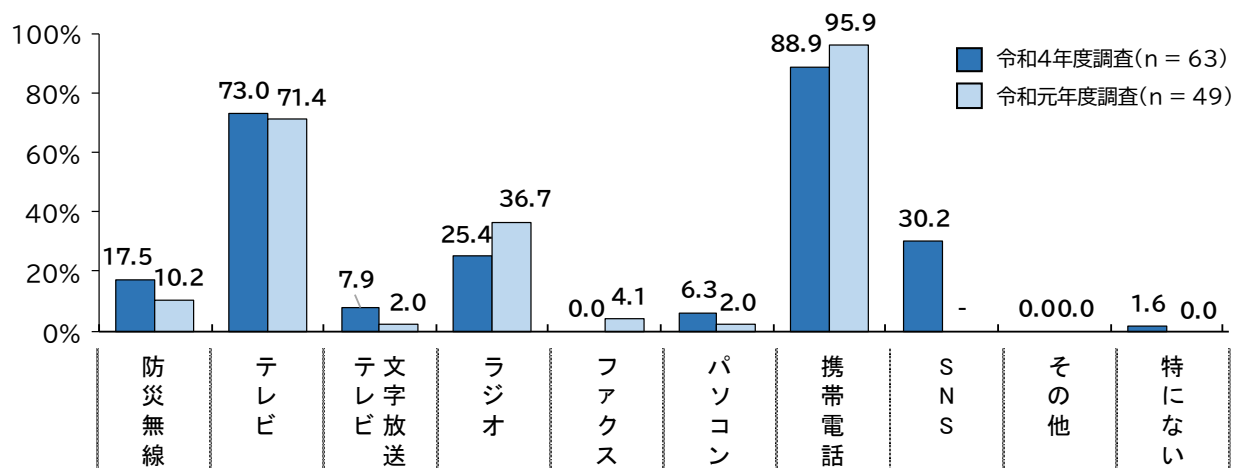


## 6 家庭での災害など緊急事態の対応について

問 21 災害などの緊急事態が発生した場合、緊急情報を得る手段として、主にどのような手段の効果が高いと思いますか。(主なものに3つまで○印)

災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについては、「携帯電話」が88.9%と最も多く、次いで「テレビ」が73.0%、「SNS」が30.2%の順となっています。

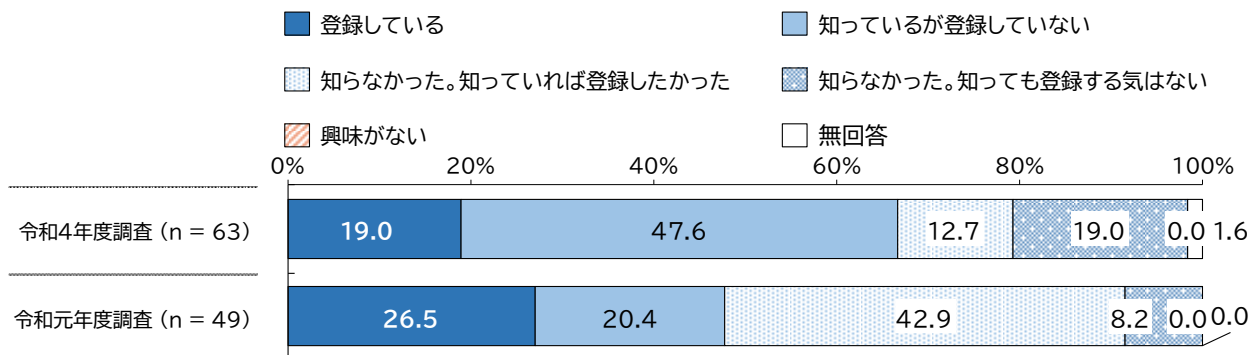
<全体・前回調査との比較>



問 22 災害時要援護者台帳に登録していますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時要援護者台帳については、「知っているが登録していない」が47.6%と最も多く、次いで「登録している」「知らなかった。知っても登録する気はない」が19.0%、「知らなかった。知っていれば登録したかった」が12.7%の順となっています。

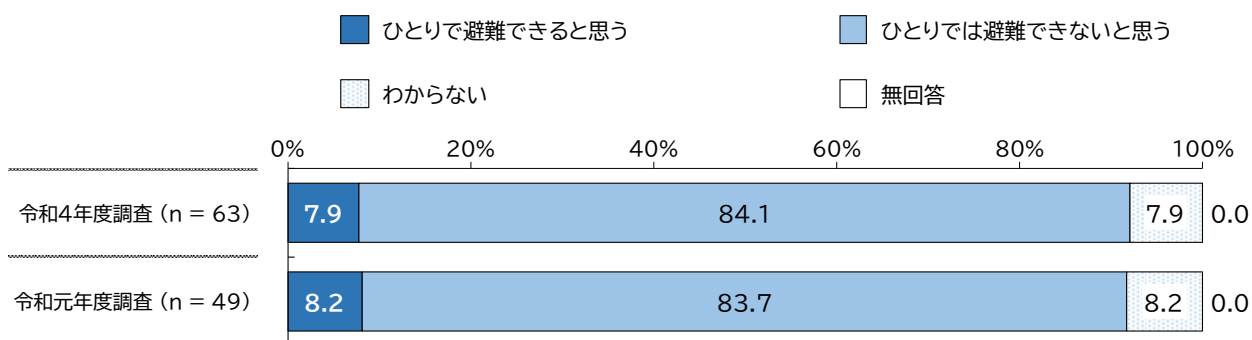
<全体・前回調査との比較>



問 23 もし災害などの緊急事態が発生した場合、避難場所等にお子様がひとりで避難できると思いますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害などの緊急時に、ひとりで避難できるかについては、「ひとりで避難できないと思う」が84.1%と最も多く、次いで「ひとりで避難できると思う」「わからない」が7.9%の順となっています。

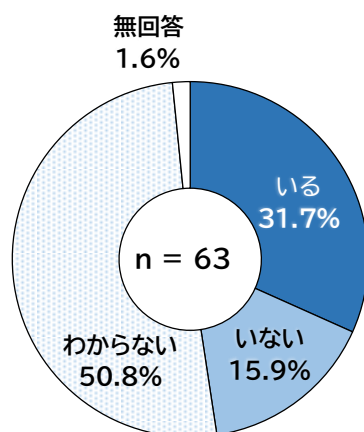
<全体・前回調査との比較>



問 24 災害時、助けてくれる人はいますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時助けてくれる人については、「わからない」が50.8%と最も多く、次いで「いる」が31.7%、「いない」が15.9%の順となっています。

<全体>

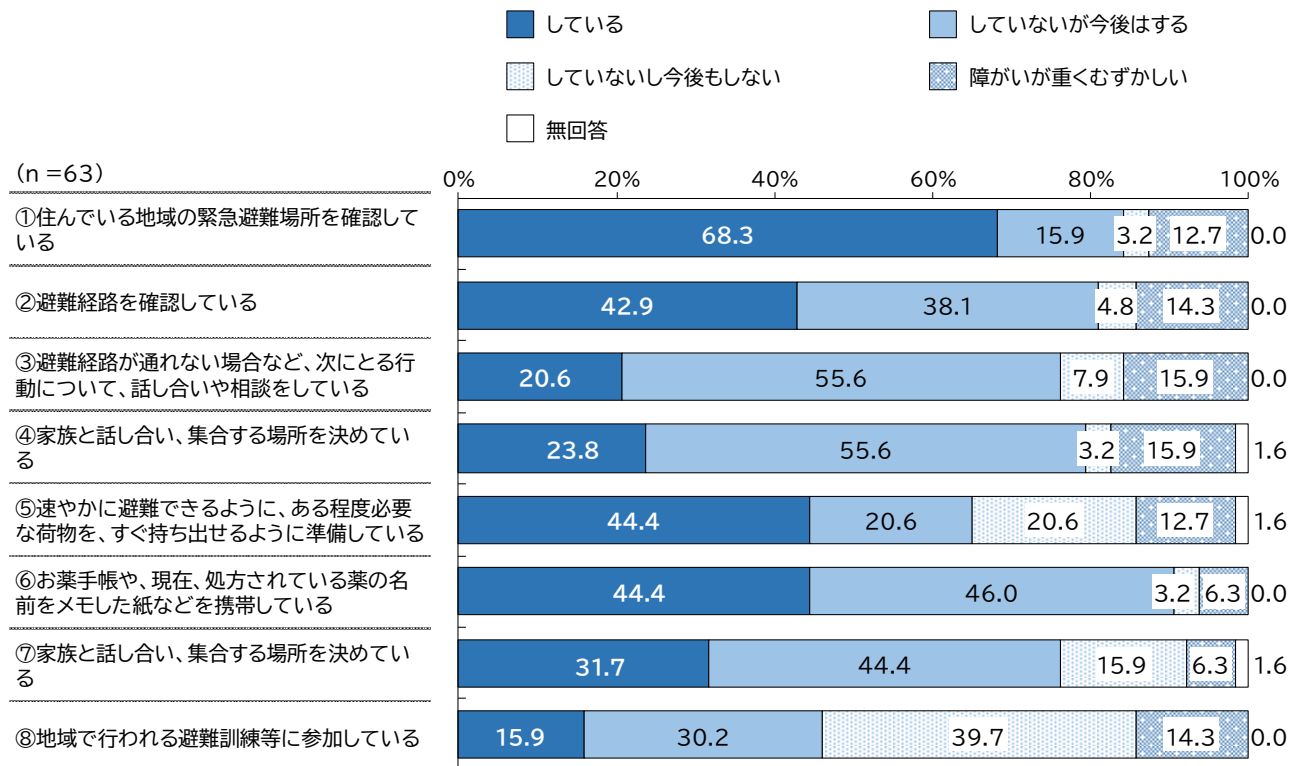


問 25 お子様やご家族の方は、災害に対してどのような対策や準備をしていますか。（それぞれあてはまるもの1つに○印）

災害に対しての対策や準備について、「している」が最も多いのは、『①住んでいる地域の緊急避難場所を確認している』で 68.3%、次いで『⑤速やかに避難できるように、ある程度必要な荷物を、すぐ持ち出せるように準備している』『⑥お薬手帳や、現在、処方されている薬の名前をメモした紙などを携帯している』が 44.4%、『②避難経路を確認している』が 42.9%の順となっています。

「していないが今後はする」が最も多いのは、『③避難経路が通れない場合など、次にとる行動について、話し合いや相談をしている』『④家族と話し合い、集合する場所を決めている』で 55.6%、次いで『⑥お薬手帳や、現在、処方されている薬の名前をメモした紙などを携帯している』が 46.0%となっています。

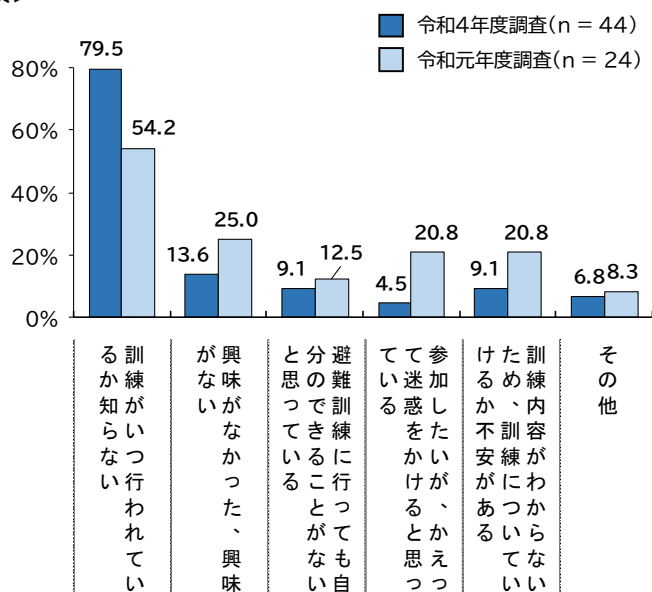
<全体>



問 26 地域で行われる避難訓練等に参加していなかったのはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

地域の避難訓練等に参加していない理由については、「訓練がいつ行われているか知らない」が79.5%と最も多く、次いで「興味がなかった、興味がない」が13.6%、「避難訓練に行っても自分のことができないと思っている」「訓練内容がわからないため、訓練についていけないか不安がある」が9.1%の順となっています。

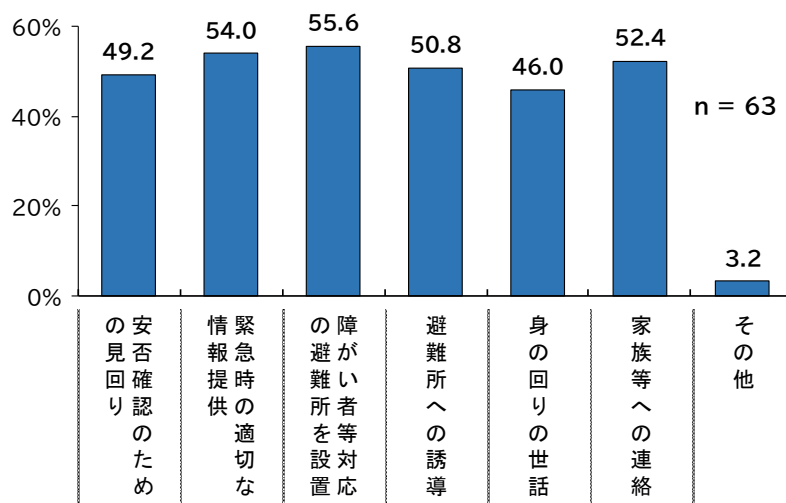
<全体・前回調査との比較>



問 27 災害などの緊急事態が発生した場合に、お子様のために、ご家族の方が必要としていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

災害などの緊急時に必要としていることについては、「障がい者等対応の避難所を設置」が55.6%と最も多く、次いで「緊急時の適切な情報提供」が54.0%、「家族等への連絡」が52.4%の順となっています。

<全体>

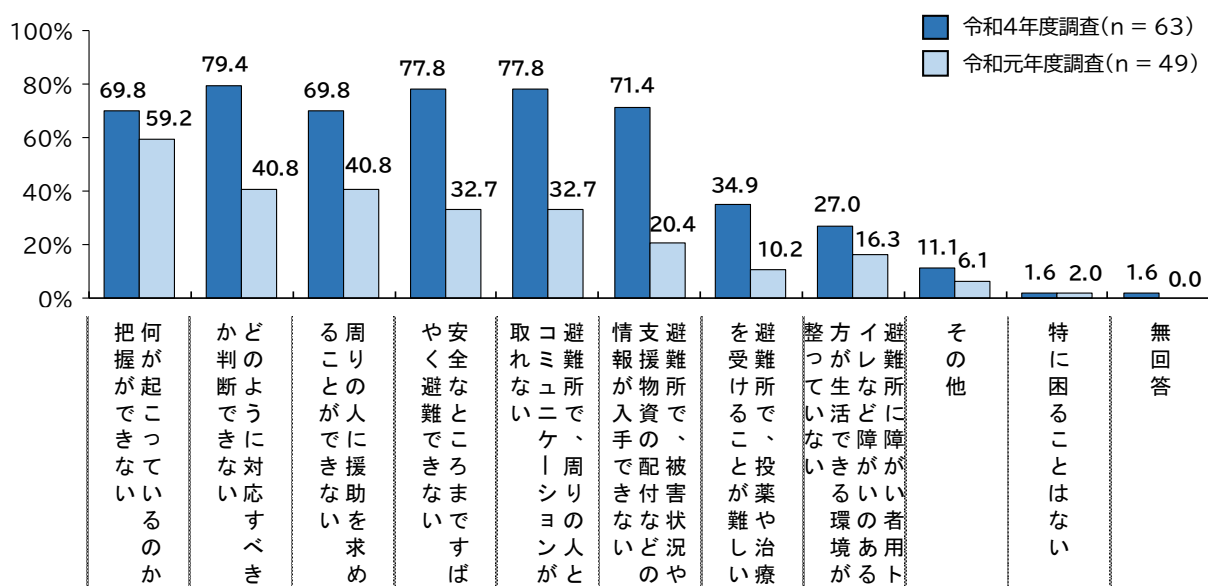




問 28 お子様は、災害などの緊急事態が発生した場合に、どのようなことに困ると思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

災害などの緊急時に困ることについては、「どのように対応すべきか判断できない」が79.4%と最も多く、次いで「安全なところまですばやく避難できない」「避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない」が77.8%、「避難所で、被害状況や支援物資の配布などの情報が入手できない」が71.4%の順となっています。

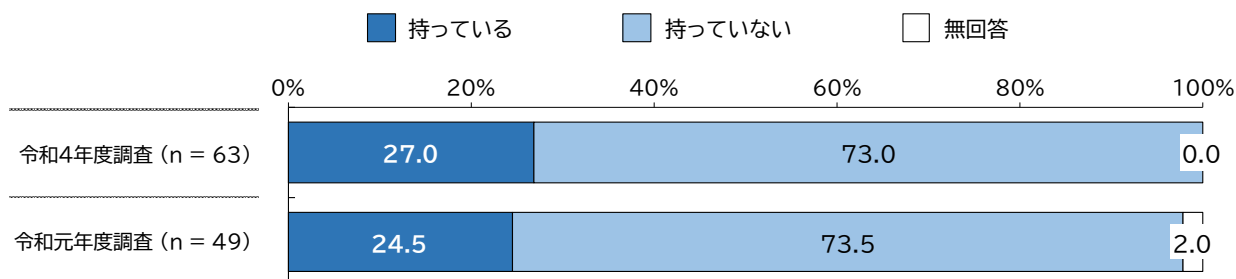
<全体・前回調査との比較>



問 29 災害時支援用バンダナを持っていますか。（あてはまるもの1つに○印）

災害時支援用バンダナについては、「持っている」が27.0%、「持っていない」が73.0%となっています。

<全体・前回調査との比較>



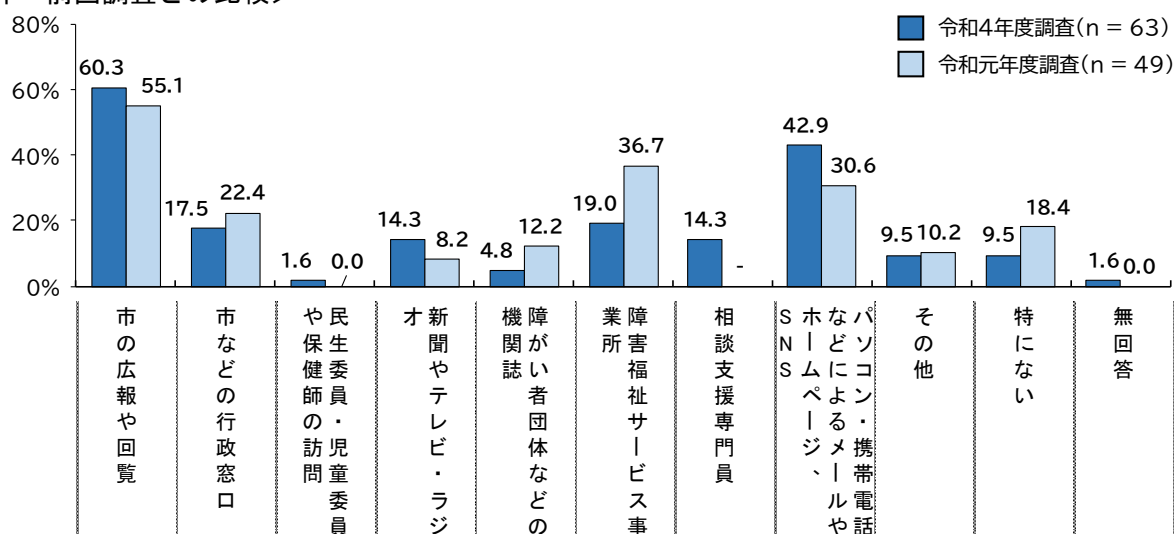
## 7 お子様の福祉情報の入手方法について

問 30 お子様やご家族は、現在、主にどのような手段で必要となる福祉情報を得ていますか。また、今後どのような手段で得たいと思いますか。（主なものに3つまで○印）

### 【現在利用している情報手段】

福祉情報を得るために現在利用している情報手段については、「市の広報や回覧」が60.3%と最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が42.9%、「障害福祉サービス事業所」が19.0%の順となっています。

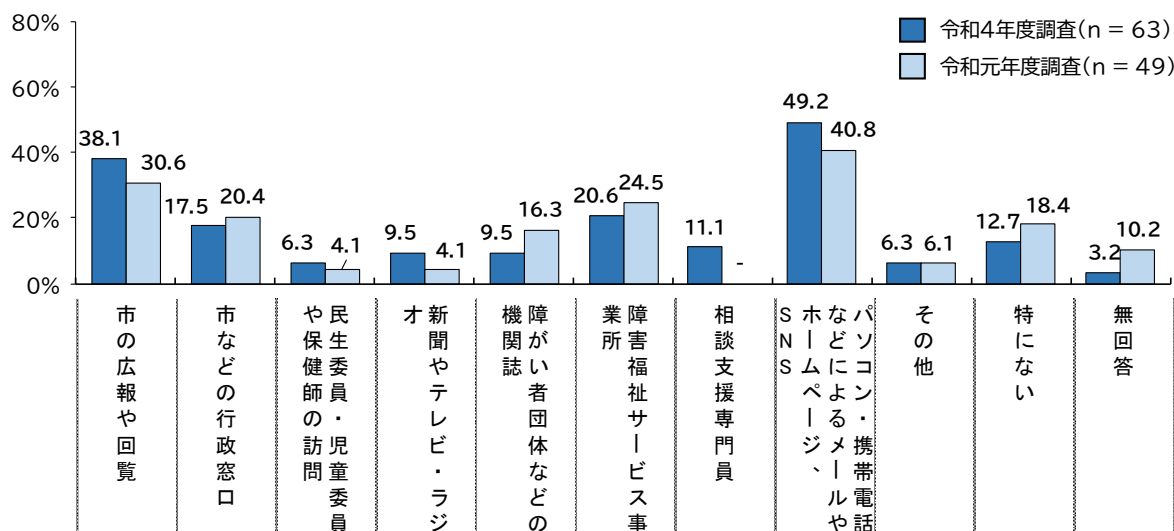
#### <全体・前回調査との比較>



### 【今後利用したい情報手段】

福祉情報を得るために今後利用したい情報手段については、「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が49.2%と最も多く、次いで「市の広報や回覧」が38.1%、「障害福祉サービス事業所」が20.6%の順となっています。

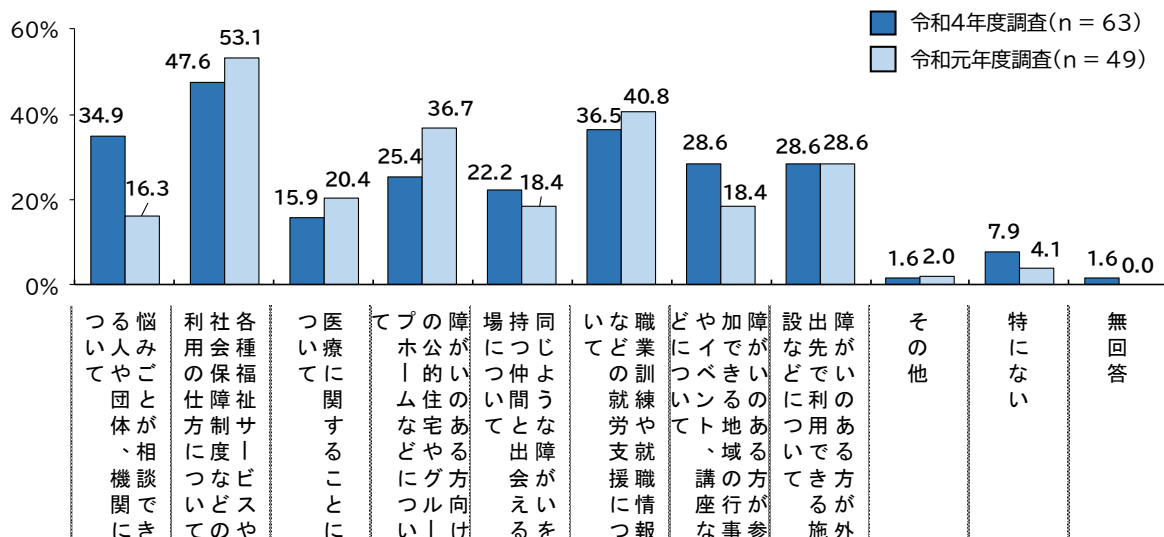
#### <全体・前回調査との比較>



問 31 お子様やご家族は、主にどのような福祉情報を知りたいですか。  
(主なものに3つまで○印)

主に知りたい福祉情報については、「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」が47.6%と最も多く、次いで「職業訓練や就職情報などの就労支援について」が36.5%、「悩みごとが相談できる人や団体、機関について」が34.9%の順となっています。

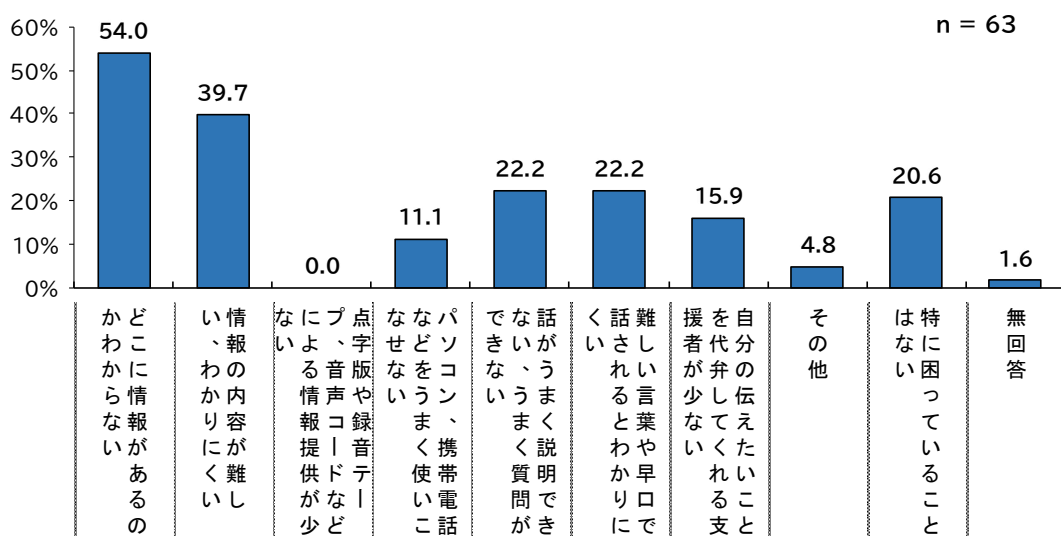
<全体・前回調査との比較>



問 32 情報入手や意思疎通に関して困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

情報入手や意思疎通に関して困っていることについては、「どこに情報があるのかわからない」が54.0%と最も多く、次いで「情報の内容が難しい、わかりにくい」が39.7%、「話がうまく説明できない、うまく質問ができない」「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が22.2%の順となっています。

<全体>

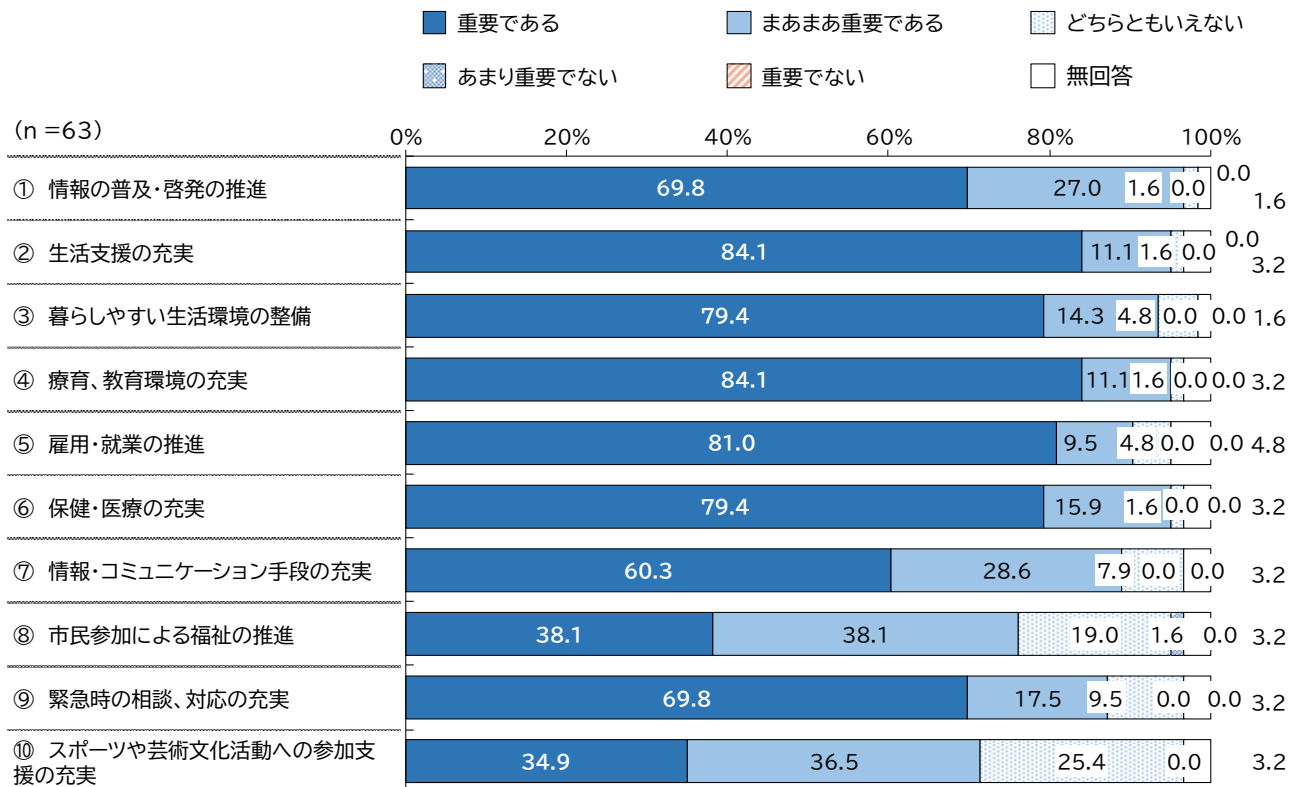


## 8 将来の生活や、今後の大垣市の福祉について

問 33 障がい福祉に関する今後の取り組みとして、次の各項目について、どのくらい重要だと思いますか。（それぞれあてはまるもの1つに○印）

これからの大垣市の取り組みについて、「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』が最も多いのは、『① 情報の普及・啓発の推進』で96.8%、次いで『⑥ 保健・医療の充実』が95.3%、『② 生活支援の充実』『④ 療育、教育環境の充実』が95.2%の順となっています。

### <全体>

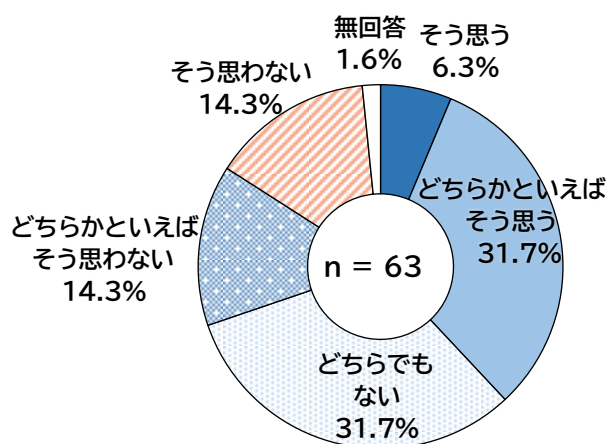


問 34 大垣市は、障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「どちらかといえばそう思う」「どちらでもない」が 31.7%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が 14.3%となっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は 38.0%となっています。

<全体>



## 9 障害福祉サービス等の利用について

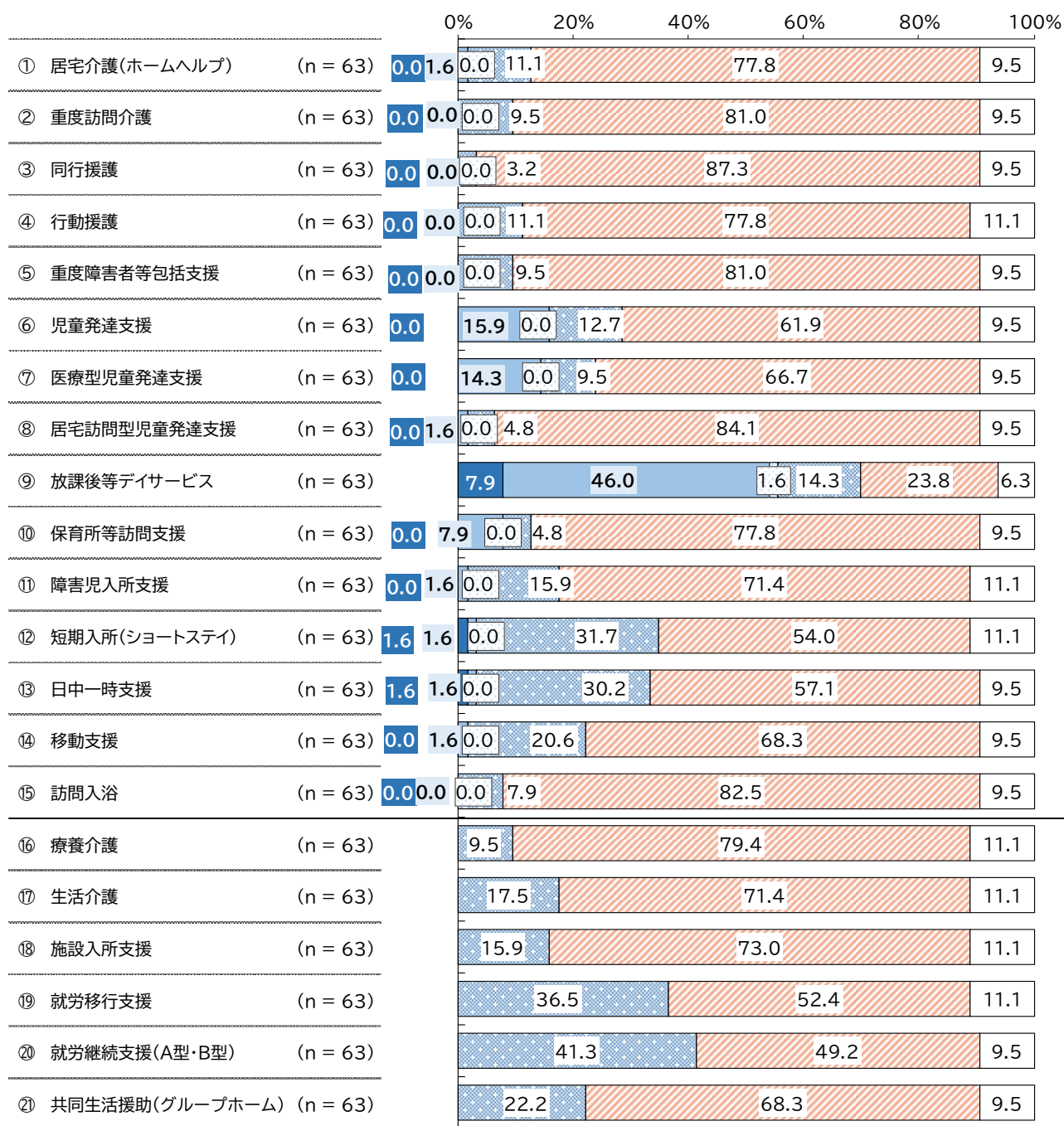
問 35 次の障害福祉サービスの利用について、お子様の現在の利用状況に応じて、今後の利用予定をお答えください。(それぞれあてはまるもの 1 つに○印を記入)  
また、「4. (現在利用していないが、) 利用したい」と答えた場合、そのサービスの利用を希望する時期を記載してください。

### 【現在の利用状況】

障害福祉サービスの現在の利用状況について、「増やす予定」「継続の予定」「減らす予定」を合わせた“利用している”が最も多いのは、『⑨ 放課後等デイサービス』が 55.5%、次いで『⑥ 児童発達支援』が 15.9%、『⑦ 医療型児童発達支援』が 14.3%の順となっています。

「利用したい」が最も多いのは、『⑳ 就労継続支援(A型・B型)』が 41.3%、次いで『⑲ 就労移行支援』が 36.5%、『㉑ 短期入所(ショートステイ)』が 31.7%の順となっています。

<全体>



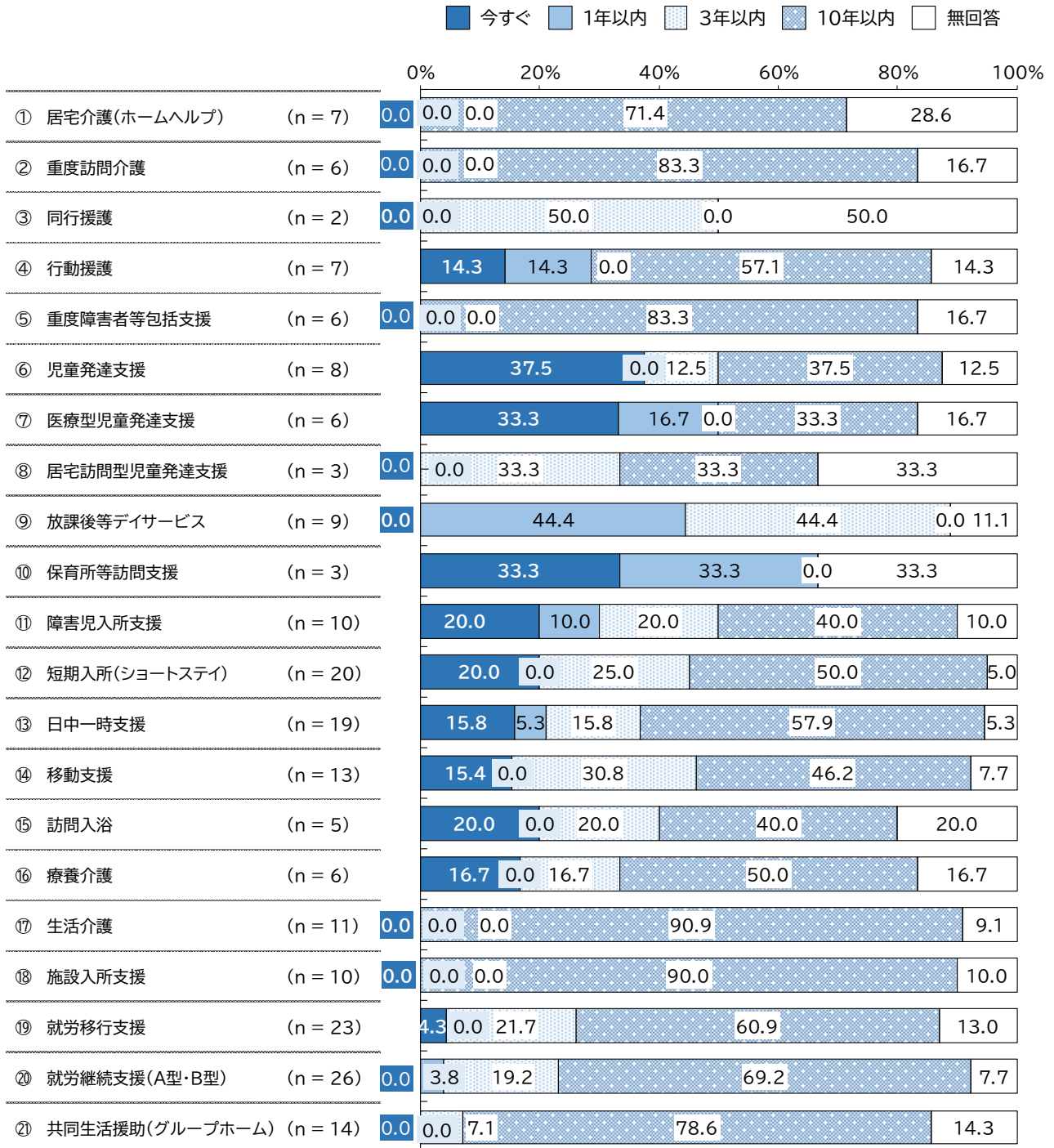
※⑯～㉑は「利用したい」「利用予定なし」のみの設問。

## 【利用希望時期】

障害福祉サービスの利用希望時期について、全体的に「10年以内」の割合が高くなっています。

「今すぐ」では、『⑥ 児童発達支援』『⑦ 医療型児童発達支援』、「1年以内」では、『⑨ 放課後等デイサービス』の割合が高くなっています。

### <全体>

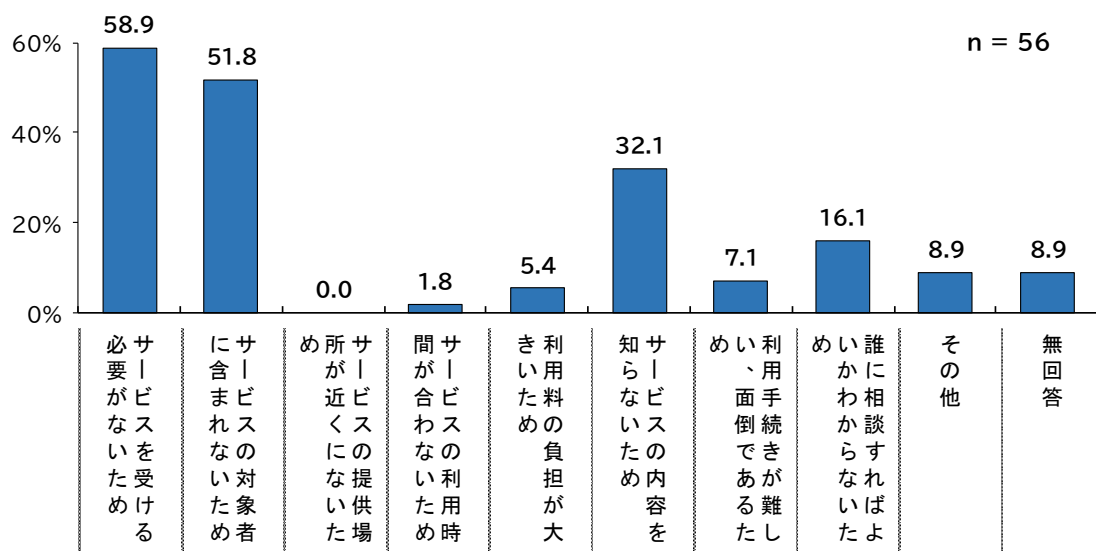




問 36 サービスの利用予定がない理由は何ですか。（主なものに3つまで○印）

サービスの利用予定がない理由については、「サービスを受ける必要がないため」が58.9%と最も多く、次いで「サービスの対象者に含まれないため」が51.8%、「サービスの内容を知らないため」が32.1%の順となっています。

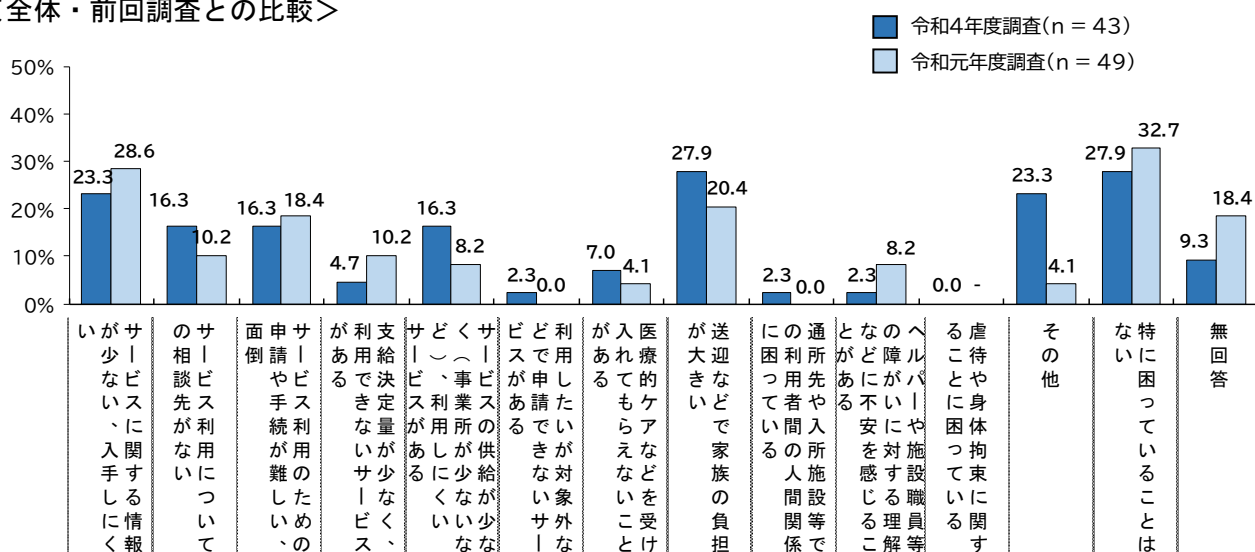
<全体>



問 37 サービスの利用で困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○印）

サービスの利用で困っていることについては、「送迎などで家族の負担が大きい」「特に困っていることはない」が27.9%と最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」が23.3%となっています。

<全体・前回調査との比較>



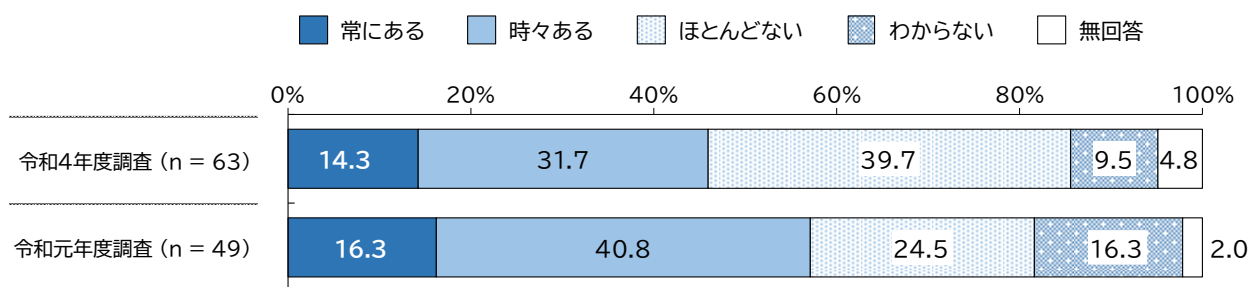


## 10 差別解消と権利擁護について

問 38 お子様やご家族が日常生活の中で、偏見の目で見られたり、差別を受けたと感じることはありますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

日常生活の中での偏見や差別については、「ほとんどない」が 39.7%と最も多く、次いで「時々ある」が 31.7%、「常にある」が 14.3%の順となっています。

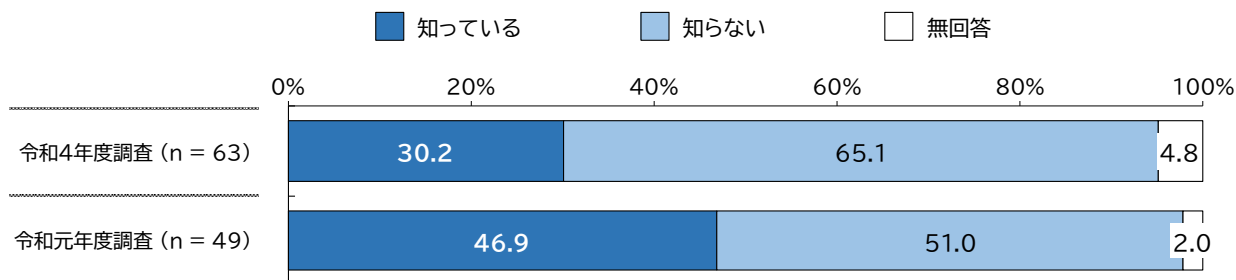
<全体・前回調査との比較>



問 39 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について知っていますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については、「知っている」が 30.2%、「知らない」が 65.1%となっています。

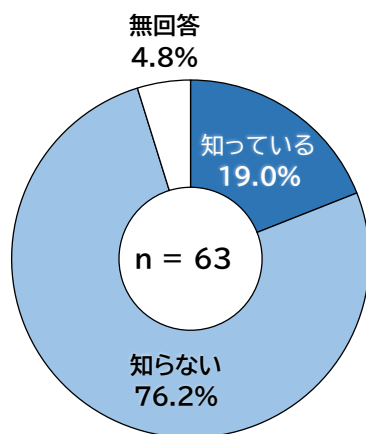
<全体・前回調査との比較>



問 40 障がいのある方への虐待に関する相談窓口として、大垣市障がい者虐待防止センターを設置していますが、このことを知っていますか。（あてはまるもの1つに○印）

大垣市障がい者虐待防止センターについては、「知っている」が19.0%、「知らない」が76.2%となっています。

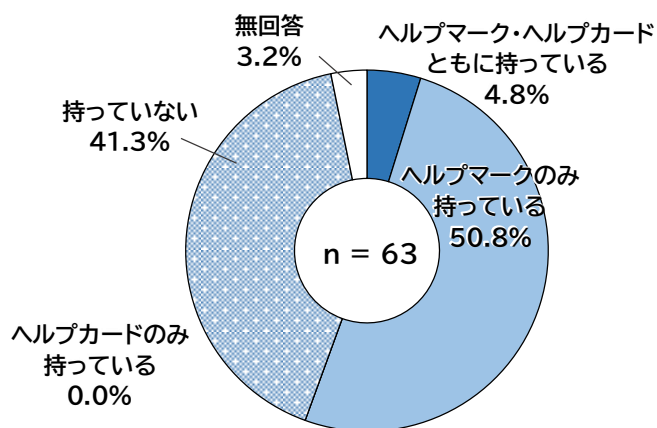
<全体>



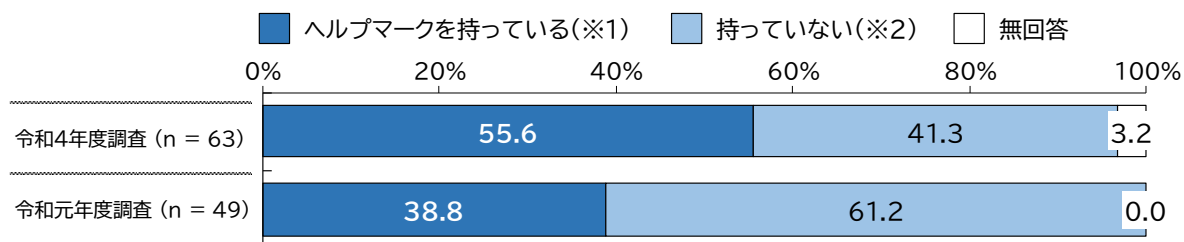
問 41 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。（あてはまるもの1つに○印）

ヘルプマーク・ヘルプカードについては、「ヘルプマークのみ持っている」が50.8%と最も多く、次いで「持っていない」が41.3%、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに持っている」が4.8%の順となっています。

<全体>



<前回調査との比較>



(※1) 令和4年度調査では、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに持っている」と「ヘルプマークのみ持っている」を選択した方の合計。

(※2) 令和4年度調査では、「ヘルプカードのみ持っている」と「持っていない」を選択した方の合計。

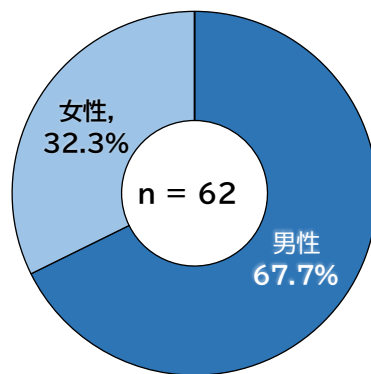
## 第4章 発達障がい児

### 1 福祉サービスを利用しているお子様について

問1 性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

性別は、「男性」が67.7%、「女性」が32.3%となっています。

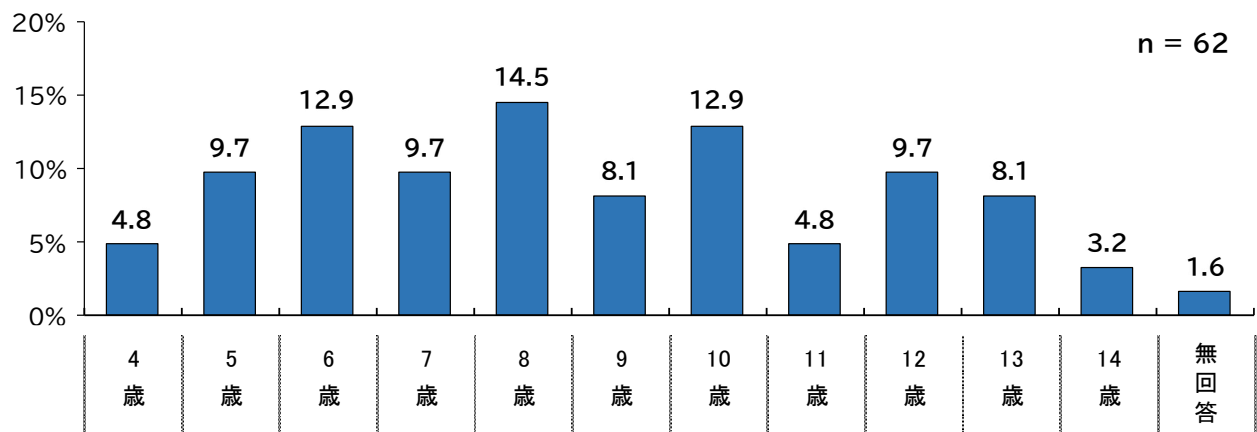
<全体>



問2 年齢をお答えください。(数字で記入)

年齢は、「8歳」が14.5%と最も多く、次いで「6歳」「10歳」が12.9%、「5歳」「7歳」「12歳」が9.7%の順となっています。

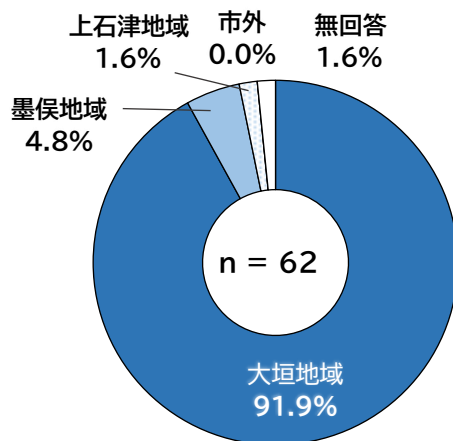
<全体>



問3 お住まいの地域はどこですか。(あてはまるもの1つに○印)

居住地域は、「大垣地域」が91.9%と最も多く、次いで「墨俣地域」が4.8%、「上石津地域」が1.6%の順となっています。

<全体>

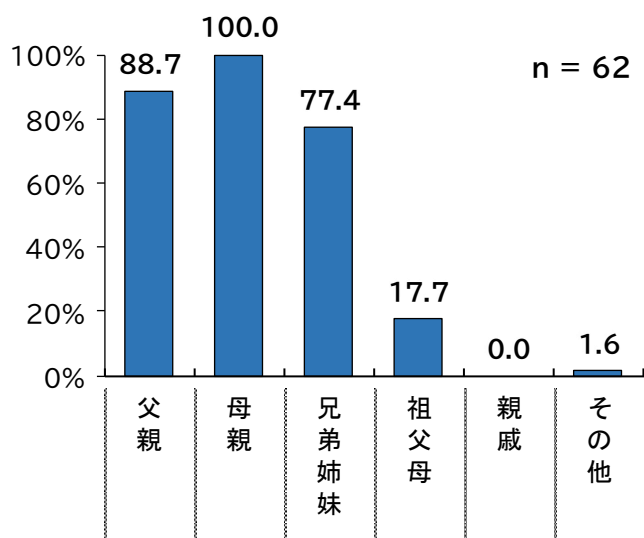


問4 ご家族の世帯状況をお答えください。(一緒に暮らしている家族すべてに○印)

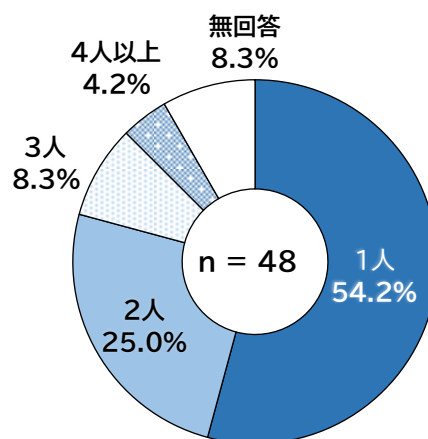
家族の世帯状況については、「母親」が100.0%と最も多く、次いで「父親」が88.7%、「兄弟姉妹」が77.4%の順となっています。

兄弟の人数は、「1人」が54.2%と最も多く、次いで「2人」が25.0%、「3人」が8.3%の順となっています。

<同居の家族>



<兄弟の人数>



問5 お子様は障がいの手帳をお持ちですか。（あてはまるものすべてに○印を記入）  
また、お持ちの手帳について、あてはまる等級（程度）に○印を記入してください。

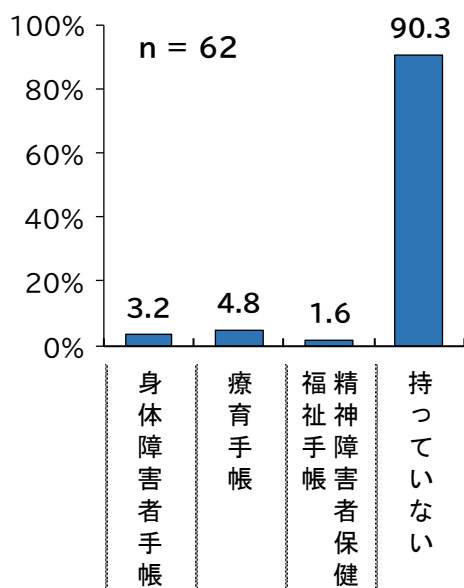
障がいの手帳については、「持っていない」が90.3%と最も多く、次いで「療育手帳」が4.8%、「身体障害者手帳」が3.2%の順となっています。

身体障害者手帳の等級（程度）については、「1 級」「2 級」が50.0%となっています。

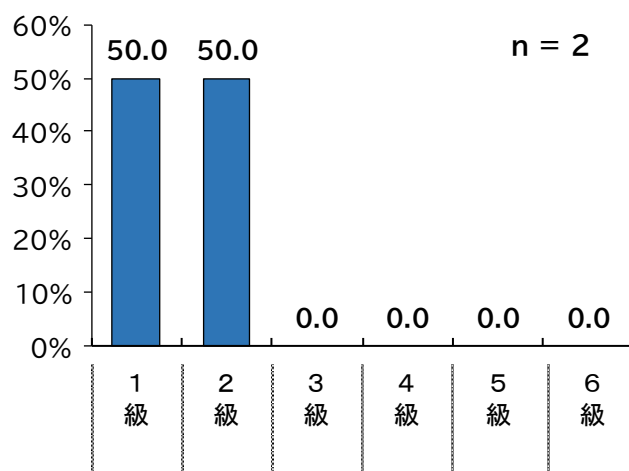
療育手帳の等級（程度）については、「B2」が33.3%となっています。

精神障害者保健福祉手帳の等級（程度）については、「2 級」が100.0%となっています。

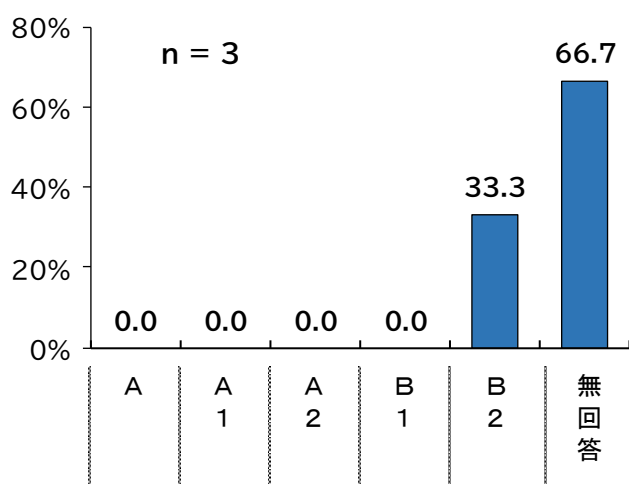
<手帳の種類>



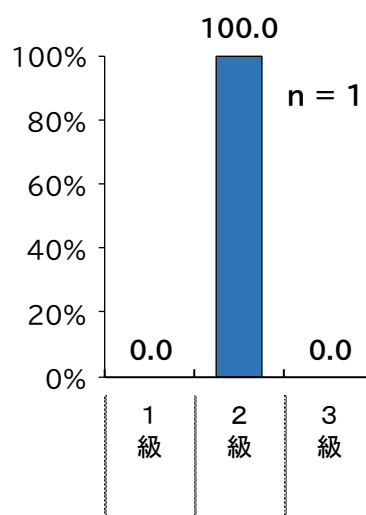
<身体障害者手帳>



<療育手帳>



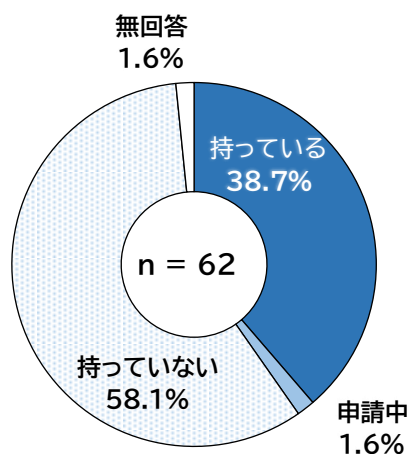
<精神障害者保健福祉手帳>



問6 お子様は現在、マイナンバーカードを持っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

マイナンバーカードについては、「持っている」が38.7%、「申請中」が1.6%、「持っていない」が58.1%となっています。

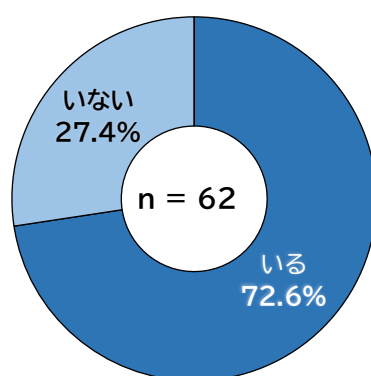
<全体>



問7 気軽に相談できる病院またはかかりつけの医師はいますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

気軽に相談できる病院またはかかりつけ医については、「いる」が72.6%、「いない」が27.4%となっています。

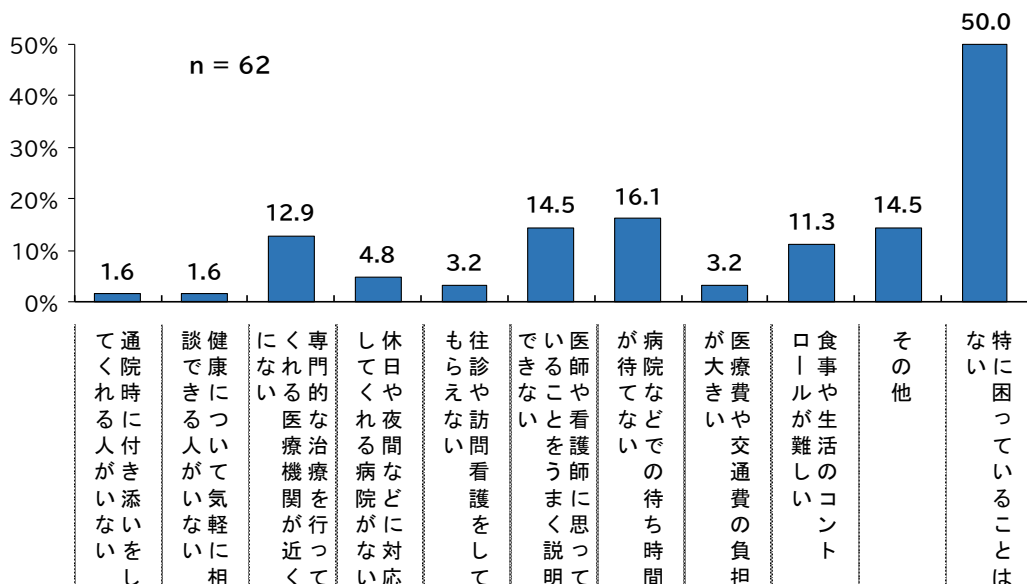
<全体>



問8 お子様が医療機関での診察を受けるときに、困っていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

医療機関での診察を受けるときに困っていることについては、「特に困っていることはない」が50.0%と最も多く、次いで「病院などでの待ち時間が待てない」が16.1%、「医師や看護師に思っていることをうまく説明できない」が14.5%の順となっています。

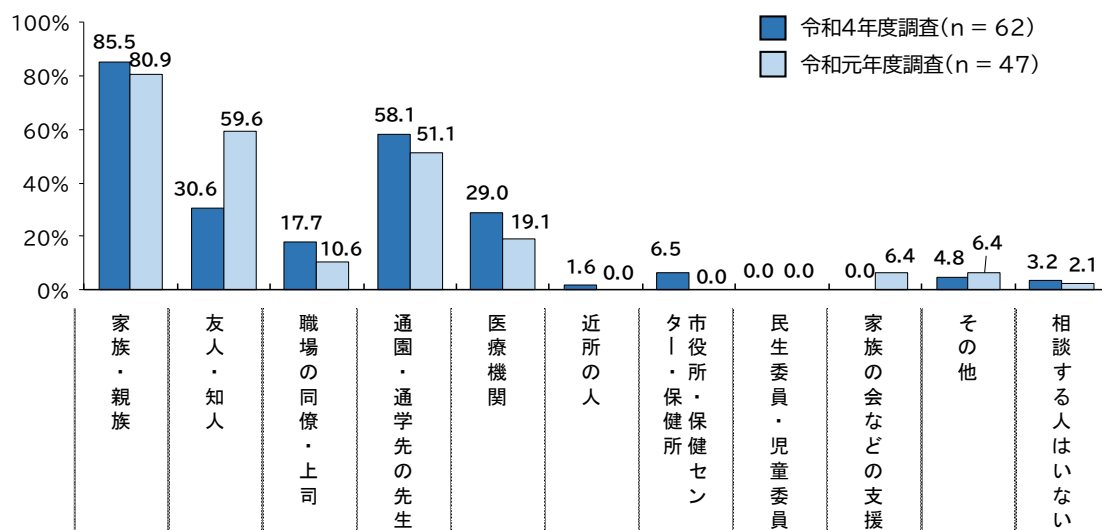
<全体>



問9 お子様の日常生活上の悩み事や困った時に主に相談する相手は誰ですか。  
(主なもの3つまで○印)

悩み事や困った時の相談相手については、「家族・親族」が85.5%と最も多く、次いで「通園・通学先の先生」が58.1%、「友人・知人」が30.6%の順となっています。

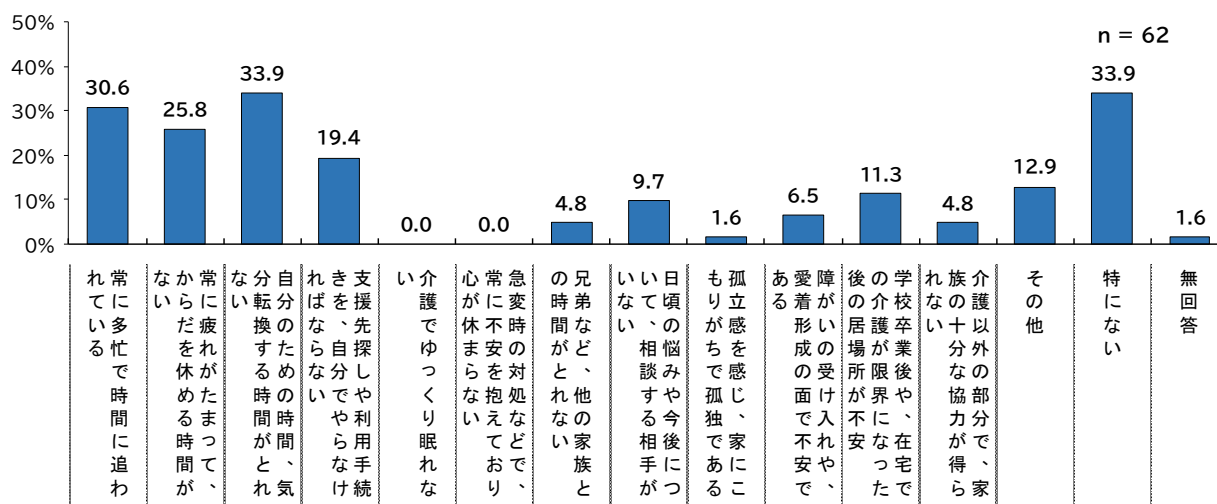
<全体・前回調査との比較>



問 10 日ごろ、不安・不満に感じていることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

日ごろ、不安・不満に感じていることについては、「自分のための時間、気分転換する時間がとれない」「特にない」が33.9%と最も多く、次いで「常に多忙で時間に追われている」が30.6%、「常に疲れがたまって、からだを休める時間がない」が25.8%の順となっています。

<全体>

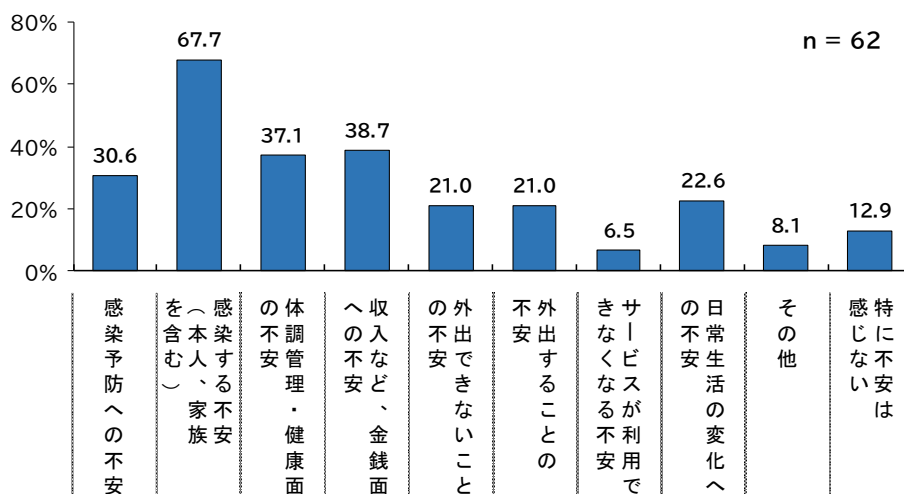


## 2 新型コロナウイルス感染拡大による影響について

問 11 新型コロナウイルスの感染拡大で、どんなことを不安に感じますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で不安に感じることについては、「感染する不安（本人、家族を含む）」が67.7%と最も多く、次いで「収入など、金銭面への不安」が38.7%、「体調管理・健康面の不安」が37.1%の順となっています。

<全体>

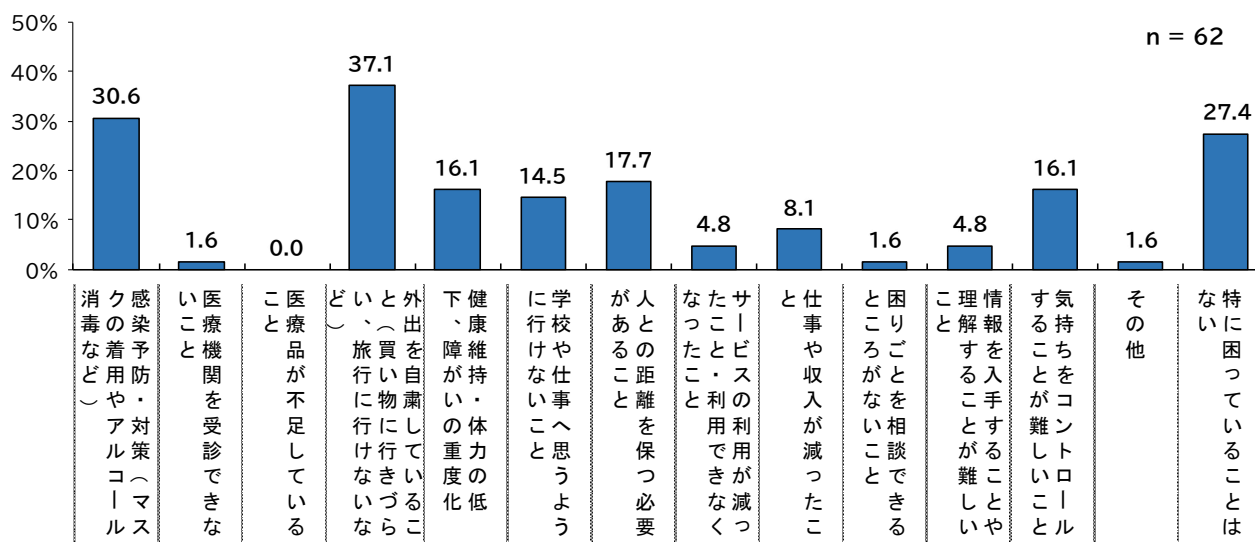




問 12 新型コロナウイルスの感染拡大で、困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染拡大で困っていることについては、「外出を自粛していること（買い物に行きづらい、旅行に行けないなど）」が37.1%と最も多く、次いで「感染予防・対策（マスクの着用やアルコール消毒など）」が30.6%、「特に困っていることはない」が27.4%の順となっています。

<全体>

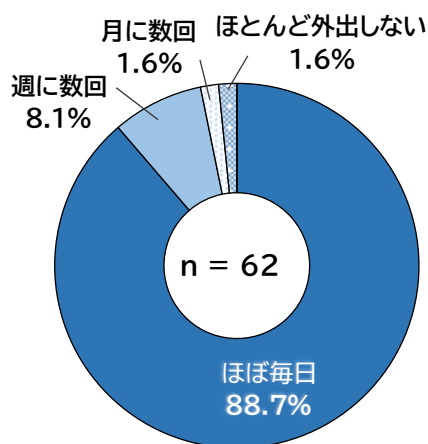


### 3 お子様の外出状況について

問 13 外出回数はどのくらいですか。(あてはまるもの1つに○印)

外出回数については、「ほぼ毎日」が88.7%と最も多く、次いで「週に数回」が8.1%、「月に数回」「ほとんど外出しない」が1.6%の順となっています。

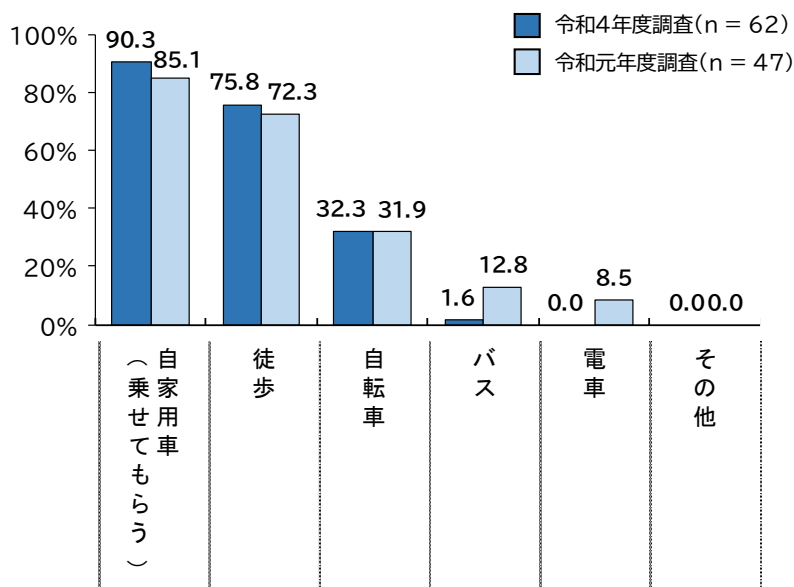
<全体>



問 14 外出する時に利用する主な交通手段は何ですか。(主なものに3つまで○印)

外出時に利用する交通手段については、「自家用車（乗せてもらう）」が 90.3%と最も多く、次いで「徒歩」が 75.8%、「自転車」が 32.3%の順となっています。

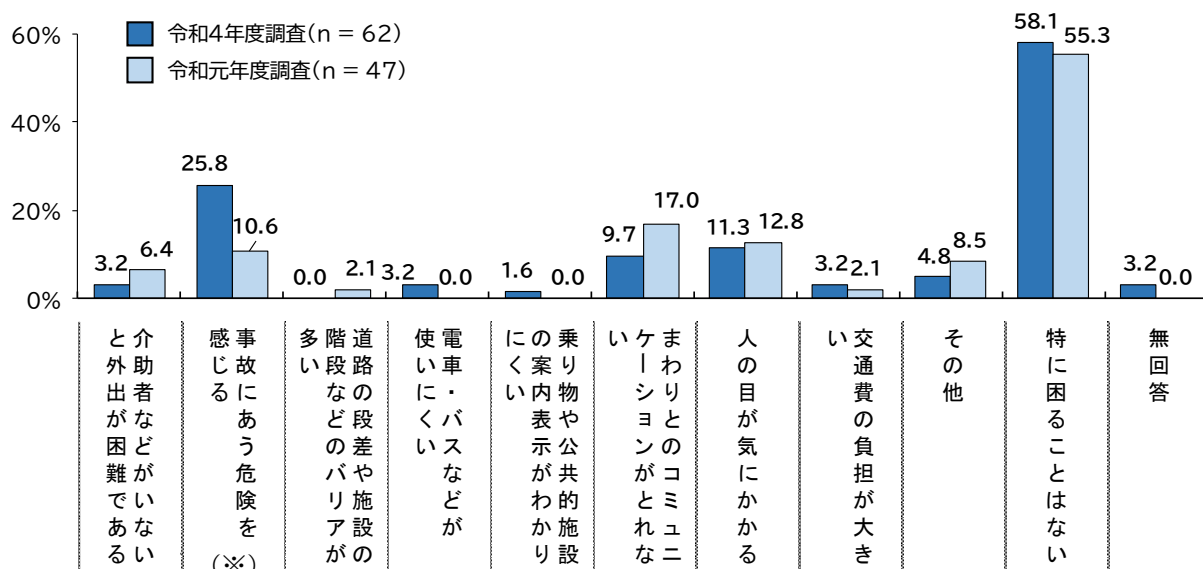
＜全体・前回調査との比較＞



問 15 外出するうえで、主に困ることは何ですか。(主なものに3つまで○印)

外出するうえで困ることについては、「特に困ることはない」が 58.1%と最も多く、次いで「事故にあう危険を感じる」が 25.8%、「人の目が気にかかる」が 11.3%の順となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



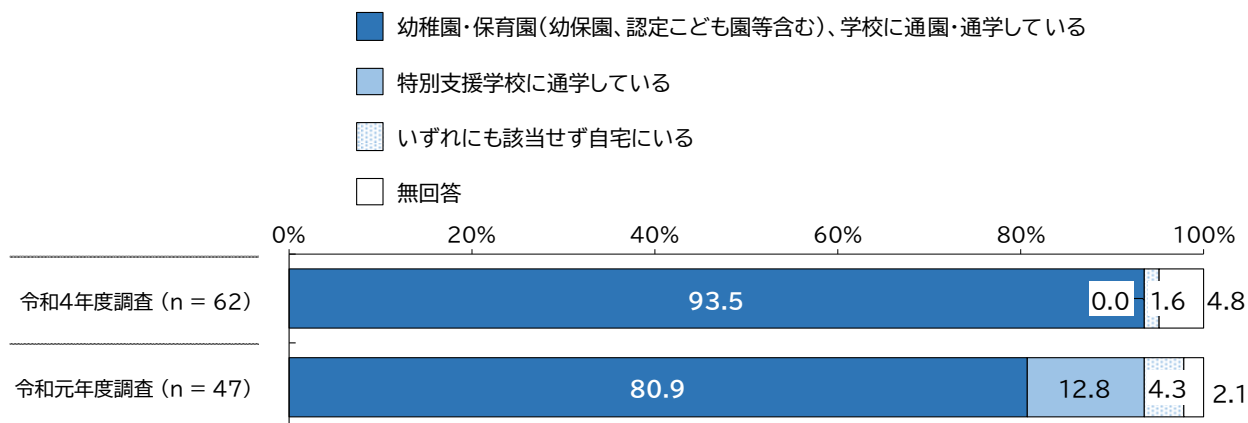
(※) 令和元年度調査…「車などに危険を感じる」

## 4 お子様の就学などについて

### 問 16 お子様は就園・就学をしていますか。(あてはまるもの1つに○印)

就園・就学については、「幼稚園・保育園（幼保園、認定こども園等含む）、学校に通園・通学している」が93.5%と最も多く、次いで「いずれにも該当せず自宅にいる」が1.6%となっています。

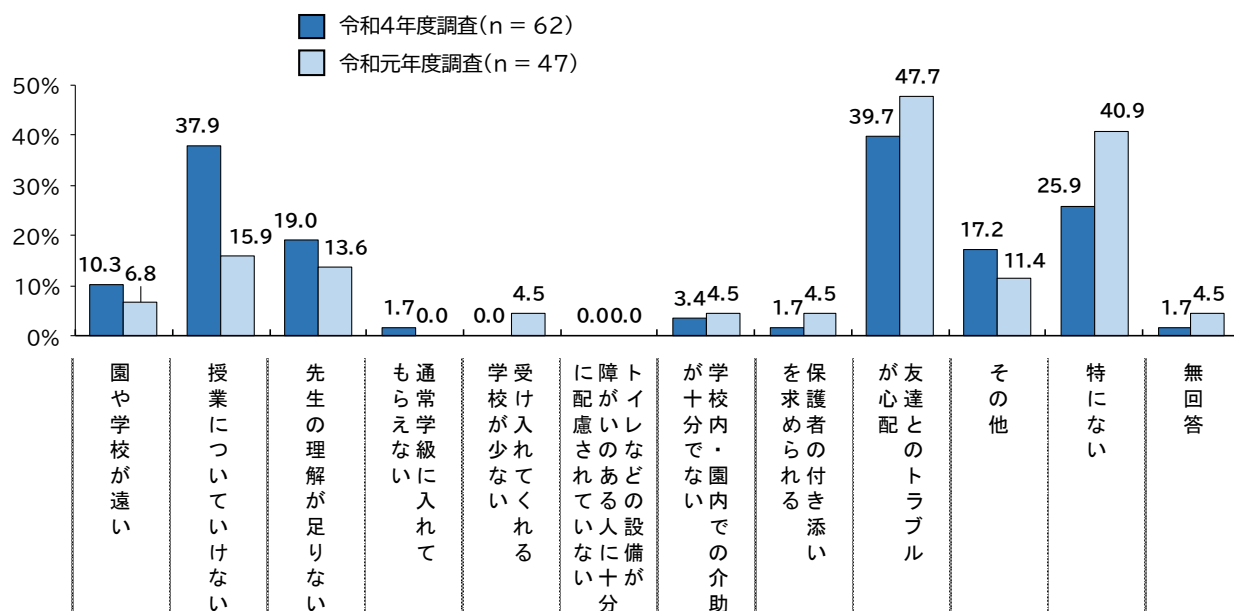
<全体・前回調査との比較>



### 問 16-① 通園・通学するうえで、困っていることはありますか。 (主なものに3つまで○印)

通園・通学するうえで困っていることについては、「友達とのトラブルが心配」が39.7%と最も多く、次いで「授業についていけない」が37.9%、「特にない」が25.9%の順となっています。

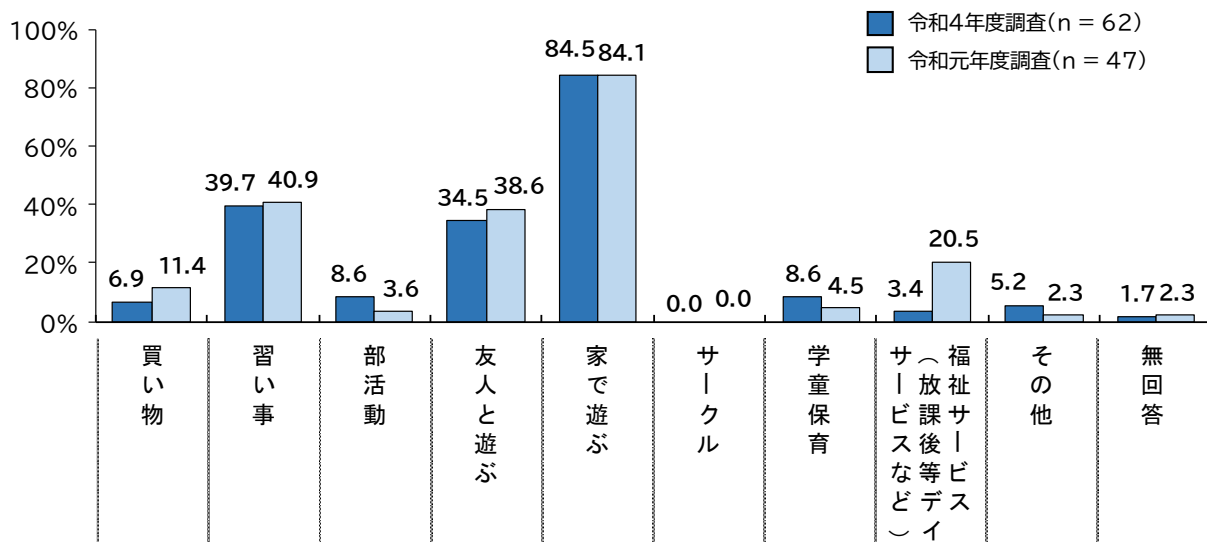
<全体・前回調査との比較>



問 16ー② 放課後は主にどのように過ごしていますか。(主なものに3つまで○印)

放課後の過ごし方については、「家で遊ぶ」が84.5%と最も多く、次いで「習い事」が39.7%、「友人と遊ぶ」が34.5%の順となっています。

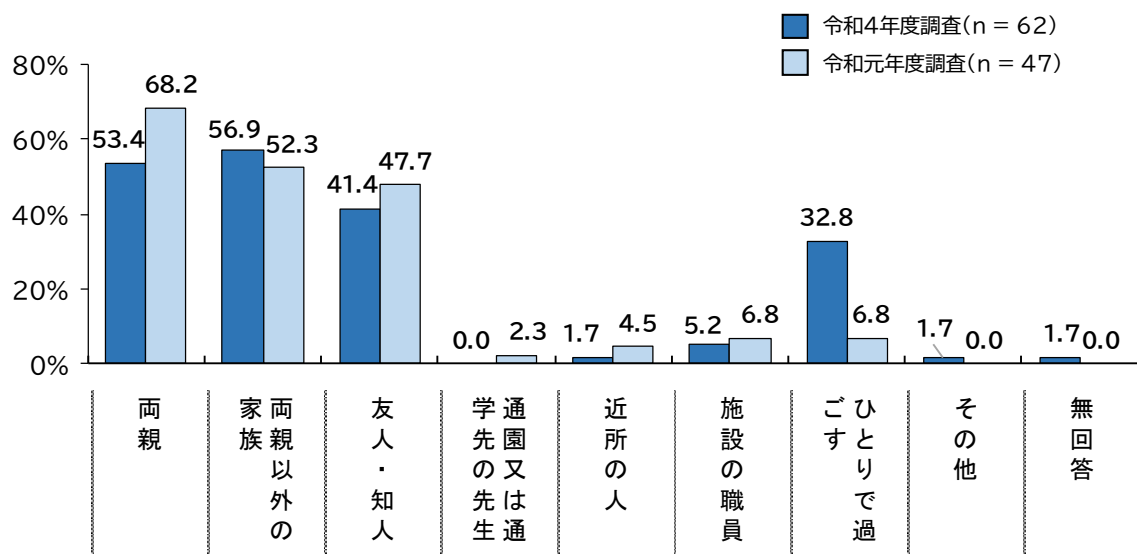
<全体・前回調査との比較>



問 16ー③ 放課後は主に誰と遊んだりして時間を過ごしていますか。(主なものに3つまで○印)

放課後を一緒に過ごす相手については、「両親以外の家族」が56.9%と最も多く、次いで「両親」が53.4%、「友人・知人」が41.4%の順となっています。

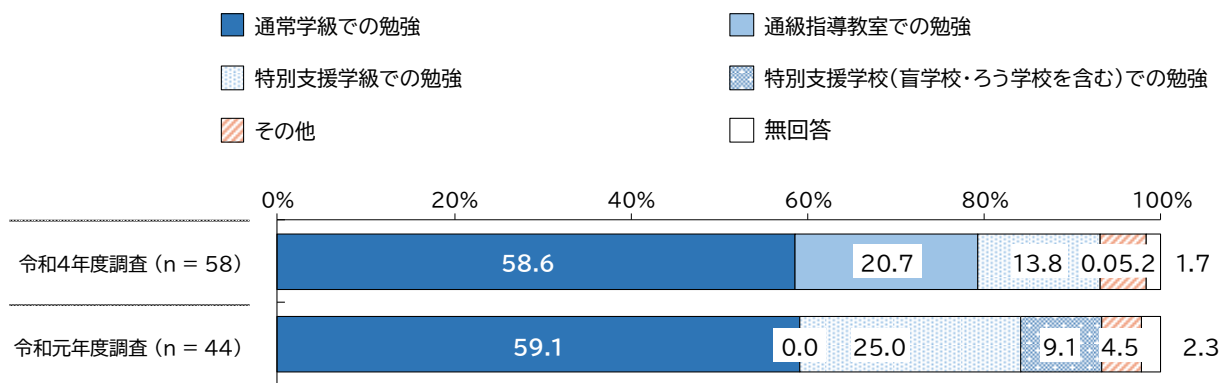
<全体・前回調査との比較>



問 16－④ 学校で勉強する場合に、どの形を望みますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

学校で勉強する形については、「通常学級での勉強」が 58.6%と最も多く、次いで「通級指導教室での勉強」が 20.7%、「特別支援学級での勉強」が 13.8%の順となっています。

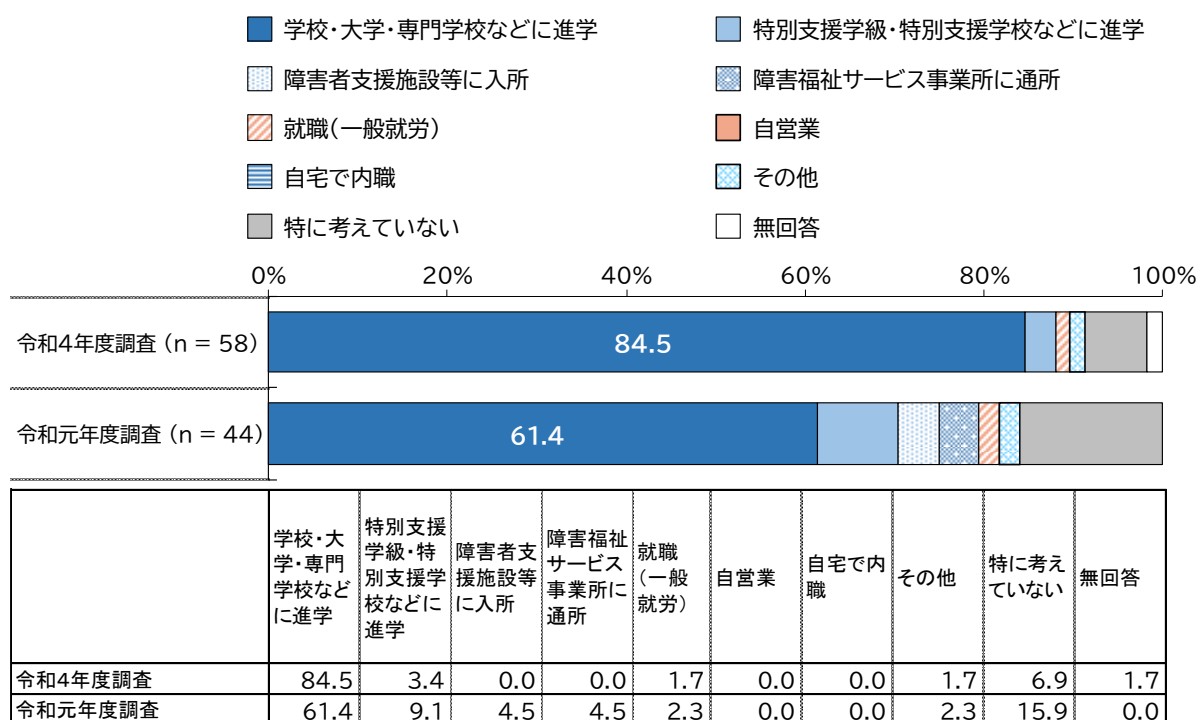
＜全体・前回調査との比較＞



問 16－⑤ 現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路をどのように考えていますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

現在の園や学校を卒園・卒業したあとの進路については、「学校・大学・専門学校などに進学」が 84.5%と最も多く、次いで「特に考えていない」が 6.9%、「特別支援学級・特別支援学校などに進学」が 3.4%の順となっています。

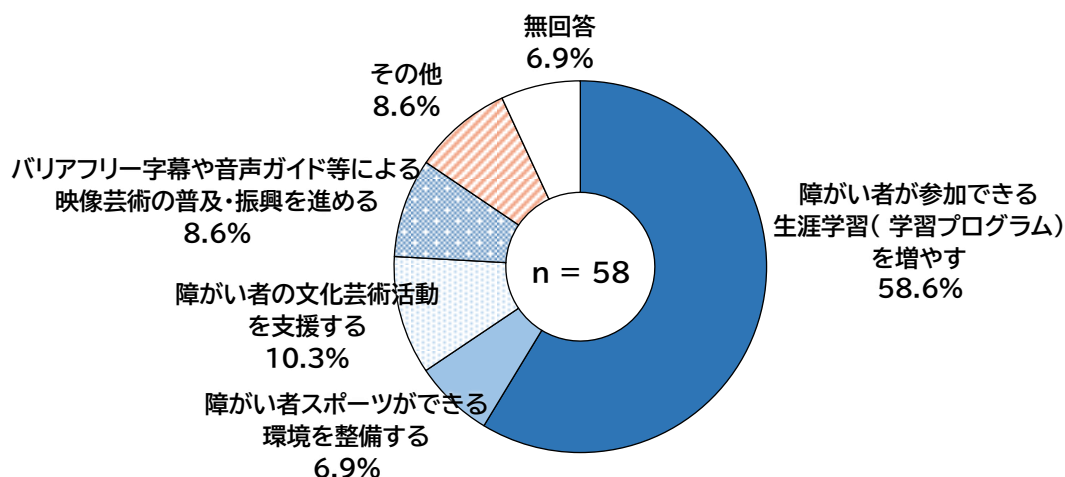
＜全体・前回調査との比較＞



問 16ー⑥ 学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことは何であると考えますか。(あてはまるもの1つに○印)

学校卒業後も生涯学び、豊かな人生を過ごすことができるようにするために必要なことについては、「障がい者が参加できる生涯学習(学習プログラム)を増やす」が58.6%と最も多く、次いで「障がい者の文化芸術活動を支援する」が10.3%、「バリアフリー字幕や音声ガイド等による映像芸術の普及・振興を進める」が8.6%の順となっています。

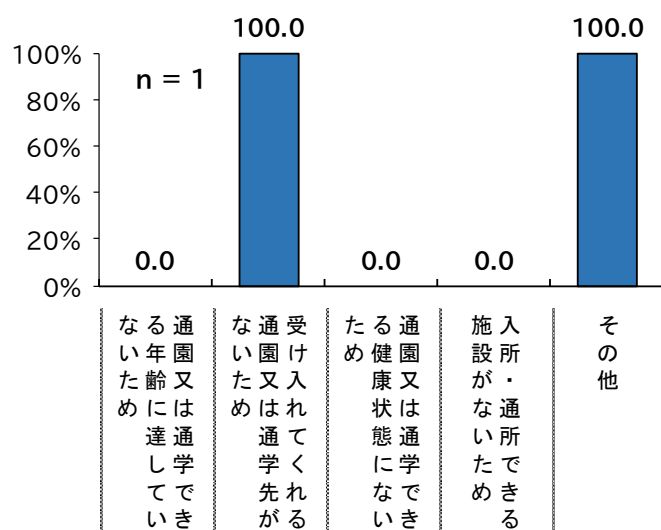
<全体>



問 17 就園・就学をしていない場合、自宅にいる主な理由は何ですか。(主なものに3つまで○印)

自宅にいる理由については、「受け入れてくれる通園又は通学先がないため」「その他」が100.0%となっています。

<全体>

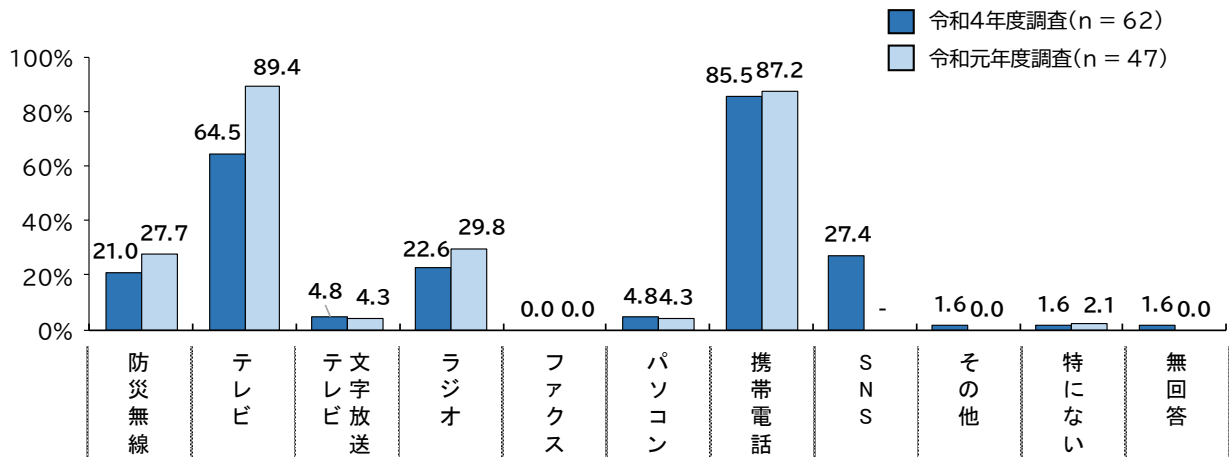


## 5 家庭での災害など緊急事態の対応について

問 18 災害などの緊急事態が発生した場合、緊急情報を得る手段として、主にどのような手段の効果が高いと思いますか。（主なものに3つまで○印）

災害などの緊急時に、緊急情報を得る手段として効果が高いものについては、「携帯電話」が85.5%と最も多く、次いで「テレビ」が64.5%、「SNS」が27.4%の順となっています。

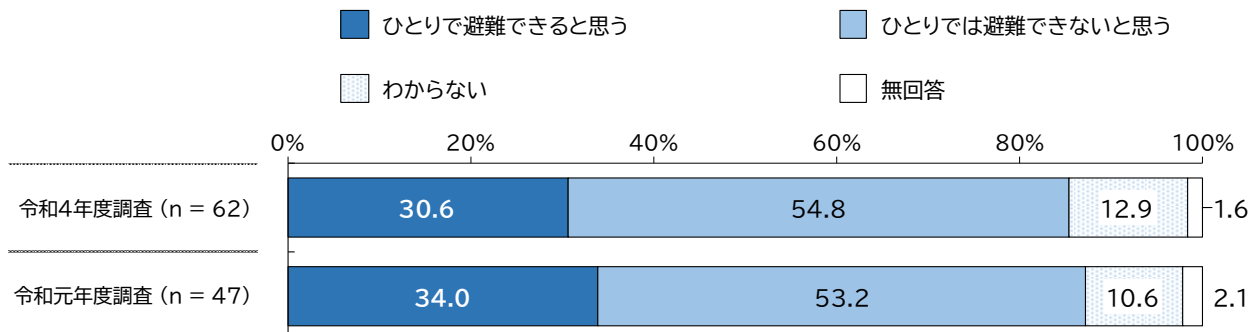
<全体・前回調査との比較>



問 19 もし災害などの緊急事態が発生した場合、避難場所等にお子様がひとりで避難できると思いますか。（あてはまるもの1つに○印）

災害などの緊急時に、ひとりで避難できるかについては、「ひとりで避難できないと思う」が54.8%と最も多く、次いで「ひとりで避難できると思う」が30.6%、「わからない」が12.9%の順となっています。

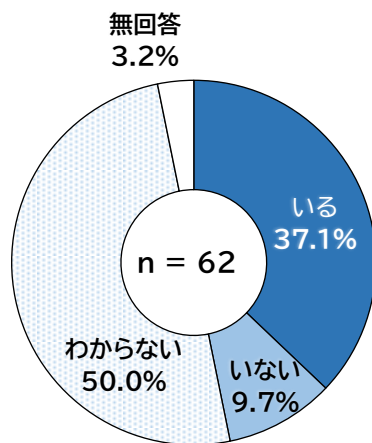
<全体・前回調査との比較>



問 20 災害時、助けてくれる人はいますか。(あてはまるもの1つに○印)

災害時助けてくれる人については、「わからない」が50.0%と最も多く、次いで「いる」が37.1%、「いない」が9.7%の順となっています。

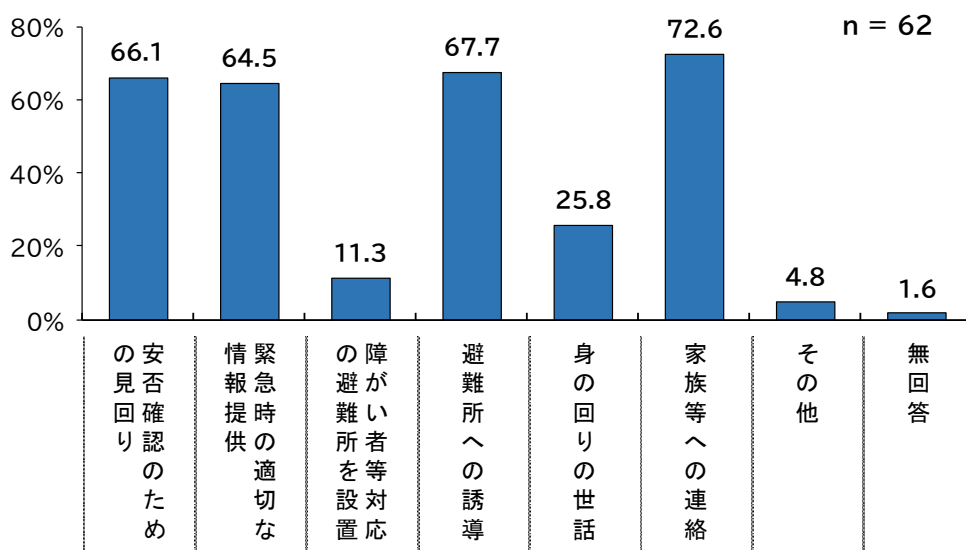
<全体>



問 21 災害などの緊急事態が発生した場合に、お子様のために、ご家族の方が必要としていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

災害などの緊急時に必要としていることについては、「家族等への連絡」が72.6%と最も多く、次いで「避難所への誘導」が67.7%、「安否確認のための見回り」が66.1%の順となっています。

<全体>

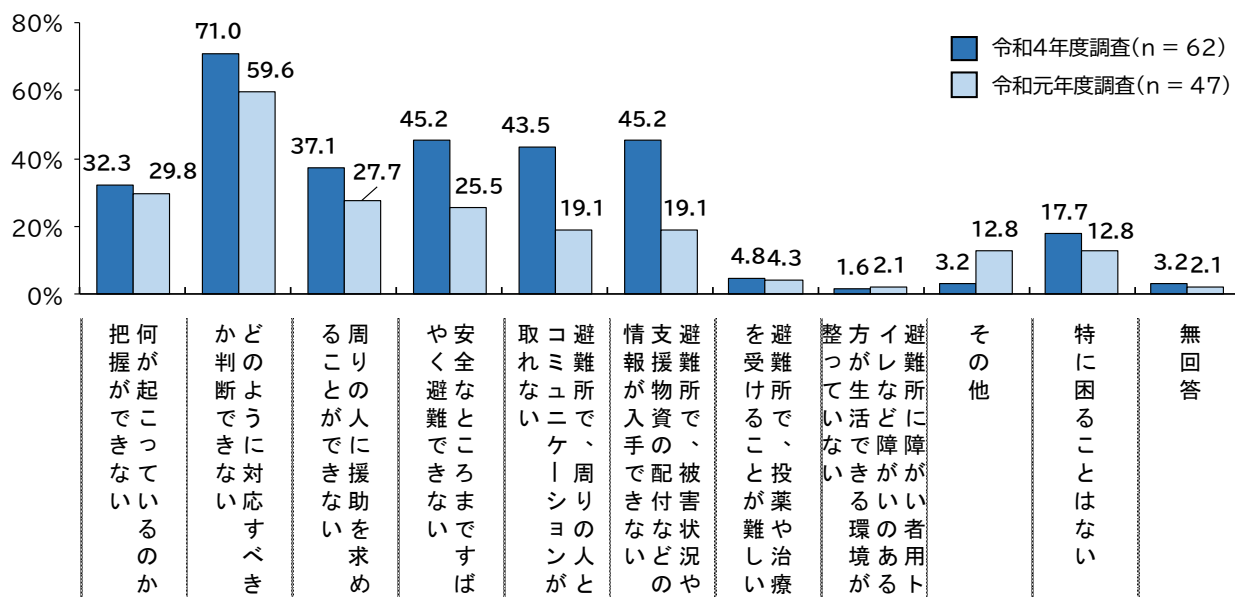




問 22 お子様は、災害などの緊急事態が発生した場合に、どのようなことに困ると思いますか（あてはまるものすべてに○印）

災害などの緊急時に困ることについては、「どのように対応すべきか判断できない」が71.0%と最も多く、次いで「安全なところまですばやく避難できない」「避難所で、被害状況や支援物資の配付などの情報が入手できない」が45.2%、「避難所で、周りの人とコミュニケーションが取れない」が43.5%の順となっています。

<全体・前回調査との比較>



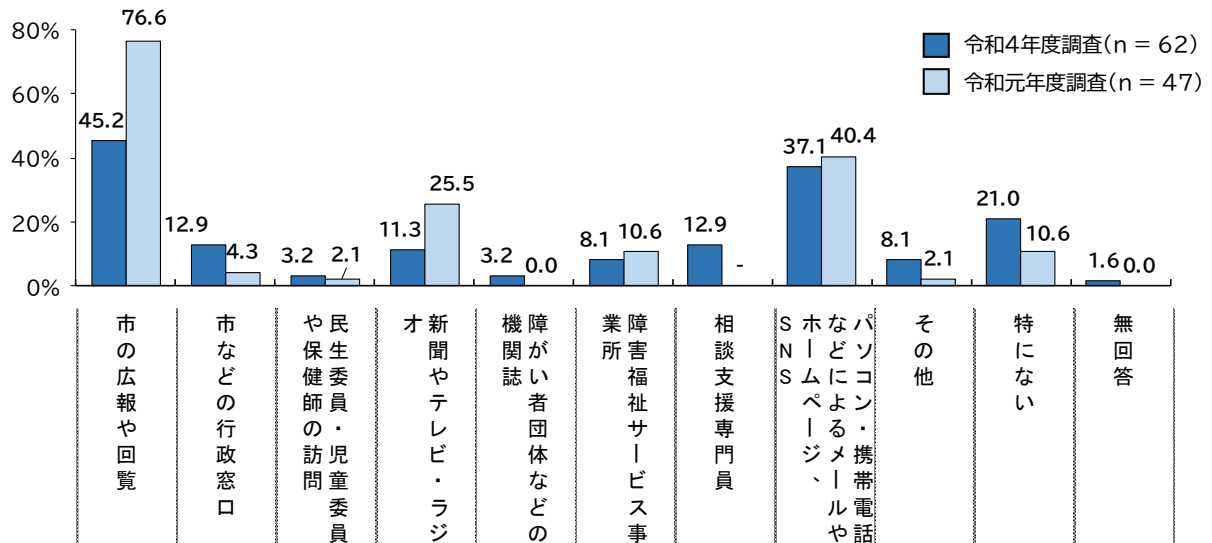
## 6 福祉情報の入手方法について

問 23 お子様やご家族は、現在、主にどのような手段で必要となる福祉情報を得ていますか。また、今後どのような手段で得たいと思いますか。（主なものに3つまで○印）

### 【現在利用している情報手段】

福祉情報を得るために現在利用している情報手段については、「市の広報や回覧」が45.2%と最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が37.1%、「特になし」が21.0%の順となっています。

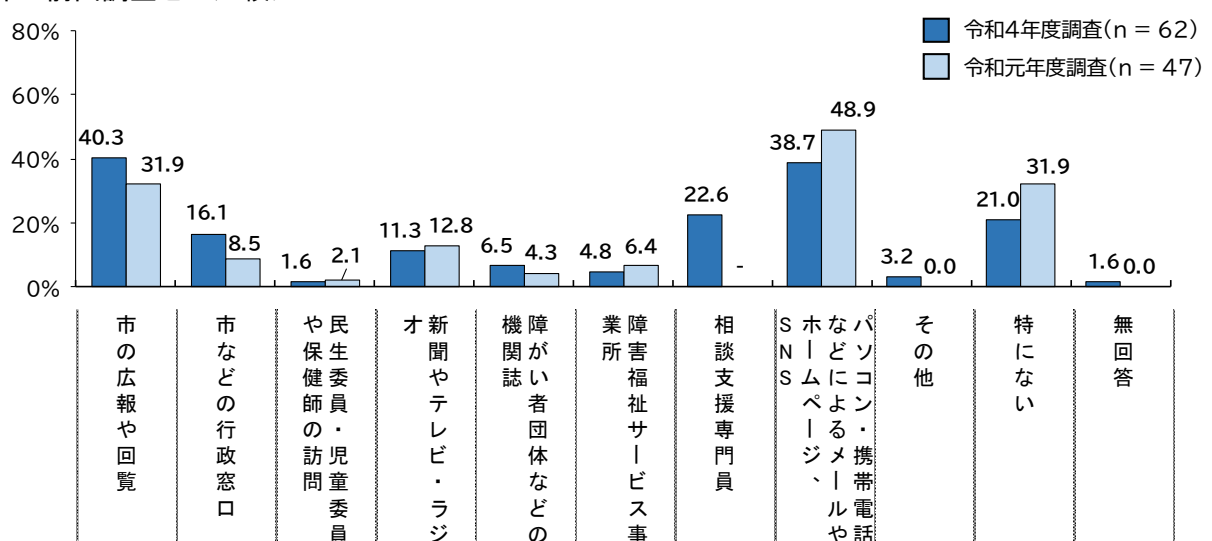
#### ＜全体・前回調査との比較＞



### 【今後利用したい情報手段】

福祉情報を得るために今後利用したい情報手段については、「市の広報や回覧」が40.3%と最も多く、次いで「パソコン・携帯電話などによるメールやホームページ、SNS」が38.7%、「相談支援専門員」が22.6%の順となっています。

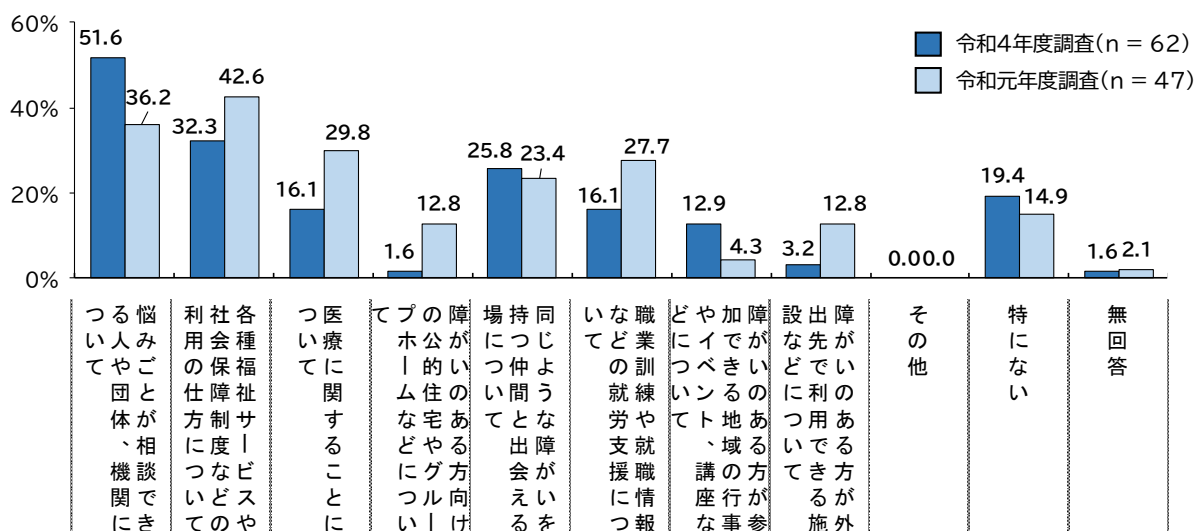
#### ＜全体・前回調査との比較＞



問 24 お子様やご家族は、主にどのような福祉情報を知りたいですか。  
(主なものに3つまで○印)

主に知りたい福祉情報については、「悩みごとが相談できる人や団体、機関について」が51.6%と最も多く、次いで「各種福祉サービスや社会保障制度などの利用の仕方について」が32.3%、「同じような障がいを持つ仲間と出会える場について」が25.8%の順となっています。

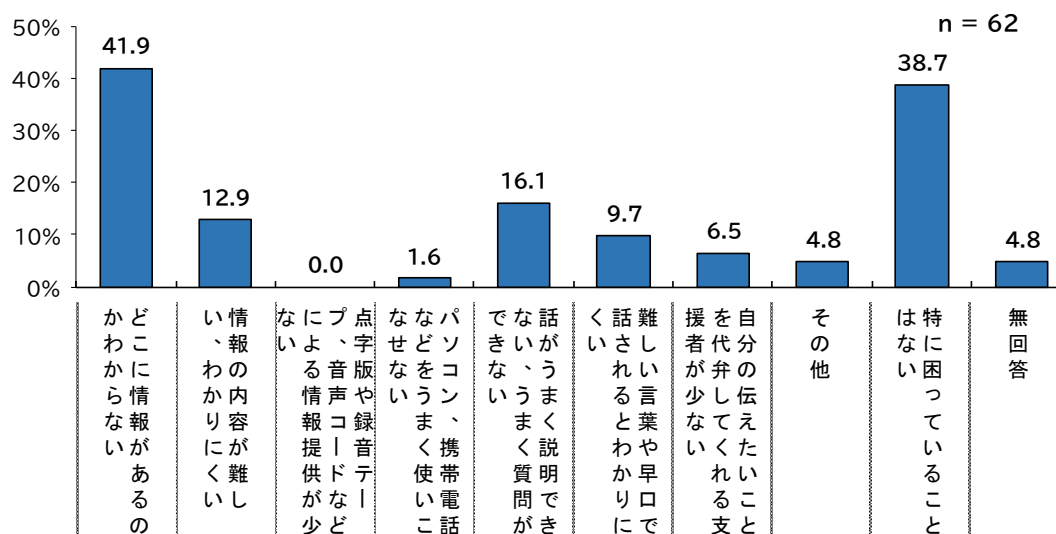
<全体・前回調査との比較>



問 25 情報入手や意思疎通に関して困っていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

情報入手や意思疎通に関して困っていることについては、「どこに情報があるのかわからない」が41.9%と最も多く、次いで「特に困っていること」が38.7%、「話がうまく説明できない、うまく質問ができない」が16.1%の順となっています。

<全体>

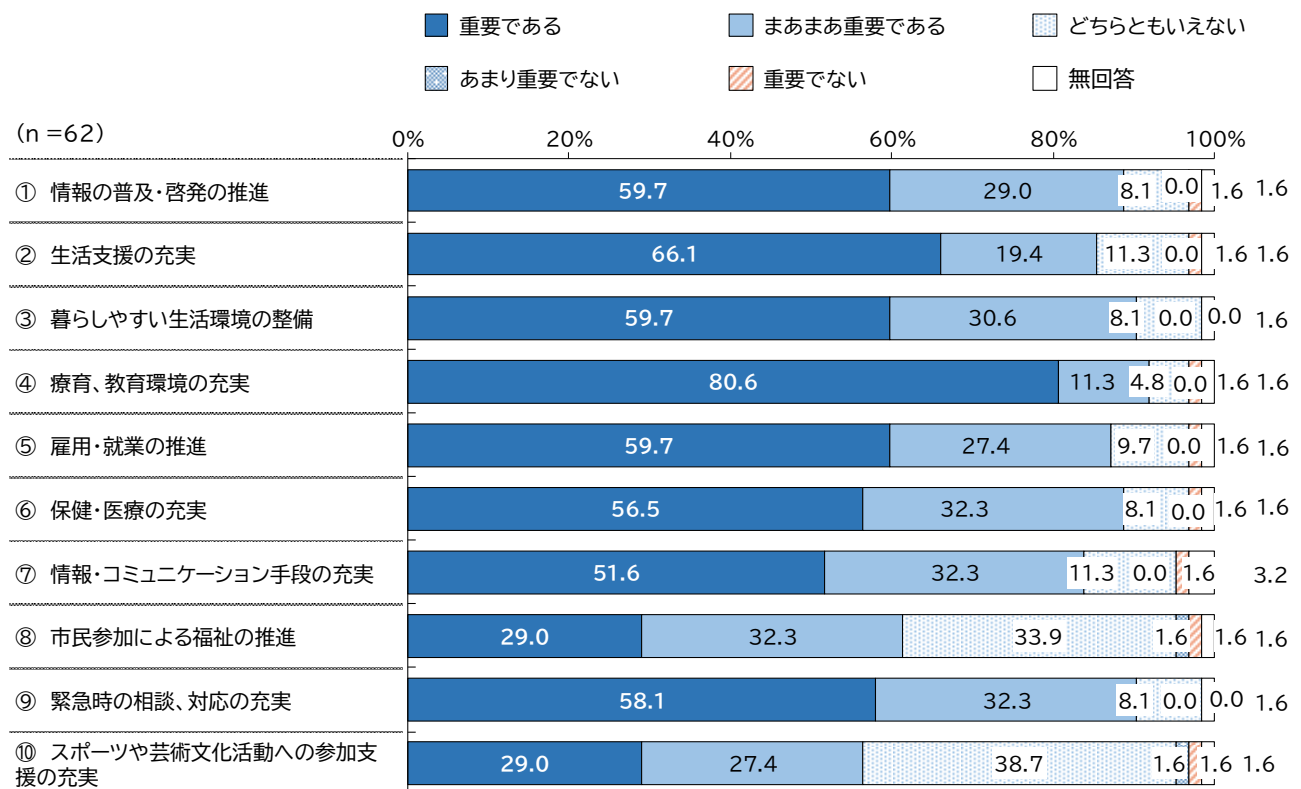


## 7 将来の生活や、今後の大垣市の福祉について

問 26 障がい福祉に関する今後の大垣市の取り組みとして、次の各項目について、どのくらい重要だと思いますか。（それぞれあてはまるもの1つに○印）

これからの大垣市の取り組みについて、「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』が最も多いのは、『④ 療育、教育環境の充実』で91.9%、次いで『⑨ 緊急時の相談、対応の充実』が90.4%、『③ 暮らしやすい生活環境の整備』が90.3%の順となっています。

### <全体>

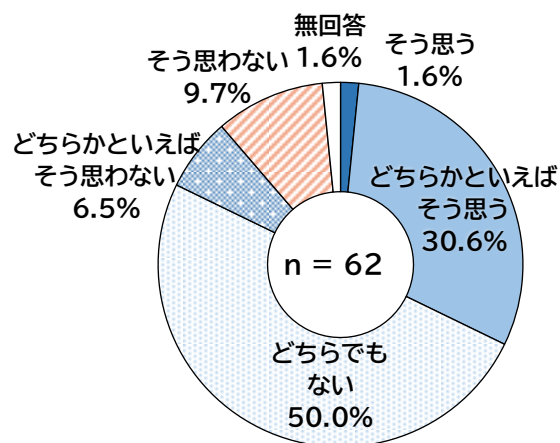


問 27 大垣市は、障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「どちらでもない」が 50.0%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 30.6%、「そう思わない」が 9.7%の順となっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は 32.2%となっています。

<全体>



## 8 現在利用している障害福祉サービスについて

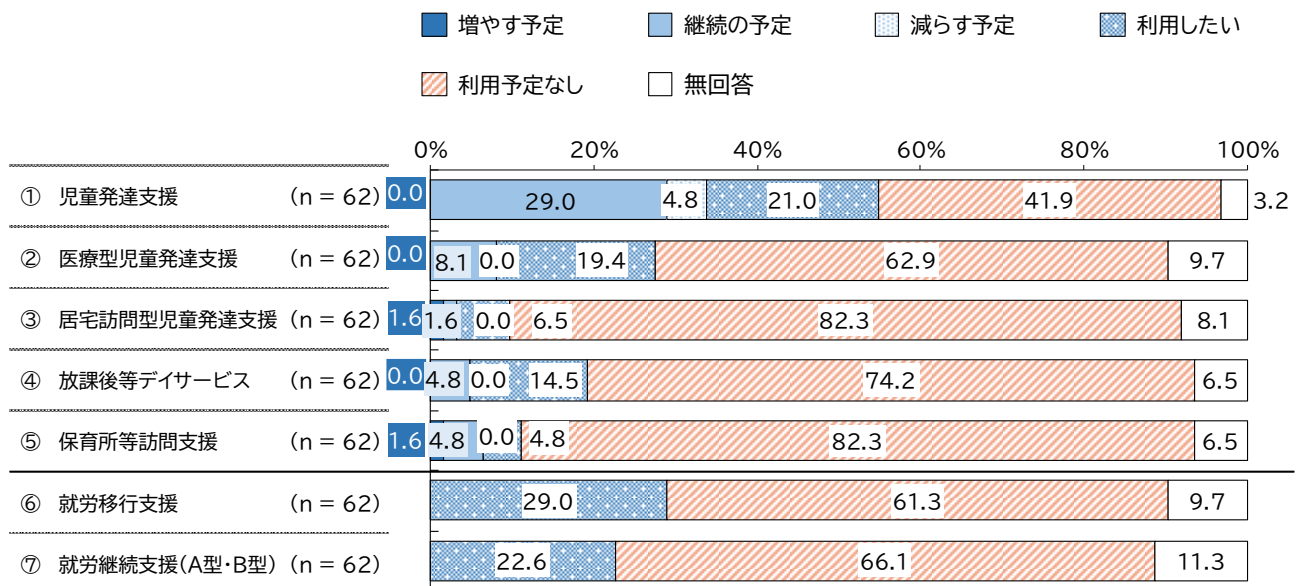
問 28 次の障害福祉サービスの利用について、お子様の現在の利用状況に応じて、今後の利用予定をお答えください。（それぞれあてはまるもの1つに○印を記入）  
また、「4.（現在利用していないが、）利用したい」と答えた場合、そのサービスの利用を希望する時期を記載してください。

### 【現在の利用状況】

障害福祉サービスの現在の利用状況について、「増やす予定」「継続の予定」「減らす予定」を合わせた“利用している”が最も多いのは、『① 児童発達支援』が33.8%、次いで『② 医療型児童発達支援』が8.1%、『⑤ 保育所等訪問支援』が6.4%の順となっています。

「利用したい」が最も多いのは、『⑥ 就労移行支援』が29.0%、次いで『⑦ 就労継続支援（A型・B型）』が22.6%、『① 児童発達支援』が21.0%の順となっています。

### <全体>

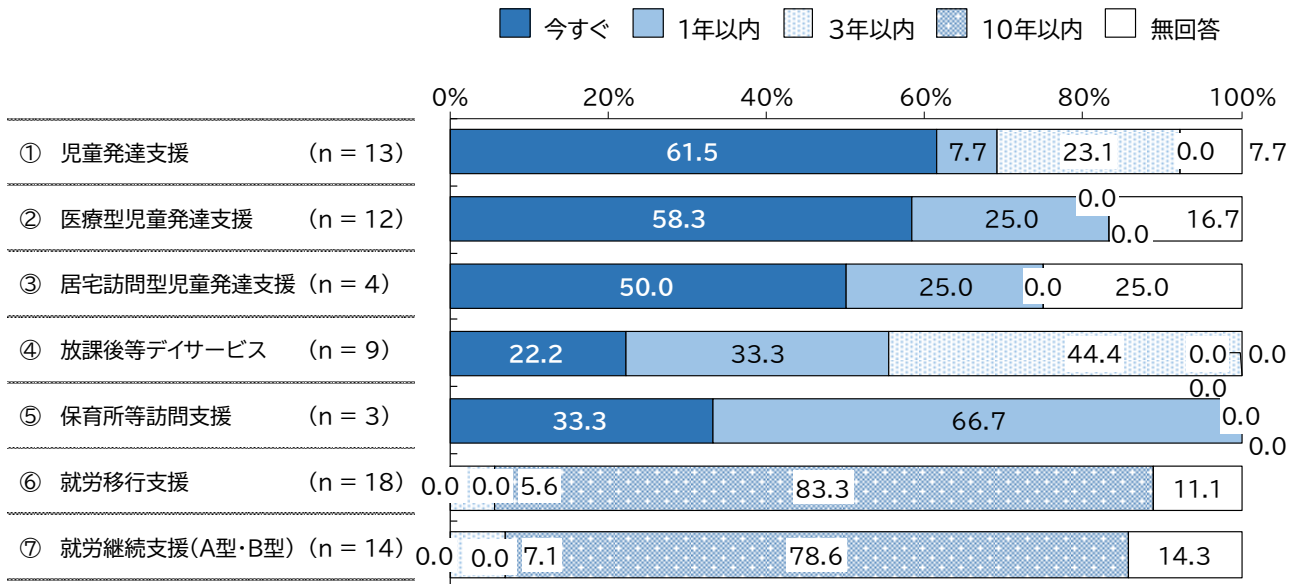


※⑥～⑦は「利用したい」「利用予定なし」のみの設問。

### 【利用希望時期】

障害福祉サービスの利用希望時期について、「今すぐ」では、『① 児童発達支援』『② 医療型児童発達支援』、「10年以内」では、『⑥ 就労移行支援』『⑦ 就労継続支援（A型・B型）』の割合が高くなっています。

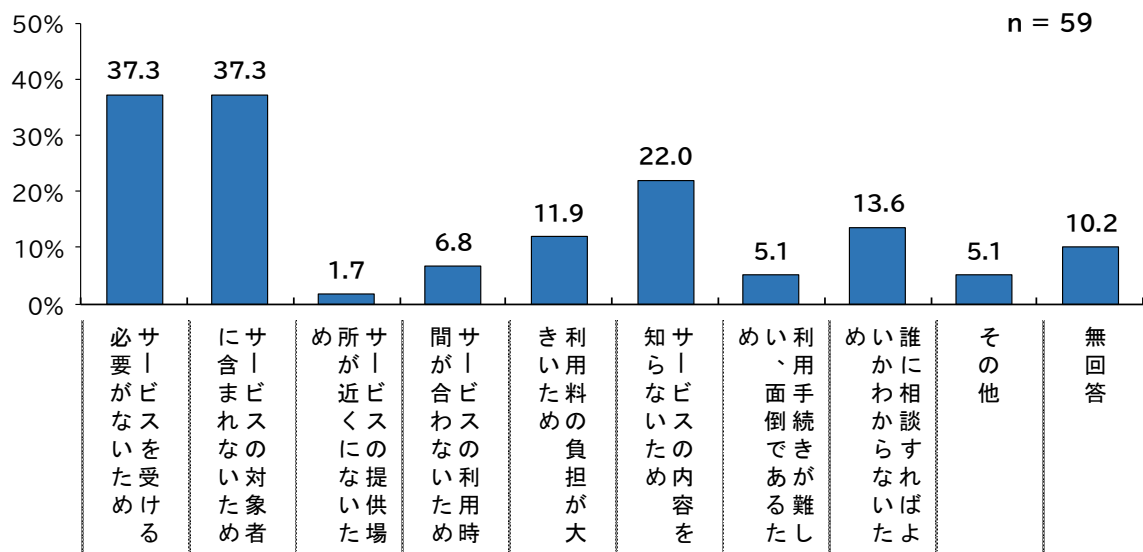
<全体>



### 問 29 サービスの利用予定がない理由は何ですか。（主なものに3つまで○印）

サービスの利用予定がない理由については、「サービスを受ける必要がないため」「サービスの対象者に含まれないため」が37.3%と最も多く、次いで「サービスの内容を知らないため」が22.0%、「誰に相談すればよいか分からないため」が13.6%の順となっています。

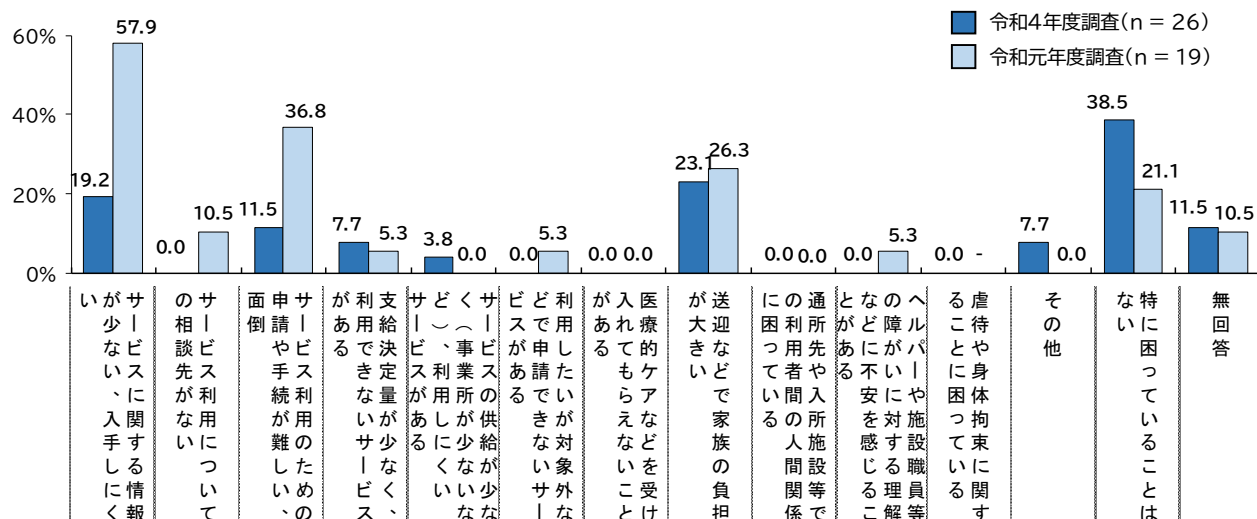
<全体>



### 問 30 サービスの利用で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

サービスの利用で困っていることについては、「特に困っていることはない」が 38.5%と最も多く、次いで「送迎などで家族の負担が大きい」が 23.1%、「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」が 19.2%の順となっています。

#### <全体・前回調査との比較>

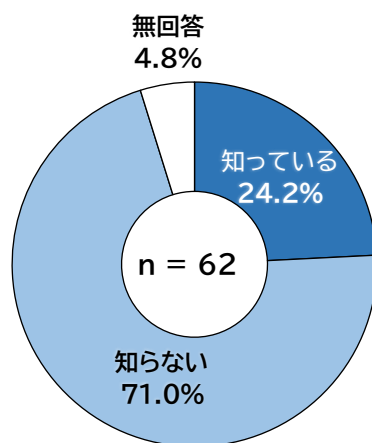


## 9 差別解消と権利擁護について

### 問 31 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について知っていますか。(あてはまるもの 1 つに○印)

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については、「知らない」が 71.0%と最も多く、次いで「知っている」が 24.2%となっています。

#### <全体>

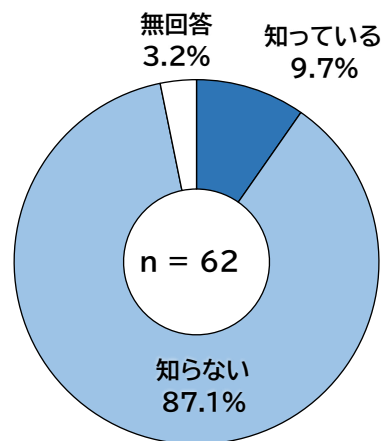




問 32 障がいのある方への虐待に関する相談窓口として、大垣市障がい者虐待防止センターを設置していますが、あなたはこのことを知っていますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

大垣市障がい者虐待防止センターについては、「知っている」が9.7%、「知らない」が87.1%となっています。

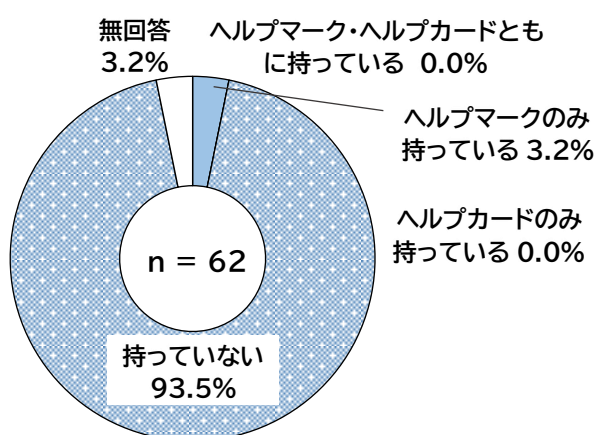
<全体>



問 33 ヘルプマークまたはヘルプカードを持っていますか。(あてはまるもの1つに○印)

ヘルプマーク・ヘルプカードについては、「持っていない」が93.5%と最も多く、次いで「ヘルプマークのみ持っている」が3.2%となっています。

<全体>



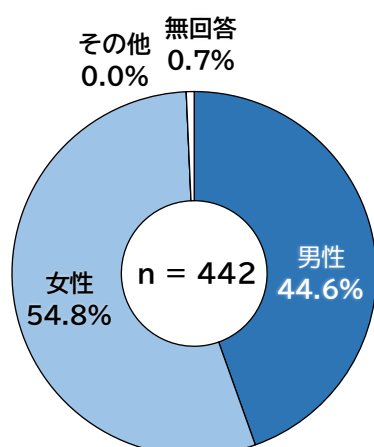
## 第5章 一般

### 1 回答者自身について

問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

性別は、「男性」が44.6%、「女性」が54.8%となっています。

<全体>



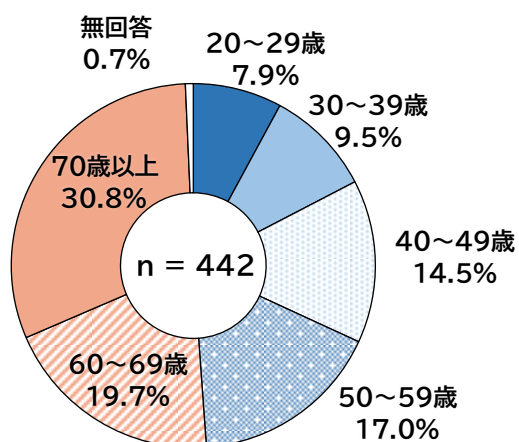
<年齢別>

		(上段:人 下段:%)			
	調査数	男性	女性	その他	無回答
全 体	442	197	242	0	3
	100.0	44.6	54.8	0.0	0.7
20～29歳	35	12	23	0	0
	100.0	34.3	65.7	0.0	0.0
30～39歳	42	22	20	0	0
	100.0	52.4	47.6	0.0	0.0
40～49歳	64	31	33	0	0
	100.0	48.4	51.6	0.0	0.0
50～59歳	75	33	42	0	0
	100.0	44.0	56.0	0.0	0.0
60～69歳	87	42	45	0	0
	100.0	48.3	51.7	0.0	0.0
70歳以上	136	57	79	0	0
	100.0	41.9	58.1	0.0	0.0

問2 あなたの年齢をお答えください。(数字で記入)

年齢は、「70歳以上」が30.8%と最も多く、次いで「60～69歳」が19.7%、「50～59歳」が17.0%の順となっています。

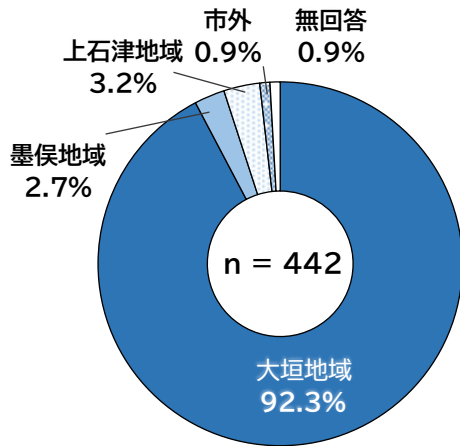
<全体>



問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。(あてはまるもの1つに○印)

居住地域については、「大垣地域」が92.3%と最も多く、次いで「上石津地域」が3.2%、「墨俣地域」が2.7%の順となっています。

<全体>



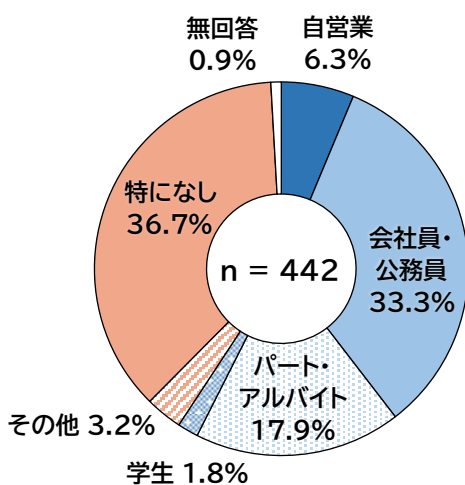
<年齢別>

		(上段:人 下段:%)				
	調査数	大垣地域	墨俣地域	上石津地域	市外	無回答
全 体	442	408	12	14	4	4
	100.0	92.3	2.7	3.2	0.9	0.9
20～29歳	35	33	0	0	2	0
	100.0	94.3	0.0	0.0	5.7	0.0
30～39歳	42	41	0	1	0	0
	100.0	97.6	0.0	2.4	0.0	0.0
40～49歳	64	62	2	0	0	0
	100.0	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0
50～59歳	75	72	1	2	0	0
	100.0	96.0	1.3	2.7	0.0	0.0
60～69歳	87	77	3	6	1	0
	100.0	88.5	3.4	6.9	1.1	0.0
70歳以上	136	123	6	5	1	1
	100.0	90.4	4.4	3.7	0.7	0.7

問4 あなたのご職業をお答えください。(あてはまるもの1つに○印)

職業については、「特になし」が36.7%と最も多く、次いで「会社員・公務員」が33.3%、「パート・アルバイト」が17.9%の順となっています。

<全体>



<年齢別>

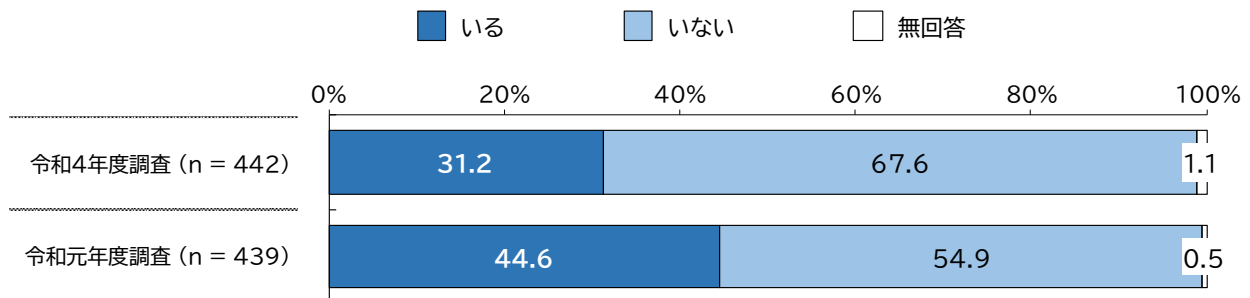
		(上段:人 下段:%)						
	調査数	自営業	会社員・公務員	パート・アルバイト	学生	その他	特になし	無回答
全 体	442	28	147	79	8	14	162	4
	100.0	6.3	33.3	17.9	1.8	3.2	36.7	0.9
20～29歳	35	2	17	1	8	3	4	0
	100.0	5.7	48.6	2.9	22.9	8.6	11.4	0.0
30～39歳	42	2	30	7	0	0	2	1
	100.0	4.8	71.4	16.7	0.0	0.0	4.8	2.4
40～49歳	64	3	35	18	0	2	5	1
	100.0	4.7	54.7	28.1	0.0	3.1	7.8	1.6
50～59歳	75	3	43	20	0	1	8	0
	100.0	4.0	57.3	26.7	0.0	1.3	10.7	0.0
60～69歳	87	6	21	21	0	4	35	0
	100.0	6.9	24.1	24.1	0.0	4.6	40.2	0.0
70歳以上	136	12	1	12	0	3	107	1
	100.0	8.8	0.7	8.8	0.0	2.2	78.7	0.7

## 2 福祉に関する情報、障がいのある方への意識について

問5 あなたの身近（身内・地域・職場・学校・その他（ボランティア先など））に障がいのある方はいますか。（あてはまるもの1つに○印）

身近に障がいのある方がいるかについては、「いる」が31.2%、「いない」が67.6%となっています。  
前回の調査と比較すると、「いる」が13.4ポイントの減少となっています。

### <全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「いる」は40～49歳で、「いない」は20～29歳で最も高い割合となっています。

### <年齢別>

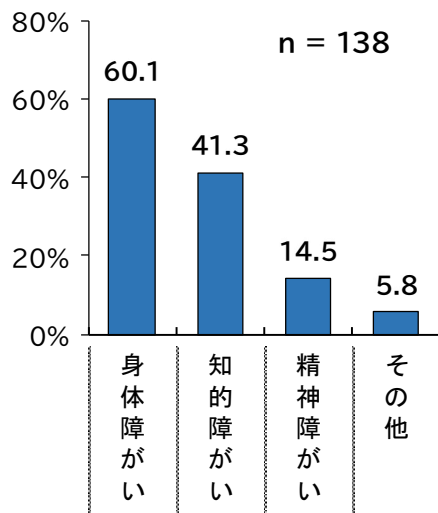
(上段:人 下段:%)				
	調査数	いる	いない	無回答
全 体	442 100.0	138 31.2	299 67.6	5 1.1
20～29歳	35 100.0	8 22.9	27 77.1	0 0.0
30～39歳	42 100.0	13 31.0	29 69.0	0 0.0
40～49歳	64 100.0	27 42.2	36 56.3	1 1.6
50～59歳	75 100.0	26 34.7	48 64.0	1 1.3
60～69歳	87 100.0	29 33.3	58 66.7	0 0.0
70歳以上	136 100.0	35 25.7	99 72.8	2 1.5

問５－① 身近に障がいのある方がいる場合、その方はどのような障がいがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

障がいについては、「身体障がい」が60.1%と最も多く、次いで「知的障がい」が41.3%、「精神障がい」が14.5%の順となっています。

年齢別にみると、「知的障がい」は30～39歳で全体より高い割合となっています。

<全体>



<年齢別>

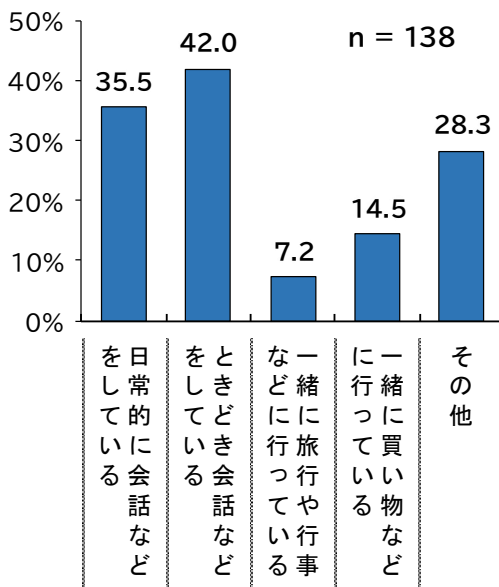
	調査数	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	無回答
全体	138	83	57	20	8	0
	100.0	60.1	41.3	14.5	5.8	0.0
20～29歳	8	4	4	1	1	0
	100.0	50.0	50.0	12.5	12.5	0.0
30～39歳	13	7	8	2	0	0
	100.0	53.8	61.5	15.4	0.0	0.0
40～49歳	27	14	11	3	2	0
	100.0	51.9	40.7	11.1	7.4	0.0
50～59歳	26	16	11	4	1	0
	100.0	61.5	42.3	15.4	3.8	0.0
60～69歳	29	17	13	6	2	0
	100.0	58.6	44.8	20.7	6.9	0.0
70歳以上	35	25	10	4	2	0
	100.0	71.4	28.6	11.4	5.7	0.0

問５－② 身近に障がいのある方がいる場合、その方とどの程度関わりをもっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

関わりについては、「ときどき会話などをしている」が42.0%と最も多く、次いで「日常的に会話などをしている」が35.5%、「その他」が28.3%の順となっています。

年齢別にみると、「日常的に会話などをしている」は40～49歳で全体より高い割合になっています。

<全体>



<年齢別>

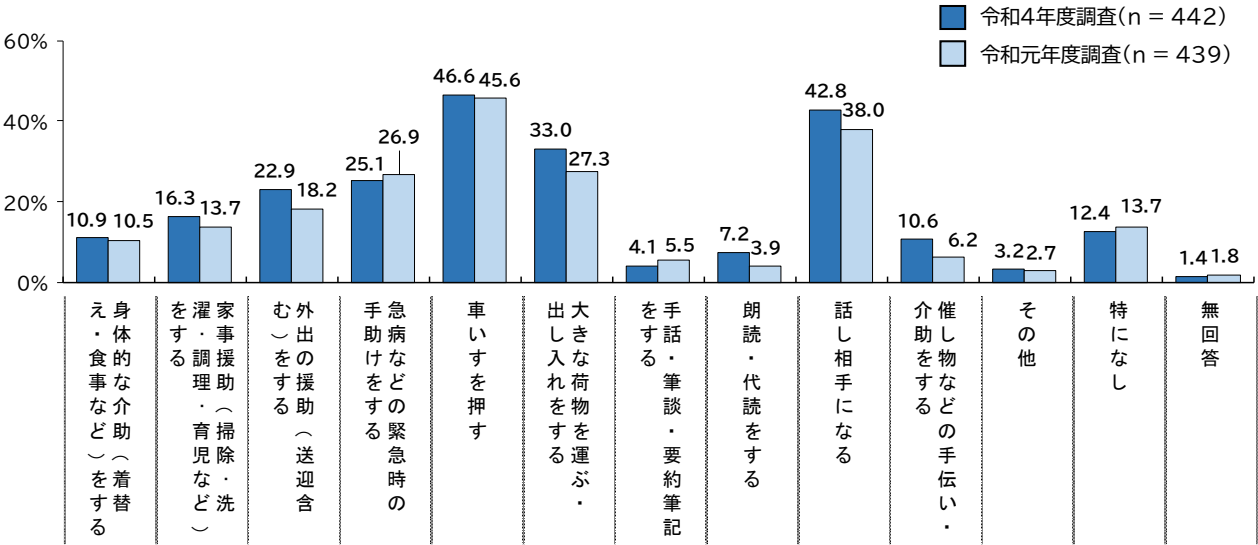
	調査数	日常的に会話など	ときどき会話など	など一緒に旅行や行事	一緒に買い物など	その他	無回答
全体	138	49	58	10	20	39	1
	100.0	35.5	42.0	7.2	14.5	28.3	0.7
20～29歳	8	3	3	0	1	2	0
	100.0	37.5	37.5	0.0	12.5	25.0	0.0
30～39歳	13	4	6	0	1	2	1
	100.0	30.8	46.2	0.0	7.7	15.4	7.7
40～49歳	27	12	9	3	5	9	0
	100.0	44.4	33.3	11.1	18.5	33.3	0.0
50～59歳	26	11	11	1	3	6	0
	100.0	42.3	42.3	3.8	11.5	23.1	0.0
60～69歳	29	8	15	2	3	9	0
	100.0	27.6	51.7	6.9	10.3	31.0	0.0
70歳以上	35	11	14	4	7	11	0
	100.0	31.4	40.0	11.4	20.0	31.4	0.0

問6 あなたが日常生活の中で、障がいのある方に対して、手助けとして進んでできることは何ですか。(主なものに3つまで○印)

日常生活の中で障がいのある方に対して進んでできる手助けについては、「車いすを押す」が46.6%と最も多く、次いで「話し相手になる」が42.8%、「大きな荷物を運ぶ・出し入れする」が33.0%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「話し相手になる」で4.8ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「車いすを押す」は50～59歳で、「大きな荷物を運ぶ・出し入れをする」は30～39歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

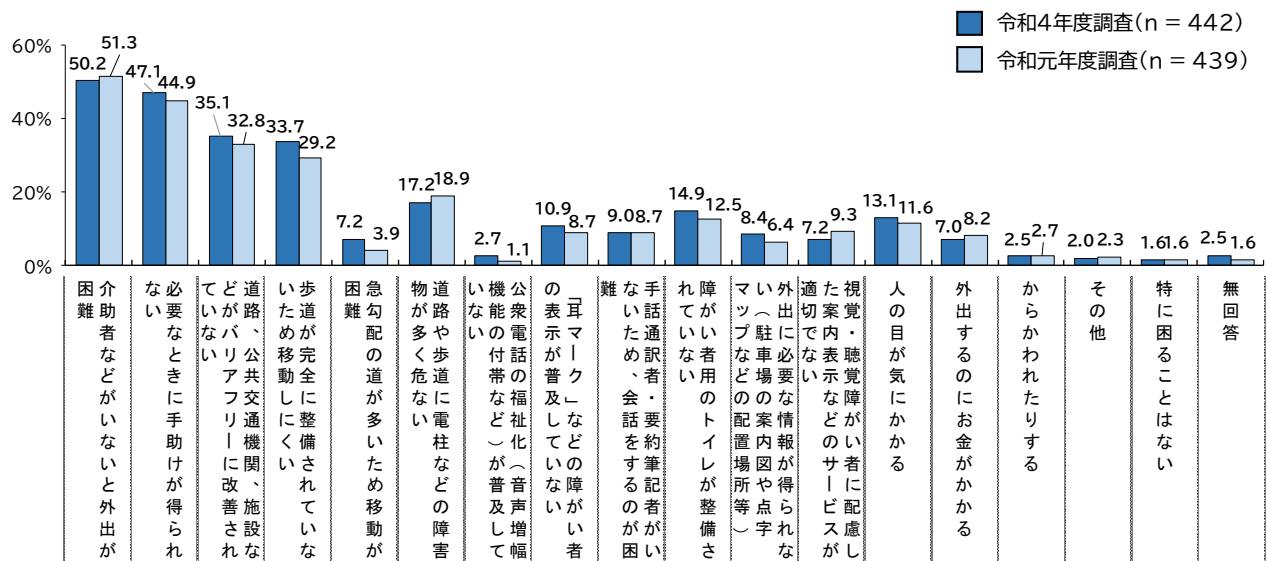
	調査数	身体的な介助(着替える・食事など)	家事援助(掃除・洗濯・調理など)	外出の援助(送迎含む)	急病などの緊急時の手助け	車いすを押す	大きな荷物を運ぶ・出し入れをする	手話・筆談・要約筆記をする	朗読・代読をする	話し相手になる	催し物などの手伝い・介助をする	その他	特になし	無回答
全 体	442	48	72	101	111	206	146	18	32	189	47	14	55	6
	100.0	10.9	16.3	22.9	25.1	46.6	33.0	4.1	7.2	42.8	10.6	3.2	12.4	1.4
20～29歳	35	6	5	6	6	19	17	2	1	17	3	2	1	1
	100.0	17.1	14.3	17.1	17.1	54.3	48.6	5.7	2.9	48.6	8.6	5.7	2.9	2.9
30～39歳	42	1	5	10	11	18	25	3	6	15	5	2	2	0
	100.0	2.4	11.9	23.8	26.2	42.9	59.5	7.1	14.3	35.7	11.9	4.8	4.8	0.0
40～49歳	64	8	7	15	20	28	22	5	2	24	7	3	9	0
	100.0	12.5	10.9	23.4	31.3	43.8	34.4	7.8	3.1	37.5	10.9	4.7	14.1	0.0
50～59歳	75	11	12	18	26	51	35	6	10	24	6	1	8	0
	100.0	14.7	16.0	24.0	34.7	68.0	46.7	8.0	13.3	32.0	8.0	1.3	10.7	0.0
60～69歳	87	7	18	18	23	43	27	0	3	34	11	2	14	0
	100.0	8.0	20.7	20.7	26.4	49.4	31.0	0.0	3.4	39.1	12.6	2.3	16.1	0.0
70歳以上	136	15	25	34	24	46	19	2	9	74	14	4	21	4
	100.0	11.0	18.4	25.0	17.6	33.8	14.0	1.5	6.6	54.4	10.3	2.9	15.4	2.9

問7 あなたは、障がいのある方が外出（まちなか、会社、学校などの場面）するときに、特に困ると思われることはどのようなことだと思いますか。  
（主なものに3つまで〇印）

障がいのある方が外出時に困ると思われることについては、「介助者などがないと外出が困難」が50.2%と最も多く、次いで「必要なときに手助けが得られない」が47.1%、「道路、公共交通機関、施設などがバリアフリーに改善されていない」が35.1%の順となっています。

前回調査と比較すると、「歩道が完全に整備されていないため移動しにくい」で4.5ポイントの増加となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



年齢別にみると、「必要なときに手助けが得られない」は30～39歳で、「人の目が気にかかる」は20～29歳で全体より高い割合となっています。

＜年齢別＞

		(上段:人 下段:%)																		
	調査数	困難 介助者などがないと外出が	必要 なときに手助けが得られ	道路、公共 交通機関、施設な どがバリアフリーに改 善され	歩道が完全 に整備されてい	急勾配の道が多いため移動が	道路や歩道に電柱などの障害	機能の付帯など）が普及して	公衆電話の福祉化（音声増幅	「耳マーク」などの障がい者	手話通訳者・要約筆記者が困	障がい者用のトイレが整備さ	外出に必要な情報が得られな	視覚・聴覚障がい者に配慮し	人の目	外出するのにお金がかかる	からかわれたりする	その他	特に困ることはない	無回答
全 体	442 100.0	222 50.2	208 47.1	155 35.1	149 33.7	32 7.2	76 17.2	12 2.7	48 10.9	40 9.0	66 14.9	37 8.4	32 7.2	58 13.1	31 7.0	11 2.5	9 2.0	7 1.6	11 2.5	
20～29歳	35 100.0	20 57.1	20 57.1	10 28.6	10 28.6	2 5.7	3 8.6	1 2.9	4 11.4	3 8.6	2 5.7	1 2.9	2 5.7	9 25.7	4 11.4	1 2.9	0 0.0	1 2.9	0 0.0	
30～39歳	42 100.0	21 50.0	26 61.9	16 38.1	17 40.5	3 7.1	5 11.9	1 2.4	3 7.1	7 16.7	5 11.9	5 9.5	4 16.7	7 24.4	1 4.8	2 2.4	1 0.0	0 0.0	0 0.0	
40～49歳	64 100.0	35 54.7	30 46.9	25 39.1	23 35.9	2 3.1	13 20.3	2 3.1	8 12.5	5 7.8	4 6.3	2 3.1	7 10.9	9 14.1	5 7.8	2 3.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	
50～59歳	75 100.0	41 54.7	33 44.0	29 38.7	27 36.0	9 12.0	14 18.7	1 1.3	6 8.0	4 5.3	12 16.0	13 17.3	6 8.0	7 9.3	1 0.0	0 0.0	2 2.7	1 1.3	0 0.0	
60～69歳	87 100.0	45 51.7	45 51.7	35 40.2	35 40.2	8 9.2	21 24.1	1 1.1	8 9.2	6 6.9	9 10.3	7 8.0	9 10.3	6 6.9	1 1.1	0 0.0	0 0.0	1 1.1	0 0.0	
70歳以上	136 100.0	58 42.6	53 39.0	40 29.4	37 27.2	8 5.9	20 14.7	6 4.4	19 14.0	14 10.3	33 24.3	8 5.9	10 7.4	19 14.0	10 7.4	2 1.5	4 2.9	3 2.2	10 7.4	

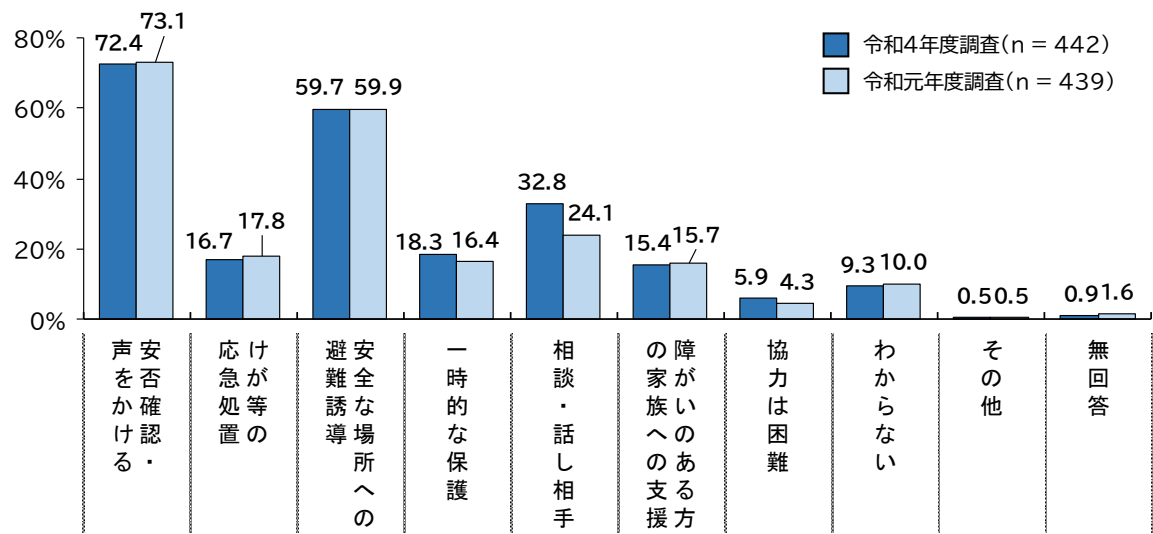


問8 災害時にあなたは、障がいのある方のためにどのような支援や協力ができると思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

災害時に障がいのある方のためにできる支援や協力については、「安否確認・声をかける」が72.4%と最も多く、次いで「安全な場所への避難誘導」が59.7%、「相談・話し相手」が32.8%の順となっています。

前回調査と比較すると、「相談・話し相手」で8.7ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「安否確認・声をかける」はいずれの年齢においても高い割合となっています。「安全な場所への避難誘導」は50～59歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

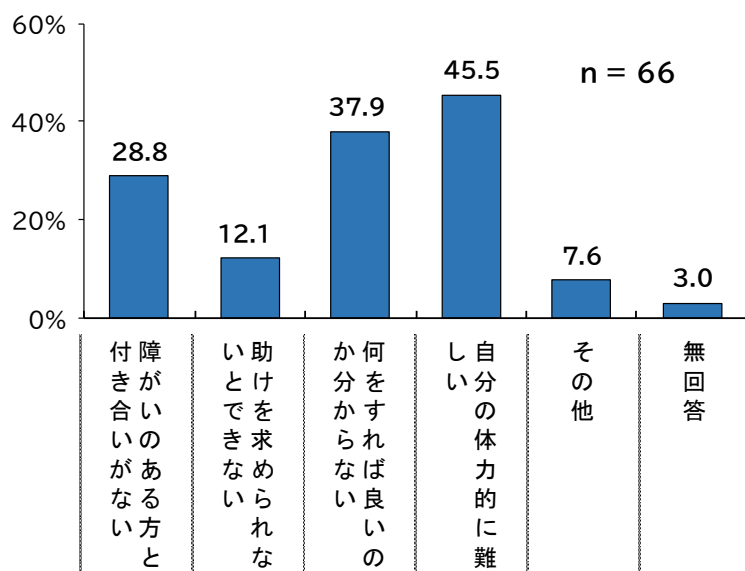
	調査数	安否確認・声をかける	けが等の応急処置	安全な場所への避難誘導	一時的な保護	相談・話し相手	障がいのある方への家族の支援	協力は困難	わからない	その他	無回答
全 体	442 100.0	320 72.4	74 16.7	264 59.7	81 18.3	145 32.8	68 15.4	26 5.9	40 9.0	2 0.5	4 0.9
20～29歳	35 100.0	28 80.0	9 25.7	25 71.4	5 14.3	11 31.4	4 11.4	1 2.9	3 8.6	0 0.0	0 0.0
30～39歳	42 100.0	31 73.8	8 19.0	29 69.0	7 16.7	16 38.1	8 19.0	2 4.8	1 2.4	0 0.0	1 2.4
40～49歳	64 100.0	46 71.9	10 15.6	41 64.1	12 18.8	23 35.9	11 17.2	4 6.3	5 7.8	0 0.0	0 0.0
50～59歳	75 100.0	63 84.0	13 17.3	57 76.0	17 22.7	21 28.0	10 13.3	1 1.3	6 8.0	1 1.3	0 0.0
60～69歳	87 100.0	65 74.7	18 20.7	46 52.9	15 17.2	24 27.6	12 13.8	3 3.4	10 11.5	0 0.0	0 0.0
70歳以上	136 100.0	86 63.2	16 11.8	64 47.1	24 17.6	48 35.3	23 16.9	15 11.0	15 11.0	1 0.7	2 1.5



問 8－① 災害時に障がいのある方への支援や協力について、「協力は困難」、「わからない」と思われる理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「協力は困難」「わからない」理由については、「自分の体力的に難しい」が 45.5%と最も多く、次いで「何をすれば良いのか分からない」が 37.9%、「障がいのある方と付き合いがない」が 28.8%の順となっています。

<全体>

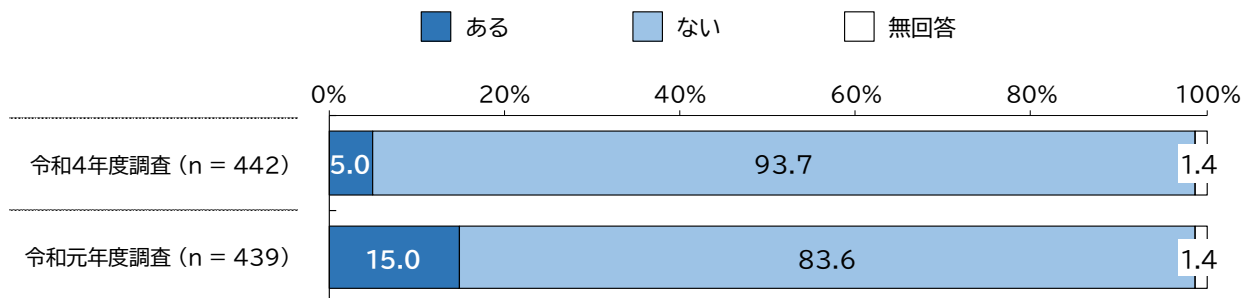


問 9 あなたは、障がいがある方へのボランティア活動をしたことがありますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

障がいがある方へのボランティア活動の経験については、「ある」が 5.0%、「ない」が 93.7%となっています。

前回の調査と比較すると、「ある」が 10.0 ポイントの減少となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「ある」は 20～29 歳で、「ない」は 60～69 歳で最も高い割合となっています。

＜年齢別＞

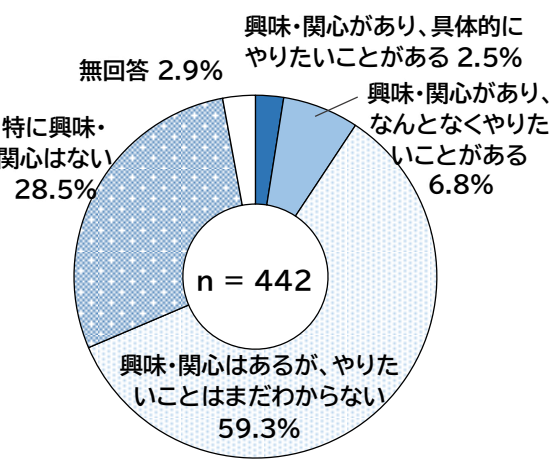
(上段:人 下段:%)				
	調査数	ある	ない	無回答
全 体	442 100.0	22 5.0	414 93.7	6 1.4
20～29歳	35 100.0	4 11.4	31 88.6	0 0.0
30～39歳	42 100.0	1 2.4	41 97.6	0 0.0
40～49歳	64 100.0	5 7.8	59 92.2	0 0.0
50～59歳	75 100.0	4 5.3	71 94.7	0 0.0
60～69歳	87 100.0	1 1.1	85 97.7	1 1.1
70歳以上	136 100.0	7 5.1	125 91.9	4 2.9

問 10 あなたは、ボランティア活動への参加に興味・関心がありますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

ボランティア活動への参加に興味・関心があるかについては、「興味・関心はあるが、やりたいことはまだわからない」が 59.3%と最も多く、次いで「特に興味・関心はない」が 28.5%、「興味・関心があり、なんとなくやりたいことがある」が 6.8%の順となっています。

年齢別にみると、「興味・関心はあるが、やりたいことはまだわからない」は 50～59 歳で全体より高い割合になっています。

＜全体＞



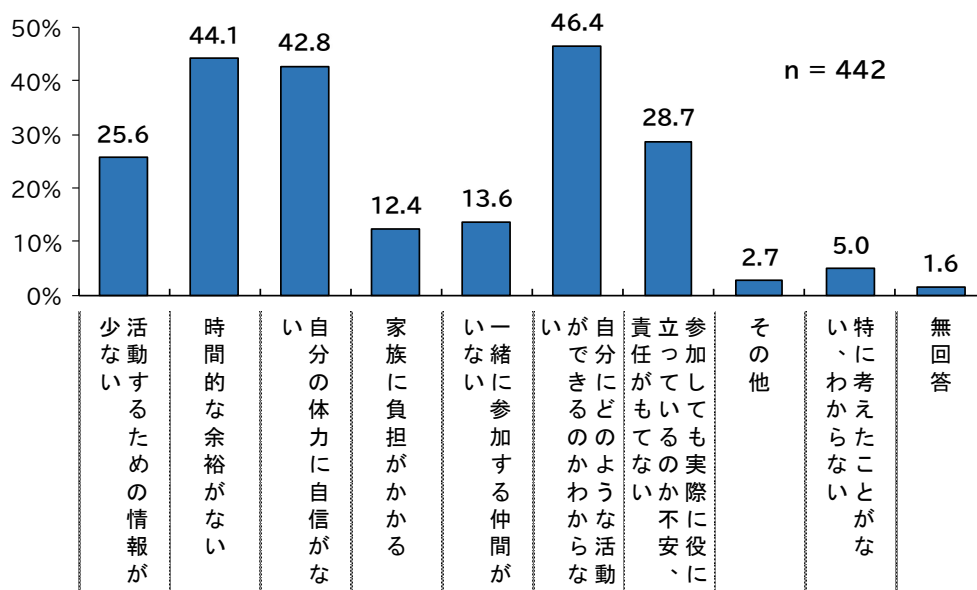
＜年齢別＞

(上段:人 下段:%)						
	調査数	た り 興 い 、 味 こ 具 と 体 関 が 的 心 あ に が あ る や あ る り	り り 興 た 、 味 い な ・ こ ん 関 と 心 が な く あ い と る や あ る や	は が 興 ま 、 味 だ や ・ わ り 関 か た い は な こ あ い と る	な 特 い に 興 味 ・ 関 心 は	無 回 答
全 体	442 100.0	11 2.5	30 6.8	262 59.3	126 28.5	13 2.9
20～29歳	35 100.0	0 0.0	4 11.4	19 54.3	12 34.3	0 0.0
30～39歳	42 100.0	0 0.0	3 7.1	22 52.4	16 38.1	1 2.4
40～49歳	64 100.0	1 1.6	3 4.7	38 59.4	22 34.4	0 0.0
50～59歳	75 100.0	2 2.7	4 5.3	51 68.0	18 24.0	0 0.0
60～69歳	87 100.0	0 0.0	7 8.0	54 62.1	24 27.6	2 2.3
70歳以上	136 100.0	8 5.9	9 6.6	76 55.9	34 25.0	9 6.6

問 11 ボランティア活動に参加する上で、不安・障壁となると思うことは何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

ボランティア活動に参加する上で、不安・障壁となると思うことについては、「自分にどのような活動ができるのかわからない」が46.4%と最も多く、次いで「時間的な余裕がない」が44.1%、「自分の体力に自信がない」が42.8%の順となっています。

<全体>



年齢別にみると、「活動するための情報が少ない」は20～29歳で、「時間的な余裕がない」は30～39歳で、「自分の体力に自信がない」は70歳以上で全体より高い割合となっています。

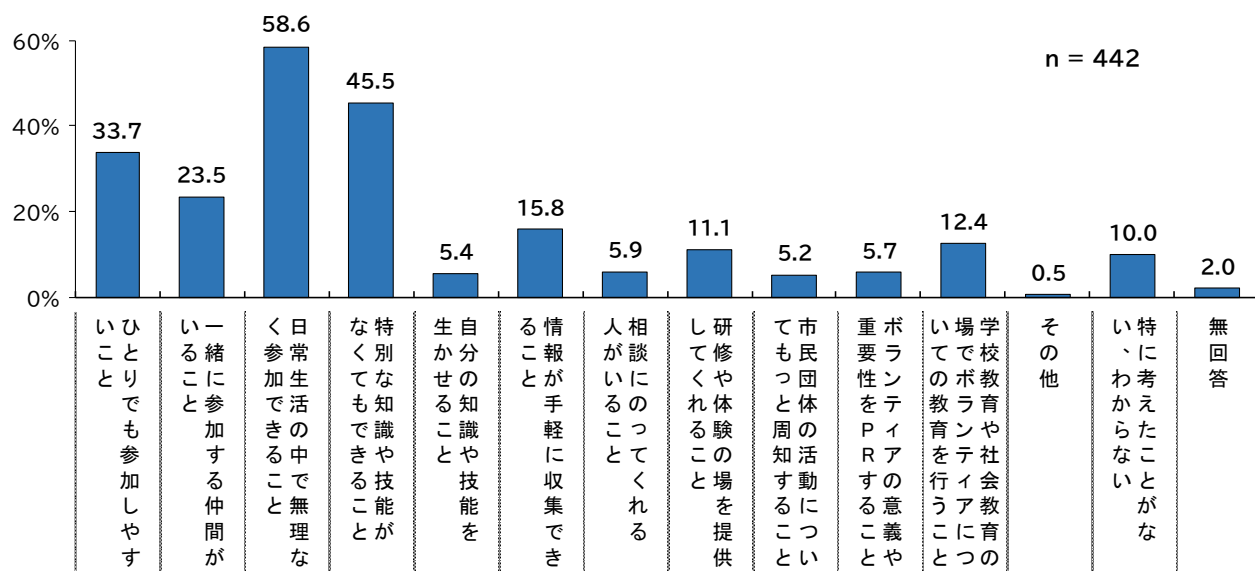
<年齢別>

(上段:人 下段:%)												
	調 査 数	活 動 す る た め の 情 報  が 少 な い	時 間 的 な 余 裕 が な い	自 分 の 体 力 に 自 信 が  な い	家 族 に 負 担 が か か る	一 緒 に 参 加 す る 仲 間  が い な い	自 分 に ど の よ う な か 活 動 が で き る の か わ か ら な い	安 心 し て い る の か 不 安 、 責 任 が も て な い	参 加 し て も 実 際 に 役 に 立 つ て い な い	そ の 他	特 に 考 え た こ と が な い	無 回 答
全 体	442 100.0	113 25.6	195 44.1	189 42.8	55 12.4	60 13.6	205 46.4	127 28.7	12 2.7	22 5.0	7 1.6	
20～29歳	35 100.0	18 51.4	17 48.6	2 5.7	1 2.9	5 14.3	19 54.3	11 31.4	0 0.0	4 11.4	0 0.0	
30～39歳	42 100.0	10 23.8	33 78.6	10 23.8	10 23.8	6 14.3	13 31.0	9 21.4	1 2.4	2 4.8	0 0.0	
40～49歳	64 100.0	16 25.0	42 65.6	17 26.6	12 18.8	10 15.6	23 35.9	15 23.4	1 1.6	5 7.8	0 0.0	
50～59歳	75 100.0	18 24.0	43 57.3	28 37.3	10 13.3	7 9.3	42 56.0	22 29.3	1 1.3	3 4.0	0 0.0	
60～69歳	87 100.0	23 26.4	36 41.4	39 44.8	10 11.5	12 13.8	47 54.0	25 28.7	5 5.7	3 3.4	1 1.1	
70歳以上	136 100.0	26 19.1	22 16.2	93 68.4	12 8.8	20 14.7	59 43.4	45 33.1	3 2.2	5 3.7	6 4.4	

問 12 気軽に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(主なものに3つまで○印)

気軽に参加するために必要なことについては、「日常生活の中で無理なく参加できること」が58.6%と最も多く、次いで「特別な知識や技能がなくてもできること」が45.5%、「ひとりでも参加しやすいこと」が33.7%の順となっています。

<全体>



年齢別にみると、「日常生活の中で無理なく参加できること」は30～39歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

	調査数	ひとりでも参加しやすい	一緒に参加する仲間がいる	日常生活の中で無理なく参加できる	特別な知識や技能がなくてもできる	自分の知識や技能を生かせる	情報が手軽に収集できる	相談にのってくれる人がいる	研修や体験の場を提供してくれる	市民団体の活動に関する情報を知ること	ボランティアの意義や重要性をPRすること	学校や社会教育の場での教育を行うこと	その他	特に考えたことがない	無回答
全 体	442	149	104	259	201	24	70	26	49	23	25	55	2	44	9
	100.0	33.7	23.5	58.6	45.5	5.4	15.8	5.9	11.1	5.2	5.7	12.4	0.5	10.0	2.0
20～29歳	35	12	10	20	16	1	5	2	4	2	4	4	0	2	0
	100.0	34.3	28.6	57.1	45.7	2.9	14.3	5.7	11.4	5.7	11.4	11.4	0.0	5.7	0.0
30～39歳	42	13	11	30	11	4	9	3	6	1	2	4	0	4	0
	100.0	31.0	26.2	71.4	26.2	9.5	21.4	7.1	14.3	2.4	4.8	9.5	0.0	9.5	0.0
40～49歳	64	19	11	39	20	5	9	5	11	4	2	12	0	6	0
	100.0	29.7	17.2	60.9	31.3	7.8	14.1	7.8	17.2	6.3	3.1	18.8	0.0	9.4	0.0
50～59歳	75	25	17	50	36	4	20	2	8	6	7	12	0	4	0
	100.0	33.3	22.7	66.7	48.0	5.3	26.7	2.7	10.7	8.0	9.3	16.0	0.0	5.3	0.0
60～69歳	87	28	16	50	48	2	13	7	12	5	4	8	1	11	2
	100.0	32.2	18.4	57.5	55.2	2.3	14.9	8.0	13.8	5.7	4.6	9.2	1.1	12.6	2.3
70歳以上	136	51	39	68	68	8	14	7	7	4	6	14	1	17	7
	100.0	37.5	28.7	50.0	50.0	5.9	10.3	5.1	5.1	2.9	4.4	10.3	0.7	12.5	5.1

問 13

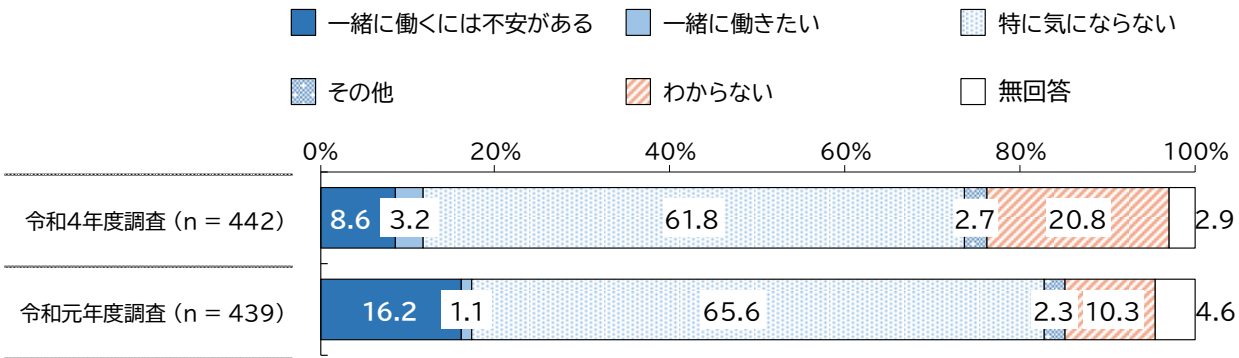
あなたは、障がいのある方と一緒に働くことについてどう思われますか。

(あてはまるもの 1 つに○印)

障がいのある方と一緒に働くことについては、「特に気にならない」が61.8%と最も多く、次いで「わからない」が20.8%、「一緒に働くには不安がある」が8.6%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「一緒に働くには不安がある」で7.6ポイントの減少となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



年齢別にみると、「特に気にならない」は30～39歳で全体より高い割合となっています。

＜年齢別＞

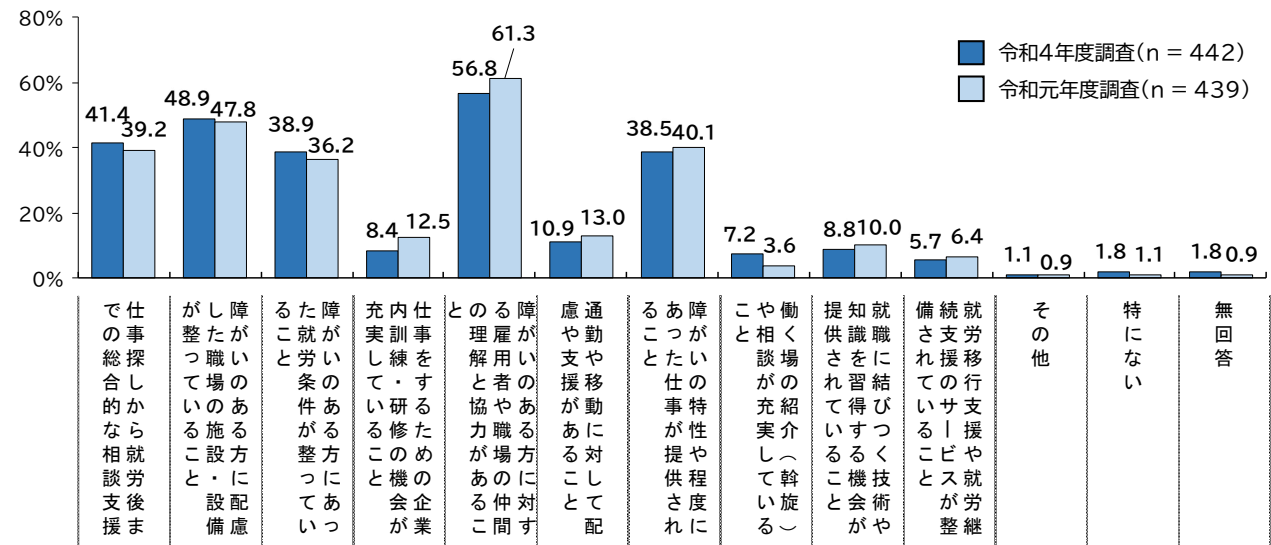
(上段:人 下段:%)							
	調査数	不安がある	働きたい	気にならない	その他	わからない	無回答
全 体	442	38	14	273	12	92	13
	100.0	8.6	3.2	61.8	2.7	20.8	2.9
20～29歳	35	3	2	26	1	3	0
	100.0	8.6	5.7	74.3	2.9	8.6	0.0
30～39歳	42	4	0	34	1	3	0
	100.0	9.5	0.0	81.0	2.4	7.1	0.0
40～49歳	64	4	2	44	3	11	0
	100.0	6.3	3.1	68.8	4.7	17.2	0.0
50～59歳	75	8	3	48	1	13	2
	100.0	10.7	4.0	64.0	1.3	17.3	2.7
60～69歳	87	5	1	55	2	22	2
	100.0	5.7	1.1	63.2	2.3	25.3	2.3
70歳以上	136	14	6	63	4	40	9
	100.0	10.3	4.4	46.3	2.9	29.4	6.6

問 14 あなたは障がいのある方の就労を促進するために、主にどのような支援が必要だと思いますか。（主なものに3つまで○印）

障がいのある方の就労を促進するために必要な支援については、「障がいのある方に対する雇用者や職場の仲間の理解と協力があること」が 56.8%と最も多く、次いで「障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること」が48.9%、「仕事探しから就労後までの総合的な相談支援」が41.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「障がいのある方にあった就労条件が整っていること」で 2.7 ポイントの増加となっています

＜全体・前回調査との比較＞



年齢別にみると、「障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること」は 20～29 歳で、「障がいのある方に対する雇用者や職場の仲間の理解と協力があること」は 30～39 歳で全体より高い割合となっています。

＜年齢別＞

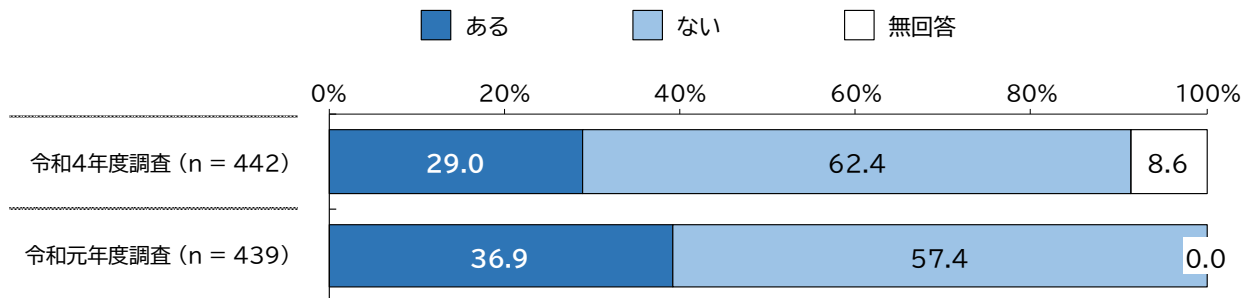
		(上段:人 下段:%)											
	調査数	仕事探しから就労後までの総合的な相談支援まで	障がいのある方に配慮した職場の施設・設備が整っていること	障がいのある方に合った就労条件が整っていること	雇用者や職場の仲間の理解と協力があること	通勤や移動に対する配慮や支援があること	障がいの特性や程度に合った仕事の提供されること	働く場の紹介（斡旋）や相談が充実していること	就職に結びつく技術や知識を習得できる機会が提供されていること	就労移行支援や就労継続支援のサービスが整備されていること	その他	特になし	無回答
全 体	442	183	216	172	37	251	48	170	32	39	25	5	8
	100.0	41.4	48.9	38.9	8.4	56.8	10.9	38.5	7.2	8.8	5.7	1.1	1.8
20～29歳	35	14	23	13	2	17	2	11	2	2	2	0	1
	100.0	40.0	65.7	37.1	5.7	48.6	5.7	31.4	5.7	5.7	5.7	0.0	2.9
30～39歳	42	17	23	18	2	31	5	17	2	3	1	0	0
	100.0	40.5	54.8	42.9	4.8	73.8	11.9	40.5	4.8	7.1	2.4	0.0	0.0
40～49歳	64	30	32	26	5	32	7	22	4	7	2	2	0
	100.0	46.9	50.0	40.6	7.8	50.0	10.9	34.4	6.3	10.9	3.1	3.1	0.0
50～59歳	75	35	38	29	11	51	8	20	4	10	6	0	0
	100.0	46.7	50.7	38.7	14.7	68.0	10.7	26.7	5.3	13.3	8.0	0.0	0.0
60～69歳	87	42	44	31	5	54	7	35	11	8	5	1	1
	100.0	48.3	50.6	35.6	5.7	62.1	8.0	40.2	12.6	9.2	5.7	1.1	1.1
70歳以上	136	44	56	52	12	65	18	63	9	9	8	2	6
	100.0	32.4	41.2	38.2	8.8	47.8	13.2	46.3	6.6	6.6	5.9	1.5	4.4

問 15 あなたは地域社会の中に、障がいのある方への差別・偏見があると思いますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

地域社会の中に障がいのある方への差別・偏見については、「ある」が29.0%、「ない」が62.4%となっています。

前回の調査と比較すると、「ある」が7.9ポイントの減少となっています。

#### <全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「ある」は40～49歳で、「ない」は70歳以上で全体より高い割合となっています。

#### <年齢別>

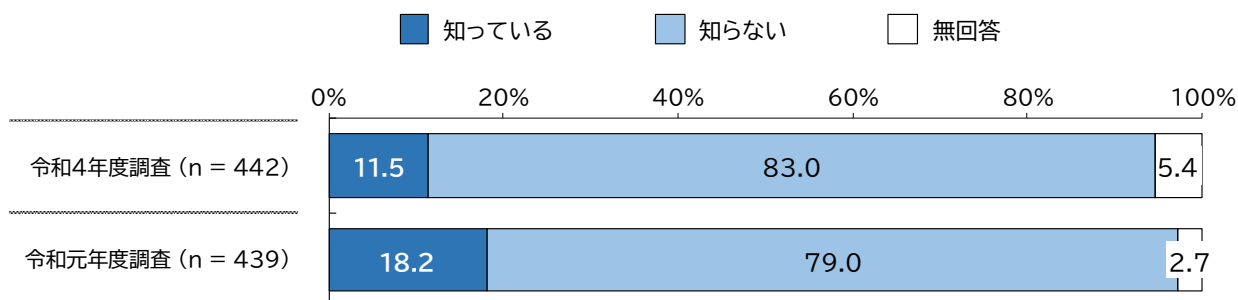
(上段:人 下段:%)				
	調査数	ある	ない	無回答
全 体	442 100.0	128 29.0	276 62.4	38 8.6
20～29歳	35 100.0	12 34.3	22 62.9	1 2.9
30～39歳	42 100.0	16 38.1	25 59.5	1 2.4
40～49歳	64 100.0	25 39.1	36 56.3	3 4.7
50～59歳	75 100.0	29 38.7	43 57.3	3 4.0
60～69歳	87 100.0	22 25.3	54 62.1	11 12.6
70歳以上	136 100.0	24 17.6	93 68.4	19 14.0

問 16 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」について知っていますか。（あてはまるもの 1 つに○印）

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」については、「知っている」が 11.5%、「知らない」が 83.0%となっています。

前回の調査と比較すると、「知らない」が 4.0 ポイントの増加となっています。

#### <全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「知っている」は 50～59 歳で、「知らない」は 60～69 歳で最も高い割合となっています。

#### <年齢別>

(上段:人 下段:%)				
	調査数	知っている	知らない	無回答
全 体	442 100.0	51 11.5	367 83.0	24 5.4
20～29歳	35 100.0	4 11.4	30 85.7	1 2.9
30～39歳	42 100.0	6 14.3	35 83.3	1 2.4
40～49歳	64 100.0	9 14.1	53 82.8	2 3.1
50～59歳	75 100.0	11 14.7	63 84.0	1 1.3
60～69歳	87 100.0	7 8.0	77 88.5	3 3.4
70歳以上	136 100.0	13 9.6	107 78.7	16 11.8

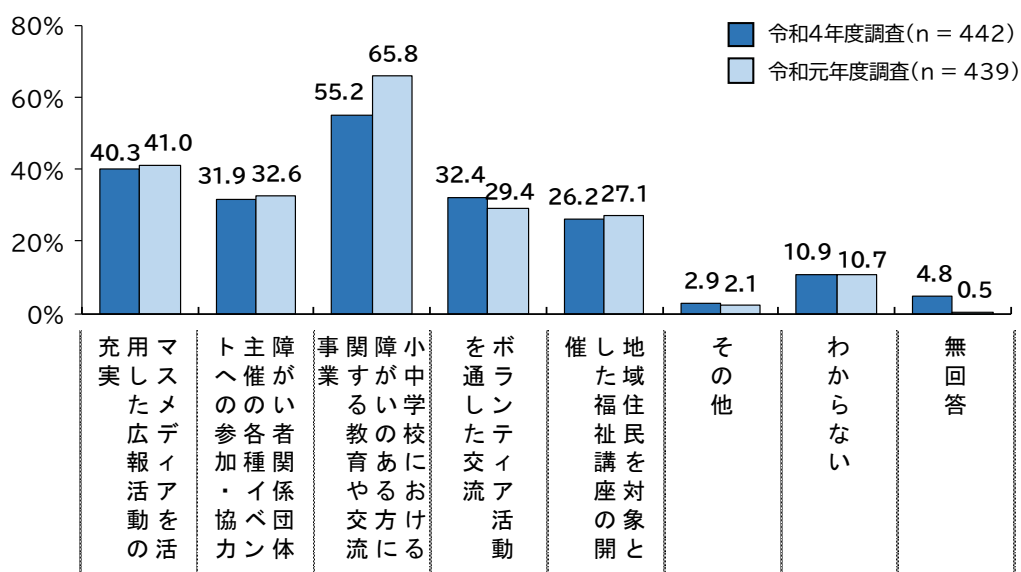


問 17 障がいのある方への理解を深めるためには、主にどのようなことが必要だと思いますか。（主なものに3つまで○印）

障がいのある方への理解を深めるために必要なことについては、「小中学校における障がいのある方に関する教育や交流事業」が 55.2%と最も多く、次いで「マスメディアを活用した広報活動の充実」が 40.3%、「ボランティア活動を通じた交流」が 32.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「ボランティア活動を通じた交流」で 3.0 ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「マスメディアを活用した広報活動の充実」は 20～29 歳、「障がい者関係団体主催の各種イベントへの参加・協力」は 50～59 歳でそれぞれ全体より高い割合となっています。

<年齢別>

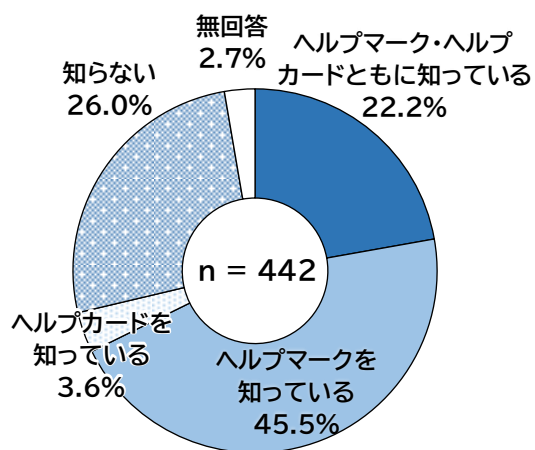
	調査数	マスメディアの活用	障がい者関係団体主催の各種イベントへの参加・協力	小中学校における交流事業	ボランティア活動を通じた交流	地域福祉講座の開催	その他	わからない	無回答
全 体	442 100.0	178 40.3	141 31.9	244 55.2	143 32.4	116 26.2	13 2.9	48 10.9	21 4.8
20～29歳	35 100.0	20 57.1	8 22.9	23 65.7	10 28.6	2 5.7	2 5.7	2 5.7	1 2.9
30～39歳	42 100.0	16 38.1	9 21.4	25 59.5	9 21.4	5 11.9	1 2.4	6 14.3	2 4.8
40～49歳	64 100.0	29 45.3	21 32.8	40 62.5	20 31.3	12 18.8	3 4.7	9 14.1	2 3.1
50～59歳	75 100.0	35 46.7	32 42.7	44 58.7	30 40.0	23 30.7	3 4.0	4 5.3	1 1.3
60～69歳	87 100.0	32 36.8	29 33.3	51 58.6	27 31.0	28 32.2	1 1.1	10 11.5	4 4.6
70歳以上	136 100.0	45 33.1	41 30.1	58 42.6	47 34.6	45 33.1	3 2.2	17 12.5	11 8.1

問 18 あなたはヘルプマークまたはヘルプカードを知っていますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

ヘルプマーク・ヘルプカードについては、「ヘルプマークを知っている」が 45.5%と最も多く、次いで「知らない」が 26.0%、「ヘルプマーク・ヘルプカードともに知っている」が 22.2%の順となっています。

年齢別にみると、「ヘルプマークを知っている」は 60～69 歳で全体より高い割合となっています。

<全体>



<年齢別>

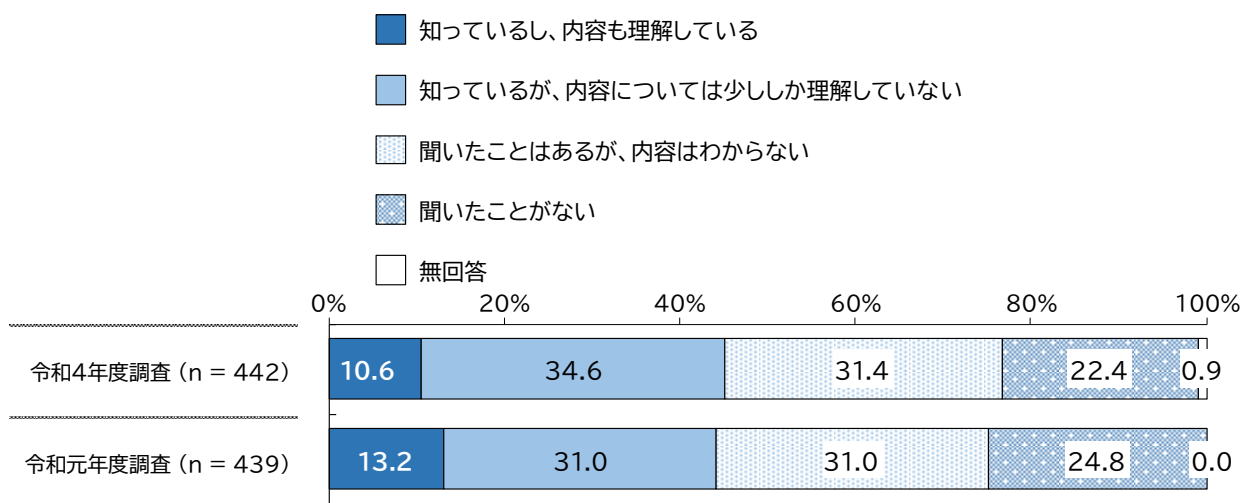
		(上段:人 下段:%)				
	調査数	もヘルプマークを知っている	ヘルプマークを知っている	ヘルプマーク・ヘルプカードともに知っている	知らない	無回答
全 体	442 100.0	98 22.2	201 45.5	16 3.6	115 26.0	12 2.7
20～29歳	35 100.0	8 22.9	17 48.6	0 0.0	10 28.6	0 0.0
30～39歳	42 100.0	11 26.2	20 47.6	0 0.0	11 26.2	0 0.0
40～49歳	64 100.0	17 26.6	28 43.8	3 4.7	16 25.0	0 0.0
50～59歳	75 100.0	24 32.0	31 41.3	5 6.7	14 18.7	1 1.3
60～69歳	87 100.0	13 14.9	50 57.5	2 2.3	20 23.0	2 2.3
70歳以上	136 100.0	24 17.6	53 39.0	6 4.4	44 32.4	9 6.6

問 19 成年後見制度について、あなたはどの程度知っていますか。  
(あてはまるもの1つに○印)

成年後見制度については、「知っているが、内容については少ししか理解していない」が34.6%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容はわからない」が31.4%、「聞いたことがない」が22.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「知っているが、内容については少ししか理解していない」が3.6ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「知っているし、内容も理解している」は30～39歳で、「聞いたことがない」は20～29歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

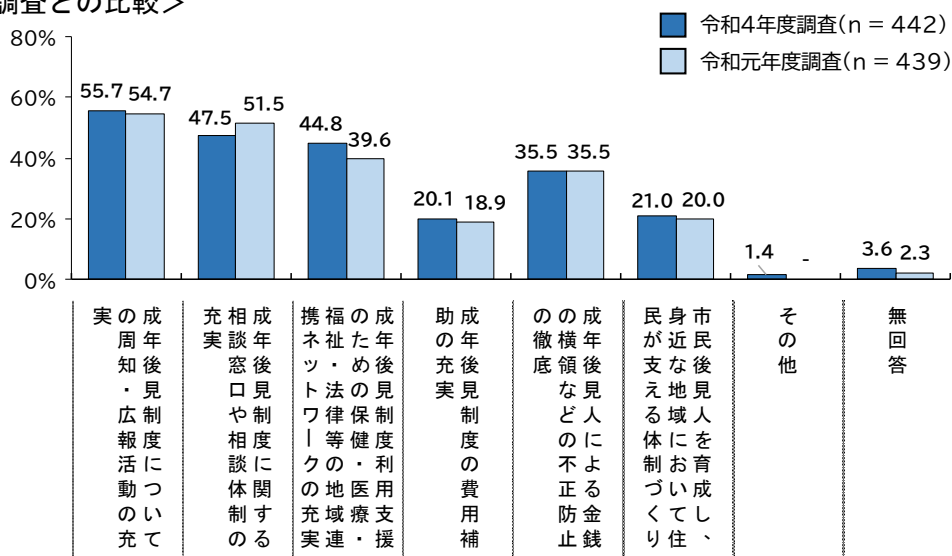
(上段:人 下段:%)						
	調査数	も知 理つ 解て しい てる いし る、 内容	理に知 解つ し いて てい はる な いし 、 内容	いが聞 、い 内た 容こ はわ かあ らな	聞いた こと が ない	無 回 答
全 体	442 100.0	47 10.6	153 34.6	139 31.4	99 22.4	4 0.9
20～29歳	35 100.0	1 2.9	10 28.6	13 37.1	11 31.4	0 0.0
30～39歳	42 100.0	8 19.0	12 28.6	10 23.8	12 28.6	0 0.0
40～49歳	64 100.0	9 14.1	23 35.9	16 25.0	16 25.0	0 0.0
50～59歳	75 100.0	8 10.7	27 36.0	19 25.3	20 26.7	1 1.3
60～69歳	87 100.0	7 8.0	32 36.8	27 31.0	21 24.1	0 0.0
70歳以上	136 100.0	14 10.3	48 35.3	53 39.0	18 13.2	3 2.2

問 20 成年後見制度を利用促進するために必要と思われることは何ですか。  
(主なものに3つまで○印)

成年後見制度を利用促進するために必要と思われることについては、「成年後見制度についての周知・広報活動の充実」が 55.7%と最も多く、次いで「成年後見制度に関する相談窓口や相談体制の充実」が 47.5%、「成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実」が 44.8%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実」で 5.2 ポイントの増加となっています。

＜全体・前回調査との比較＞



年齢別にみると、「成年後見制度についての周知・広報活動の充実」は 60～69 歳で、「成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実」は 20～29 歳で全体より高い割合となっています。

＜年齢別＞

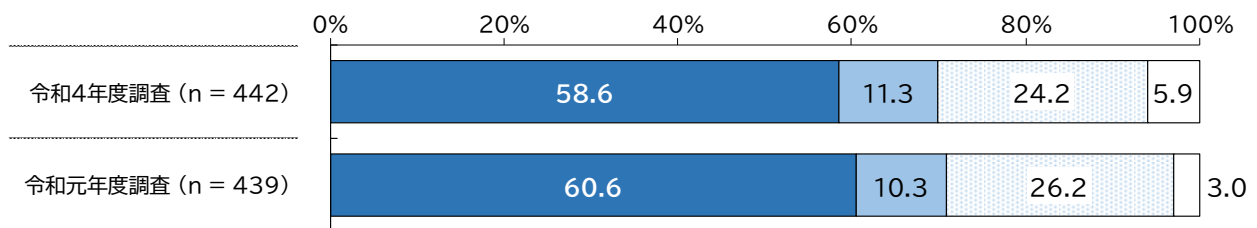
	調査数	実の成年後見制度についての周知・広報活動の充実	相談窓口や相談体制の充実	成年後見制度利用支援のための保健・医療・福祉・法律等の地域連携ネットワークの充実	成年後見制度の費用補助	成年後見制度の不正防止	市民が近隣の地域に在住し、生活する上で必要な体制づくり	その他	無回答
全体	442	246	210	198	89	157	93	6	16
	100.0	55.7	47.5	44.8	20.1	35.5	21.0	1.4	3.6
20～29歳	35	23	12	22	9	6	5	0	0
	100.0	65.7	34.3	62.9	25.7	17.1	14.3	0.0	0.0
30～39歳	42	24	24	15	11	13	5	0	1
	100.0	57.1	57.1	35.7	26.2	31.0	11.9	0.0	2.4
40～49歳	64	37	30	30	11	23	14	1	0
	100.0	57.8	46.9	46.9	17.2	35.9	21.9	1.6	0.0
50～59歳	75	42	35	41	18	31	12	1	1
	100.0	56.0	46.7	54.7	24.0	41.3	16.0	1.3	1.3
60～69歳	87	62	40	36	13	28	21	0	0
	100.0	71.3	46.0	41.4	14.9	32.2	24.1	0.0	0.0
70歳以上	136	55	67	54	27	54	34	4	14
	100.0	40.4	49.3	39.7	19.9	39.7	25.0	2.9	10.3

問 21 国は、障がいのある方の生きる権利を尊重し、『地域で共に生活する』ことを方針として掲げています。地域に障がいのある方の自立した生活拠点となるグループホームなどの施設を設置することについて、あなたはどのように思いますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

前回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

☒ 自立した生活拠点を進んで整備すべきである ☐ 今までどおり入所施設で生活する方がよい

☐ わからない ☐ 無回答



＜年齢別＞

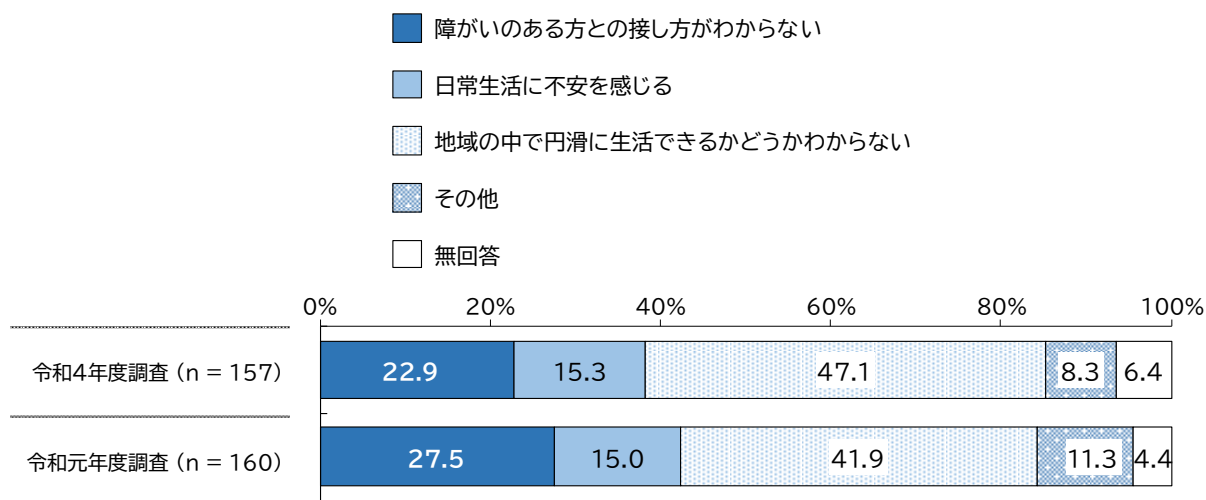
161

問21－① 地域に障がいのある方の自立した生活拠点となるグループホームなどの施設を設置することについて、「今までどおり入所施設で生活する方がよい」、「わからない」と思われる最も大きな理由は何ですか。（あてはまるもの1つに○印）

「今までどおり入所施設で生活する方がよい」「わからない」理由については、「地域の中で円滑に生活できるかどうか分からない」が47.1%と最も多く、次いで「障がいのある方との接し方がわからない」が22.9%、「日常生活に不安を感じる」が15.3%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「地域の中で円滑に生活できるかどうか分からない」で5.2ポイントの増加となっています。

#### <全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「障がいのある方との接し方がわからない」は60～69歳で、「日常生活に不安を感じる」は40～49歳で、「地域の中で円滑に生活できるかどうか分からない」は50～59歳で全体より高い割合となっています。

#### <年齢別>

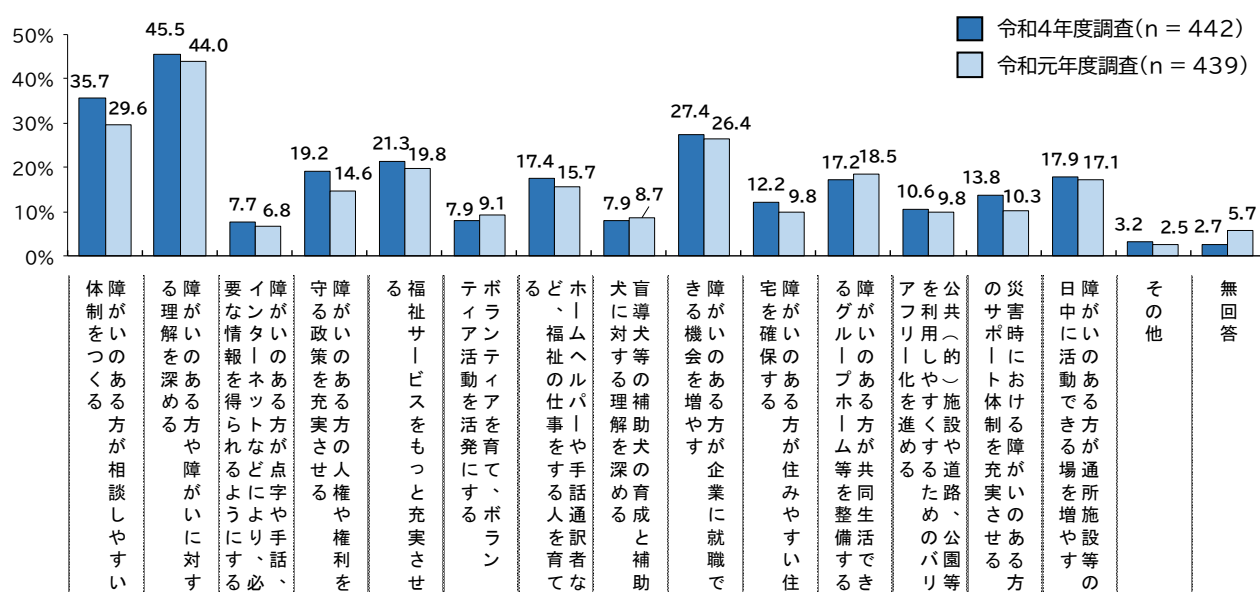
(上段:人 下段:%)						
	調査数	な の 障 い 接 が し い 方 の が あ る か 方 ら と	感 日 じ 常 る 生 活 に 不 安 を	か 生 地 わ 活 域 か で の ら き 中 な る で い か 円 ど 滑 う に	そ の 他	無 回 答
全 体	157 100.0	36 22.9	24 15.3	74 47.1	13 8.3	10 6.4
20～29歳	8 100.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	0 0.0
30～39歳	13 100.0	3 23.1	1 7.7	5 38.5	2 15.4	2 15.4
40～49歳	21 100.0	3 14.3	5 23.8	10 47.6	2 9.5	1 4.8
50～59歳	30 100.0	4 13.3	5 16.7	17 56.7	3 10.0	1 3.3
60～69歳	29 100.0	9 31.0	4 13.8	14 48.3	1 3.4	1 3.4
70歳以上	55 100.0	14 25.5	8 14.5	25 45.5	3 5.5	5 9.1

問 22 障がいのある方もない方も共に地域で暮らすために、あなたは、主にどのようなことが必要だと思いますか。（主なものに3つまで○印）

障がいのある方もない方も共に地域で暮らすために必要なことについては、「障がいのある方や障がいに対する理解を深める」が 45.5%と最も多く、次いで「障がいのある方が相談しやすい体制をつくる」が 35.7%、「障がいのある方が企業に就職できる機会を増やす」が 27.4%の順となっています。

前回の調査と比較すると、「障がいのある方が相談しやすい体制をつくる」で 6.1 ポイントの増加となっています。

<全体・前回調査との比較>



年齢別にみると、「障がいのある方や障がいに対する理解を深める」は 20～29 歳で、「障がいのある方が企業に就職できる機会を増やす」は 30～39 歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

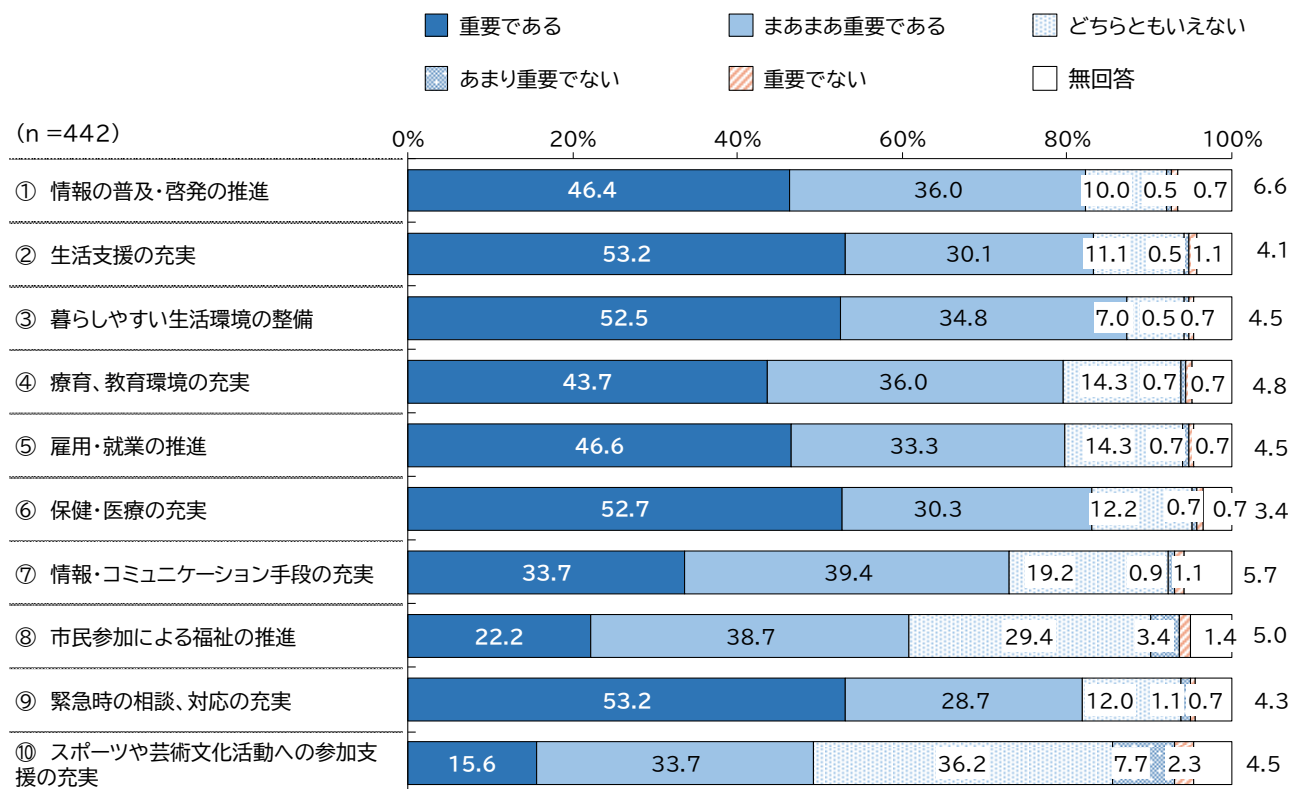
	調査数	(上段:人 下段:%)														その他	無回答
		障がいのある方が相談しやすい体制をつくる	障がいのある方や障がいに対する理解を深める	要な情報を得られるようにする	障がいのある方が点字や手話、インターネットなどにより、必要	障がいのある方の人権や権利を守る政策を充実させる	福祉サービスをもっと充実させる	ボランティアを育て、ボランティア活動を発する	ホームヘルパーや手話通訳者など、福祉の仕事をする人を育てる	盲導犬等の補助犬の育成と補助犬に対する理解を深める	障がいのある方が企業に就職できる機会を増やす	障がいのある方が住みやすい住宅を確保する	障がいのある方が共同生活できるグループホーム等を整備する	公共（的）施設や道路、公園等を利用しやすくするためのバリアフリー化を進める	災害時における障がいのある方のサポート体制を充実させる		
全 体	442	158	201	34	85	94	35	77	35	121	54	76	47	61	79	14	12
	100.0	35.7	45.5	7.7	19.2	21.3	7.9	17.4	7.9	27.4	12.2	17.2	10.6	13.8	17.9	3.2	2.7
20～29歳	35	8	21	5	6	8	4	4	0	11	3	2	6	7	2	1	0
	100.0	22.9	60.0	14.3	17.1	22.9	11.4	11.4	0.0	31.4	8.6	5.7	17.1	20.0	5.7	2.9	0.0
30～39歳	42	12	22	4	10	8	2	9	3	19	4	5	2	3	8	1	0
	100.0	28.6	52.4	9.5	23.8	19.0	4.8	21.4	7.1	45.2	9.5	11.9	4.8	7.1	19.0	2.4	0.0
40～49歳	64	18	31	4	8	12	5	11	7	14	10	11	10	3	14	6	1
	100.0	28.1	48.4	6.3	12.5	18.8	7.8	17.2	10.9	21.9	15.6	17.2	15.6	4.7	21.9	9.4	1.6
50～59歳	75	28	29	6	16	15	8	14	9	25	16	13	3	9	15	1	1
	100.0	37.3	38.7	8.0	21.3	20.0	10.7	18.7	12.0	33.3	21.3	17.3	4.0	12.0	20.0	1.3	1.3
60～69歳	87	32	49	5	24	15	5	14	5	19	9	16	9	15	16	3	1
	100.0	36.8	56.3	5.7	27.6	17.2	5.7	16.1	5.7	21.8	10.3	18.4	10.3	17.2	18.4	3.4	1.1
70歳以上	136	59	48	10	21	36	10	24	10	32	11	29	17	24	22	2	9
	100.0	43.4	35.3	7.4	15.4	26.5	7.4	17.6	7.4	23.5	8.1	21.3	12.5	17.6	16.2	1.5	6.6



問 23 障がい福祉に関する今後の大垣市の取り組みとして、次の各項目について、どのくらい重要だと思いますか。（それぞれあてはまるもの1つに○印）

これからの大垣市の取り組みについて、「重要である」と「まあまあ重要である」を合わせた『重要である（計）』が最も多いのは、『③ 暮らしやすい生活環境の整備』で 87.3%、次いで『② 生活支援の充実』が 83.3%、『⑥ 保健・医療の充実』が 83.0%の順となっています。

<全体>





年齢別にみると、「重要である」は、20～29 歳では、『② 生活支援の充実』『③ 暮らしやすい生活環境の整備』、30～39 歳では、『③ 暮らしやすい生活環境の整備』『④ 療育、教育環境の充実』『⑤ 雇用・就業の推進』、40～49 歳では、『③ 暮らしやすい生活環境の整備』『⑥ 保健・医療の充実』、50～59 歳では、『⑨ 緊急時の相談、対応の充実』『③ 暮らしやすい生活環境の整備』『② 生活支援の充実』、60～69 歳では、『⑥ 保健・医療の充実』『⑨ 緊急時の相談、対応の充実』『① 情報の普及・啓発の推進』、70 歳以上では、『⑥ 保健・医療の充実』『② 生活支援の充実』『⑨ 緊急時の相談、対応の充実』の割合が高くなっています。

## <年齢別>

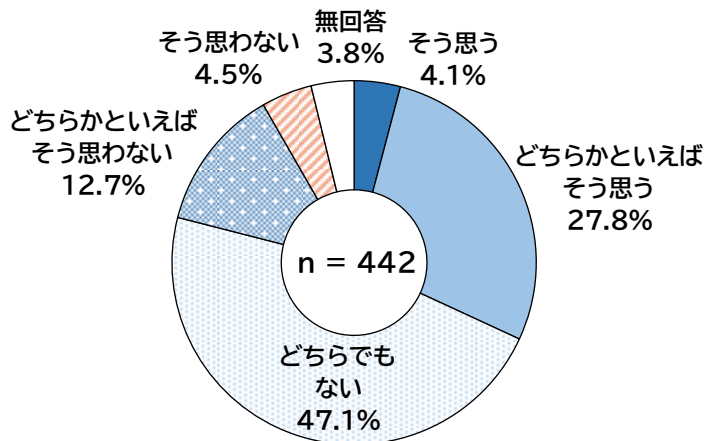
(%)																				
	調査数	① 情報の普及・啓発の推進						② 生活支援の充実						③ 暮らしやすい生活環境の整備						
		重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	
全 体	442	46.4	36.0	10.0	0.5	0.7	6.6	53.2	30.1	11.1	0.5	1.1	4.1	52.5	34.8	7.0	0.5	0.7	4.5	
20～29歳	35	57.1	31.4	11.4	0.0	0.0	0.0	65.7	20.0	14.3	0.0	0.0	0.0	62.9	31.4	2.9	2.9	0.0	0.0	
30～39歳	42	31.0	57.1	9.5	0.0	0.0	2.4	40.5	42.9	11.9	0.0	2.4	2.4	54.8	38.1	4.8	0.0	0.0	2.4	
40～49歳	64	51.6	35.9	9.4	1.6	1.6	0.0	59.4	28.1	9.4	0.0	3.1	0.0	64.1	29.7	3.1	0.0	1.6	1.6	
50～59歳	75	52.0	33.3	13.3	0.0	0.0	1.3	54.7	32.0	13.3	0.0	0.0	0.0	56.0	36.0	6.7	0.0	0.0	1.3	
60～69歳	87	51.7	37.9	5.7	0.0	2.3	2.3	49.4	31.0	13.8	0.0	2.3	3.4	46.0	40.2	9.2	0.0	2.3	2.3	
70歳以上	136	39.0	31.6	11.0	0.7	0.0	17.6	51.5	28.7	8.1	1.5	0.0	10.3	45.6	33.8	9.6	0.7	0.0	10.3	
	調査数	④ 療育、教育環境の充実						⑤ 雇用・就業の推進						⑥ 保健・医療の充実						
		重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	
全 体	442	43.7	36.0	14.3	0.7	0.7	4.8	46.6	33.3	14.3	0.7	0.7	4.5	52.7	30.3	12.2	0.7	0.7	3.4	
20～29歳	35	54.3	31.4	14.3	0.0	0.0	0.0	54.3	25.7	17.1	0.0	2.9	0.0	57.1	31.4	8.6	2.9	0.0	0.0	
30～39歳	42	50.0	40.5	7.1	0.0	0.0	2.4	45.2	50.0	2.4	0.0	0.0	2.4	35.7	40.5	19.0	2.4	0.0	2.4	
40～49歳	64	56.3	34.4	7.8	0.0	1.6	0.0	56.3	28.1	14.1	0.0	1.6	0.0	60.9	25.0	12.5	0.0	1.6	0.0	
50～59歳	75	45.3	45.3	9.3	0.0	0.0	0.0	50.7	37.3	10.7	0.0	0.0	1.3	53.3	36.0	10.7	0.0	0.0	0.0	
60～69歳	87	43.7	36.8	14.9	0.0	2.3	2.3	42.5	35.6	17.2	1.1	1.1	2.3	54.0	24.1	17.2	0.0	2.3	2.3	
70歳以上	136	32.4	30.9	22.1	2.2	0.0	12.5	41.2	28.7	17.6	1.5	0.0	11.0	51.5	30.9	8.8	0.7	0.0	8.1	
	調査数	⑦ 情報・コミュニケーション手段の充実						⑧ 市民参加による福祉の推進						⑨ 緊急時の相談、対応の充実						
		重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答	
全 体	442	33.7	39.4	19.2	0.9	1.1	5.7	22.2	38.7	29.4	3.4	1.4	5.0	53.2	28.7	12.0	1.1	0.7	4.3	
20～29歳	35	45.7	40.0	14.3	0.0	0.0	0.0	31.4	28.6	34.3	5.7	0.0	0.0	54.3	31.4	11.4	2.9	0.0	0.0	
30～39歳	42	26.2	52.4	16.7	0.0	2.4	2.4	4.8	47.6	35.7	2.4	7.1	2.4	40.5	45.2	11.9	0.0	0.0	2.4	
40～49歳	64	45.3	31.3	15.6	1.6	3.1	3.1	28.1	37.5	26.6	4.7	3.1	0.0	59.4	26.6	7.8	4.7	1.6	0.0	
50～59歳	75	36.0	41.3	21.3	0.0	0.0	1.3	26.7	40.0	32.0	1.3	0.0	0.0	62.7	28.0	9.3	0.0	0.0	0.0	
60～69歳	87	33.3	46.0	14.9	0.0	2.3	3.4	20.7	36.8	35.6	3.4	1.1	2.3	52.9	28.7	13.8	0.0	2.3	2.3	
70歳以上	136	26.5	33.8	25.0	2.2	0.0	12.5	20.6	39.7	22.8	3.7	0.0	13.2	48.5	25.0	14.7	0.7	0.0	11.0	
	調査数	⑩ スポーツや芸術文化活動への参加支援の充実																		
		重要である	重要である	どちらでもない	重要でない	重要でない	無回答													
全 体	442	15.6	33.7	36.2	7.7	2.3	4.5													
20～29歳	35	20.0	28.6	31.4	11.4	8.6	0.0													
30～39歳	42	7.1	33.3	38.1	11.9	7.1	2.4													
40～49歳	64	15.6	39.1	34.4	6.3	4.7	0.0													
50～59歳	75	21.3	36.0	38.7	4.0	0.0	0.0													
60～69歳	87	12.6	33.3	46.0	4.6	1.1	2.3													
70歳以上	136	14.7	32.4	30.9	10.3	0.0	11.8													

問 24 大垣市は、障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。  
(あてはまるもの 1 つに○印)

大垣市が障がいのある方にとって暮らしやすいまちであるかについて、「どちらでもない」が 47.1%と最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 27.8%、「どちらかといえばそう思わない」が 12.7%の順となっています。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は 31.9%となっています。

<全体>



年齢別にみると、「どちらでもない」は 50～59 歳で全体より高い割合となっています。

<年齢別>

		(上段:人 下段:%)					
	調査数	そう 思う	思いど うえち ばらそ かと	など いちら でも	思いど わえち なばら いそか うと	いそ う思 わな	無 回 答
全 体	442 100.0	18 4.1	123 27.8	208 47.1	56 12.7	20 4.5	17 3.8
20～29歳	35 100.0	2 5.7	10 28.6	17 48.6	3 8.6	2 5.7	1 2.9
30～39歳	42 100.0	2 4.8	9 21.4	22 52.4	7 16.7	2 4.8	0 0.0
40～49歳	64 100.0	1 1.6	17 26.6	29 45.3	11 17.2	5 7.8	1 1.6
50～59歳	75 100.0	1 1.3	21 28.0	42 56.0	7 9.3	3 4.0	1 1.3
60～69歳	87 100.0	1 1.1	23 26.4	47 54.0	13 14.9	2 2.3	1 1.1
70歳以上	136 100.0	10 7.4	43 31.6	49 36.0	15 11.0	6 4.4	13 9.6